長　野　県

黒耀石原産地遺跡分布調査報告書

(和田峠・男女倉谷)

Ⅲ

1993.3

和田村教育委員会

信州大学
理学部地質学教室
蔵書

序

和田村教育委員会では、村の「豊かな自然・古い歴史」を大切に、活力ある社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境の整備・充実に取りくんできました。中でも文化財を保護し活用を図る施策は、特に重要な課題となっています。

先人が残してくれた文化財は私たちだけではなく、子々孫々にまで伝え残さなければならないかけがえのない財産であります。この大切な文化遺産を保護し、永く後世に伝え残すために、一層の努力を惜しまない所存ではありますが、同時に広く村民の方々をはじめ関係皆さんの文化財に対する深いご理解とご協力を得なければなりません。

平成元年度より国庫補助事業で実施した分布調査は当事業の考古学的価値を理解される方々の多大なご尽力によって開始され、ここに報告書として『黒耀石原産地遺跡分布調査報告書（和田峠・男女倉谷）Ⅲ』をまとめあげることができました。

この調査は広い範囲に加え山林地内にも関わらず、短期間に歴史的に極めて意義深い調査結果を得ることができました。「黒耀石の産出状況と文化遺跡の分布の関係」に迫る黒耀石の分析結果は、種々の課題を提供していることは明らかであり、その意義は多大な成果であります。そして同時に私たち和田村の歴史のみならず考古学的にも貴重なる1ページを加えることができたといえます。

調査に関しては、文化庁記念物課岡村道雄文化財調査官をはじめ森嶋稔調査団長・森山公一調査主任・県教育委員会・長野県黒耀石原産地遺跡分布調査指導特別委員会の先生方、さらに、熱心に作業に身を投じてくださった作業員の皆さんの多大なご尽力によって当初の目的に達することができました。

この調査にあたり、調査団員の方々、作業員のみなさん、地主および地元関係者各位のご尽力によって、このような成果を得られたことに重ねて感謝を申し上げ、ここに深甚なる敬意を表する次第であります。

平成5年3月20日

和田村教育委員会
教育長　田中治男

例　言

1. 本書は長野県小県郡和田村において行われた長野県黒耀石原産地遺跡分布調査の報告書（和田峠・男女倉谷）Ⅲである。
2. 本書をもって平成元年（1989）・平成2年（1990）・平成3年（1991）と行われた3次の調査の最終報告書とする。
3. 本書で使用した地図は、建設省国土地理院発行の地形図（1：50,000）をもととし、和田村において作成した地形図を使用した。
4. 本書作成には次の方々から特別報告に参加していただいた。記して謝意を表する。

   男女倉遺跡群詳細分布調査における黒曜石資料の原産地推定

   機器中性子放射化分析による微量成分元素存在量からの検討……

   二宮修治（東京学芸大学教育学部）・網干守（成城学園高等学校）・大沢眞澄（昭和女子大学文学部）

   黒曜石の分析……鈴木正男（立教大学一般教育部）

   男女倉遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析……藁科哲男（京都大学原子炉実験所）
5. 本報告書作成に当って次のような分担を行った。

   (1) 試掘位置計測　(株)協同測量

   (2) 試掘整理　堤　隆・大竹憲昭・須藤隆司・谷　和隆・宮坂　清・森山公一

   (3) 遺物整理　堤　隆・大竹憲昭・須藤隆司・森山公一

   (4) 遺物実測　堤　隆・大竹憲昭・森山公一

   (5) 整図トレース　堤　隆・森山公一・矢島洋子

   (6) 図版写真等　森山公一・森嶋　稔

   なお、各項の執筆責任者は文末（　）内に記した通りである。
6. 試掘番号は当初の計画に従って付け、複数にわける時はａ・ｂ・ｃとした。遺物番号は試掘抗別の通し番号とした。挿図の番号は試掘坑別に、別に通し番号とした。取上げ番号と台帳とは一致している。
7. 和田村黒耀石原産地内遺跡分布調査図その1・その2は袋入りとし巻末につけた。
8. 注・参考文献は適宜まとめて文末に付した。
9. 本書の編集は森嶋稔・森山公一が主として行い、校正その他は矢島洋子が行った。特別報告参加の原稿は原則としてそのままとした。
10. 本調査の全資料・報告書作成全資料については和田村教育委員会が保管している。
11. 本調査・報告書作成にあたり次の各氏・諸機関にご指導を得た。記して謝意を表するものである。

    岡村道雄・戸沢充則・小野　昭・平口哲夫・宮坂光昭・安蒜政雄・小林達雄・角張淳一・田中　琢・松沢亜生・樋口昇一・西沢寿晃・横田義章・児玉　修・立教大学・京都大学・(財)長野県埋蔵文化財センター

凡　例

1. 本書に用いた地区略号は次の通りである。

   本沢地区　：ホ　　ブドウ沢地区：ブ　　土屋沢地区：ツ

   男女倉川地区：オ　　和田川地区　：ワ　　和田峠地区：ト

   熔岩台地地区：ヨ　　A：左岸域　　B：右岸域

2. 本書に用いた実測図の縮尺は次の通りである。

   試掘坑平面図及び断面図　1：100

   石製品実測図　　1：3

3. 本書の平面図及び断面図に用いた略号は次の通りである。

   • 剥片　　o 削器・掻器　　■ 石核　　◘ 黒耀石原石　　▲ ナイフ形石器

   ◆ 尖頭器　　▲ 彫器　　◆ 楔形石器　　✻ その他（細石核・ドリル・ハンマーなど）

4. 各試掘坑の土層の色調は『新版標準土色帖』によった。

長野県黒耀石原産地遺跡分布調査報告書

和田峠・男女倉谷Ⅲ

目　次

序

例　言

凡　例

目　次

挿図目次

表目次

理化学分析図表目次

図版目次

第1章　調査の概要

第1節　調査に至る経過 …… 1

第2節　調査の構成 …… 2

第3節　調査の方法 …… 3

第4節　調査の経過 …… 7

第2章　遺跡の環境

第1節　自然環境 …… 18

1．**地質的環境** …… 18

2．**地理的環境** …… 19

第2節　歴史環境 …… 20

第3節　男女倉遺跡群の研究史 …… 22

第3章　調　　査

第1節　地質学的調査 …… 27

—和田峠周辺の地形・地質と黒耀石—

1．**和田峠周辺の地形と地質の概要** …… 27

2．**和田川河床の黒耀石転石** …… 27

3．熔岩台地湿原の花粉化石 …… 30
4．ＯＭホＡ—26・ＯＭツＢ—01・ＯＭツＢ—25地点の地質 …… 35
5．黒耀石の産状と採取方法 …… 37
第２節　考古学的調査 …… 40
1．本沢地区 …… 40
2．ブドウ沢地区 …… 63
3．土屋沢地区 …… 72
4．男女倉川地区 …… 82
5．和田川地区 …… 93
6．和田峠地区 …… 106
7．熔岩台地地区 …… 138
第３節　考古学的調査の中から …… 172

第４章　和田峠・男女倉産黒耀石の理化学的分析調査
第１節　資料群の選択 …… 174
1．原産地点について …… 174
2．調査地区割と分析地点 …… 175
3．資料非破壊による分析 …… 175
第２節　男女倉遺跡群詳細分布調査における黒曜石資料の原産地推定 …… 178
—機器中性子放射化分析による微量成分元素存在量からの検討—
二宮修治（東京学芸大学教育学部）
網干　守（成城学園高等学校）
大沢眞澄（昭和女子大学文学部）
1．はじめに …… 178
2．資　料 …… 178
3．実験方法 …… 183
4．結果及び考察 …… 183
(1)　機器中性子放射化分析の結果 …… 183
(2)　男女倉遺跡群詳細分布調査黒曜石資料の原産地推定 …… 193
5．まとめ …… 193
参考文献 …… 202
第３節　黒曜石の分析 …… 203
鈴木正男（立教大学一般教育部）

1．はじめに ……203
2．方法と結果 ……203
(1) 晶子形態法 ……203
(2) 化学組成法 ……203
(3) 噴出年代法 ……210
(4) 黒曜石水和層法 ……211
3．熱中性子放射化分析 ……212
4．黒曜石水和層年代 ……217
5．黒曜石水和層厚測定結果 ……217
参考文献 ……217
第4節 男女倉遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析 ……218
藁科哲男（京都大学原子炉実験所）
1．はじめに ……218
2．黒曜石原石の分析 ……218
3．結果と考察 ……223
参考文献 ……229

第5章 総 括 ……232
―黒耀石原産地遺跡の分布状況―
図 版
あとがき

〔表紙写真〕 和田峠周辺航空撮影（和田村）

挿　図　目　次

第１図　グリッド坑記録カード記入例
2　長野県小県郡和田村位置及び全図
3　調査地区割
4　男女倉・和田峠周辺の周知の遺跡
6　男女倉Ⅲ・Ⅳ・M地点遺跡出土遺物
7　男女倉Ｂ・Ｊ地点遺跡出土遺物
8　黒耀石転石分布図
9　花粉分析用試料採取地点
10　火山ガラスの屈折率
11　男女倉Ｉの花粉ダイヤグラム
12　八島が原湿原の花粉分析と^{14}Ｃ年代
13　地質調査用トレンチ位置図
14　地質柱状図
15　土屋沢右岸の模式断面図
16　男女倉付近の段丘面区分図
17　黒耀石の採取地点
18　ホＢ25調査開始
19　〃　試掘坑
20　〃　遺物分布図
21　〃　調査中
22　〃　深掘完了
23　〃　出土遺物
24　ホＡ26調査開始
25　〃　調査中
26　〃　遺物分布図
27　〃　深掘面清掃
28　〃　深掘完了
29　〃　重量別石器垂直分布図
30　〃　出土遺物①
第31図　ホＡ26出土遺物②
32　〃　〃　③
33　〃　〃　④
34　〃　〃　⑤
35　〃　〃　⑥
36　〃　〃　⑦
37　〃　〃　⑧
38　〃　〃　⑨
39　ホＡ27遺物分布図
40　〃　重量別遺物分布図
41　〃　完掘地層
42　〃　出土遺物①
43　〃　〃　②
44　〃　〃　③
45　ホＢ28調査グリッド図
46　〃　試掘坑
47　〃　出土遺物
48　ホＢ29調査グリッド図
49　〃　完掘状況
50　〃　出土遺物
51　ホＢ30出土遺物
52　〃　遺物分布図
53　〃　地層断面
54　ブＢ09遺物分布図
55　〃　出土遺物
56　〃　地層断面
57　ブＢ10遺物分布図
58　〃　出土遺物①
59　〃　〃　②
60　ブＢ11遺物分布図

第61図　ブB11調査地点
62　〃　調査状況
63　〃　完掘状況
64　〃　出土遺物①
65　〃　〃　②
66　〃　〃　③
67　ソA02遺物分布図
68　〃　試掘坑
69　〃　出土遺物①
70　〃　〃　②
71　ソA05遺物分布図
72　〃　試掘坑
73　〃　出土遺物
74　ソB10遺物分布図
75　〃　試掘坑
76　〃　出土遺物①
77　〃　〃　②
78　〃　〃　③
79　オB01遺物分布図
80　〃　地層断面
81　〃　出土遺物①
82　〃　〃　②
83　オB05調査グリッド図
84　〃　試掘坑
85　各グリッド出土遺物
86　オB06遺物分布図
87　〃　試掘坑
88　オB08遺物分布図
89　〃　試掘坑
90　オB09遺物分布図
91　〃　試掘坑
92　オB13遺物分布図
93　〃　調査地点
第94図　オB13試掘坑
95　オA14遺物分布図
96　〃　試掘坑
97　オB15遺物分布図
98　〃　試掘坑
99　ワA01遺物分布図
100　〃　調査地点
101　〃　調査状況
102　〃　試掘坑
103　各グリッド出土遺物
104　ワA02遺物分布図
105　〃　試掘坑
106　〃　出土状況
107　ワA03遺物分布図
108　〃　調査地点
109　〃　試掘坑
110　ワA04遺物分布図
111　〃　試掘坑
112　〃　出土遺物
113　ワA05遺物分布図
114　〃　試掘坑
115　〃　出土遺物
116　ワA06a遺物分布図
117　〃　出土状況
118　ワA06a・b出土遺物
119　ワA07調査グリッド図
120　〃　出土遺物
121　〃　調査地点
122　〃　試掘坑
123　ワA08b遺物分布図
124　〃　試掘坑
125　〃　調査地点
126　〃　出土遺物

第127図　トB01遺物分布図
128　和田峠シェルター掘割
129　各グリッド出土遺物
130　トB02遺物分布図
131　トB03a遺物分布図
132　〃　調査地点
133　トB03a・b出土遺物
134　トB03b断面図
135　〃　試掘坑
136　トB04遺物分布図
137　〃　調査地点
138　各グリッド出土遺物
139　トA05遺物分布図
140　〃　調査地点
141　トA06遺物分布図
142　〃　調査地点
143　〃　出土遺物
144　トA07遺物分布図
145　〃　調査地点
146　〃　出土遺物
147　トA08遺物分布図
148　〃　出土遺物
149　〃　調査地点
150　トA09遺物分布図
151　〃　調査地点
152　〃　出土遺物
153　トA10遺物分布図
154　〃　調査地点
155　〃　試掘坑
156　〃　出土遺物①
157　〃　〃　②
158　〃　〃　③
159-1　トA11a出土状況
第159-2図　トA11a出土遺物
160　トA11b遺物分布図
161　〃　試掘坑
162　〃　出土遺物
163　トA12遺物分布図
164　〃　調査地点
165　〃　出土状況
166　各グリッド出土土器
167　トA12出土遺物①
168　〃　〃　②
169　〃　〃　③
170　〃　〃　④
171　トA13遺物分布図
172　〃　出土状況
173　〃　出土遺物
174　ヨA01b遺物分布図
175　〃　試掘坑
176　〃　出土遺物①
177　〃　〃　②
178　ヨA03遺物分布図
179　〃　試掘坑
180　〃　出土遺物
181　ヨA04a遺物分布図
182　〃　試掘坑
183　ヨA04出土遺物①
184　ヨA04b遺物分布図
185　ヨA04出土遺物②
186　ヨA04b調査地点
187　〃　試掘坑の断面取り
188　〃　試掘坑の断面
189　〃　出土状況
190　〃　試掘坑の採取土砂
191　ヨA04出土遺物③

第192図　ヨA04出土遺物④
193　ヨA04c遺物分布図
194　ヨA05遺物分布図
195　〃　出土遺物①
196　〃　出土状況
197　〃　出土遺物②
198　〃　〃　③
199　ヨA08試掘坑
200　ヨA09遺物分布図
201　各グリッド出土遺物
202　ヨA09試掘坑
203　ヨA13遺物分布図
204　〃　試掘坑
205　ヨA15遺物分布図
第206図　ヨA15試掘坑
207　ヨA16遺物分布図
208　〃　試掘坑
209　ヨA19遺物分布図
210　〃　調査地点
211　〃　試掘坑
212　各グリッド出土遺物
213　ヨA20遺物分布図
214　〃　試掘坑
215　主な本沢地区の層位的出土状況
216　主な和田峠地区・和田川地区の層位的出土状況
217　主な熔岩台地地区の層位的出土状況
218　黒耀石露頭と遺物分布範囲

付　図　和田村黒耀石原産地内遺跡分布調査図（その1）
和田村黒耀石原産地内遺跡分布調査図（その2）
（以上2葉　袋入り）

表　目　次

第1表　ホB25　出土遺物層位別一覧表
2　ホA26　〃
3　ホA27　〃
4　ホB28　〃
5　ホB29　〃
6　ホB30　〃
7　ブB09　〃
8　ブB10　〃
9　ブB11　〃
10　ツA02　〃
11　ツA05　〃
12　ツB10　〃
13　オB01　〃
14　オB05　〃
15　オB06　〃
16　オB08　〃
17　オB09　〃
18　オB13　〃
19　オA14　〃
20　オB15　〃
21　ワA01　〃
22　ワA02　〃
23　ワA03　〃
24　ワA04　〃
25　ワA05　〃
26　ワA06a　〃
27　ワA07　〃
28　ワA08b　〃
29　トB01　〃
30　トB02　〃
31　トB03a　〃
32　トB03b　〃
第33表　トB04　出土遺物層位別一覧表
34　トA05　〃
35　トA06　〃
36　トA07　〃
37　トA08　〃
38　トA09　〃
39　トA10　〃
40　トA11b　〃
41　トA12　〃
42　トA13　〃
43　ヨA01b　〃
44　ヨA03　〃
45　ヨA04a　〃
46　ヨA04b　〃
47　ヨA04c　〃
48　ヨA05　〃
49　ヨA09　〃
50　ヨA13　〃
51　ヨA15　〃
52　ヨA16　〃
53　ヨA19　〃
54　ヨA20　〃
55　本沢地区　調査資料一覧表
56　ブドウ沢地区　〃
57　土屋沢地区　〃
58　男女倉川地区　〃
59　和田川地区　〃
60　和田峠地区　〃
61　熔岩台地地区　〃
62　グリッド位置・出土割合
63　黒耀石原産地点・黒耀石の観察所見表
64　黒耀石の理化学的分析の分担割

理化学的分析図表目次

男女倉遺跡群詳細分布調査における黒曜石資料の原産地推定

——機器中性子放射化分析による微量成分元素存在量からの検討——

二宮修治・網干　守・大沢眞澄

第１－１表——分析資料
—男女倉遺跡群詳細分布調査〔男女倉川地区：オＢ01地点〕
第１－２表——同　〔土屋沢地区：ツＢ10地点〕
第１－３表——同　〔本沢地区：ホＡ26地点〕
第１－４表——同　〔本沢地区：ホＡ27地点〕
第１－５表——同　〔ブドウ沢地区：ブＢ10地点〕
第１－６表——同　〔ブドウ沢地区：ブＢ11地点〕
第　２　表——分析条件
—機器中性子放射化分析
第　３　表——分析結果　同　地質調査所標準岩石
第　４　表——同　男女倉遺跡群詳細分布調査黒曜石資料
第　５　表——同　原産地黒曜石
第　１　図——クラスター分析の結果　原産地黒曜石
第６－１表——クラスター分析による分類結果と原産地推定——男女倉遺跡群〔オＢ01地点〕
第６－２表——同　〃　〔ツＢ10地点〕
第６－３表——同　〃　〔ホＡ26地点〕
第６－４表——同　〃　〔ホＡ27地点〕
第６－５表——同　〃　〔ブＢ10地点〕
第６－６表——同　〃　〔ブＢ11地点〕
第７－１表——男女倉遺跡群詳細分布調査黒曜石資料原産地推定の結果　〔オＢ01地点〕
第７－２表——同　〔ツＢ10地点〕
第７－３表——同　〔ホＡ26地点〕
第７－４表——同　〔ホＡ27地点〕
第７－５表——同　〔ブＢ10地点〕
第７－６表——同　〔ブＢ11地点〕

黒曜石の分析

鈴木正男

第1図　空間・時間的チャート
第1表　原産地黒曜石化学分析・判別分析結果
〔0101～1810，W01～W10，C01～C10，M01～M10〕
第2表　判別テスト結果のまとめ
第3表　黒曜石原石のフィッショントラック年代測定結果
〔WADA0100～WADA1800，CHOSIZAWA〕
第4表　男女倉遺跡群黒曜石化学分析・判別分析結果
〔トA07，トA10，トA12，ヨA01，ヨA04b，ヨA05〕

男女倉遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析

藁科哲男

第1図　黒曜石の原産地
第2図　和田村付近地域原石採取地点①
第3図　和田村付近地域原石採取地点②
（各原石群を10%以上の頻度で採取可能な地点）
第1—1表　各黒曜石原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値①
第1—2表　各黒曜石原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値②
第2表　和田村付近地域原石採取地点における各原石群の出現頻度
第3表　男女倉遺跡B及びJ地点出土の黒曜石製遺物分析結果
第4表　男女倉遺跡B地点出土の試料番号30757番
の各原石群へのマハラノビス距離D^2と帰属確率(%)
第5表　男女倉遺跡B地点出土の黒曜石製石器・石片の原材産地推定結果
第6表　男女倉遺跡J地点出土の黒曜石製石器・石片の原材産地推定結果

図　版　目　次

1. 男女倉山頂より男女倉側をのぞむ
2. 同
3. 男女山頂より霧ヶ峰側をのぞむ
4. 同
5. ホA26　Ⅰ～Ⅲ層出土遺物
   ホA26　Ⅲ層出土遺物
6. ホA26　Ⅱ・Ⅲ層出土遺物
   ホA26　Ⅲ層出土遺物
7. ホA26　Ⅲ層出土遺物
   ホA26　Ⅲ層出土遺物
8. ホA26　Ⅲ層出土剝片
   ホA26　Ⅲ層出土剝片
9. ヨA01b　Ⅱ・Ⅲ層出土遺物
   ヨA01b　Ⅳ・Ⅴ層出土遺物
10. 熔岩台地の湿原
    ヨA04b　Ⅲ層出土遺物
    ヨA04b　Ⅲ層出土遺物
11. ヨA04b　Ⅴ層出土遺物
    ヨA04b　Ⅳ・Ⅴ層出土遺物
    ヨA04a地点より湿原をのぞむ
12. トA12　Ⅰ・Ⅱ層出土土器片（表）
    トA12　Ⅰ・Ⅱ層出土土器片（裏）
13. トA12　Ⅰ層出土遺物
    トA12　Ⅱ層出土遺物
14. トA12　Ⅲ層出土遺物
    トA12　Ⅳ層出土遺物
15. トA12　Ⅳ層出土遺物
    ヨA04・01・05・07　Ⅰ～Ⅲ層出土土器片
16. ブB11　Ⅳ・Ⅴ層出土遺物
    ブB11　Ⅴ層出土遺物
17. オB01　Ⅰ・Ⅱ～Ⅲ層出土遺物
    オB01　Ⅴ層出土遺物
18. ツB10　Ⅰ・Ⅱ層出土遺物
    ツB10　Ⅲ層出土遺物
19. ツB10　Ⅳ層出土遺物
    ツB10　Ⅴ層出土遺物
20. ワA06a・b出土遺物
    男女倉B地点遺跡の尖頭器（17.5cm）

第1章　調査の概要

第1節　調査に至る経過

昭和63年（1988）2月、和田村の男女倉遺跡一帯を中心に和田峠に及ぶ範囲で、リゾート法（総合保養地域整備法）特定地域（県内6地点）の一つに選定されたことから端を発した。

以下、調査に至る経緯の必要事項を、日誌風に抜き書きすることとする。

Ⓐ　1988年2月、男女倉・和田峠地域、リゾート法特定地域に選定。

Ⓑ　同年8月、黒耀石原産地として著名な同地域の保護について村教委と県文化課と協議。

Ⓒ　同年10月、県文化課、長野県遺跡調査指導委及び国文化庁の指導、提言を受ける。

Ⓓ　同年12月、文化課、文化庁及び明治大学考古学研究室の指導を受ける。

Ⓔ　同年12月、長野県考古学会より県教委及び地教委に「北白樺高原地区総合保養地域予定地を対象とする埋蔵文化財悉皆詳細遺跡分布調査に関する要望書」提出。

Ⓕ　1989年2月、県遺跡指導委に「大型開発事業等に係る埋蔵文化財の保護対策について」提案　①総量規制　②基本方針の立案を提言。

Ⓖ　同年3月、明大考古学研究室への調査協力依頼3項目の指導の上、了解。

Ⓗ　同年3月、県遺跡指導委会長戸沢充則氏辞任。

Ⓘ　同年4月、長野県考古学会及び文化財保存全国協議会より、「長野県の埋蔵文化財保護行政改善に関する要望書」が提出。

Ⓙ　同年10月、文化課と村教委協議の上、研究者に調査依頼したが不調となる。

Ⓚ　同年11月、文全協調査中止を提言。文化課保護の為の基礎資料収集を目的と回答、第1年次調査を県文化課指導主事を調査員として実施。（調査範囲　高松山山系―牧の沢・北高松の沢・ブドウ沢・パイロット農場斜面。鷲ヶ峯山系―本沢・土屋沢）

Ⓛ　1990年1月、「男女倉遺跡群の保護に関する基本構想懇談会」を開催、協議。

Ⓜ　同年8月、「黒耀石原産地遺跡分布調査指導特別委員会（略称　黒耀石委員会）」が、県遺跡指導委の傘下に発足。次の事項を確認した。

①分布調査は開発の環境影響評価に先行して実施され、評価書に反映されるものである。

②分布調査の経費は文化財保護部局側が負担する。

③本分布調査は、県内の山林原野における分布調査のパイロット的位置を占める。

④本分布調査は黒耀石の産出状況と文化遺跡の分布の関係を把握するものとする。

⑤本年度調査は本沢及びブドウ沢を中心に実施する。

⑥調査体制は団長を森嶋委員とし、本年は県内研究者を中心に組織する。

以上の経緯をもって平成2年(1990)10月から開始された調査が軌道に乗った。（事務局）

第2節　調査の構成

黒耀石原産地遺跡分布調査指導特別委員会

会長	長野県遺跡調査指導委員	森嶋　稔
委員	明治大学教授	戸沢　充則
	新潟大学助教授	小野　昭
	金沢医科大学助教授	平口　哲夫
	信州大学教授	酒井　潤一
	諏訪市誌編纂委員	宮坂　光昭
	明治大学教授	安蒜　政雄

男女倉遺跡群分布調査団

第1年次（1989年）

調査団長　田中治男（村教委教育長）

調査員　上原　茂（総務係長）

調査指導　小林秀夫　児玉卓文　百瀬長秀

（以上県教委指導主事）

協力員　山本昭二　山口善作　横山鉄雄

第2年次（1990年）

団長　森嶋　稔

考古班　主任調査員　森山公一

川上　元　堤　隆　大竹憲昭

大竹幸恵　須藤隆司　宮坂　清

諏訪間順　麻生敏隆　諸星良一

小口達志　児玉卓文　中島芳栄

藤波啓容　関口博幸　宮尾　亨

山本正吉史　川口　潤　角張淳一

地質班　主任調査員　酒井　潤一

長橋良隆　二階堂学　土井康裕

宮川ちひろ　加藤宗彦　藤森　勉

細川　学　斉藤和博　藤田　亮

津金達郎　宮崎　隆　藤白隆司

沢田　健

協力員　小沢重亀　近藤徳男　笹井　濃

今泉米市　長井義人　横山鉄雄

山口善作　飯塚　敦　石川　貢

小松　真　竜野介佐臣　高木貴代見

清水福松　長井三之介　佐々木務

坂田文子

事務局　和田村教育委員会

教育長　田中治男　係長　上原　茂

調査員　角張淳一

第3年次（1991年）

団長　森嶋　稔

考古班　主任調査員　森山公一

藤波啓容　林　辰男　宮尾　亨

松村愉文　伊藤慎二　岸崎浩実

山本正吉史　中野律子　山口栄一

金永知寿　小倉和重　大工原豊

勝見　譲　島田和高　吉井雅勇

堀田雄二　堤　隆　大竹憲昭

大竹幸恵　須藤隆司　麻生敏隆

谷　和隆　児玉卓文　長谷川桂子

高倉　純　高見俊樹　小池幸夫

折茂克哉

地質班　主任調査員　酒井潤一

長橋良隆　二階堂学　西川　徹

後藤智之　加藤宗彦　藤森　勉

細川　学　斉藤和博　森田　亮

津金達郎　沢田　健　門美木子

国信ゆかり　大野和子　上垣内順子

蟹　功　大見元子　渡邉健寛

渡邉陽巳　河合小百合　吉田磨美

松田ひろみ　小原英範　嶋田庸嗣

鈴木　保　関本真一　小亀　出

千葉恵美　新谷加代　藤白隆司

作業員　小沢重亀　長井勘爾　笹井　濃

今泉米市　吉沢　憬　堀内喜美雄

相馬啓二　高木貴代見　長井三之介

事務局　和田村教育委員会

教育長　田中治男　係長　上原　茂

調査員　角張淳一（H・3・6まで）

第4年次（1992年）

団長　森嶋　稔

考古班　主任調査員　森山公一

堤　隆　大竹憲昭　須藤隆司

地質班　主任調査員　酒井潤一

内藤賢次　鈴木　保　津金達郎

嶋田庸嗣　藤白隆司

作業員　小沢重亀　笹井　濃　堀内喜美雄

高木貴代見　長井三之介　城下みず江

羽田美智代　斉藤よし子

事務局　和田村教育委員会

教育長　田中治男　係長　上原　茂

（事務局）

第3節　調査の方法

1　調査の過程

①　男女倉谷遺跡分布調査（平成2～4年度）――（保護側負担）――同分布調査団

②　同報告書作成（平成2～4年度2回）――（保護側負担）――同分布調査団

③　保護協議（平成4年度以降）

④　記録保存のための遺構分布調査――（原因者側負担）――遺跡調査団

⑤　発掘調査・報告書作成――(原因者側負担)――遺跡調査団

2　調　　査

a　黒耀石の産出状況と地形――地質班が担当する。

b　黒耀石の産出状況と文化遺跡の分布の関係――地質班と考古班が担当する。

c　試掘調査――地質班と考古班が担当する。

3　調査の方法

(1)　考古班

A．路査による試掘地点の選定

a　段丘および崖錐――グリッドの数・規模の策定

b　丘陵及びテラス――　〃

B．試掘調査

a　グリッドの位置は基本地形図(1/5,000)にバロメーターによる数値をもって記入する。

b　グリッドの平面は2×1mを基本とし、状況によって増減を考慮する。

c　グリッドの番号はOMツA（左岸)―1a、OMヨB（右岸)―1bと記録する。（OMは男女倉、土屋沢(ツ)・熔岩台地(ヨ)・和田川(ワ)・和田峠(ト)、男女倉川(オ)、本沢(ホ)・ブドウ沢(ブ)、A―1は地区、aはグリッド番号とする。）

d　グリッドの設定は、グリッドの長辺を等高線と平行にし各角は直角を原則とする。

e　表土の植物は出来る限りいためないように剝ぎ取り、グリッドの埋め戻しの最後にかぶせ定着させる。

f　グリッドの深度はローム層上面から、―50 cm 以上を基準とする。

g　グリッド内の遺物および土層の取り上げは次のようにする。

①　調査カードに遺物の平面位置および垂直位置を記録する（縮尺1/10)。

※平面位置はスケールで、垂直位置は斜面上位中央地上をバロメーターで計測し、それを基点とし以下クリノメーターとスケールで計測、記録する。

②　セクション図は、斜面上位面と直交する一面の2面記録し、遺物の垂直位置を記入する（縮尺1/10)。

③　分層が完了したら、各層セクション図に位置を記入し、土層サンプルを採取する（5号ビニール袋半分位)。

④　採取遺物、土層サンプルの記録は次のようにする。

※遺物は、グリッド番号末尾に―01、02とする。

※土層サンプルは—Ⅰ—01、—Ⅱ—01とし、断面図と一致させる。

⑤　土層の分層は不整合面に注意し、色調、マトリックスをよく観察して行う。

⑥　写真

グリッド設定場所の景観・グリッド平面

○遺物出土状況・セクション記録面

○埋め戻し後・その他

C．各班調査機材

・クリノメーター1　・バロメーター1

・水糸1　・巻き尺1　・鎌1　・根切り1　・大スコップ2　・移植ゴテ3

・アヒル鎌2　・5号袋　・3号袋

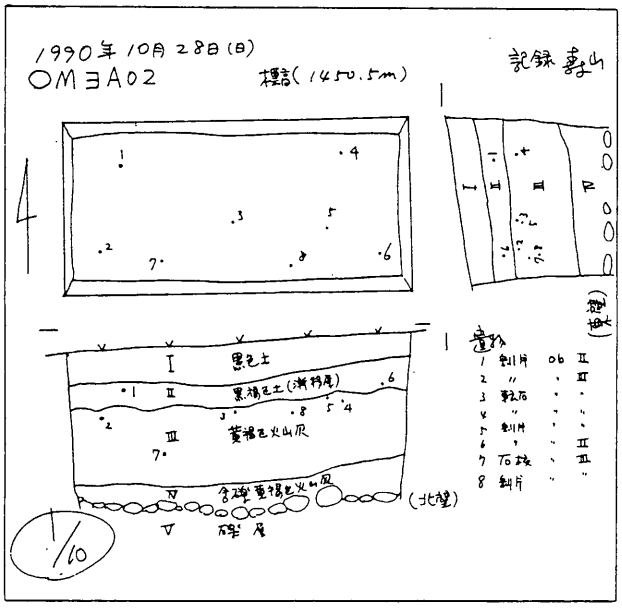
・マジック2　・ラベル2　・カメラ1（各班で2台用意）　・フィルム3

・画板1　・セクションペーパーA—2,1

・筆記用具一式　・杭4　・ピンポール

・荷札（大・小）　・馬鹿棒2

・串　（・パイスケ4　・一輪車2　・トランシット2　・レベル2）



第1図　グリッド記録カード記入例

(2)　**地質班**

A．黒耀石の産出状況調査

a　沢筋及び枝沢の河床転石採集調査

b　尾根筋等露頭調査

B．段丘等地形調査

a　試掘による地層認定

①　考古班の試掘調査と連動するもの。

②　独自の試掘調査、文化層の認定。

b　踏査による地形観察

c　研究室での資料研究

C．各班調査機材（略）

(3)　**調査日報**

※調査日誌は各自が記録するとともに、班長は調査日報『男女倉』を発行する。

※各班は明朝までに調査日報を調査主任に提出し、直ちに発行する。

(4)　**調査の検討会**

※一日の調査終了後、午後8時から1時間の予定で、報告と検討会を行い同時に翌日の予定についても検討を行う。

※地質関係とのすり合わせを充分に行う。

(5)　**調査資料について**

※考古資料　団長・調査主任・班長会に提出、検討・整理（撮影フィルムも同様）

※地質資料　地質班に依頼

(6)　**黒耀石資料の理化学的検討**

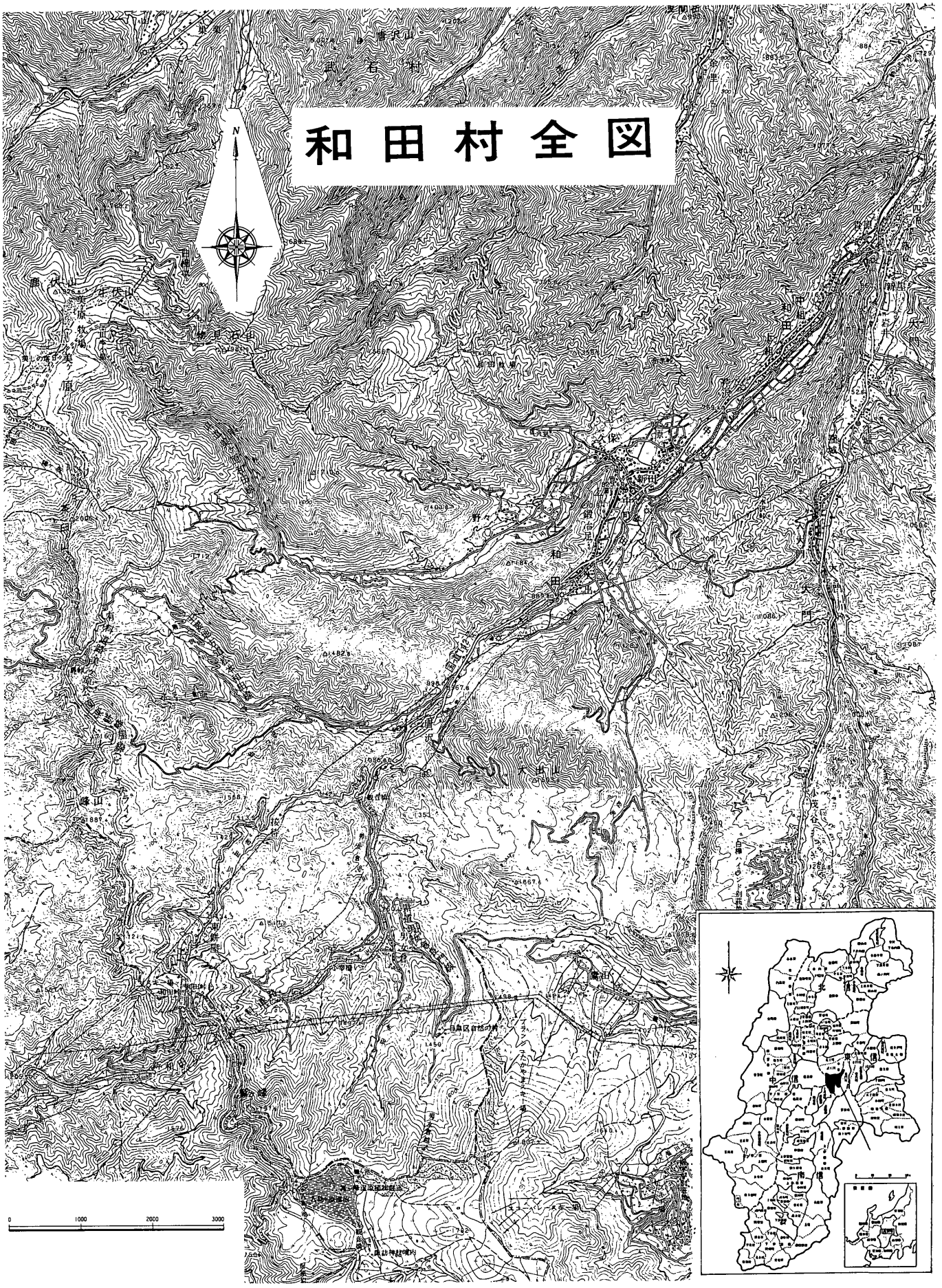
※黒耀石露頭・転石・文化資料の産地同定と年代測定。

(7)　**報告書**

※団長・調査主任・班長会で作成する。

(8)　**グリッド記録**（第1図）

（森嶋　稔・森山公一）



第２図　長野県小県郡和田村位置及び全図

調査の地区割について

調査の地区割について次のようにした。
①水系を優先させる
②山稜によって区割をする
③左岸域をＡとし右岸域をＢとする
　地区割はしたがって次の通りである

第３図　調査地区割（Ａ：左岸　Ｂ：右岸）

地区割　本沢(ホ)Ａ・Ｂ、ブドウ沢(ブ)Ａ・Ｂ
土屋沢(ツ)Ａ・Ｂ、男女倉川(オ)Ａ・Ｂ
和田川(ワ)Ａ・Ｂ、和田峠(ト)Ａ・Ｂ
熔岩台地（ヨ）Ａ・Ｂ

第4節　調査の経過

男女倉調査日誌より

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高(m)	面積(m)	層序	層厚(cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剥片	石器	調査員	作業員数	備考
1991															
5. 3	ブドウ沢踏査												酒井他		森山
5. 4	ブB－01	36°08′09″	138°11′13″		1×1	Ⅰ～Ⅲ	124						岸崎他	4	
	ブB－02	36°08′08″	138°11′10″		1×1	Ⅰ～Ⅲ	75						山本他	2	
	ブB－03	36°08′00″	138°11′10″		1×1	Ⅰ～Ⅲ	95						大工原他	4	
	ブB－04	36°07′47″	138°11′06″		1×1	Ⅰ～Ⅲ	106						藤波他	3	文化遺物なし
	ブA－05	36°07′42″	138°11′02″	1,510	2×1	Ⅰ～Ⅳ							宮尾他	3	
	ブA－06a	36°07′34″	138°10′52″	1,620	2×1	Ⅰ～Ⅳ							小倉他	2	
	ブA－06b			1,620	2×1	Ⅰ～Ⅳ							林他	2	
5. 5	熔岩台地踏査												酒井他		森山
5. 6	熔岩台地ほか踏査												酒井他		森山
5.11	地質調査												酒井他	学生29	～ 5/12（2日間）花粉分析
5.12	湯原第5地点						185				+		森山他		
	湯原第7地点						60				+	+	森山他	1	大竹
7.11	ホB－25	36°08′42″	138°10′47″	1,260	2×4	Ⅰ	10	黒色土			15	1	大竹他	1	取り上げ番号 1～16
	～7/15（5日間）					Ⅱ	20	褐色土			20	1		1	〃 17～48
	深掘					Ⅲ	15	黄褐色水性ローム			2	4			〃 49～52
						Ⅳ	50	黄褐色粘質ローム							段丘調査
						Ⅴ	185	段丘礫層							
	ホA－26	36°08′55″	138°10′38″	1,217	3×3	Ⅰ	15	耕作土	3	2	20	2	堤他	2	取り上げ番号 1～80
	～7/15（4日間）					Ⅱ	25	漸移層	5	5	30	3			〃 81～127
	深掘					Ⅲ	100	黄褐色粘質ローム	30	20	80	9			〃 128～262
						Ⅳ	10	黄褐色ハードローム							段丘調査
						Ⅴ	20	黄褐色流紋岩混ローム							
						Ⅵ	20	黄灰色水性ローム							
						Ⅶ	20	ｏｂ粒含細礫層							
						Ⅷ	40	粗粒礫層							
						Ⅸ	100	亜円礫層							
7.12	ホB－25														
7.13	ホB－25												大竹他	2	児玉・森山
	ホA－26												堤他	4	須藤
7.14	ホB－25												児玉他	2	森山
	ホB－26												堤他	2	須藤
7.15	ホB－25												大竹他	2	
	ホA－26												堤他	4	

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	文化遺物 石核	文化遺物 剥片	文化遺物 石器	調査員	作業員数	備考
	ツB－01 深掘	36°08′52″	138°10′39″	1,270	3×3	Ⅰ	130	埋土					酒井他		
						Ⅱ		黒色土							段丘生成調査
						Ⅲ	100	褐色土							剥片2
						Ⅳ	70	灰褐色水性砂ローム							
						Ⅴ	150～	灰褐色砂礫層							
7.27	設定調査												大竹他	2	堤・森山
7.28	〃												児玉他	3	大竹・堤・森山
8.19	ワA－04	36°09′43″	138°09′34″	1,250	2×1	Ⅰ	20	黒色土			4		森山		取り上げ番号 1～4
	～8/20 (2日間)					Ⅱ	50	褐色土	1	1	9	2			〃 5～17
						Ⅲ	20～	流紋岩礫層							
	ワA－05	36°09′42″	138°09′36″	1,240	2×1	Ⅰ	20	黒色土					森山		
	～8/20 (2日間)					Ⅱ	120	黄褐色水性ローム			3				取り上げ番号 1～3
						Ⅲ	10～	水性ローム							
8.20	ワA－04														
	ワA－05														
	ワA－02	36°09′28″	138°09′18″	1,330	2×1	Ⅰ	15	表土					森山		
	～8/21 (2日間)					Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	45	褐色土			5				取り上げ番号 1～22
						Ⅳ	40～	黄褐色粘質ローム	1		10	4			〃 23～30
	ワA－03	36°09′35″	138°09′22″	1,310	2×1	Ⅰ	35	黒色土				石鏃	森山		取り上げ番号 1～9
	～8/21 (2日間)					Ⅱ	35	褐色土	1		20	3			〃 10～14
						Ⅲ	20	含礫水性ローム				7			〃 15～68
8.21	ワA－02														
	ワA－03														
	ワA－01	36°09′16″	138°09′11″	1,370	2×1	Ⅰ	10	表土					森山		
	～8/22 (2日間)					Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	5	褐色土							
						Ⅳ	60	黄褐色粘質ローム		1	2	2			取り上げ番号 1～10
						Ⅴ	40	茶褐色砂質ローム	ズリ5						
						Ⅵ	50～	褐色粘質ローム							
8.22	ワA－01												森山他		
	ワA－07	36°09′55″	138°09′52″	1,190	2×1	Ⅰ	10	表土（笹根）			20	3	森山他		取り上げ番号 1～23
						Ⅱ	90	角礫混黒色土							
						Ⅲ	10～	角礫混水性ローム							
8.23	ワA－06a	36°09′47″	138°09′40″	1,230	2×1	Ⅰ	30	暗黄褐色土					森山他		
						Ⅱ	20	黒褐色土		1	50	5			
						Ⅲ	10	黒褐色砂層							
						Ⅳ	60	黒褐色粘質土							
						Ⅴ	20～	褐色砂礫層							

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物				調査員	作業員数	備考
									原石	石核	剥片	石器			
	ワA－06b	36°09′45″	138°09′40″	1,235	0.7×0.9	Ⅰ	20	表土					森山他		児玉
						Ⅱ	40	黒色土			20				
						Ⅲ	25	漸移層		2	6	3			取り上げ番号 1～9
						Ⅳ	50～	黄褐色粘質ローム							
	トA－13	36°09′07″	138°09′10″	1,400	2×1	Ⅰ	15	表土					児玉他		森山
						Ⅱ	20	黒色土							
						Ⅲ	30	漸移層			10	2			取り上げ番号 1～25
						Ⅳ	50～	褐色粘質ローム	8	6					〃 26～32
8.24	トB－01	36°08′33″	138°08′47″	1,530	2×1	Ⅰ	20	表土					大竹	2	
						Ⅱ	10	黒色土			10				
						Ⅲ	15	漸移層							
						Ⅳ	30	黄褐色粘質ローム			1	1			
						Ⅴ	25～	含礫砂質ローム							
	トB－02	36°08′30″	138°08′51″	1,540	2×1	Ⅰ	35	表土		1			大竹	2	
	～8／25 (2日間)					Ⅱ	15	黒色土			10				
						Ⅲ	10	漸移層	2	1		3			
						Ⅳ	20	黄褐色粘質ローム		2		2			
						Ⅴ	35～	含礫砂質ローム							
	トB－03a	36°08′45″	138°08′48″	1,490	2×1	Ⅰ	30	表土					堤	2	
						Ⅱ	10	褐色土							
						Ⅲ	60	黒色土			5				
						Ⅳ	20	漸移層			40				
						Ⅴ	10～	黄褐色粘質ローム		1		7			
	トB－03b	36°08′45″	138°08′48″	1,489	0.7×1	Ⅰ	25	表土					堤	2	
						Ⅱ	10	褐色土			10				
						Ⅲ	40	粘質黒色土	1			3			
						Ⅳ	20	漸移層		1	1				
						Ⅴ	20～	礫混ソフトローム							
	トB－04	36°08′47″	138°08′52″	1,480	2×1	Ⅰ	20	表土			10	2	須藤	1	
						Ⅱ	40	黄褐色粘質ローム	1	1	10	2			
	トA－05	36°08′47″	138°08′50″	1,487	2×1	Ⅰ	30	黒色土			10		須藤	2	
	～8／25 (2日間)					Ⅱ	30	褐色土				2			取り上げ番号 1～5
						Ⅲ	30～	黄褐色粘質ローム	5	5	10	5			〃 6～21
8.25	トB－02												大竹	3	
	トA－05												須藤		
	トA－06	36°08′50″	138°08′52″	1,480	2×1	Ⅰ	20	表土					堤	1	
						Ⅱ	30	黒色土		1					取り上げ番号 1
						Ⅲ	20	漸移層							
						Ⅳ	30～	黄褐色粘質ローム							

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剝片	石器	調査員	作業員数	備考
	トA－07	36°08′56″	138°08′58″	1,460	2×1	Ⅰ	30	表土					須藤	4	取り上げ番号 1～23（他に磁器・硯）
						Ⅱ	40	黄褐色漸移層			70				
						Ⅲ	20～	黄褐色ローム		6		12			
	トA－08	36°08′59″	138°08′59″	1,455	2×1	Ⅰ	25	表土					堤	1	
						Ⅱ	30	黒色土			1				
						Ⅲ	20	漸移層		1	4				取り上げ番号 1～5
						Ⅳ	40	黄褐色ローム			1				〃 6
						Ⅴ	40～	黄褐色粘質ローム							
	トA－09	36°09′01″	138°09′02″	1,440	2×1	Ⅰ	30	黒色土	3		40	土器片	森山他		諸磯式土器
						Ⅱ	30	漸移層							取り上げ番号 1～22
						Ⅲ	～	黄褐色ローム	4	6	10	4			〃 23～49
8.27	ヨA－14	36°08′47″	138°09′24″	1,520	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色漸移層							
						Ⅳ	10～	流紋岩混砂ローム							
	ヨA－13	36°08′46″	138°09′18″	1,535	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）			3		森山		
						Ⅱ	25	黒色土			3				取り上げ番号 1～4
						Ⅲ	25	褐色漸移層				1			
						Ⅳ	40～	流紋岩砂混ローム							
8.28	ヨA－10	36°08′58″	138°09′32″	1,535	2×1	Ⅰ	10	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	35	黒耀石流紋岩含砂ローム							
	ヨA－11	36°08′52″	138°09′30″	1,540	2×1	Ⅰ	15	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	15	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	10～	黒耀石流紋岩含砂ローム							
	ヨA－12	36°08′49″	138°09′28″	1,525	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	40	褐色漸移層							
						Ⅳ	10～	流紋岩風化砂含ローム							
8.29	ヨA－04 a	36°09′09″	138°09′19″	1,382	2×1	Ⅰ	10	表土（笹根）					森山		
						Ⅱ	10	黒色土			3				
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	15	黄褐色ハードローム							
						Ⅴ	30～	暗褐色ハードローム							
	ヨA－04 b	36°09′09″	138°09′18″	1,380	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）				土器片	児玉他		森山
	～9／4（3日間）					Ⅱ	15	黒色土							縄文早期 押型文土器
						Ⅲ	20	褐色土			30	5			
						Ⅳ	30	漸移層			3	3			取り上げ番号 1～10
						Ⅴ	50	黄褐色粘質ソフトローム			10	1			〃 11～30

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剥片	石器	調査員	作業員数	備考
						Ⅵ	55	黄褐色砂質ソフトローム			40	8			取り上げ番号 31～98
						Ⅶ	35	黄褐色砂質ハードローム			5	20			〃 99～111
						Ⅷ	25	黄褐色砂層							
						Ⅸ	10～	灰黄色砂混礫層							
8.30	ヨA－04 b												森山他		
9. 3	ヨA－05	36°09′14″	138°09′22″	1,380	2×1	Ⅰ	5	表土			20		森山		
						Ⅱ	5	黒色土			25				
						Ⅲ	5	褐色土				3			
						Ⅳ	20	茶褐色土				3			
						Ⅴ	30	漸移層		1	30	9			取り上げ番号 1～32
						Ⅵ	30	黄褐色粘質ローム		1	10	9			〃 33～57
						Ⅶ	20～	白黄色ハードローム	1						
	ヨA－06	36°09′16″	138°09′18″	1,385	2×1	Ⅰ	5	表土					森山他		遺物なし
						Ⅱ	5	黒色土							
						Ⅲ	5	漸移層							
						Ⅳ	15	黄褐色水性ローム							
						Ⅴ	15～	赤褐色ハードローム							
	ヨA－07	36°09′18″	138°09′21″	1,390	2×1	Ⅰ	10	表土					森山他		遺物なし
						Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	30	褐色土							
						Ⅳ	10～	ローム混礫層							
	ヨA－08	36°09′11″	138°09′25″	1,385	2×1	Ⅰ	5	表土					森山他		
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	30	褐色土							
						Ⅳ	30～	黄褐色粘質ローム			2				取り上げ番号 1～2
9. 4	ヨA－04 b (ヨA－04 c)			(1,375)	(2×1)	Ⅰ	10	表土（笹根）					森山他		
						Ⅱ	20	黒色土			5				
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	10～	暗褐色包水性ローム							
9. 7	トA－11 a	36°09′02″	138°09′05″	1,415	2×1	Ⅰ	15	表土			5		森山他		
						Ⅱ	45	攪乱層							
	トA－11 b	36°09′01″	138°09′05″	1,415	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）			10		森山他	2	
	～9／8（2日間）					Ⅱ	30	黒色土							
						Ⅲ	20	漸移層							
						Ⅳ	45	黄褐色粘質ローム	5	5	20	3			
						Ⅴ	30～	黄褐色粘質ハードローム							
	トA－12	36°09′04″	138°09′09″	1,410	2×1	Ⅰ	20	表土			200	土器片 45	大竹		ナイフ・凝灰岩
	～9/16（3日間）					Ⅱ	25	黒色土			150				

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剥片	石器	調査員	作業員数	備考
						Ⅲ	20	褐色土		3	80	20			取り上げ番号 1～181
						Ⅳ	20	漸移層	1	3	80	10			
						Ⅴ	45	黄褐色粘質ローム				15			
	ヨA－02	36°09′03″	138°09′18″	1,420	2×1	Ⅰ	15	表土					森山		遺物なし
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	25	漸移層							
						Ⅴ	30～	黄褐色粘質ローム							
9. 8	トA－11 b												森山		
9.16	トA－12												森山		
9.18	ヨA－09	36°09′09″	138°09′27″	1,395	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）					森山		
						Ⅱ	20	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色土			2				取り上げ番号 1～2
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	25～	黄灰色砂質ローム							
	ヨA－15	36°09′12″	138°09′30″	1,415	2×1	Ⅰ	25	表土（笹根）					森山		
						Ⅱ	15	黒色土			10				取り上げ番号 1～10
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	30～	黄灰色砂質ローム							
9.20	ヨA－01 b	36°09′05″	138°09′13″	1,410	2×1	Ⅰ	10	表土	10	3	200		森山		
						Ⅱ	15	黒色土		2		9			
						Ⅲ	30	褐色土	1		70	3			
						Ⅳ	10	漸移層		1	60	3			取り上げ番号 1～6
						Ⅴ	80～	黄褐色粘質ローム		3	40	5			〃 7～50
	ヨA－03	36°09′05″	138°09′18″	1,410	2×1	Ⅰ	15	表土					森山		
						Ⅱ	20	黒色土			3	1			取り上げ番号 1～3
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	35～	暗黄褐色ローム（水性）							
9.25	調査地点設定												児玉他	1	森嶋・大竹・森山
10.4	ツA－03	36°08′41″	138°10′08″	1,290	2×1	Ⅰ	3	黒色土					森山		遺物なし
						Ⅱ	25	褐色土							
						Ⅲ	55～	黄褐色水性ローム							
	ツA－04	36°08′39″	138°10′07″	1,290	2×1	Ⅰ	5	黒色土					森山		遺物なし
						Ⅱ	20	褐色土							
						Ⅲ	30～	黄褐色水性ローム							
	ツA－05	36°08′25″	138°09′49″	1,370	2×1	Ⅰ	20	表土			7		森山		
						Ⅱ	15	黒色土			8				
						Ⅲ	5	褐色土							
						Ⅳ	20～	黄褐色水性ローム							

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高(m)	面積(m)	層序	層厚(cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剝片	石器	調査員	作業員数	備考
	ツA－06	36°08′33″	138°09′40″	1,430	2×1	Ⅰ	10	表土					森山		遺物なし
						Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	45	黄褐色水性ローム							
						Ⅴ	20	灰褐色砂質ローム							
						Ⅵ	10～	灰褐色砂礫ローム							
10.7	遺物整理												森山他		
10.8	オA－02	36°09′45″	138°10′32″	1,135	2×1	Ⅰ	15	表土					森山		遺物なし
						Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	10	褐色土							
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	20～	黄褐色水性ローム							
	オA－03	36°09′46″	138°10′33″	1,120	2×1	Ⅰ	20	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	30～	ローム混砂礫層							
10.12	地質調査												酒井他		
10.13	〃												酒井他		
10.16	ヨA－16			1,280	2×1	Ⅰ	10	表土			5		森山	2	
						Ⅱ	5	黒色土			8				
						Ⅲ	5	褐色土				1			
						Ⅳ	55～	暗黄褐色砂質ローム			3	2			取り上げ番号 1～5
	ヨA－17	36°09′07″	138°09′55″	1,305	2×1	Ⅰ	5	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	10	褐色土							
						Ⅲ	20～	暗褐色包砂質ローム							
	ヨA－18	36°09′05″	138°09′52″	1,310	2×1	Ⅰ	5	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	15	褐色土							
						Ⅲ	30～	黄褐色砂質ローム							
	ヨA－19	36°09′11″	138°09′56″	1,300	2×1	Ⅰ	10	表土			4	石鏃 硅岩製	森山	2	
						Ⅱ	10	褐色土							
						Ⅲ	5	漸移層							
						Ⅳ	35～	暗黄灰色砂質ローム							
	ヨA－20	36°09′10″	138°09′56″	1,300	2×1	Ⅰ	10	表土			10		森山	2	
						Ⅱ	15	褐色土							
						Ⅲ	15	黄褐色砂質ローム							
						Ⅳ	20～	暗灰黄色砂礫層							
	ヨA－22	36°09′30″	138°10′18″	1,215	2×1	Ⅰ	10	表土（笹根）					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	5	黒色土							
						Ⅲ	10	褐色土							
						Ⅳ	20	漸移層							
						Ⅴ	40～	茶褐色砂礫混ローム							

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物				調査員	作業員数	備考
									原石	石核	剥片	石器			
10.17	ヨA－21	36°09′32″	138°10′17″	1,215	2×1	Ⅰ	15	表土（笹根）					森山		遺物なし
						Ⅱ	15	褐色土							
						Ⅲ	50	暗茶褐色ローム							
						Ⅳ	10～	暗黄褐色ローム							
10.18	ツA－02	36°08′46″	138°10′21″	1,255	2×1	Ⅰ	20	表土					森山	2	
						Ⅱ	40	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	60	黄褐色粘質ローム		11	1	1			取り上げ番号 1～13
						Ⅵ	10～	黄褐色砂質ローム							
	ツA－07	36°08′46″	138°10′26″	1,250	2×1	Ⅰ	5	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	10	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	45	暗茶褐色水性ローム							
						Ⅴ	10～	暗黄褐色水性ローム							
	ツA－08	36°08′55″	138°10′34″	1,225	2×1	Ⅰ	25	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	40	黒色土							
						Ⅲ	5	褐色土							
						Ⅳ	5	漸移層							
						Ⅴ	15～	暗黄色砂質ローム							
	ツA－09	36°08′54″	138°10′34″	1,220	2×1	Ⅰ	5	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	25	耕作土							
						Ⅲ	60～	褐色土混礫層							
	オA－04	36°09′42″	138°10′30″	1,200	1×1	Ⅰ	5	表土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	15	黒色土							
						Ⅲ	5	褐色土							
						Ⅳ	5	漸移層							
						Ⅴ	25	暗黄褐色砂質ローム							
						Ⅵ	15～	灰黄色砂礫土							
10.29	ワA－08 a	36°09′56″	138°10′24″	1,115	0.7×0.9	Ⅰ	3	表土					森山	2	
						Ⅱ	5	褐色土							
						Ⅲ	70～	花崗岩礫混水性ローム							
	ワA－08 b			1,120	2×1	Ⅰ	25	表土			10	2	森山	2	
	～10／30（2日間）					Ⅱ	25	黒色土			60	4			
						Ⅲ	50	褐色土							
						Ⅳ	60～	黄褐色砂礫層							
	オB－01			1,150	2×1	Ⅰ	20	表土	30	2	20	5	森山他	3	児玉
	～10／30（2日間）					Ⅱ	40	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色土	18		5				
						Ⅳ	5	漸移層	12		5	1			
						Ⅴ	90	黄褐色粘質ローム	8	3	10	4			取り上げ番号 1～5

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高 (m)	面積 (m)	層序	層厚 (cm)	火山灰の内容	文化遺物				調査員	作業員数	備考
									原石	石核	剥片	石器			
						Ⅵ	30～	青灰色砂礫層	1						取り上げ番号 6～36
10.30	ワA－08 b												森山他		
	オB－01												森山他		
	オB－07	36°09′10″	138°10′42″	1,255	2×1	Ⅰ	30	耕作土					森山	3	遺物なし
						Ⅱ	10	褐色土							
						Ⅲ	10	漸移層							
						Ⅳ	90～	黄褐色粘質ローム							
	オB－08			1,235	2×1	Ⅰ	20	耕作土					森山	3	
						Ⅱ	20	漸移層		1	10				
						Ⅲ	70～	黄褐色粘質ローム							
	オB－09	36°09′06″	138°10′42″	1,240	2×1	Ⅰ	30	耕作土	2		5		児玉	2	
						Ⅱ	10	漸移層			10	2			
						Ⅲ	70	黄褐色粘質ローム			13	2			
						Ⅳ	10～	赤褐色粘質ローム							
11. 1	地質調査												酒井他		
11.15	オB－10	36°09′05″	138°10′50″	1,290	2×1	Ⅰ	15	耕作土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	65	黄褐色砂質ローム							
						Ⅲ	20～	暗褐色砂質ローム							
	オB－11	36°08′59″	138°10′51″	1,285	2×1	Ⅰ	50	耕作土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	20	黒色土							
						Ⅲ	20	褐色土							
						Ⅳ	20	漸移層							
						Ⅴ	10～	黄褐色粘質ローム							
	オB－12	36°08′56″	138°10′51″	1,275	2×1	Ⅰ	20	耕作土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	10	褐色土							
						Ⅳ	20	漸移層							
						Ⅴ	55～	黄褐色粘質ローム							
	オB－13	36°08′55″	138°10′45″	1,210	2×1	Ⅰ	20	耕作土					森山	2	
						Ⅱ	25	黒色土	2		5	2			
						Ⅲ	10	褐色土							
						Ⅳ	20	漸移層							
						Ⅴ	55～	黄褐色粘質ローム							
11.16	ブB－07	36°08′49″	138°11′00″	1,290	2×1	Ⅰ	30	耕作土					森山	2	遺物なし
						Ⅱ	30	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土							
						Ⅳ	10	漸移層							
						Ⅴ	25	黄褐色砂質ローム							
						Ⅵ	20～	黄褐色礫混ローム							
	ブB－08	36°08′52″	138°10′56″	1,285	2×1	Ⅰ	100～	耕作土（埋土）					森山	2	遺物なし
	ブB－09	36°08′49″	138°10′54″	1,280	2×1	Ⅰ	20	耕作土			5		森山	2	

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高(m)	面積(m)	層序	層厚(cm)	火山灰の内容	文化遺物				調査員	作業員数	備考
									原石	石核	剥片	石器			
						Ⅱ	10	褐色土	2		5	2			
						Ⅲ	10	漸移層	2	1	10				
						Ⅳ	70～	黄褐色粘質ローム			14	1			取り上げ番号 1～14
	ブB－10	36°08′49″	138°10′51″	1,275	2×1	Ⅰ	30	耕作土			20		児玉	2	
						Ⅱ	20	黒色土	2		10				
						Ⅲ	5	漸移層	2		20	2			
						Ⅳ	20	黄褐色粘質ローム	3	3	20	10			取り上げ番号 1～46
						Ⅴ	40～	黄褐色砂質ローム							〃 47～58
	ブB－11 ～11/17（2日間）	36°08′52″	138°10′44″	1,250	2×1	Ⅰ	30	表土					大竹	2	
						Ⅱ	20	黒色土	2	3	200	10			
						Ⅲ	30	褐色土	1	3	30	1			
						Ⅳ	20	漸移層	2	2	30	5			取り上げ番号 1～80
						Ⅴ	60	黄褐色粘質ローム	10	8	90	10			〃 81～160
						Ⅵ	5	赤茶色粘質ローム							〃 161～174
						Ⅶ	15	黄灰色砂質ローム							〃 175～182
						Ⅷ	20	茶褐色砂礫層							
						Ⅸ	5	褐色粘質ローム							
						Ⅹ	5	黄褐色粘質ローム							
							～	混礫層							
11.17	ブB－11												大竹他		
	ホB－29	36°08′43″	138°10′51″	1,260	2×1	Ⅰ	25	耕作土	5		20	4	森山他		
						Ⅱ	25	黒色土		1					
						Ⅲ	5	褐色土							
						Ⅳ	15	漸移層							
						Ⅴ	20～	黄褐色ローム混礫層			1				
1992 4. 2	新年度計画策定												森嶋他		
5.11	オA－14			1,210	2×1	Ⅰ	15	表土（笹根）					森山他		遺物なし
	～5／12（2日間）					Ⅱ	5	黒色土							
						Ⅲ	10	褐色土							
						Ⅳ	50～	赤褐色水性ローム							
	オB－15	36°09′02″	138°10′44″	1,260	2×1	Ⅰ	40	耕作土					森山他		
						Ⅱ	85～	黄褐色粘質ローム		1	4				取り上げ番号 1～5
	ホA－27	36°08′57″	138°10′39″	1,215	2×1	Ⅰ	10	耕作土		2	100	2	森山他		取り上げ番号 100
	～5／12（2日間）					Ⅱ	10	黒色土			130	3			
						Ⅲ	20	褐色土	8	2	4	2			〃 1～8
						Ⅳ	20	漸移層	3	2	14	2			〃 9～30
						Ⅴ	55	黄褐色粘質ローム	18	3	140	5			〃 31～197
						Ⅵ	30	白パミス含砂質ローム			7	2			〃 198～207
						Ⅶ	10～	ｏｂ粒含砂礫層							
5.12	オA－14												森山	2	

月・日	グリッド名	北緯	東経	標高(m)	面積(m)	層序	層厚(cm)	火山灰の内容	文化遺物 原石	石核	剥片	石器	調査員	作業員数	備考
	ホA－27												森山		
	オB－06	36°09′10″	138°10′33″	1,205	2×1	Ⅰ	20	表土							
						Ⅱ	25	黒色土							
						Ⅲ	10	褐色土		2					
						Ⅳ	20	漸移層		1					
						Ⅴ	30～	黄褐色粘質ローム							
	ツB－10	36°08′49″	138°10′35″	1,240	2×1	Ⅰ	20	耕作土	30	5	200	10	森山		
	～5／13（2日間）					Ⅱ	40	黒色土							
						Ⅲ	15	褐色土	18	5	5	1			
						Ⅳ	15	漸移層	12	5	10	1			取り上げ番号 1～9
						Ⅴ	60	黄褐色粘質ローム	8	6	10	1			〃 10～50
						Ⅵ	10～	白黄褐色砂質ローム							
5.13	ツB－10												森山	2	
	オB－05	36°09′12″	138°10′34″	1,205	2×1	Ⅰ	25	表土（笹根）			2		森山		
						Ⅱ	10	黒色土			2	2			
						Ⅲ	20	褐色土				1			
						Ⅳ	20	漸移層							
						Ⅴ	15	黄褐色水性ローム							
	ホB－28	36°08′46″	138°10′49″	1,255	2×1	Ⅰ	30	耕作土	10	1	6	3	森山		
						Ⅱ	20	赤褐色土混砂礫層							
						Ⅲ	20～	黄灰色砂礫層							
	ホB－30	36°08′41″	138°10′50″	1,260	2×1	Ⅰ	30	耕作土			20		森山他		
						Ⅱ	5	褐色土							
						Ⅲ	25	漸移層							
						Ⅳ	50	黄褐色粘質ローム			2				
						Ⅴ	50	赤褐色粘質ハードローム							
						Ⅵ	25～	白パミス含黄灰色砂質ローム							
5.14	遺物整理												森山他		
5.19	トA－10			1,440	2×1	Ⅰ	10	表土			300	10	森山	2	
	～5／20（2日間）					Ⅱ	30	黒色土							
						Ⅲ	10	茶褐色土			120	19			
						Ⅳ	25	漸移層			60	17			
						Ⅴ	40	黄褐色粘質ローム	1	1	30	6			
						Ⅵ	60	赤褐色粘質ローム		1	20	4			
						Ⅶ	20～	茶褐色砂質ローム							
5.20	トA－10												森山他		
5.21	ヨA－24	36°09′19″	138°09′26″	1,440	2×1	Ⅰ	10	表土（笹根）					森山他		遺物なし
						Ⅱ	25	褐色土							
						Ⅲ	50	暗褐色粘質ローム							
						Ⅳ	10～	黄褐色砂礫層							

（森山　公一）

第2章　遺跡の環境

第1節　自然環境

1.　地質的環境

(1)　地質の概要

和田峠から男女倉谷にかけての地域は、良質な黒耀石の原産地として知られている。この和田峠から男女倉谷を含む霧ヶ峰一帯は、フォッサ・マグナ中央部に位置し、その基盤岩は、新第三紀中新世の緑色凝灰岩類および石英閃緑岩類よりなる。緑色凝灰岩類は、松沢緑色凝灰岩（山崎哲良・ほか，1976）と呼ばれ、飯島南海夫・ほか（1963）の武石層、田中邦雄・ほか（1962）の守屋累層に対比され、男女倉北東の大出山一帯に分布している。松沢緑色凝灰岩を貫く石英閃緑岩類は、唐沢石英閃緑岩（山崎・ほか，1976）と呼ばれ、男女倉口から唐沢などに分布している。

松沢緑色凝灰岩及び唐沢石英閃緑岩を覆って、塩峯累層（Momose, K. et ol.,1959）に属する火山岩類が各地に分布する。これらのうち、長門町鷹山一帯には、美ヶ原—鷹山火山岩類（山崎・ほか，1976）に属するピッチストーンや流紋岩が分布する。このピッチストーンが、長門町鷹山北方の星糞峠に散在する“黒耀石”の供給源と考えられるが、露頭での確認は出来ていない。

塩峯累層相当層を覆って、和田峠火山岩類（諏訪市教育委員会，1975）が、男女倉一帯、和田峠、鷲ヶ峰などに広く分布する。和田峠火山岩類は、下部の和田峠流紋岩と上部の鷲ヶ峰デイサイトに区分されている（山崎・ほか，1976）。和田峠流紋岩は、和田峠から男女倉一帯に広く分布し、黒耀石を伴う。黒耀石は、流紋岩溶岩の基底部や岩脈の周縁急冷部に発達している。流紋岩溶岩基底部のものは、層厚が5～10cmとうすく、球顆の含有量も多く、また、クラックが発達しているので、細かく割れており、石器の材料として適しているものは少ない。

球顆が少なく、均質で、石器の材料として、きわめて良質の黒耀石は、火道部における岩脈状流紋岩の周縁急冷部に産することが多い。山崎・ほか（1976）によれば、火道は直径80～90mに達する。その火道中の岩体中心部は流紋岩からなり、周縁部に向って、次第に、球顆に富む黒耀石から、球顆の少ない黒耀石へと移化する。企業による黒耀石の採掘は、このような火道部において行われていることが多い。

黒耀石の噴出年代に関して、鈴木正男（1980）は、霧ヶ峰の星ヶ塔周辺のものは約126万～135万年前、和田峠周辺のものは約71万～95万年前の2つのグループに分かれるとしている。また、この両者は、ウランの含有量が異なり、和田峠周辺の黒耀石の方が多い、としている。

（酒井潤一）

2. 地理的環境

本調査の対象地域となった長野県小県郡和田村は、およそ次の範囲内にある。

東径　138°07′　～　138°16′03″　までの間。
（和田村西端）　（和田村東端）

北緯　36°03′　～　36°08′48″　までの間。
（和田村南端）　（和田村北端）

したがって調査対象地域は和田村の南西であり最低標高677mから最高標高1,889mまでの山岳地から熔岩高地の高原状地形まで、およそ比高差1,260mの山林荒野、一部畑地であった。

東北流する和田川や男女倉川は、和田川となって長門町落合と合流依田川となる。そしてやがて武石村の武石川を集めて東流し、上田市大屋で千曲川と合流する。調査対象地一帯はそれらの水源域に属している。

本調査の目的はすでにふれたところであるが、和田峠を中心とする黒耀石原産地内の文化遺跡はどのような現状にあり、その関係は小地域内においてどのような問題点を持つものであるかが焦点であった。その仮りに黒耀石原産地内遺跡と呼称すると、この和田峠一帯を基点として北八ヶ岳にまで及ぶ分布状況にあり、この地帯は中部高地長野県を中信と南信を単位とし北信、東信を単位として二分する背稜山地にある。いわゆる南部は八ヶ岳山群からはじまり、北部は妙高山にまで及ぶ地帯である。この地帯は新旧火山の見本市のような景観をなすかと思えば、山頂や山麓に高原、所によっては幼年期の侵蝕台地状をなし、その様相は一様ではない。

本調査範囲一帯はその背稜山地の南部に属し、南は霧ヶ峰、北は美ヶ原にはさまれた山地斜面、河岸段丘、台地（一部湿原を含む）によって構成されている。

黒耀石原産地点は調査前もすでに数多く知られており、本調査によってもかなり数の増加を認められた。しかし黒耀石原産地点は基本的には基点であるが採集地点では旧石器時代から縄文中期程までなかった可能性が高い調査所見である。原産地点から崩落転石となった状態のものを、沢筋で採集し、時には周辺の川原、あるいは遺跡点である段丘状などに持ち上げて製作工房となっている気配である。そうしたなかでも原材石の使用は一様でなく、数kmも離れた原産遺跡の原材石を用いていることも判明した。

和田峠一帯の黒耀石原産地はあまりにも有名である。県内は勿論、県外からもその原石を用いた遺跡は各時代を通じて非常に多い。人が動いたのか、ものが動いたのか、この黒耀石原産地帯のもつ課題は大きいものがある。

調査地域一帯は高木として二次林のカラマツにほとんどが覆われていて、低木にはグミ、コクアヤマボウシなど多様であって、その下は背たけ程のクマザサが占めている場合が多い。自然林としての針葉樹は標高の高いところはモミ類やトウヒが多く寒冷型であるがいたって少ない。広葉樹はカバ類、ブナ類が多く秋には紅葉が目立って美しい。熔岩台地には湿原が発達しているが、その植生は例外でなく豊かな湿生植物に覆われている。とくに浅い春にふさわしいザゼンソウの群落は見事である。

稜線は1,500～2,000mで、人為的な山林限界となっているが、八島湿原、霧ヶ峰、美ヶ原へと続いている高原状をなしている。

（森嶋　稔）

第2節　歴史環境

男女倉谷及び和田峠周辺の歴史環境について概観しておくこととする。和田峠を中心として諏訪側には星ヶ塔の黒耀石原産地点がある。この周辺に、丁字沢、ホーロク、浪人塚遺跡などがあり、いずれも尖頭器を伴うナイフ形石器を主とする時期に属するものである。星ヶ塔周辺では露頭から黒耀石を採掘したとされる縄文後期から晩期の土器を出す竪坑が注目されている。

和田峠周辺では、周知の遺跡は和田峠遺跡(ビーナスライン道路敷内)、和田峠Ｂ遺跡（同料金所地点)、東餅屋遺跡（排土置場で壊滅)、小深沢遺跡（ドライブイン敷地）の４遺跡が知られている。しかし、中村龍雄氏の調査によると、和田山Ⅰ・Ⅱ遺跡群に統括でき、Ⅰ遺跡群の範囲には和田峠を中心としてビーナスラインぞいに６地点、Ⅱ遺跡群はその北方ビーナスラインぞいに22地点を確認できるという。これらはビーナスライン有料道路建設に伴って、その道路敷の切羽から文化遺物を採集することによって認められたものである。ビーナスライン建設がいかに多くの遺跡を破壊したかを知ることができる。東餅屋遺跡もその一部を除いて、道路建設のための排土置場となりほぼ壊滅したが、縄文早期の茅山期の資料が出土していたと言われる。他はほとんど旧石器文化終末期の遺跡とみてよい。ナイフ形石器は比較的少量で、尖頭器、細石刃及び細石刃核を出土する地点が多い。鷲ヶ峰の南方に存在する八島湿原の八島遺跡も古く調査された遺跡であるが、同様にして尖頭器を特徴とする遺跡である。湿原をめぐる遺跡群として、鷹山遺跡群と多くの共通点を持っていることが注目される。鷹山遺跡群は、男女倉谷の東南方で霧ヶ峰車山の東方に位置する湿原をめぐる盆地状の高原にある。湿原は中央部を流れる鷹山川ぞいのかなりな面積を占めていたとみられ、遺跡はその湿原にのぞむ丘陵上に展開しているのが基本的である。古くは児玉司農武、宮坂英弐の研究があり、近年明治大学考古学研究室の調査が行われ、現畑地に展開する遺跡分布状況は明らかとなった。同鷹山遺跡群も、近くに星糞峠という黒耀石原産地点を持っていることが認められ、その所属する時期はナイフ形石器を主体とする時期から、尖頭器を組成する時期、そして細石核を伴う時期の中に存在するかに見られ、多くの共通点を把握することができる。

男女倉谷はそうした中で遺跡数からすると18地点が周知の遺跡である（第４図)。そのすべての遺跡から旧石器時代終末器の遺物が出土しており、Ⅲ地点からは神子柴型石斧、Ｍ地点及びＣ地点からは有舌尖頭器が得られている。古手の土器の出土は今のところない。Ｆ地点からは押型文土器、Ｃ地点からは、第５類土器とした縄文早期末男女倉Ｃ式土器（仮称）を中心としたものが出土した。男女倉谷から得られている縄文時代の遺物は意外に少なく、縄文中期終末期までの資料が他に散見する程度であることは留意しておきたい。弥生時代以降、古代までの資料はまったく出土していない。ただしＦ地点付近からは平安時代に属する土師器片が若干採集されている。男女倉谷は明治10年代、蚕種業の桑園経営の民家が出来る頃から人影豊かになって来たものである。　（森嶋　稔）

第4図　男女倉・和田峠周辺の周知の遺跡

第3節　男女倉遺跡群の研究史

和田峠一帯の黒耀石原産地は、研究史においても今日的意義をますますたかめつつある。とりわけ石器原材としての黒耀石及び一帯における文化遺物の研究は、考古学的研究を超え、理化学的研究にまで展開し、いわば学際的研究の進展によって、新しい認識を期待以上の成果として把握できる情勢に至ったことである。その成果は分布論的課題や、編年論的課題に対して更に大きな理解を与えることにもなった。従来より「和田峠産黒耀石」として知られたものは、その成因によっていくつかのブロックに細分化が必要であり、その分布にも中部高地周辺域における時間的・空間的課題として、鮮明に印象づけることとなっている。もう一つは近年俄かにクローズアップされているいわば「男女倉型尖頭器」をめぐる技術論的型式論的把握の、時間的・空間的展開の課題である。それらの現代的課題を明らかにしようとする試みは、黒耀石原産地における文化遺跡の在り方の立体的理解以外には成し得ないことも明確になりつつあるのが、和田峠一帯なのである。

現代的課題の中には、もう一つの要素があることを認めざるを得ない。それは大型開発の波である。和田峠一帯も例外ではない。新しい村づくりの苦悩の中からそれらは企画化されて来ていることが一般的である。保護・研究機関も又その苦悩の中にあることも免れない。

和田峠産黒耀石と思われるものの分布が、かなり広範囲にわたるものであると気づいたのは戦前の事である。しかし、それらは、1945年を境にし、多岐に渡る研究対象として展開して来た。とりわけ1949年、岩宿遺跡の発見によって、ローム層中の黒耀石製石器に注目が集まった。遅れて3年、1952年諏訪市茶臼山遺跡の発見は、中部高地のローム層に熱い眼指しが注がれた。和田峠産の黒耀石と無土器文化・プレ縄文文化・先土器文化・旧石器文化は研究者の研究意欲をにえたぎらせて来た。

小県郡大門村（現長門町）の故児玉司農武氏が、農事の間戟をぬって帰農開拓地である鷹山高原や男女倉谷の畑地へ、採集踏査を始めたのは1947年頃からであったと言われた。土器片には興味がなく、もっぱら黒耀石製の槍のようなもののみを目当てに採集していたと語った。1955年『信濃史料』第一巻のための調査に永峰光一・麻生　優・樋口昇一が、児玉司農武氏を訪れるに及び、俄にその採集資料は注目された。1957年に至って小林国夫・藤沢宗平・鈴木 誠を中心とする「信州ローム研究会」は、和田峠・男女倉谷の黒耀石産出地に展開する男女倉遺跡群に、第四紀洪積世末期の波田（新期）ローム層包含の文化遺物に追求の手を、会員児玉氏とともに行った。1960年末まで4年間5次、5遺跡（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・M—みつけ沢地点）の調査を行い、その成果の概要を1964年「小県郡男女倉遺跡——その概要と研究課題——」『信濃』16－4に横田義章によって、また1972年「男女倉——黒耀石原産地帯における先土器文化石器群——」が信州ローム研究会から刊行された。また児玉司農武氏は、黒耀石産出地点星糞峠の西、霧ヶ峰の東に展開する鷹山高原にも同研究会と共に追求の手をのばし、1961年第Ⅰ地点の調査を行っている。その後、尖石考古館の宮坂英弐と共

に調査を続行し、1966年調査報告が行われている。1972年男女倉A地点遺跡は畑地造成のため緊急調査の必要が生じ、病気加療中の児玉司農武氏を団長に和田村教育委員会が調査を行った。第1集石遺構は人頭大の礫石の周辺に腰かけ石と思われるものがあり、石核が直列に並び、尖頭器片・剝片など構造的に検出されて注目された。1974年より2年間、国道142号線新和田トンネル有料道路建設事業に伴う事前の緊急調査は森嶋 稔・川上 元・笹沢 浩・森山公一を中心に実施された。道路敷予定地内の限定された調査ではあったが、男女倉川右岸段丘上のB地点（360㎡）・C地点（660㎡）・D地点（84㎡）・E地点（84㎡）・F地点（200㎡）・I地点（260㎡）、土屋沢川右岸段丘上のJ地点（532㎡）・H地点（276㎡）・G地点（216㎡）の9地点が調査された。B地点は高松沢の形成する小扇状地でそのその扇端を男女倉川が洗う段丘上に位置し、信州ローム研究会が調査した第Ⅱ地点と高松沢をへだてて同一地形上に立地している。高松沢は、高松山から急斜面で西流する男女倉川の枝沢であるが、この沢筋にはやや気泡は入るが黒耀石の良好な転石が得られる。B及びⅡ地点は男女倉谷段丘上遺跡群の典型的な黒耀石原産地タイプの遺跡であって、黒耀石の素材の獲得（拾得）、遺跡への持ち込み、素割、石核の製作、剝片の剝取、石器の製作等、いわば基本的な後期旧石器時代に属する黒耀石製石器工房遺跡と認められることが明らかとなった。それはA・J地点でも明らかであって、B地点は男女倉川左岸段丘上、A地点はブドウ沢右岸段丘上、J地点は土屋沢右岸・本沢左岸の合流点段丘上であって、黒耀石の河床転石を採取した石器原材とするという典型を構成していると見ることができる。しかしそれらの遺跡の中には、とりわけ下層部位に包含されている石器群に、眼前の河床から採集したとは思われない諏訪側星ヶ塔産の黒耀石製とおぼしきものも出土するに及んで、素材の供給も一様でないことが注目されて来た。石器素材が単に露頭から抜いて来たものでなく、転石による脆弱部の剝落による優良素材のみが石器素材になり得ることを、旧石器時代の採取者達は経験的に身につけていたと理解される状況であった。石器工房遺跡群として注目され続けてきたのである。

1975年『男女倉』の報告書が刊行され、その中で「男女倉技法」なる石器生産技術を概念化した。両面加工の尖頭器状ブランクから三次加工を行い男女倉型ナイフ形石器、男女倉型彫刻器、男女倉型掻器を生産したものと考えた。尖頭器そのものは同技法によらず生産されていたと見られたからであった。今日この技法による石器は、中部高地のみでなく、東北・関東・東海そして近畿の一部にまで及ぶことが明らかとなり、俄然新しい課題となって研究対象の中にある。男女倉型ナイフ形石器、男女倉型有樋尖頭器、男女倉型尖頭器などと呼ばれ、必ずしもその概念や呼称は一定しないが、黒耀石製のナイフ形石器の展開の中で、どうやら機能分化の現象として派生して来る初源的なものか、あるいはその展開の終末に位置するものが分離できるかの論議の行われている段階である。いずれにせよ両面加工を基本とする尖頭器の去就にかかわる主体性を持つ一連の技法であり、石器であることが明確にされるに至っている。

1989年10月、野辺山において「中部高地の尖頭器文化」をテーマに長野県考古学会のシンポジウムが開催され、多大の成果を上げた。特に男女倉技法についての関心は発生期の尖頭器としての在

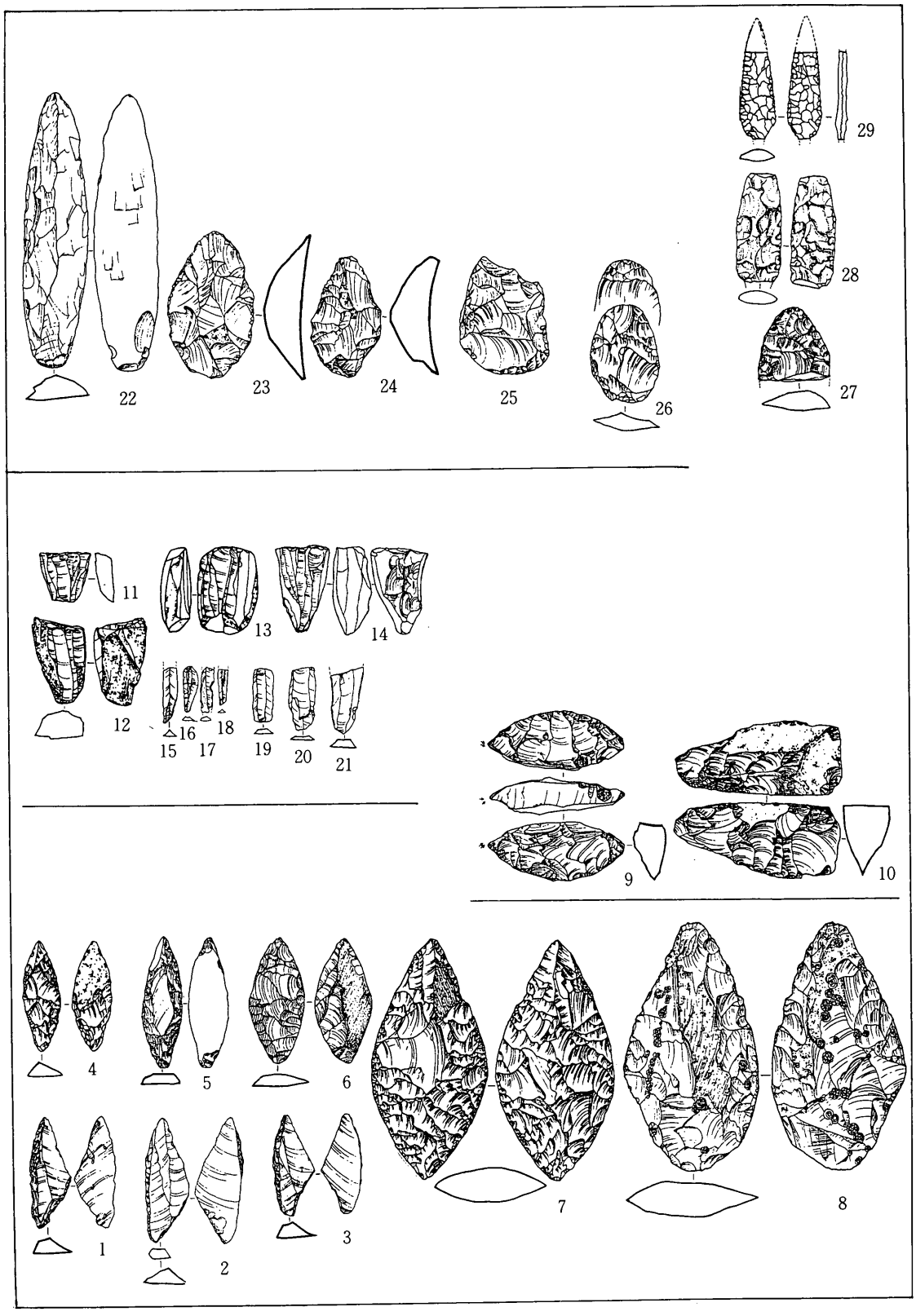
り方に集中した。

1975年『男女倉』を刊行した段階で、先にふれた男女倉技法を概念化した。そして1978年「男女倉技法の周辺」（中部高地の考古学Ⅰ）によって面的広がりについて言及した。しかしその後俄かに注目をされた同技法は、幾つかの論考を生むことになった。男女倉型掻器の存在については不確かであることが指摘され、男女倉型ナイフ形石器は「男女倉型有樋尖頭器」とすべきであるとの提言がなされた。機能形態学的分類と技術形態学的分類混同が見られ、技術形態学的分類に統一すべきであるというものである。したがって、樋状剝離：フルーティングのある両面加工の尖頭器をもって有樋尖頭器とするが、男女倉型と東内野型があるので（渋川型を云々する向きもある）男女倉型有樋尖頭器をその呼称とするのが一般的になりつつある。だが技術形態学的所見を優先するなら、①平面形②樋状剝離を包含するものとして「男女倉型尖頭器」「東内野型尖頭器」とすべきではないかと考えている。ふりかえってみると信州ローム研究会が行った1957年の調査以来、男女倉谷は重要な資料をつぎつぎに出していたことになる。第5図はⅢ・Ⅳ・M地点遺跡の資料を摘出しておいたが、ナイフ形石器群と組成し、いわゆる男女倉型尖頭器は出土していたのである。同じⅢ地点では両面加工の尖頭器状のブランクを縦割にするスキー状スポール様の技術の存在が確認されている。楔形石核につながる可能性も秘めていたのである。しかしⅣ地点の上層や和田峠周辺から、円錐形の細石核や細石刃は得られていたし、Ⅲ地点上層では神子柴型石斧に属するものとその組成する石器群も認識の中に入って来ていたのである。M地点の有舌尖頭器、その後のC地点の有舌尖頭器も加わって、ほぼ終末期の石器群は出揃っていたというのが正しい認識である。第7図は、新和田トンネルにかかる調査の資料を摘出しておいたが、B・J地点に限定されている。B地点は1～6の下層と7～19の上層、そして30～34の最上層の3つに分離できるらしく、J地点はその間にはさまった形で確認できるかに見える。最下層に良質な黒耀石による整った石刃技法による石器群があり、その上にやはりナイフ形石器群に男女倉尖頭器群がつく石器群があるように思う。30～34の石器群はまさに大形の両面加工ブランクと言えるものであって、同様資料は近接遺跡の唐沢ヘイゴロゴーロでも確認されている。33やヘイゴロゴーロ例を見ると縦割り技法がある模様で、ブランクとの把握が正しいかと思われる。Ⅲ地点のスキー状スポールかと見られるものと、共通した存在である可能性が高い。ブランクの状態で流通した可能性もあって、一様ではないものである。男女倉一帯は風成ローム、水つきローム、二次移動ロームとその堆積は単純でなく、層位的調査に適していない。斜面、段丘、テラスなどその様相が一様な成立でない事をしめしている。その状況をいかに克服するかは重要な課題であった。

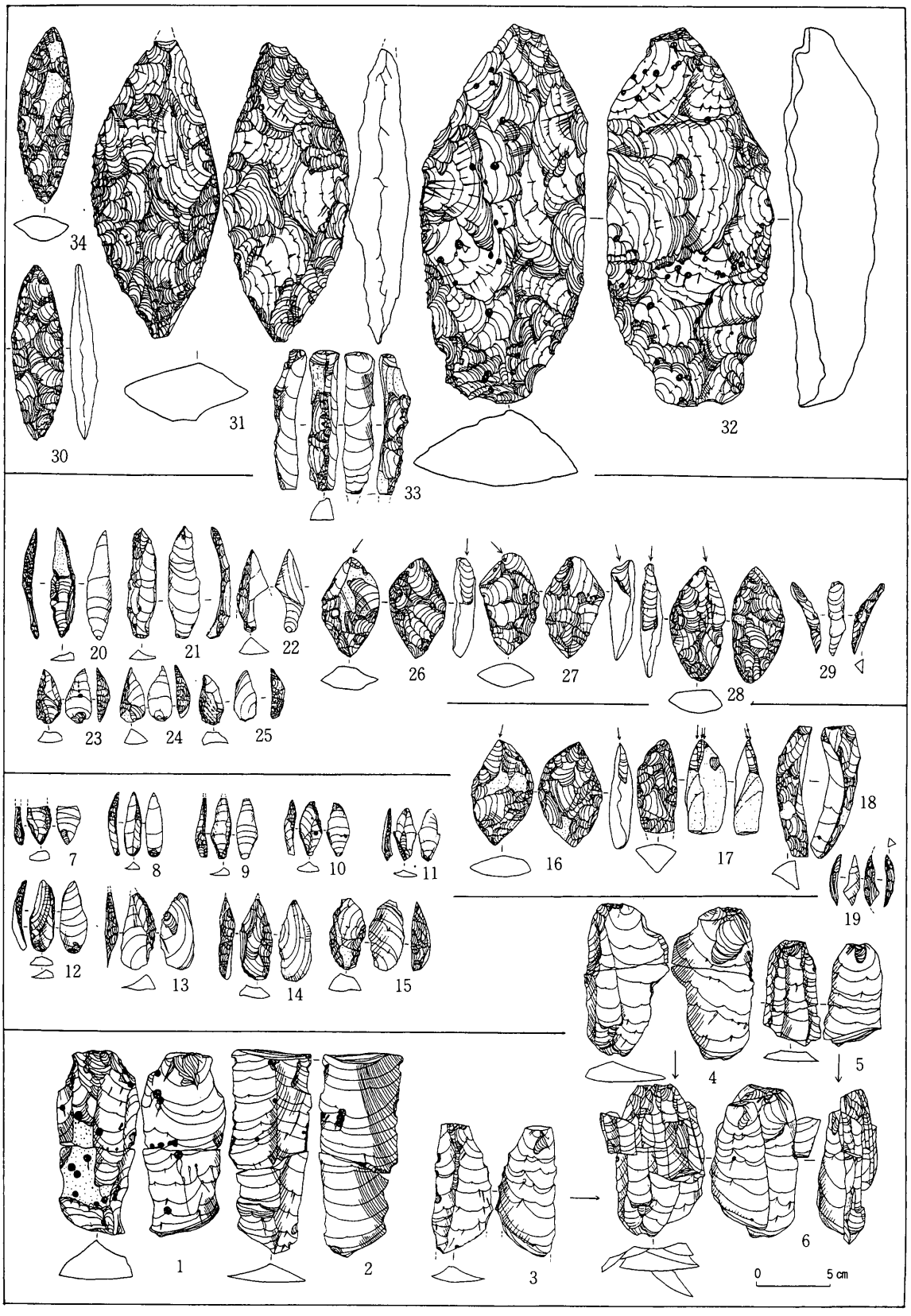
その中で男女倉型尖頭器は標識遺跡として常に重要な課題となって来たことは当然であった。発生期の課題としての男女倉型尖頭器、終息期のそれとしての東内野型尖頭器は今後も息永く論じられていくものと思う。

今、和田村男女倉谷周辺、黒耀石原産地周辺はただならぬ情況下にある。開発の新しい波である。保存の基本を探究し、研究の現代的意義の中で道を確立せねばならない時点に遭遇していることを、まずは認めざるを得ない段階なのである。

（森嶋　稔）



第6図　男女倉Ⅲ・Ⅳ・M地点遺跡出土遺物　　1～10　Ⅲ　　11～21　Ⅳ
22～26　Ⅲ上層　　27～29　M上層



第7図　男女倉B・J地点遺跡出土遺物　　1～6　B下層　　7～19　B上層
20～29　J上層　　30～34　B最上層

第3章　調　　査

第1節　地質学的調査

――和田峠周辺の地形・地質と黒耀石――

1.　和田峠周辺の地形と地質の概要

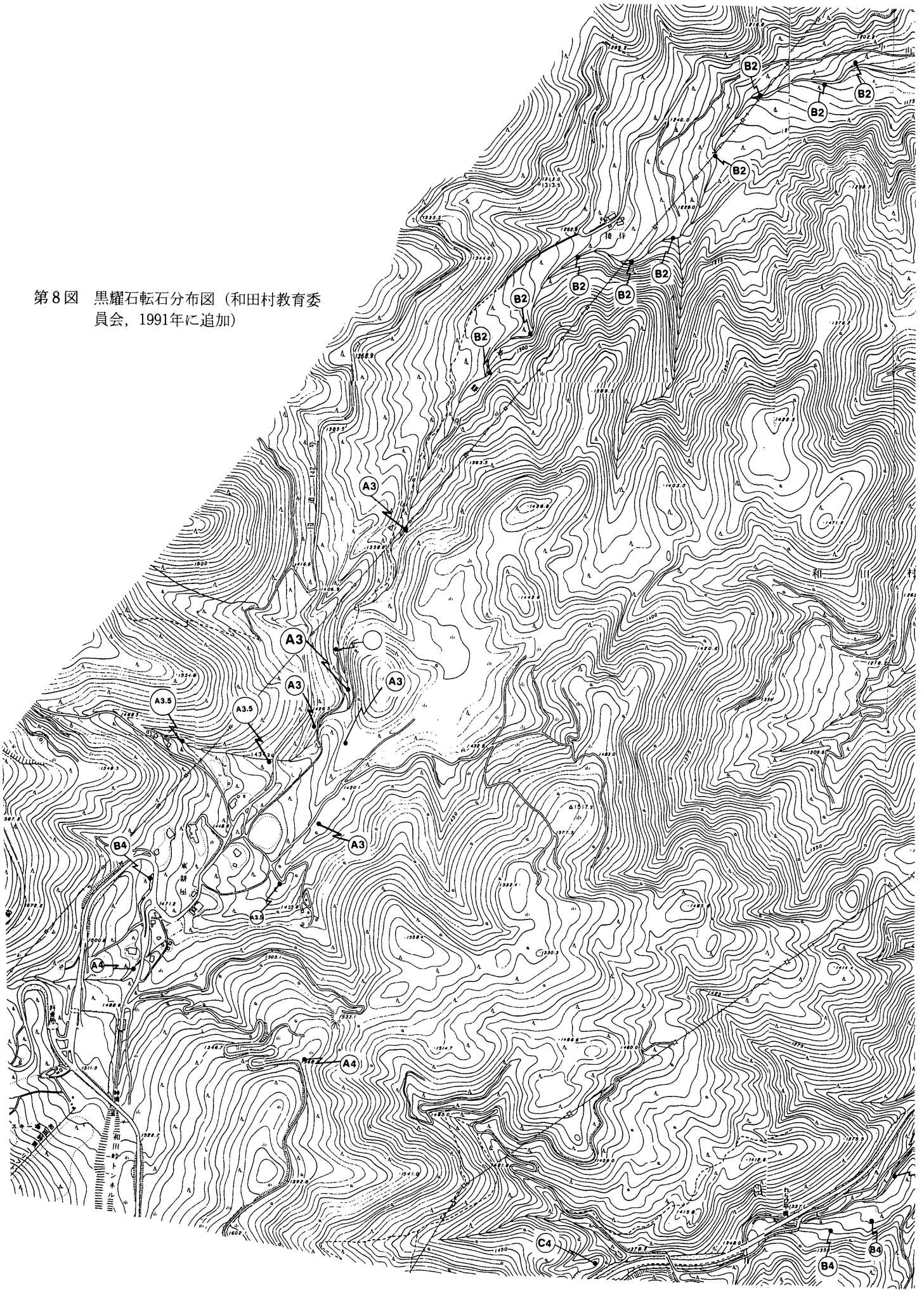
和田峠周辺には、和田峠流紋岩が広く分布し、各所に黒耀石を産する。和田峠は海抜1,500mを越え、和田川は、この峠付近を源流としている。和田川は、峠より約4km下流の観音橋では海抜1,100mとなり、約4kmで400mも高度を下げている。このように河川勾配が大きいために、観音橋より上流の和田川ぞいには、河岸段丘の発達が悪く、局所的に段丘状の緩斜面が形成されている。これらの緩斜面では、明瞭な河川性堆積物は少なく、角～亜角礫よりなる崖錐性堆積物が分布している。東餅屋付近では、上記の緩斜面が、比較的広く分布し、火山灰が崖錐性堆積物と互層したり、上を被っていることが多い。火山灰層中には、明瞭な鍵層は夾在されず、緩斜面の形成時期を特定することは困難であるが、風成火山層が30～100cmほど推積していることが多いので、男女倉付近のB_1段丘とほぼ同時期と見なし得る。

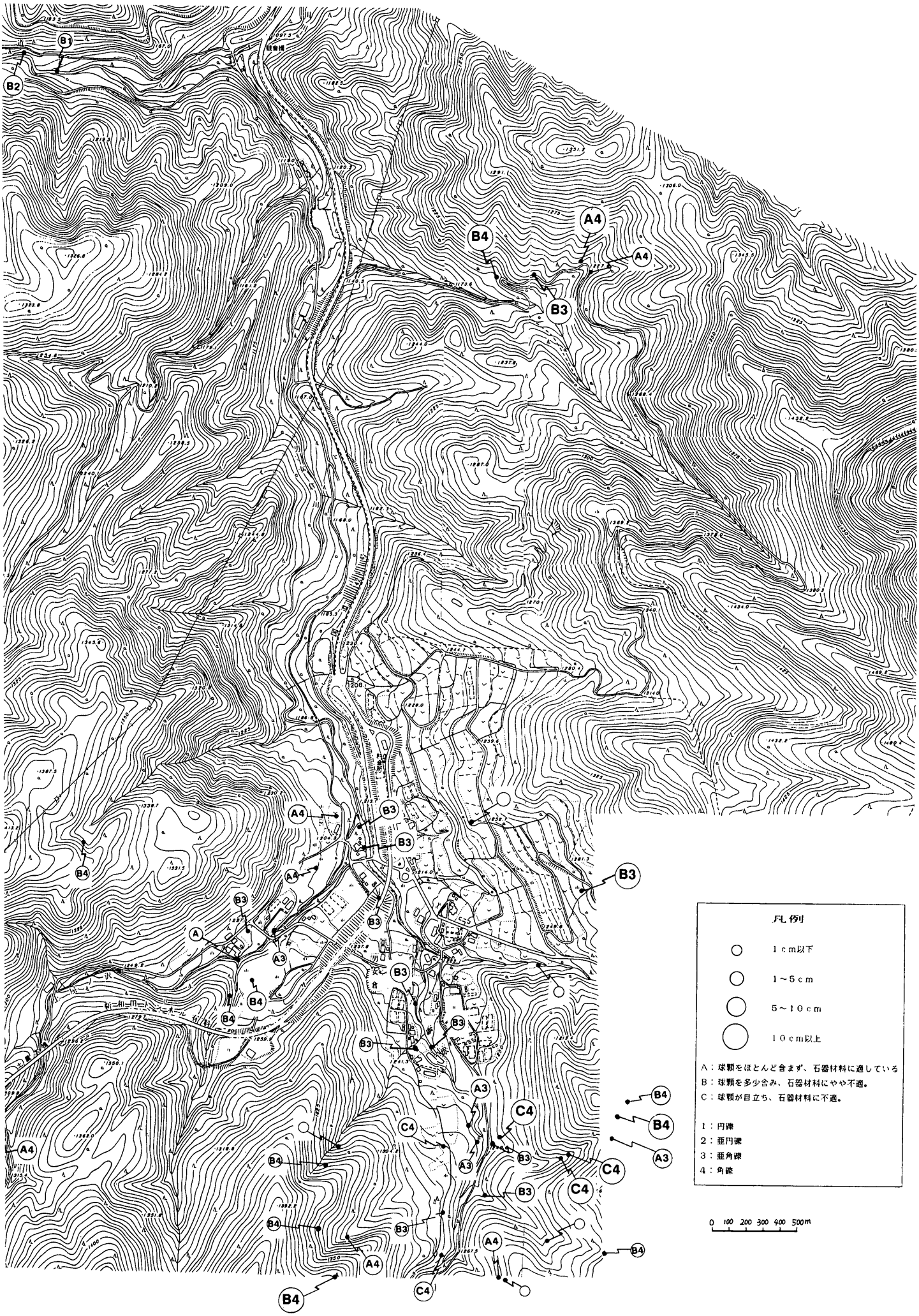
東餅屋より約1km下流の和田川右岸において、ほぼ海抜1,400mに小規模な湿原が分布する。泥炭層の厚さは、2mを越え、確認した地点では234cmをこえた。泥炭層中には、明瞭な鍵層を発見できなかったが、花粉分析（後述）によると、完新世初期から現在まで、泥炭層の形成が続いている。

2.　和田川河床の黒耀石転石

観音橋より上流の和田川河床の現生堆積物中には、黒耀石の転石がきわめて多い。前の報告（和田村教育委員会，1991）でも述べたように、河川堆積物中の黒耀石は、割れ易い部分は割れつくし、新鮮で良質なものが多いことが特徴である。大きさは、径10cmをこえるものは少ないが、コブシ位の大きさ（径7～8cm）のものは、比較的多い。和田川河床は、今まで調査した限りにおいて、和田村内の河川中、黒耀石転石が最も多く、かつ良質で大形である（第7図）。この理由は、和田峠付近や和田川最上流部の両岸に、黒耀石原産地が多いこと、和田川の勾配が大きく、侵食力・運搬力が大きいので、継続的に、黒耀石転石が供給されるためである。これらの点からみて、和田川河床は、旧石器時代を通して、長期間、黒耀石の最良の供給地であり続けたものと思われる。和田川に匹敵する場所として、和田峠西側の砥川上流と東俣川上流が上げられる。　　（酒井潤一）

第８図　黒耀石転石分布図（和田村教育委員会，1991年に追加）




凡例
1cm以下
1～5cm
5～10cm
10cm以上
A：球顆をほとんど含まず、石器材料に適している
B：球顆を多少含み、石器材料にやや不適。
C：球顆が目立ち、石器材料に不適。
1：円礫
2：亜円礫
3：亜角礫
4：角礫
0 100 200 300 400 500m

3. 熔岩台地湿原の花粉化石

熔岩台地の海抜1,400m前後に小湿原があり(第8・9図)、泥炭層が形成されている。湿原のほぼ中央（海抜1,400m）に、深さ約240cmのトレンチを掘り、花粉分析用に泥炭を採取した。試料は3cm間隔で、連続して75個採取した（男女倉Ⅰ)。

Ⅰ　火山ガラスの屈折率

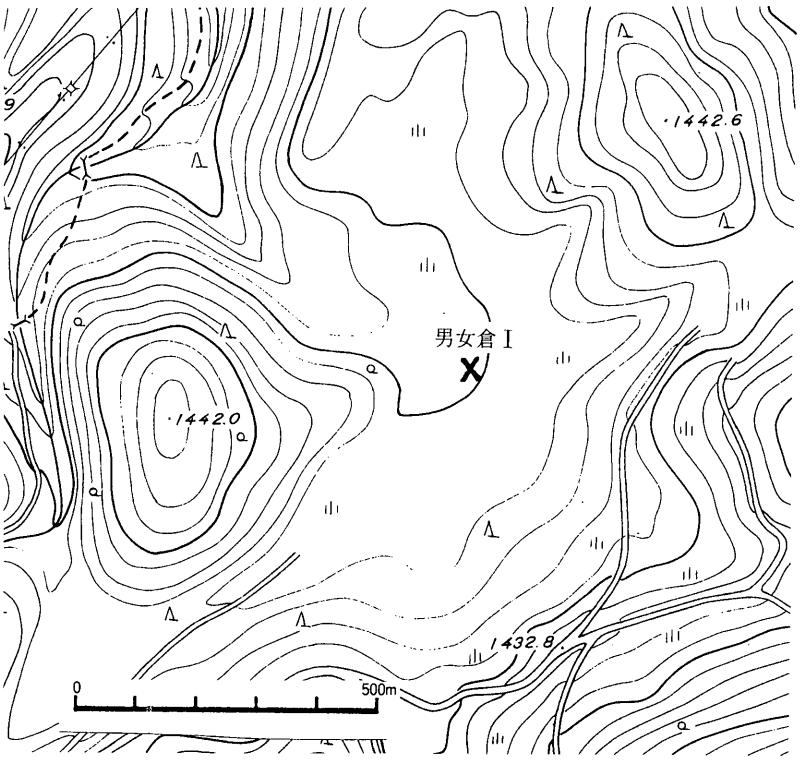
試料69・63・57・51の4試料に火山ガラスが検出された。4試料とも、火山ガラスは繊維状で、屈折率はモードで1.497であった（第10図)。また、4試料ともに、火山ガラス30粒に1粒の割合でバブルウォール型のガラスが含まれており、屈折率は繊維状のものよりは高く、1.499～1.500を示した。したがって、上記4試料中には、2種類の火山ガラスが混ざっている可能性が高い。

本調査地は、現生の湿原であり、湿原周辺のやや高い緩斜面には火山灰層が分布し、旧石器遺物が夾在されている。これらの点からみて、厚さ約3mと推定される湿原堆積物は、すべて、完新統の可能性が大きい。したがって、試料69・63・57・51などの火山ガラスを含む層準は、完新世中期のアカホヤ火山灰の層準にあたる可能性がある。しかし、屈折率は、アカホヤ火山灰(屈折率1.511～1.512）よりは低く、一致しなかった。

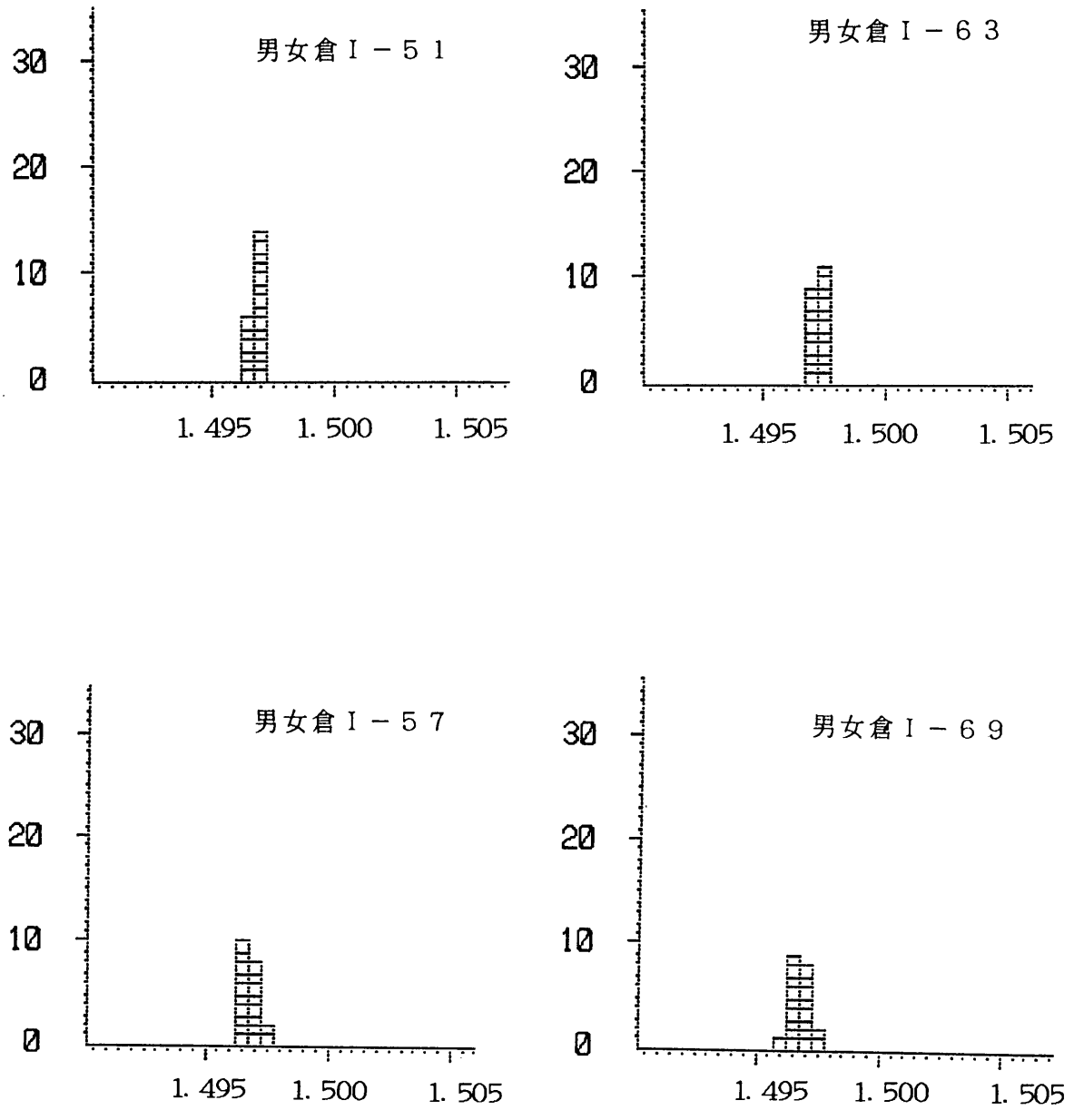
Ⅱ　分析方法

(1)　プレパラートの作製方法

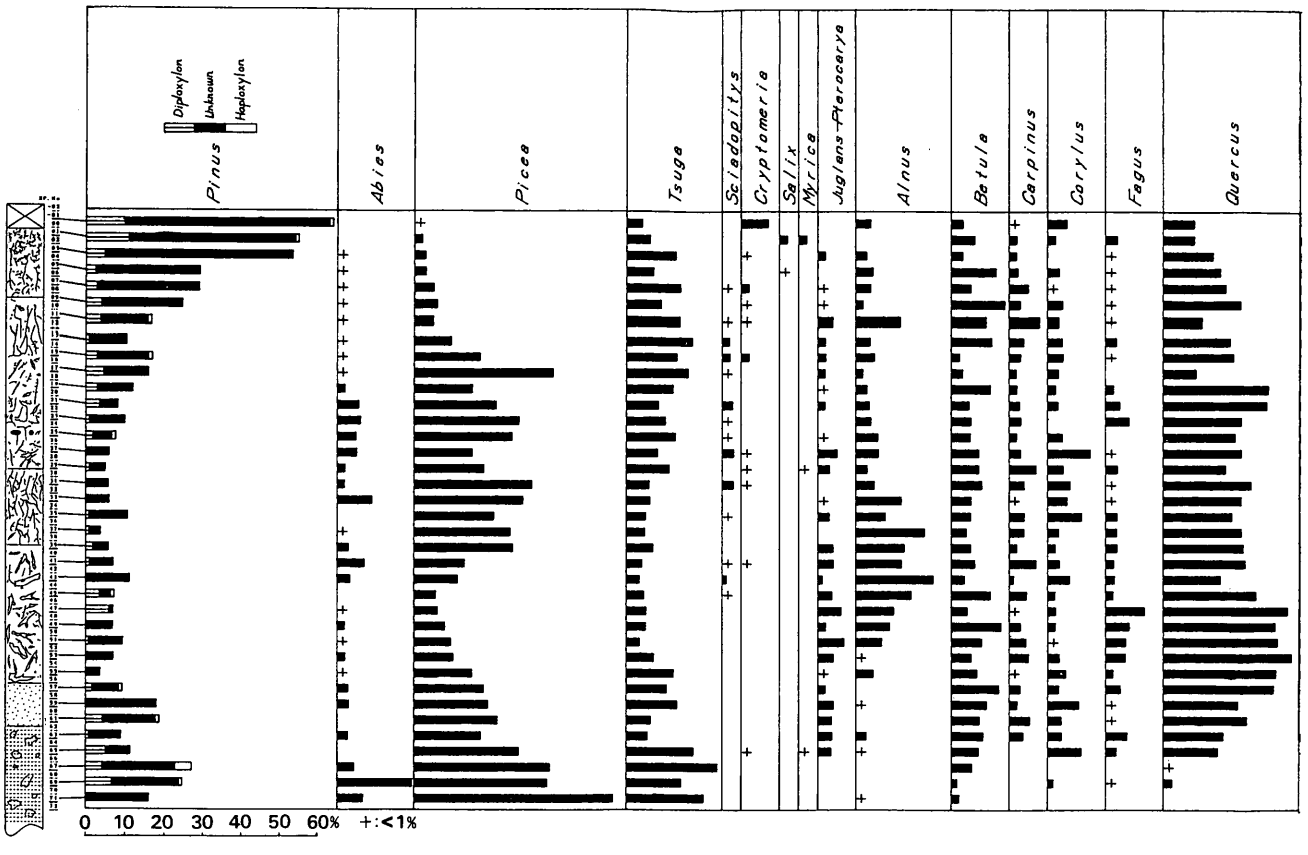
1. 試料30～50gに10%KOH溶液を加え、1日放置。
2. 60メッシュの篩をとおす。
3. 水洗（12時間おきで数回)。
4. 500cc.コニカルビーカーで、10%KOHを加え湯煎（7分)。
5. 水洗（90分おき、20回以上)。
6. 70% $Zncl_2$ を加え、遠心分離（2回)。
7. HFを加え1日放置。
8. アセトリシス処理（無水酢酸と濃硫酸の9：1混合液で60秒湯煎)。
9. グリセリンゼリーで封入。
10. マニキュアで密封。



第9図　花粉分析用試料採取地点



第10図　火山ガラスの屈折率



第11図　男女倉Ⅰの花粉ダイヤグラム

(2)　検　鏡

生物顕微鏡400倍で、樹木花粉（ＡＰ）が200個を越えるまで検鏡。各花粉タクサの出現比率は、下記のように計算し、花粉ダイアグラムを作製した。

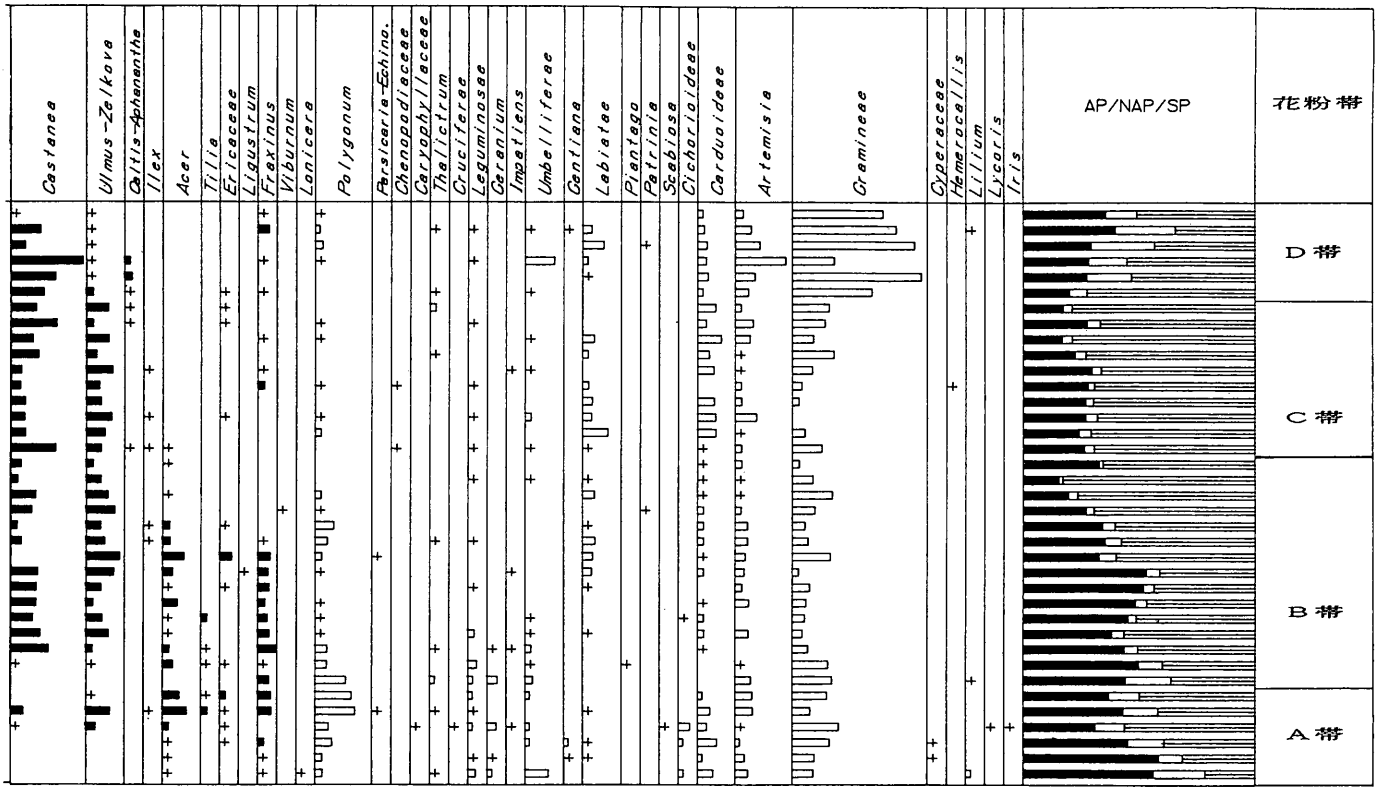
$$\text{樹木花粉（ＡＰ）} = \frac{\text{各タクサの花粉数} \times 100}{\text{樹木花粉総数}}$$

$$\text{草本花粉（ＮＡＰ）} = \frac{\text{各タクサの花粉数} \times 100}{\text{樹木花粉総数} + \text{草本花粉総数}}$$

Ⅲ　検鏡結果

検鏡したプレパラートからは、十分な数の花粉化石が検出された。花粉ダイヤグラム（第11図）は、出現する花粉化石の特徴によって、下部から上部へ、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの花粉帯に区分される。

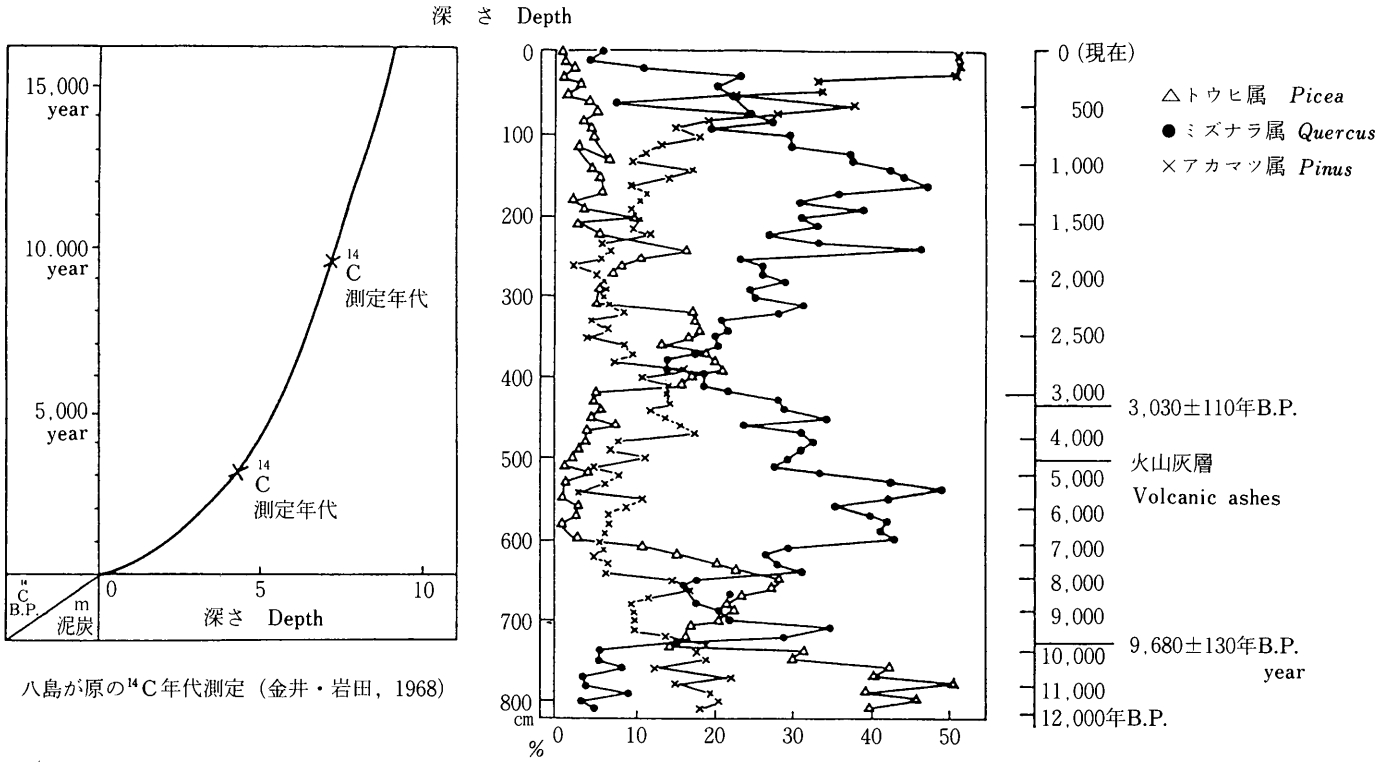
Ａ帯（試料71－61）：*Picea*（トウヒ属）、*Abies*（モミ属）、*Tsuga*（ツガ属）などの針葉樹が多い。針葉樹は上部ではやや減少する。広葉樹はほとんど出現しない。



B帯（試料59－31）：広葉樹花粉が多く、特に、*Quercus*（コナラ属）が高率である。このほかに、*Fagus*（ブナ属）、*Castanea*（クリ属）、*Ulmus-Zelkova*（ニレ属、ケヤキ属）、*Betula*（カバノキ属）、*Alnus*（ハンノキ属）などの落葉広葉樹を伴う。

C帯（試料29－11）：*Picea, Tsuga, Qercus, Betula* が高率を占める。

D帯（試料９－１）：*Pinus* が高率を占め、Diploxylon 型が多い。*Picea, Tsuga* は減少する。広葉樹もやや減少する。草本では *Gramineae*（イネ科）が急増する。最上部で *Cryptomeria*（スギ属）が急増する。



八島が原の^{14}C年代測定（金井・岩田，1968）

八島が原の花粉分析（堀，1938）

第12図　八島が原湿原の花粉分析と^{14}C年代（矢野悟道，1981）

Ⅳ　古気候

A帯は、*Picea, Tsuga, Abies* などの針葉樹が多く、落葉広葉樹はきわめて低率であること、B帯より *Fagus*（ブナ属）がかなり高率で出現することなどから、最終氷期に引き続く完新世初期の寒冷な気候を示しているものと推定される。矢野（1981）の、八島が原湿原の研究結果（第12図）と比較すると、A帯は約9,000～7,500年前を示すものと考えられる。

B帯は、*Picea, Tsuga* などの針葉樹が減少し、*Quercus, Fagus, Alnus, Betula, Castanea, Ulmus-Zelkova* などの落葉広葉樹が高率を占めることから、完新世中期の“縄文温暖期”にあたる。八島が原湿原の研究結果と比較すると、約7,500～3,000年前を示すものと考えられる。

C帯は、再び *Picea, Tsuga, Abies* が増加するものの、*Quercus* などの落葉広葉樹の比率が高く、B帯よりはやや冷涼な気候を示す。八島が原湿原との比較から、約3,000～1,500年前の“弥生の冷涼期”にあたる。

D帯は、1,500年前以降に属し、Diploxylon 型の *Pinus*（アカマツの可能性が大きい）の急増によって特徴づけられる。周辺地域での農耕が盛んになることにより、自然の植生が破壊され、2次林としてアカマツ林が拡大したことを示している。最上部の試料1では、*Cryptomeria*（スギ属）が急増しており、これは、明治時代後期以降のスギの植林拡大に対応している。

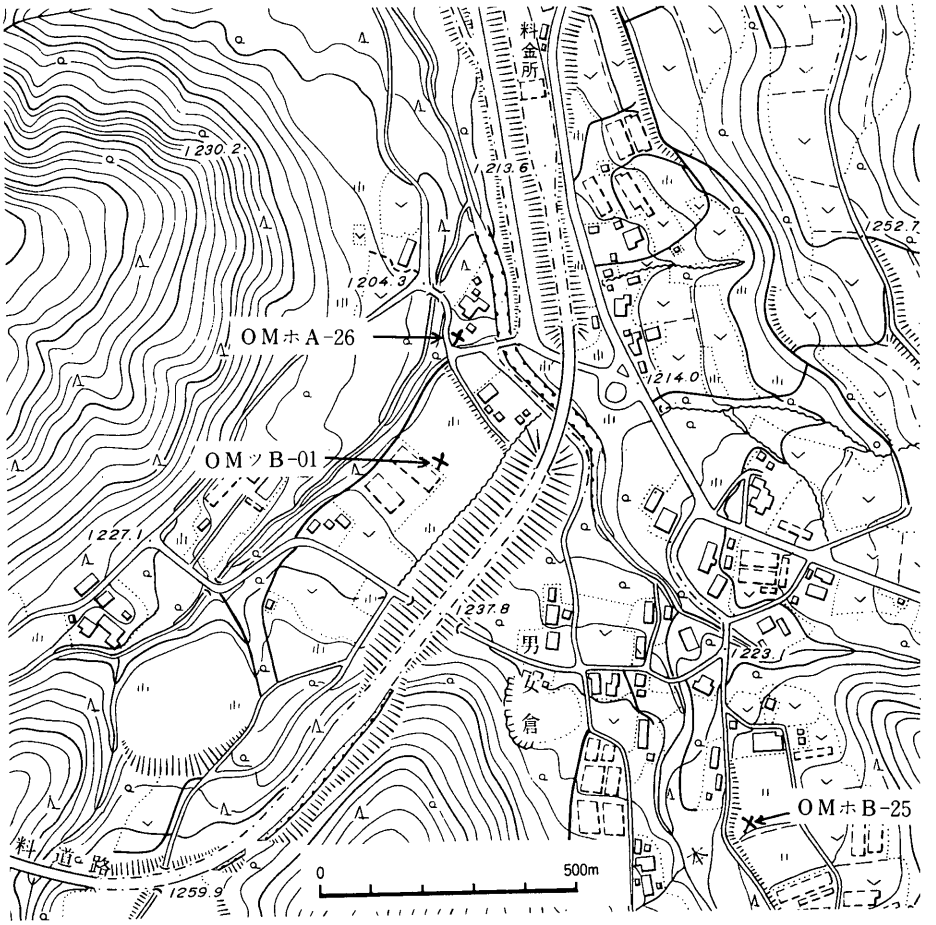
（酒井潤一・国信ゆかり）

4. OMホA-26・OMツB-01・OMホB-25地点の地質

本沢と土屋沢の合流点より少し上流の段丘上で、地質調査用のトレンチを掘り、段丘堆積物を観察した（第14図・第15図のOMホA-26）。この地点は、1990年の調査では、河床からの比高などから C_1 段丘としたところである（和田村教育委員会，1991）。ところが、この地点付近からは、以前から旧石器遺物の出土が知られ、本沢ぞいでは主に、B_1 段丘に旧石器遺物が分布することと矛盾していた。このほかの2地点（OMツB-01・OMホB-25、ともに第14図・第15図）を含めた調査結果は次のとおりである。

(1) C_1 段丘と区分されていたOMホA-26地点では、現河床からの比高が数mしかないにもかかわらず、約105cmの風成火山灰層が確認された。これは B_1 段丘の特徴を示すものである。その下位には、うすい砂層と厚い亜角礫層が分布する。亜角礫層は淘汰不良で、亜角礫の大きなものは径数十cmをこえ、岩相からみて、土石流堆積物である。同様な堆積物は、本地点よりやや上流の本沢右岸の B_1 段丘模式地や有料道路料金所西側の崖でも観察される。また、上記 B_1 段丘模式地では、本沢ぞいに幅せまく B_2 段丘が分布し、OMホB-25（第14図）では、OMツB-01と同様に、火山灰層が無く、うすい B_2 礫層の下位には、不整合で淘汰不良の土石流堆積物（B_1 段丘堆積物）が分布する。

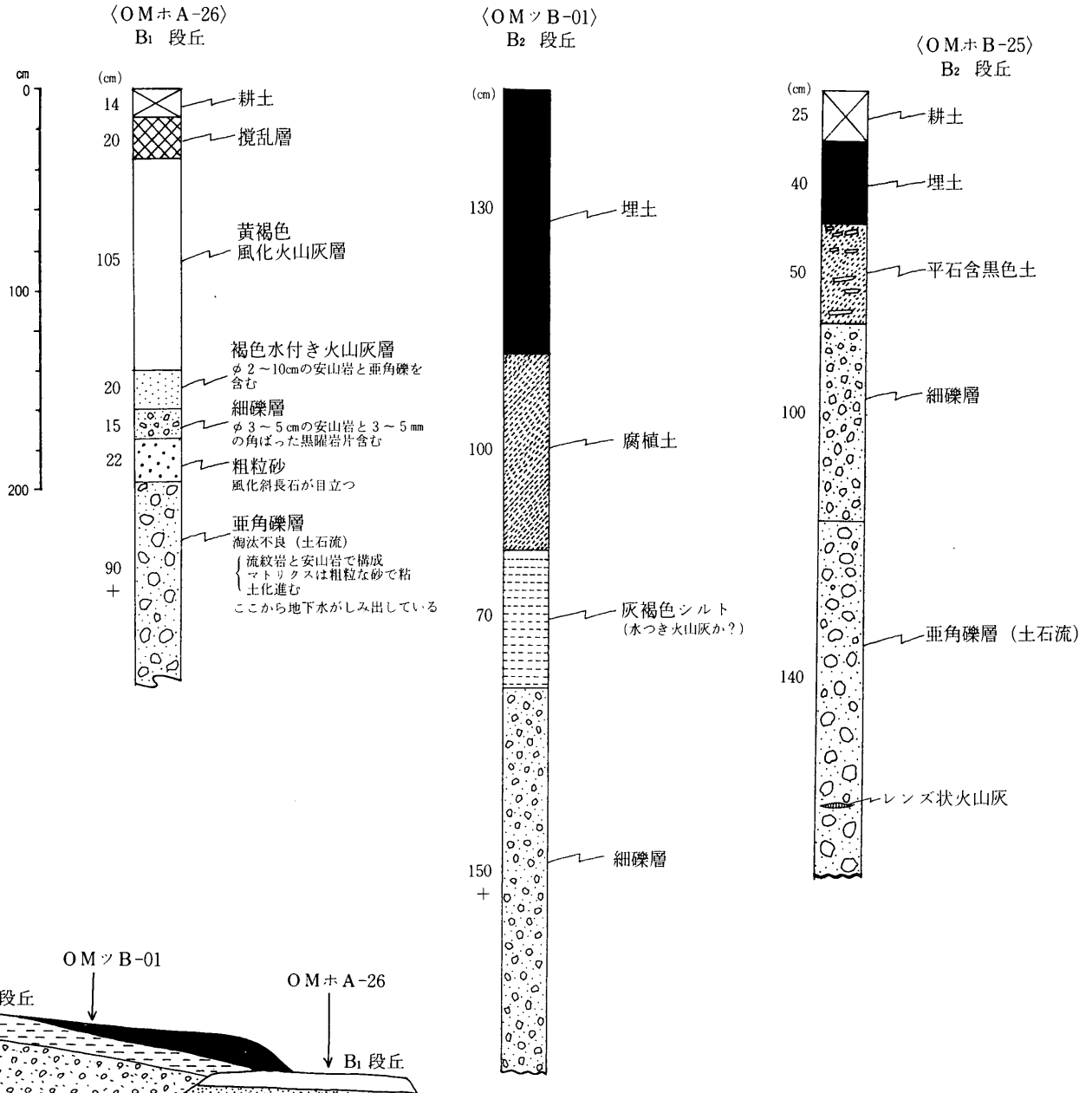
(2) 土屋沢右岸の B_2 段丘上のOMツB-01は、OMホA-26地点よりも標高が高い。しかしながら、OMツB-01においては、風成火山灰層はなく、地形面としては、OMホA-26（B_1 段丘）よりも低位ということになり、土屋沢右岸においては、地形面が逆転していることになる。この原因は、土屋沢と本沢との合流点付近に分布する B_1 段丘は、本沢より供給された土石流堆積物によって構成されているのに対して、土屋沢右岸の



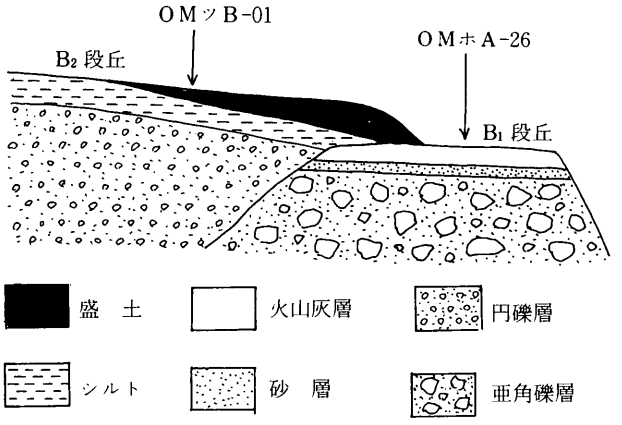
第13図　地質調査用トレンチ位置図

B_2 段丘は、河川勾配の大きい支流・土屋沢より供給された堆積物によって構成されているからであり、その最上部は B_1 段丘の一部に、オーバーフローして堆積している（第15図）。

以上の点を訂正した段丘面区分図を、第16図に示す。（酒井潤一）



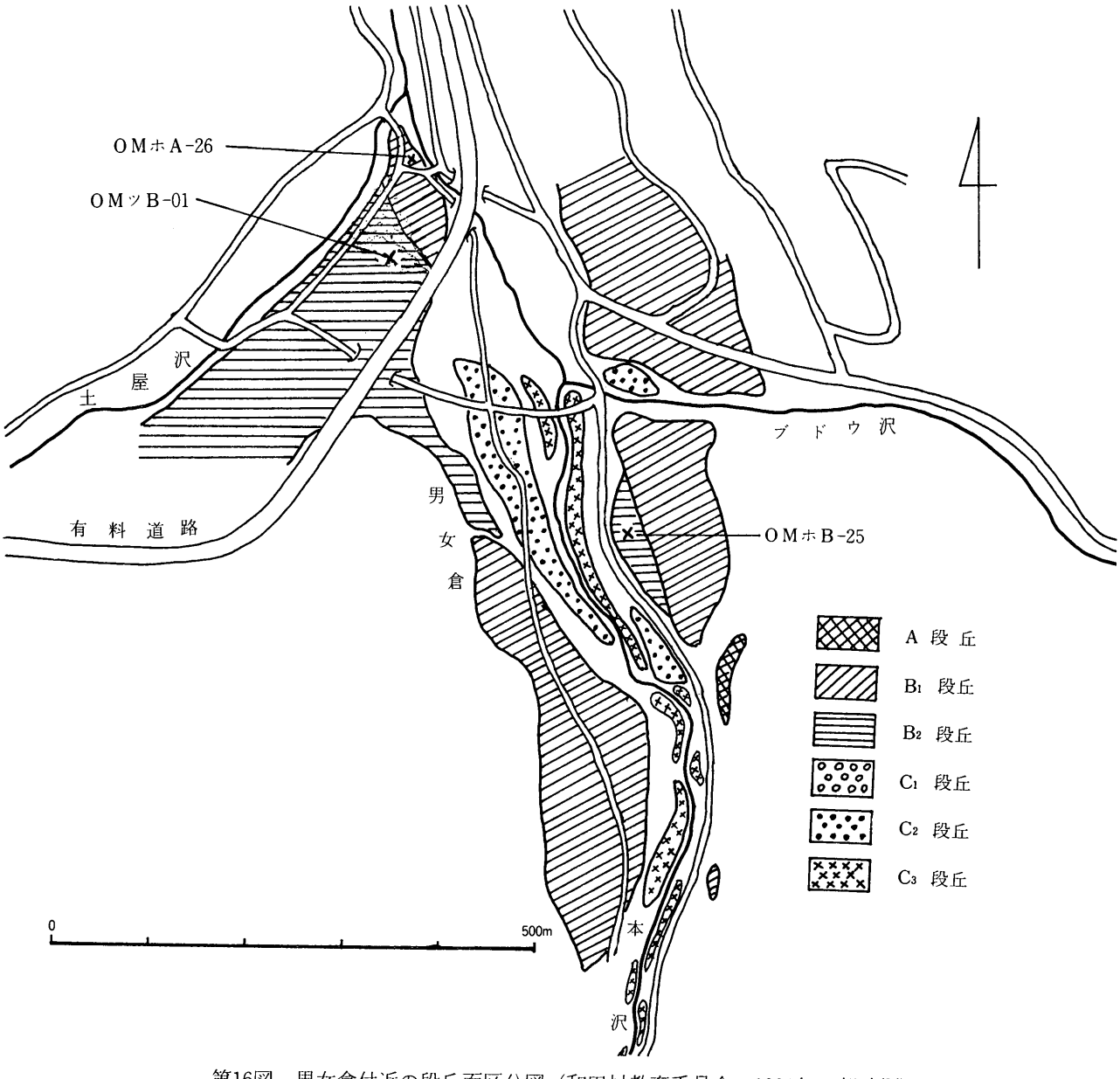
第14図　地質柱状図



第15図　土屋沢右岸の模式断面図

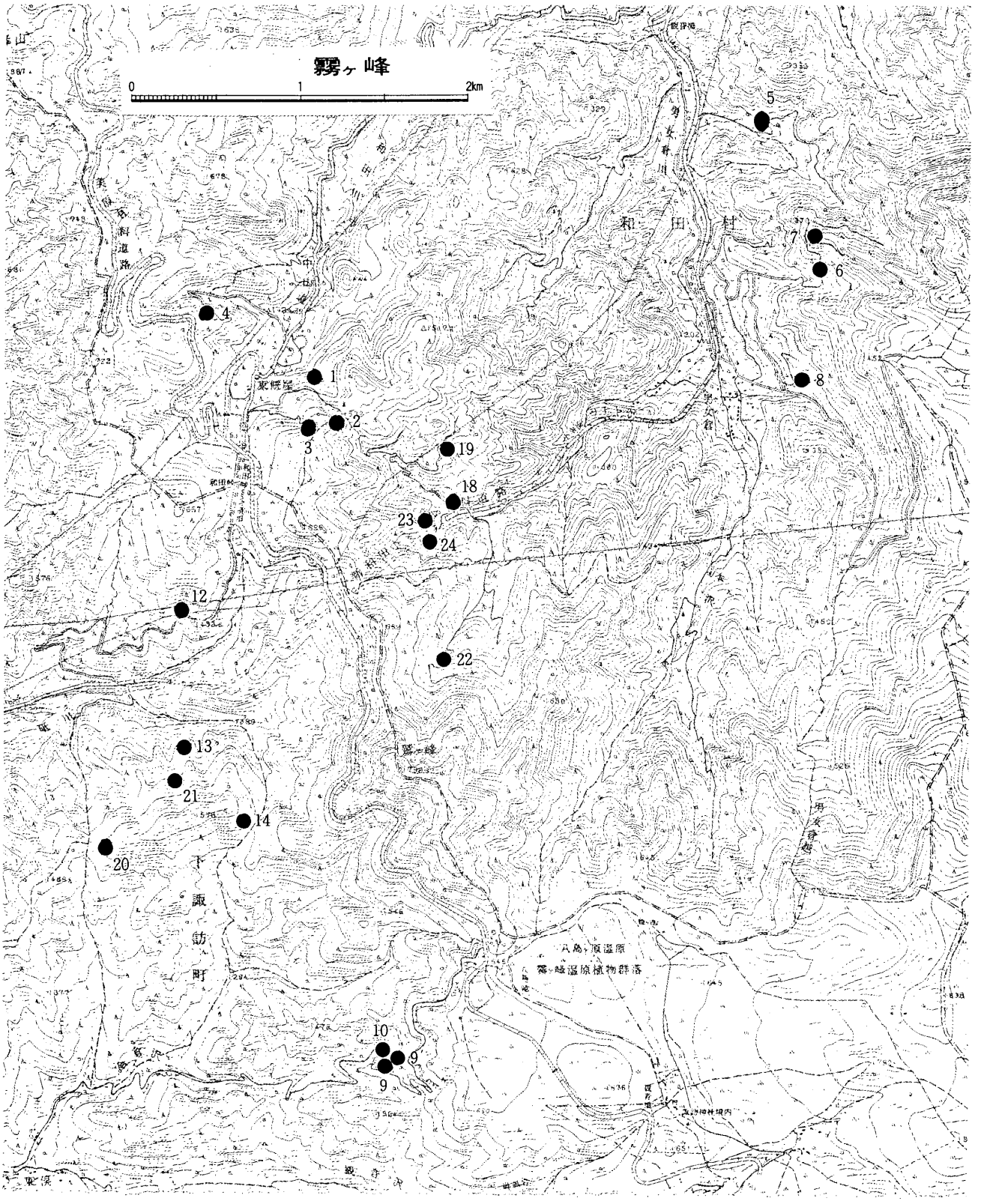
5. 黒耀石の産状と採取方法

各種分析等に用いられた黒耀石のうち、遺跡から出土したものを除く試料の採取状況は下記のとおりである。一般的に、黒耀石を露頭から直接採取することは、かなり困難な状況にある。その理由は、自然状態では、地表は土壌・植生・崖錐堆積物などで厚く被われており、自然の露頭はきわめて少ないからである。今回、黒耀石を採取した

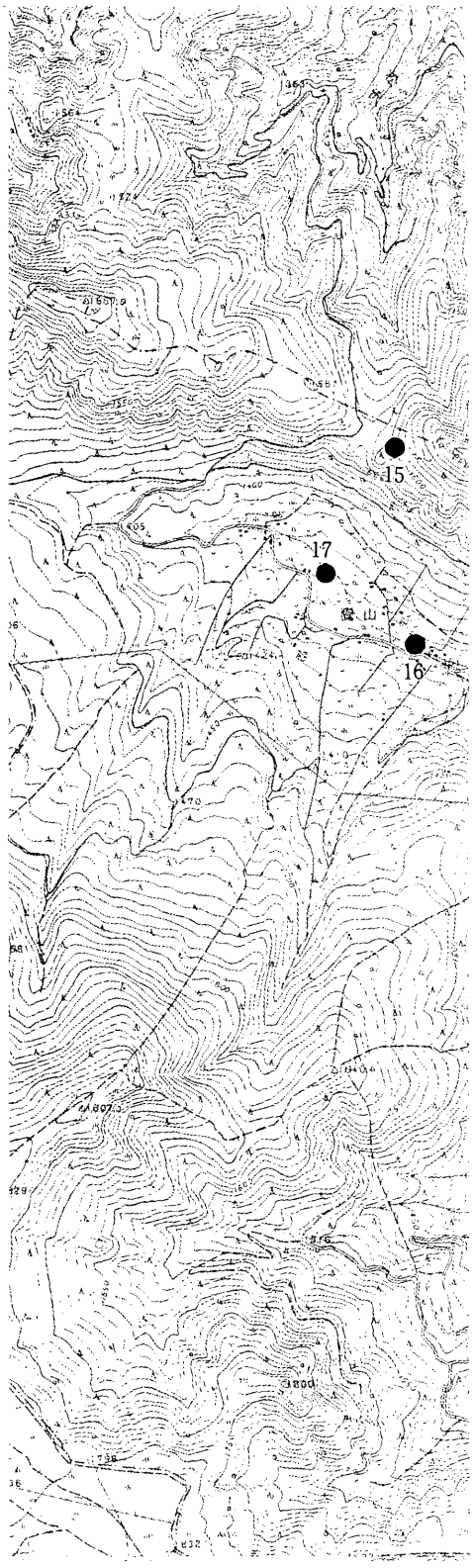


第16図　男女倉付近の段丘面区分図（和田村教育委員会，1991年一部改編）

場所も、採鉱・道路の割り切りなど人力（機械力）によって露出したものが多い。このような状況をみると、棒切れくらいしか掘削の道具が考えられない旧石器時代において、露頭から、良質の石器原石を直接に採取できるチャンスはきわめて少ないと言わざるを得ない。また、黒耀石は、自



然の露出にさらされると、割れ目が入り、小さな岩片になりやすいように見うけられる。この点、27ページで述べたように、河床の転石は、河川による運搬の過程で、割れ易い部分は割りつくされ、割れ目のない、しっかりとした部分だけが残っていることが多い。河原は、自然の選別を受けた良質の原石が、たくさん、しかも継続して供給される条件を満たしているわけである。しかも河原は、歩き易く、素手で簡単に拾えるなどの好条件もそなえている。旧石器時代の遺跡が、河川に近い段丘上に分布することが多いのは、水という条件のほかに、石器原石の得やすさという条件も大きいのではないだろうか。



第17図　黒耀石の採取地点
（11は欠番）

〈原産地と確認された場所及び産状〉

火道：②・⑬

火道の可能性高い：⑨′・⑮・⑳・㉑

火道と溶岩流：④

溶岩流：⑥・⑦・㉓・㉔

溶岩流の可能性高い：⑤・⑧

〈近くの原産地からの転石〉

③：②からの転石

⑯と⑰：⑮からの転石

⑨と⑩：⑨′からの転石

〈産状不明の転石〉

①・⑫・⑭・⑱・⑲・㉓

引用文献（酒井関係）

矢野悟道編（1981）：霧ヶ峰の植物　諏訪市教育委員会

和田村教育委員会（1991）：長野県黒耀石原産地遺跡分布調査報告書（男女倉谷）Ⅱ

（酒井潤一）

第2節　考古学的調査

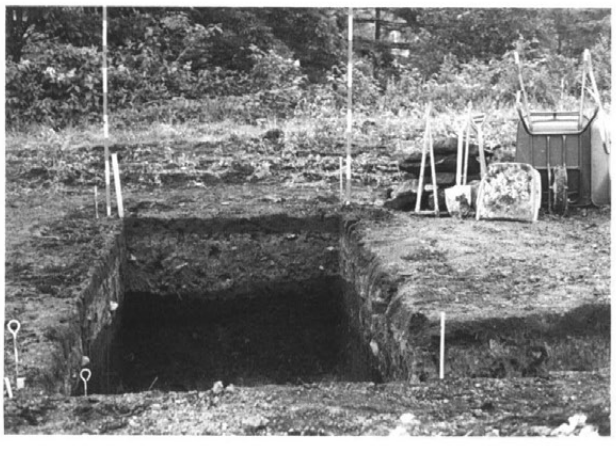
1.　本沢地区

ホ　B　25

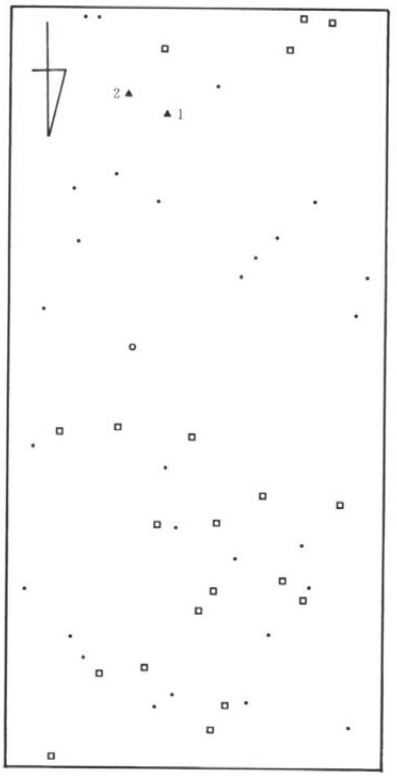
1.　位　置　ホB25グリッドは、本沢右岸の B_1 段丘上の畑地に設定された。本グリッドは段丘層序とその生成の調査を目的に設定されたもので、2×4mの範囲の調査を実施した。

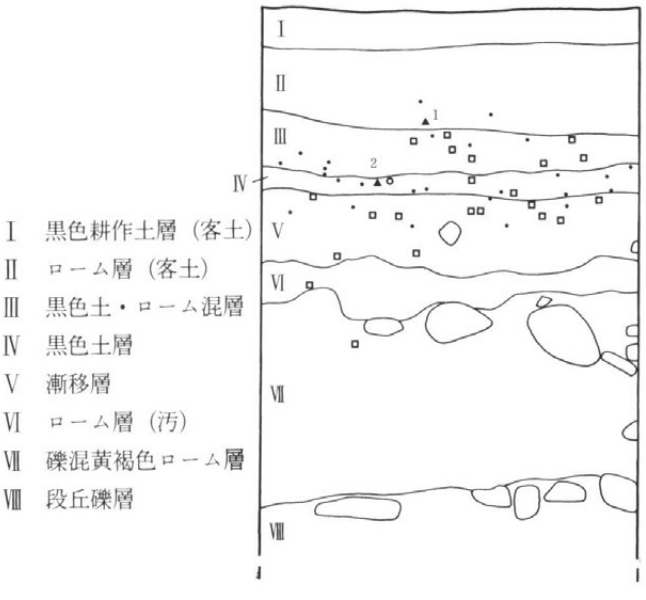
2.　層　序　その層序は、Ⅰ層が黒色耕作土層(客土)、Ⅱ層がローム層(客土)、Ⅲ層が黒色土とローム混じりの層、Ⅳ層が黒色土層、Ⅴ層が漸移層、Ⅵ層が汚れたローム層、Ⅶ層が礫の若干混じ

第18図　ホB25調査開始



第19図　ホB25試掘坑





第20図　ホB25遺物分布図

る黄褐色ローム層、Ⅷ層が段丘礫層である。遺物の包含は、Ⅱ層からⅦ層まで確認されている。

3. 遺　物　Ⅱ層からⅦ層にかけては、ナイフ形石器２点(１・２)・微小剝離痕のある剝片１点・剝片29点・小原石（３cm未満の大きさのもので石器の素材とは成り難いもの）22点が出土した。

またプライマリーな包含ではないが客土のⅠ層において、剝片24点・微小剝離痕のある剝片１点・石核１点（３）が出土している。

検出された遺物は80点全点とも黒耀石である（第１表）。

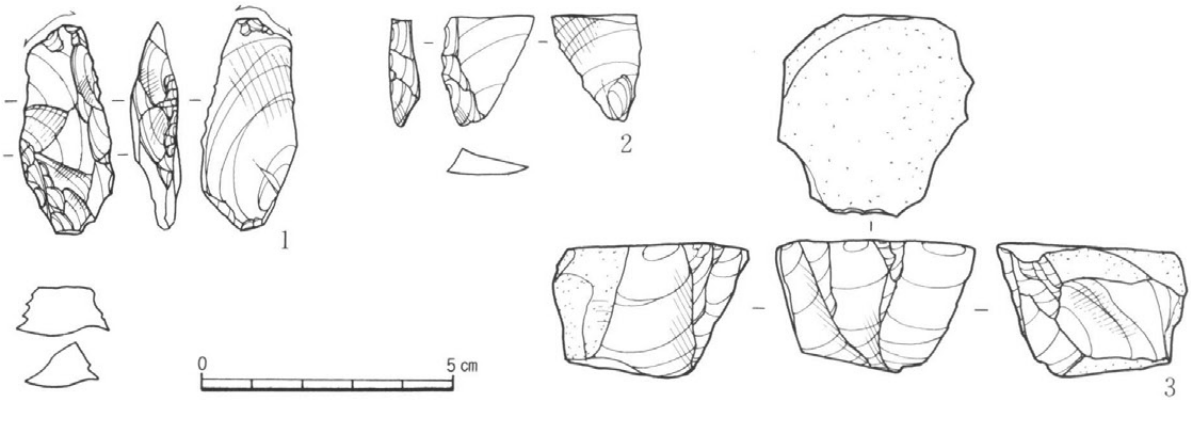
第21図　ホB25調査中

第22図　ホB25深掘完了

１は横長剝片を素材とした二側縁加工の切出形ナイフ形石器、２はナイフ形石器の基部、３は自然面打面の石核である。（堤　隆）

第１表　ホB25　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ												1			24	1				26
Ⅱ～Ⅶ	2											1			29		22			54
計	2											2			53	1	22			80

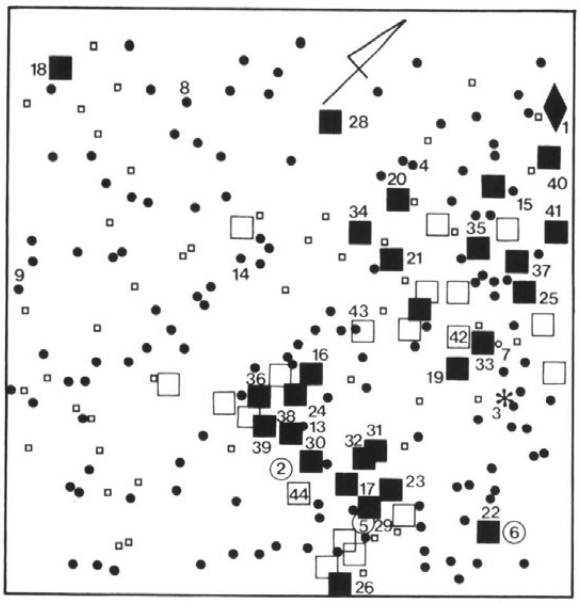


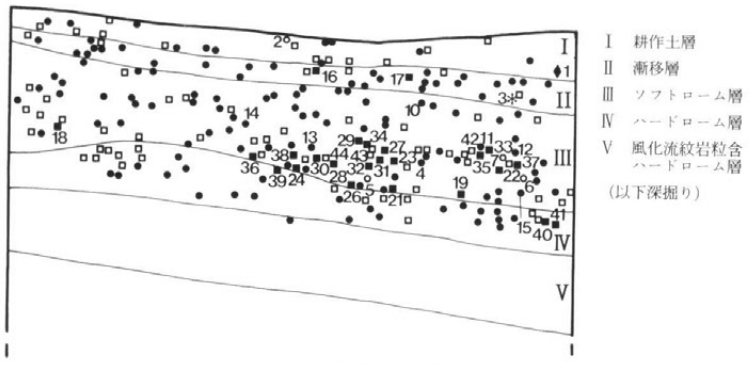
第23図　ホB25出土遺物

ホ　A　26

1.　位　置　ホA26グリッドは、本沢左岸の堀内喜美雄氏宅南の畑地に設定された（旧J地点）。本グリッドは段丘層序とその生成の調査を目的に設定されたもので、3×3mの範囲の調査を実施した。

2.　層　序　その層序は、Ⅰ層が耕作土層、Ⅱ層が漸移層、Ⅲ層がソフトローム層、Ⅳ層がハードローム層、Ⅴ層が風化流紋岩粒を含むハードローム層、その下層の深掘りでは、Ⅵ層が安山岩の亜





第26図　ホA26遺物分布図

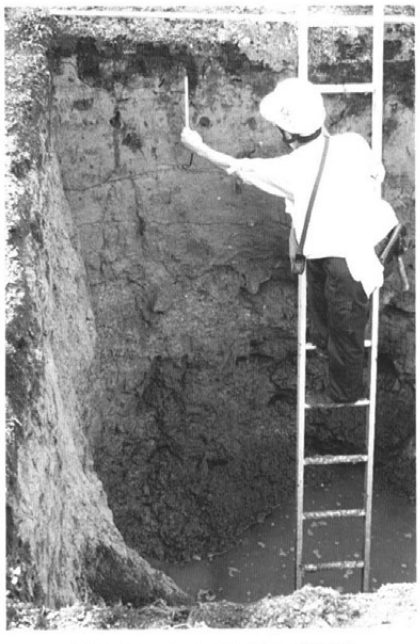
第24図　ホA26調査開始

第25図　ホA26調査中

円礫を含む黄褐色水つき火山灰層、Ⅶ層が安山岩の円礫を含む細礫層、Ⅷ層が斜長石の風化物を含む粗礫層、Ⅸ層が安山岩と流紋岩の亜円礫層である。

3.　遺　物　本地点においては、Ⅰ層からⅣ層下部にかけて遺物の包含が確認されている。そのなかで、ローム層の遺物包含のピークをとらえるため、重量別の遺物の垂直分布図を作成してみた（第29図）。重量のクラスは、10g未満・50g未満・50g以上である。この図を一瞥すると、特に50g以上の大形遺物がピークをもって存在していることが理解される。さらに現場での所見も加味して考えると、Ⅲ層中部とⅣ層上

部の二か所にピークをもつことがとらえられた。よってその文化層が2枚に分離される可能性も考慮されよう。ただ、時期の示準となる遺物が貧弱なうえ、遺物の接合・個体別分類等が進展せず、また狭い面積の調査であることもあいまって、遺物の個々については文化層の分離の判断が困難であった。したがって遺物についてはとりあえずは文化層の分離の考慮を反映させず、各層位毎に一括して扱った。



第27図　ホA26深掘面清掃

第28図　ホA26深掘完了

次に遺物の平面分布についてみておこう。無論きわめて狭い面積ではあるが、若干の分布の偏りが見受けられる。図にみるように、大形の石核・原石類は大きく二つの分布に分かれる傾向がありそうである。

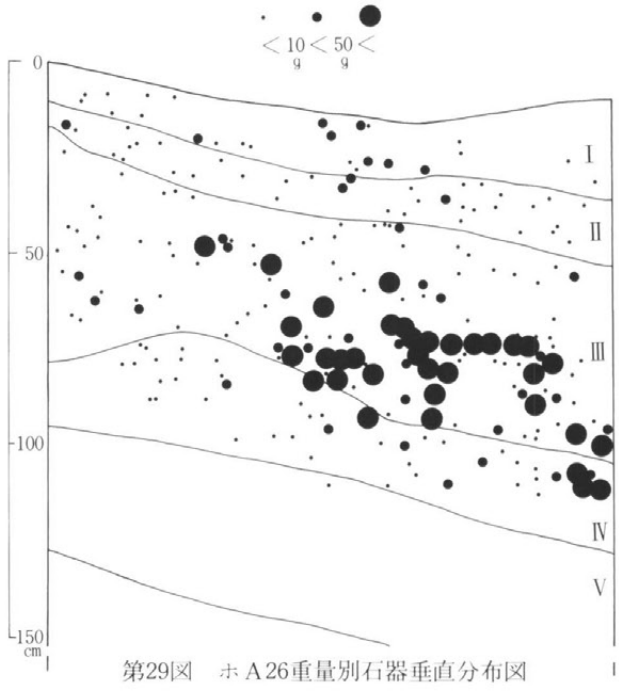
出土石器は、269点あり、全点黒耀石である。各層位ごとの内訳は第2表に示してある。

Ⅰ層　第30図1は尖頭器の基部、2は小形の削器である。

Ⅱ層　3は石錐、第32図16・17は石核である。

Ⅲ層　第30図4は男女倉型尖頭器の削片、5・6は削器、7は微小剥離痕を有する剥片である。8～15は背面に自然面を残す縦長剥片である。

第32図～第37図18～38は石核である。いずれも5～10cm前後の黒耀石の亜角礫を素材としている。打面は、平坦な自然面をもつものは、それをそのまま利用し自然打面としているものも多い（21・22・23・30・31・34）。単一の剥離面打面をみせるのは、19・24・26・27などである。打面調整が認められるものは33・36のみで少ない。稜形成な



第29図　ホA26重量別石器垂直分布図

どの石核調整もほとんどされず①原石から直接剥片剥離がなされる、といった状況を示す石核が多いのが特徴である。また、②剥片剥離があまり進行しない段階で放棄されている石核が多いのも特徴である。剥離されているのは主に縦長剥片で、いわゆる小口面から剥離されるものも目につく

(33～35など)。③基本的には単設打面で、作業面転移のなされるものは少ない。

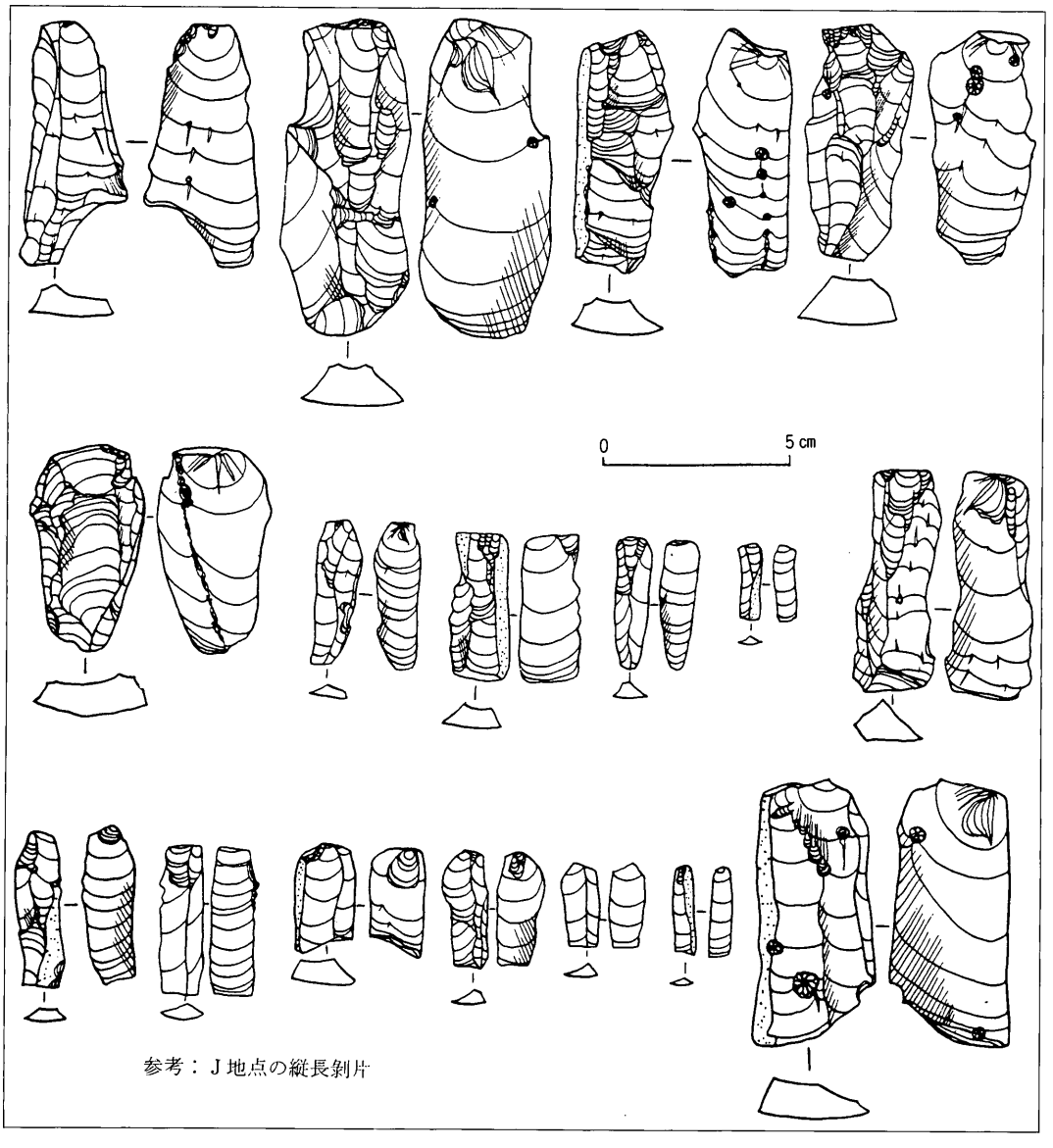
第38図42・43・44は原石である。さきにみた石核の大きさから推定される原石のサイズとほぼ一致する大きさである。

なお、Ⅲ層の石器群は、男女倉型尖頭器の削片の出土をもって、当該期の石器群と認識することができよう。

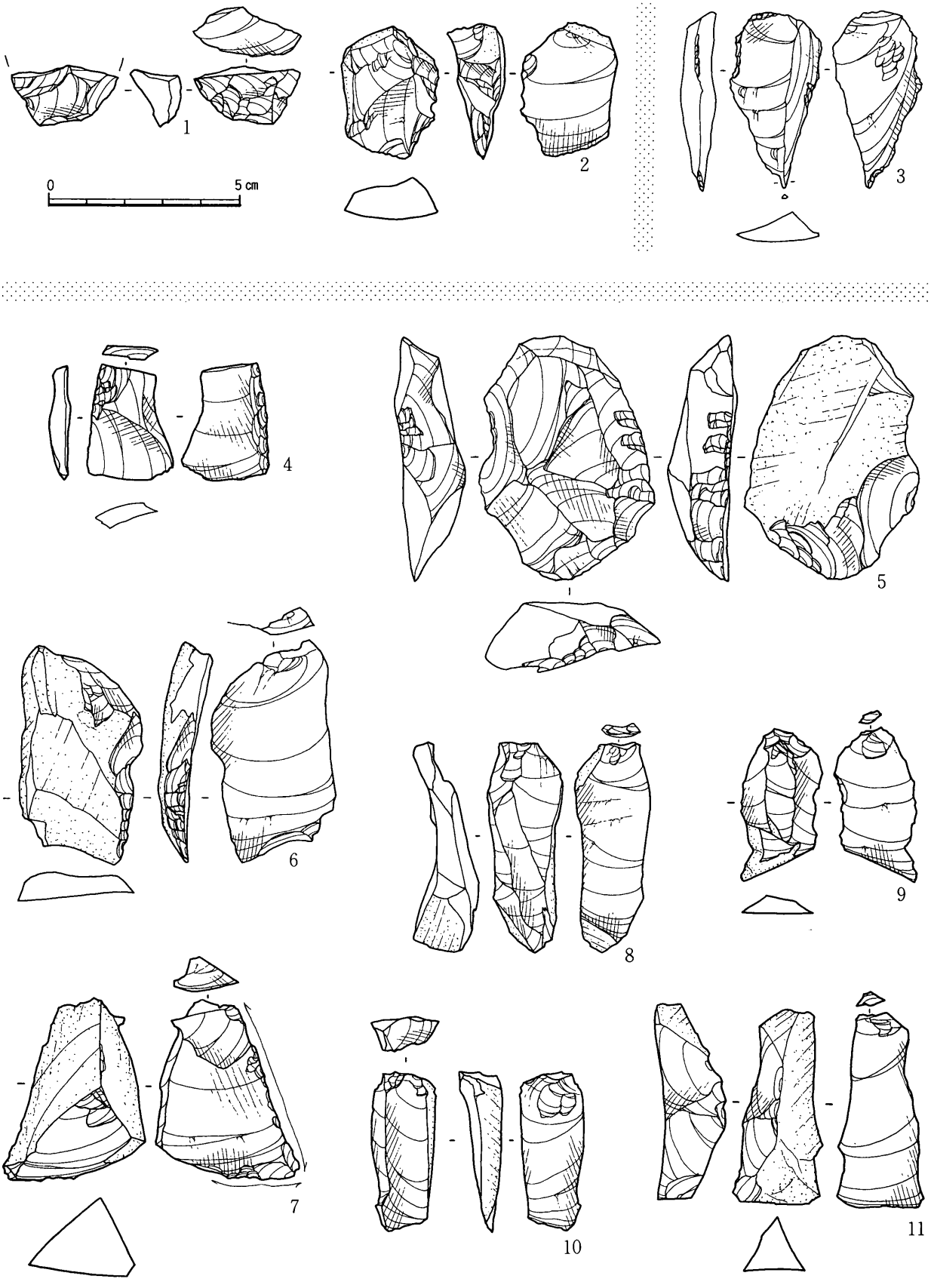
Ⅳ層　第38図39・40・41は石核である。このうち40・41はⅣ層上部で、さきのものとは別の文化層を構成する可能性がある。

以上、出土石器を概観してみた。その中の傾向として、①石核・原石類の出土がきわめて多い ②石核では剝片剝離があまり進行しない段階で放棄されているものが多い、またこれに呼応して、③剝片では背面に自然面を残すものが多い ④成品類の出土が少ないこと、があげられる。このことは本地点が(狭い面積の調査ではあるが)、原産地遺跡の性格をよくあらわしている事実といえよう。

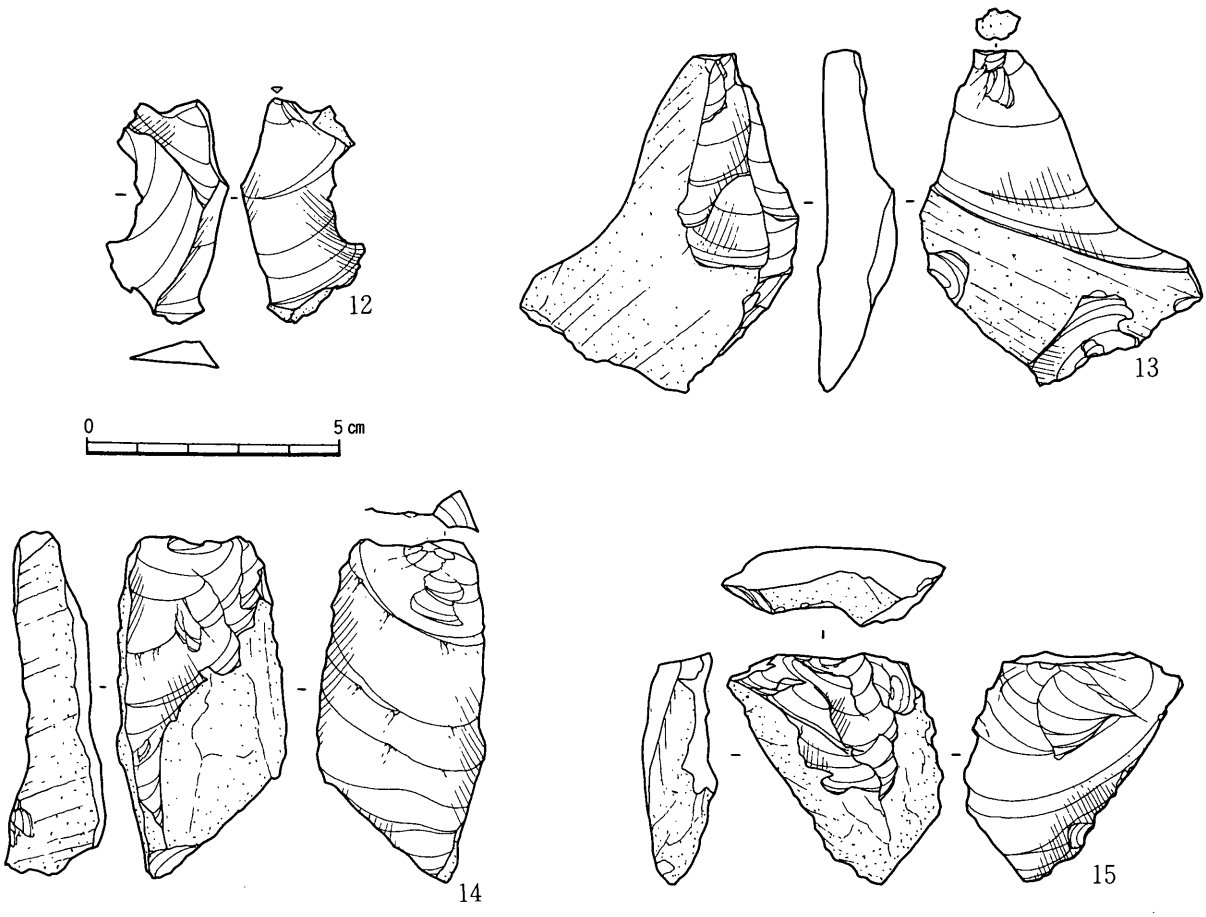
(堤　隆)



参考：J地点の縦長剝片



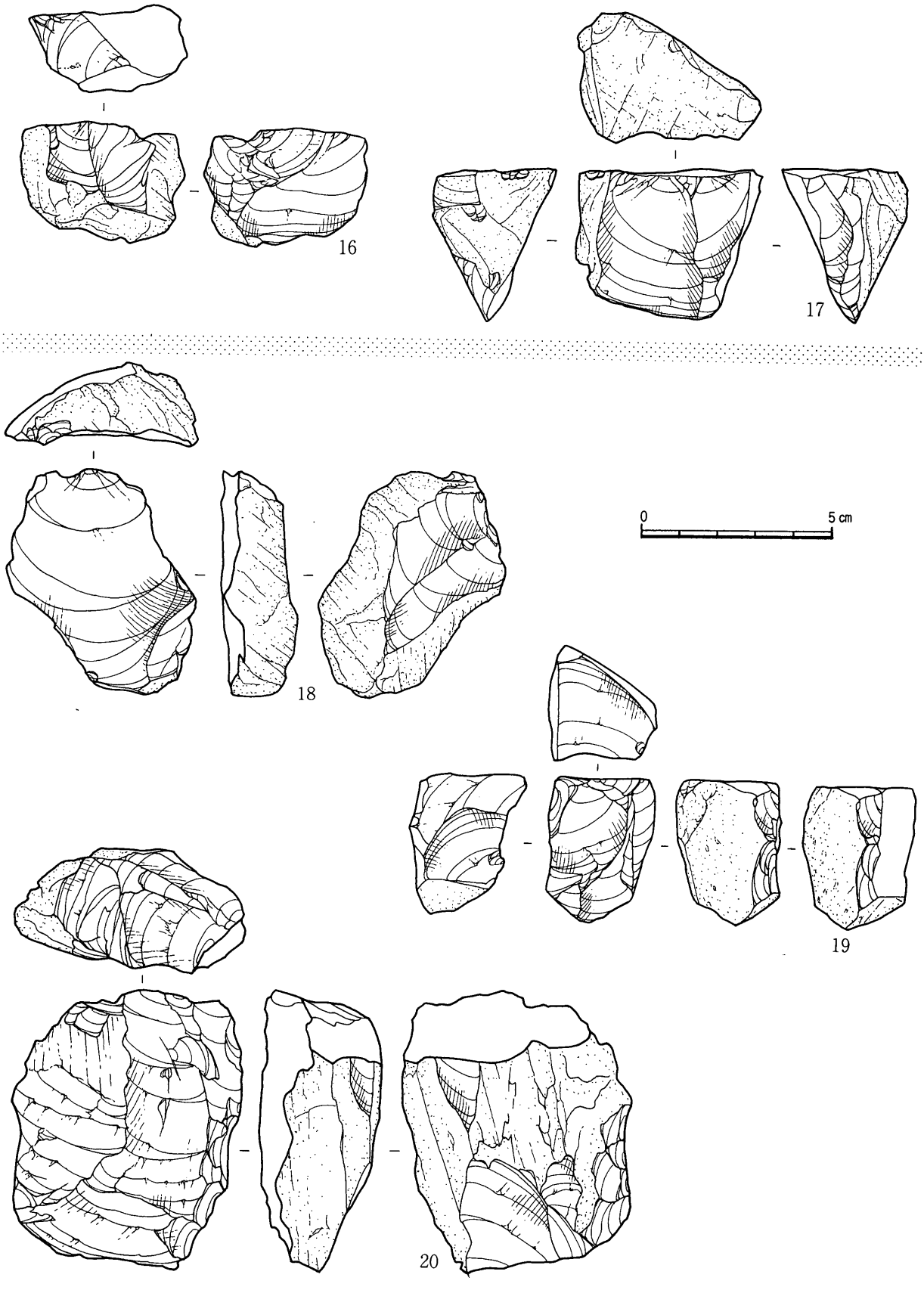
第30図　ホA26出土遺物①　　Ⅰ層（1・2）　Ⅱ層（3）　Ⅲ層（4～11）



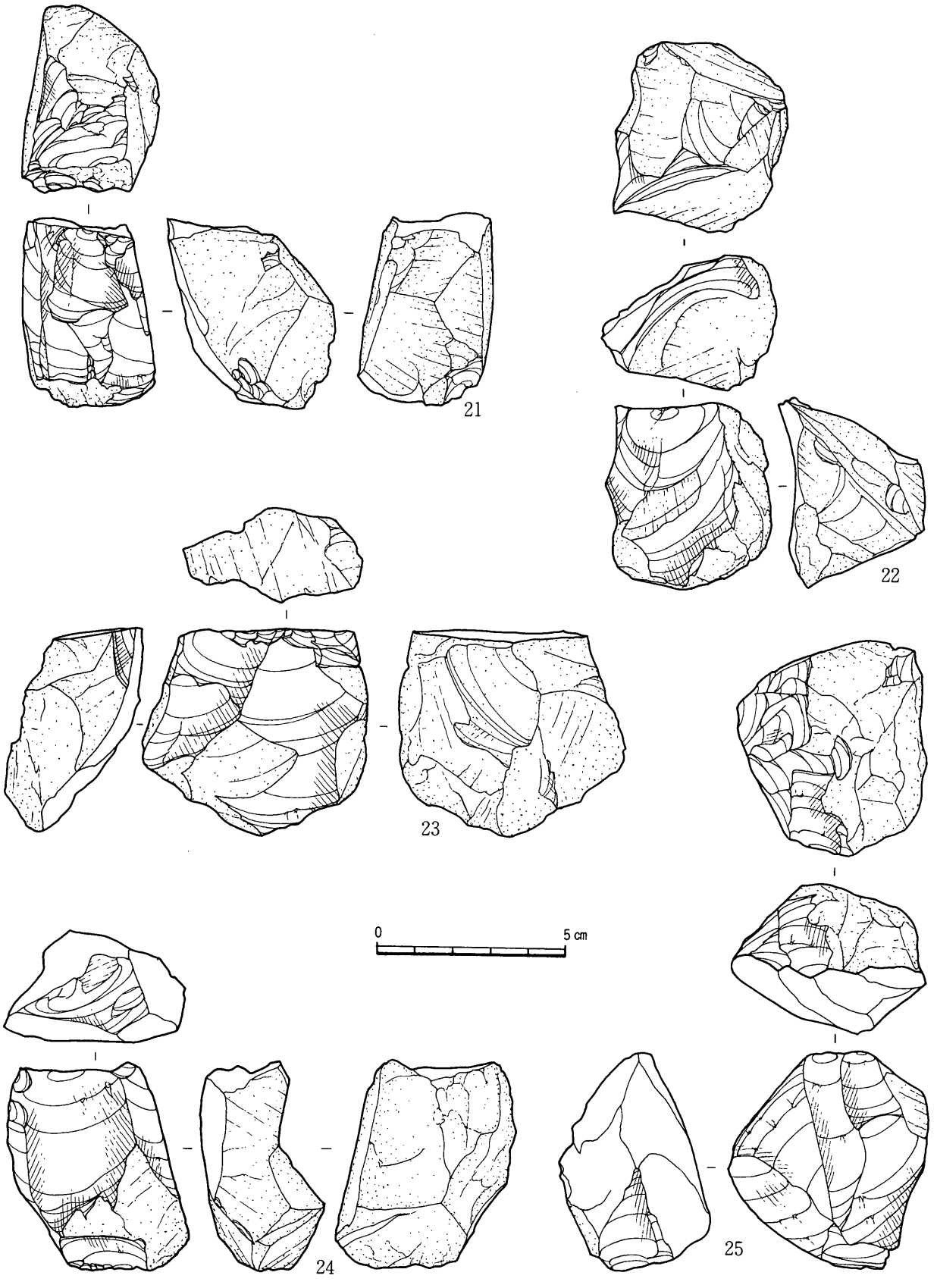
第31図　ホA26出土遺物②　　Ⅲ層（12～15）

第２表　ホA26　出土遺物層位別一覧表

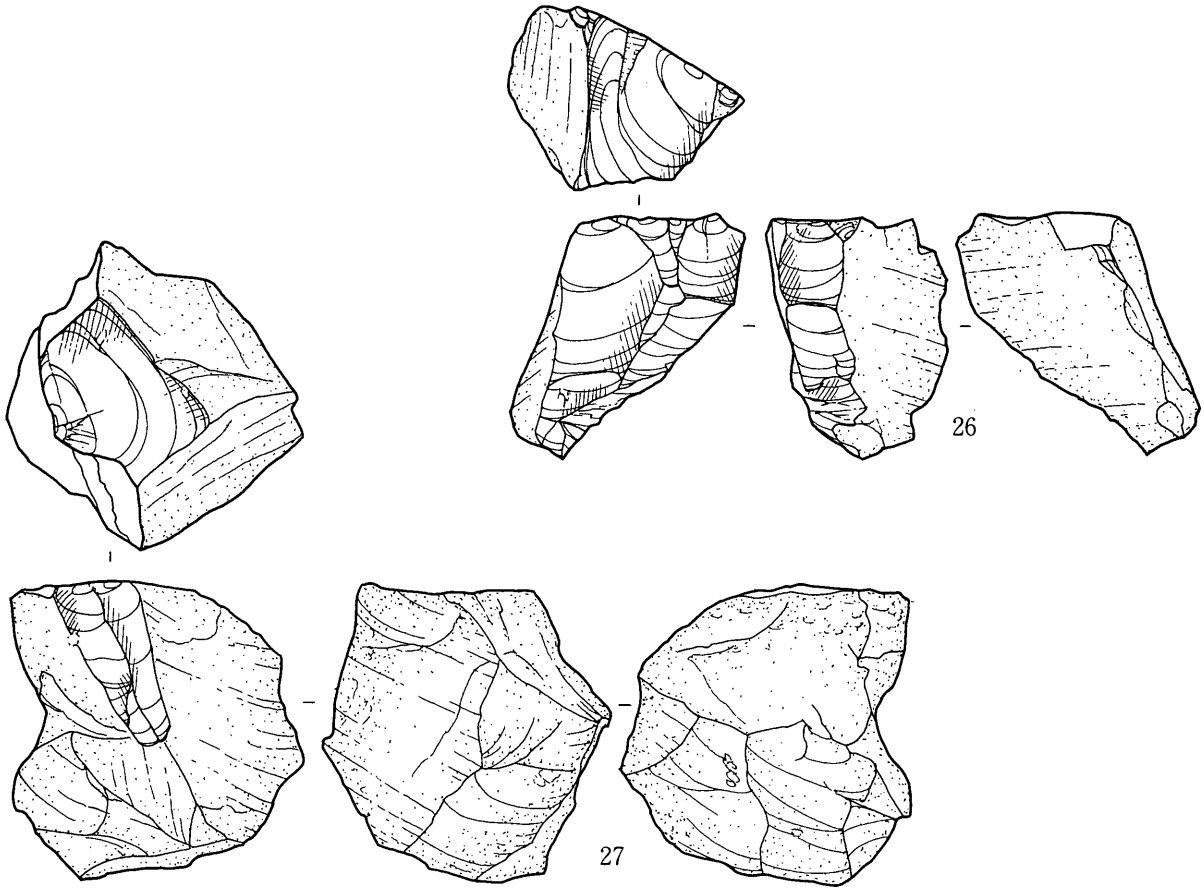
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I		1	1												12		12			26
II						1									29	21	6			57
III			2									1		1	76	21	43			144
IV															24	4	13			41
V															1					1
計		1	3			1						1		1	142	46	74			269

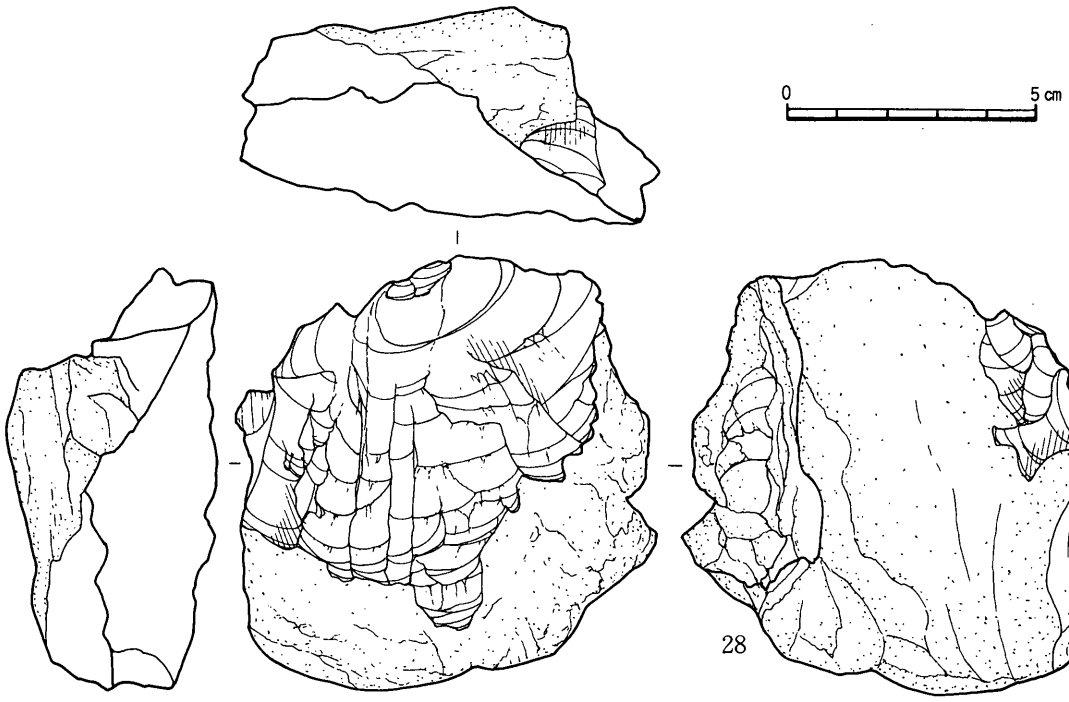


第32図　ホA26出土遺物③　　Ⅱ層（16･17）　Ⅲ層①（18～20）

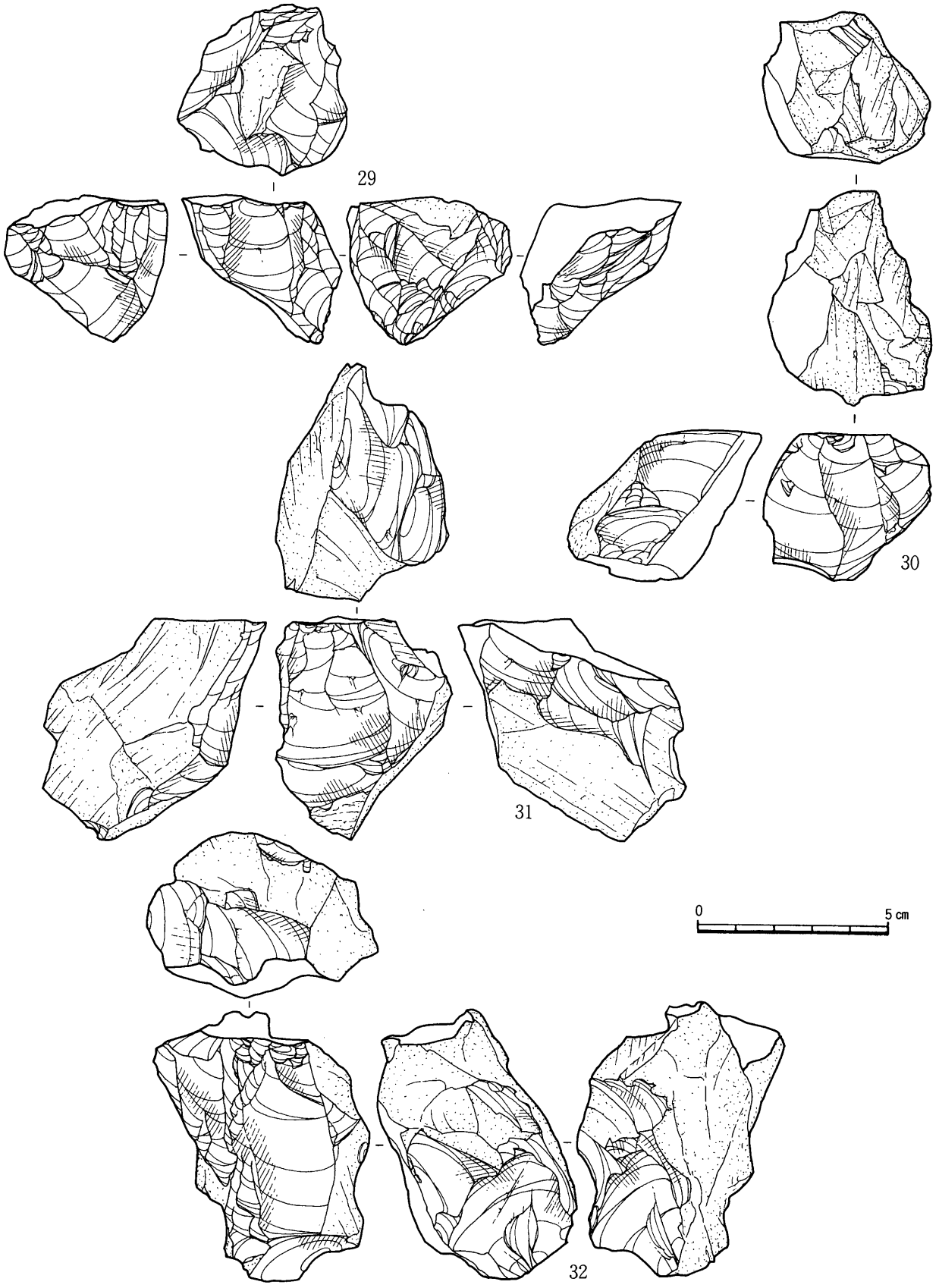


第33図　ホA26出土遺物④　　Ⅲ層②（21～25）

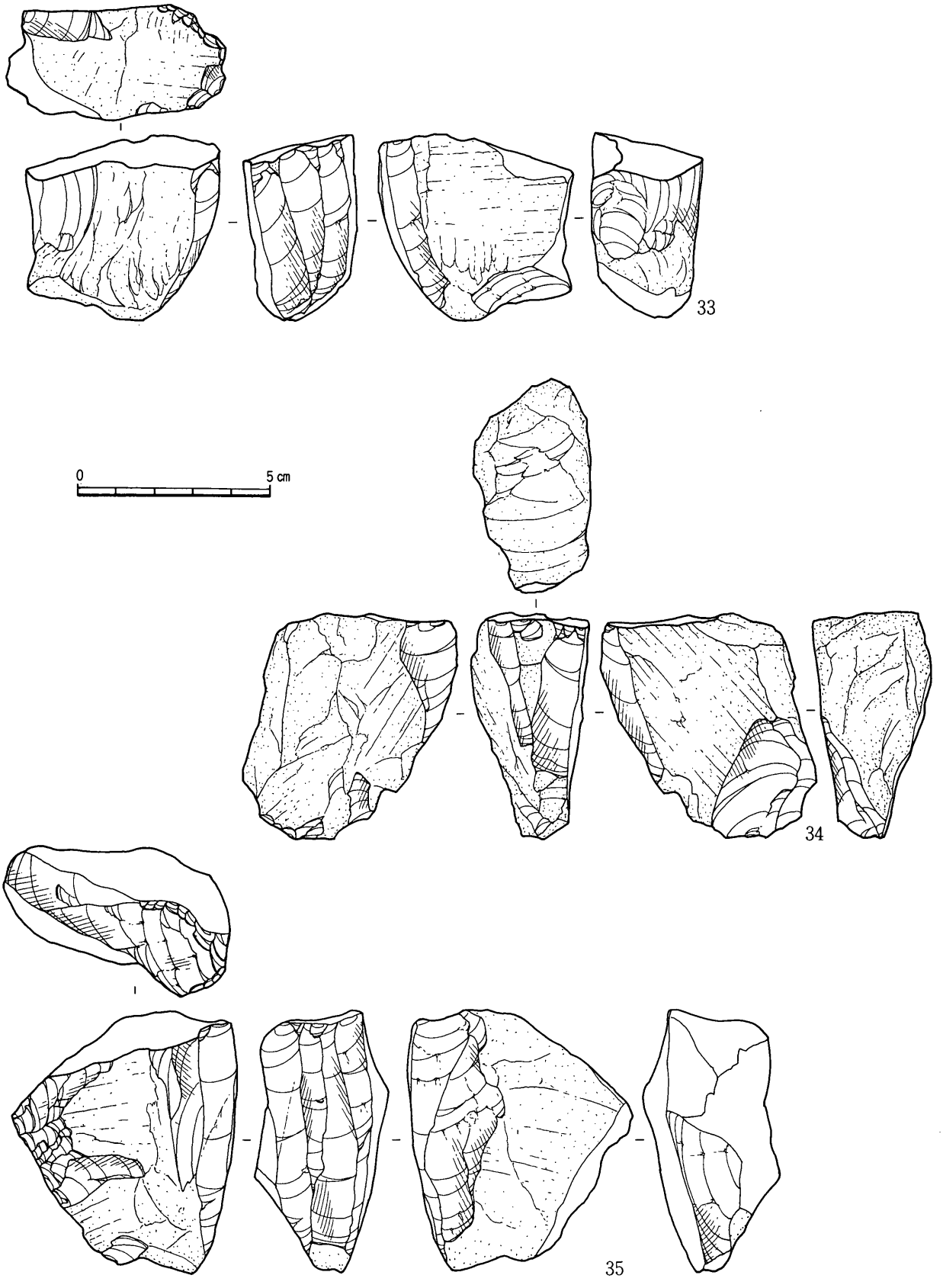




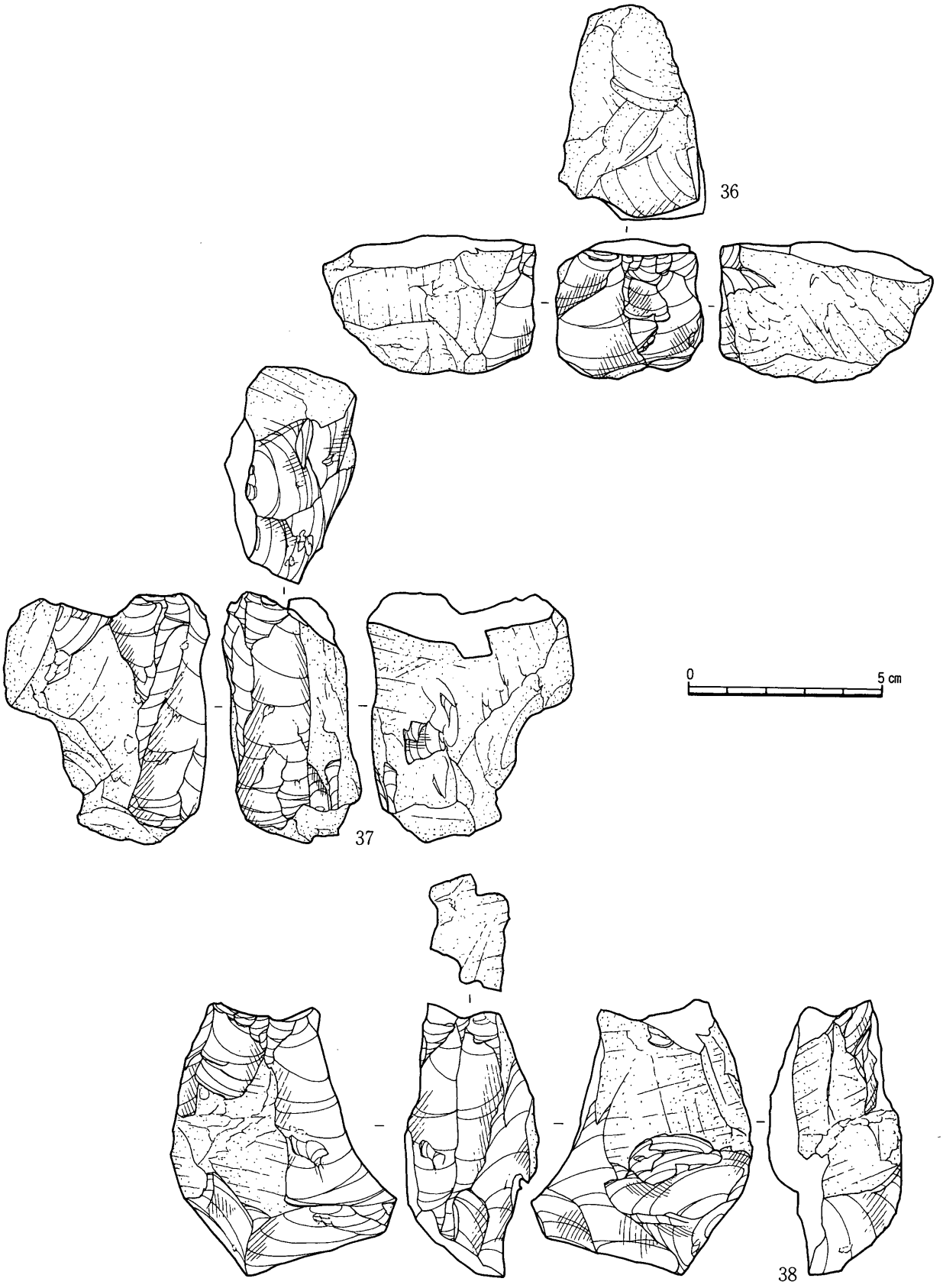
第34図　ホA26出土遺物⑤　　Ⅲ層③（26～28）



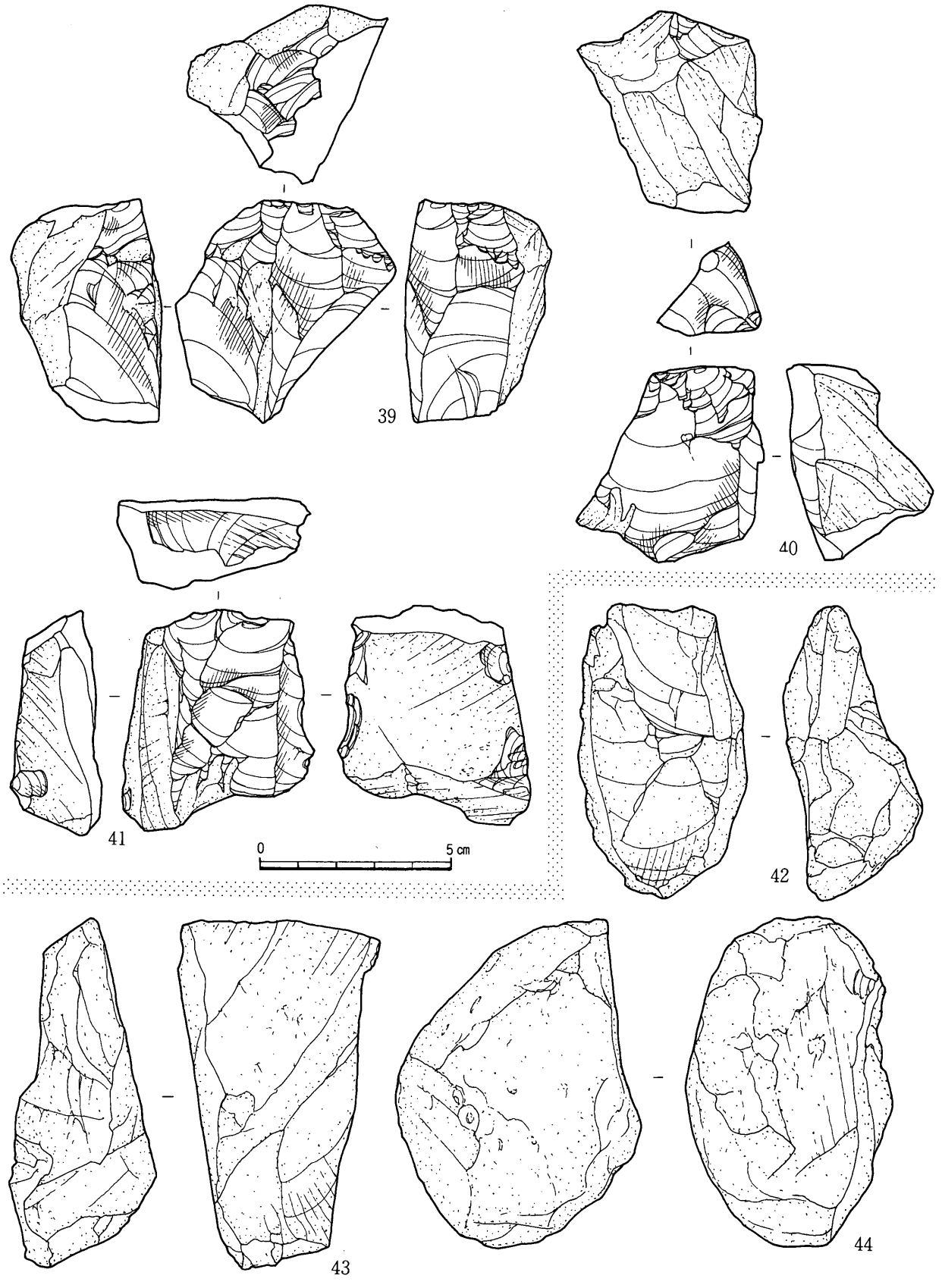
第35図　ホA26出土遺物⑥　　Ⅲ層④（29～32）



第36図　ホA26出土遺物⑦　　Ⅲ層⑤（33～35）

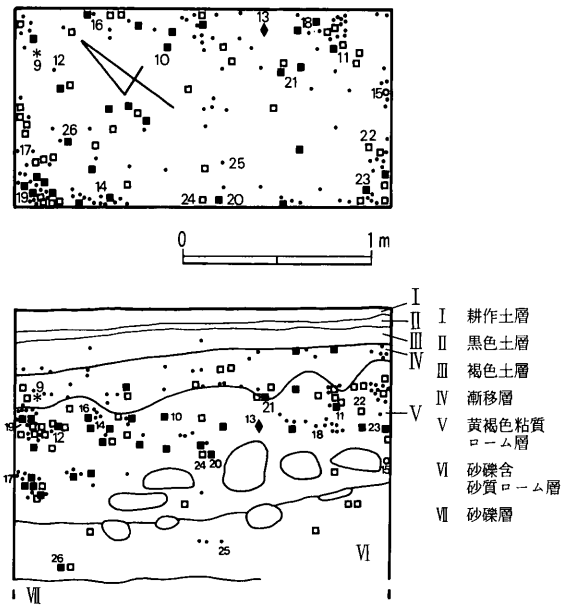


第37図　ホA26出土遺物⑧　　Ⅲ層⑥（36～38）



第38図　ホA26出土遺物⑨　　Ⅲ層⑦（42～44）　Ⅳ層（39～41）

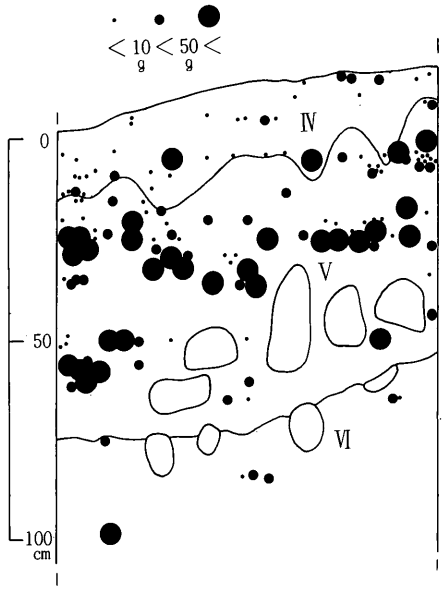
ホ A 27



第39図　ホA27遺物分布図

1. 位　置　ホA27グリッドは、本沢左岸で土屋沢との合流点に設定された（旧J地点そば）。本グリッドでは、2×1mの範囲の調査を実施した。

2. 層　序　その層序は、I層が耕作土層、II層が黒色土層、III層が褐色土層、IV層が漸移層、V層が黄褐色粘質ローム層、VI層が砂礫を含む砂質ローム層、VII層が砂礫層である。



第40図　ホA27重量別遺物分布図

3. 遺　物　本地点においては、I層からVI層下部にかけて遺物の包含が確認されている。そのなかでI層からIII層にかけては一括して遺物を取り上げ、ドット処理しなかった。さて、そこでローム層中の遺物については、その包含のピークをとらえるため、ホA26地点と同様な重量別の遺物の垂直分布図を作成してみた（第40図）。重量のクラスは、10g未満・50g未満・50g以上である。

この図を見ると、特に50g以上の大形遺物が三つのピークをもって存在していることが理解され

第3表　ホA27　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I・II	1	2	1												268	8	34			314
III		1						1							26	1	13			42
IV～VI		1		1			1						1	1	122	30	42			199
計	1	4	1	1			1	1					1	1	416	39	89			555

第41図　ホA27完掘地層

る。Ⅳ層下部とⅤ層中部・Ⅴ層下部の三か所である。よってその文化層が３枚に分離される可能性も考慮されよう。ただ、時期の示準となる遺物が混在しているうえ、遺物の接合・個体別分類等が進展せず、また狭い面積の調査であることもあいまって、遺物の個々については文化層の分離の判断が困難であった。したがってホA26地点と同様遺物についてはとりあえずは文化層の分離の考慮を反映させず、各層位毎に一括して扱った。

なお、遺物の平面分布（第39図）については、若干の偏在はみてとれそうである。

出土石器は、555点あり、各層位ごとの内訳は第３表に示してある。

Ⅰ層　第42図１は黒耀石の男女倉型尖頭器であるが全体にラフな状態の加工が見受けられるため未成品である可能性が考えられる。２は黒耀石のナイフ形石器(？)、３は安山岩の剝片である。

Ⅱ層　４は黒耀石の削器、６は安山岩の剝片である。５は、男女倉型尖頭器（筆者は報告の統一呼称に則ってこの呼称を用いる）であるが、右肩がくの字状にカーブし左右非対称な器形をみせている。むしろ筆者の言う「東内野型有樋尖頭器」(堤1989) の範疇で理解されるものであろう。このタイプの尖頭器の出土は、男女倉遺跡群では初見である。その素材はガラス質安山岩であり、他からの搬入品とみられる。

Ⅲ層　第42図７は黒耀石の尖頭器で片面に自然面を残している。８はガラス質安山岩の剝片である。

Ⅳ層　第43図９は黒耀石の稜柱形細石刃石核である。

Ⅴ層　第43図10・11は石核で、10は黒耀石、11はチャートを素材としている。12は加工痕を有するガラス質安山岩の剝片である。13は黒耀石の男女倉型尖頭器で、下半部を欠損する。樋状剝離は左肩に入れられ、右の調整剝離がそれを切っている。14は黒耀石の男女倉型尖頭器の削片、15は黒耀石の掻器である。16・17は背面に自然面を残す縦長剝片である。

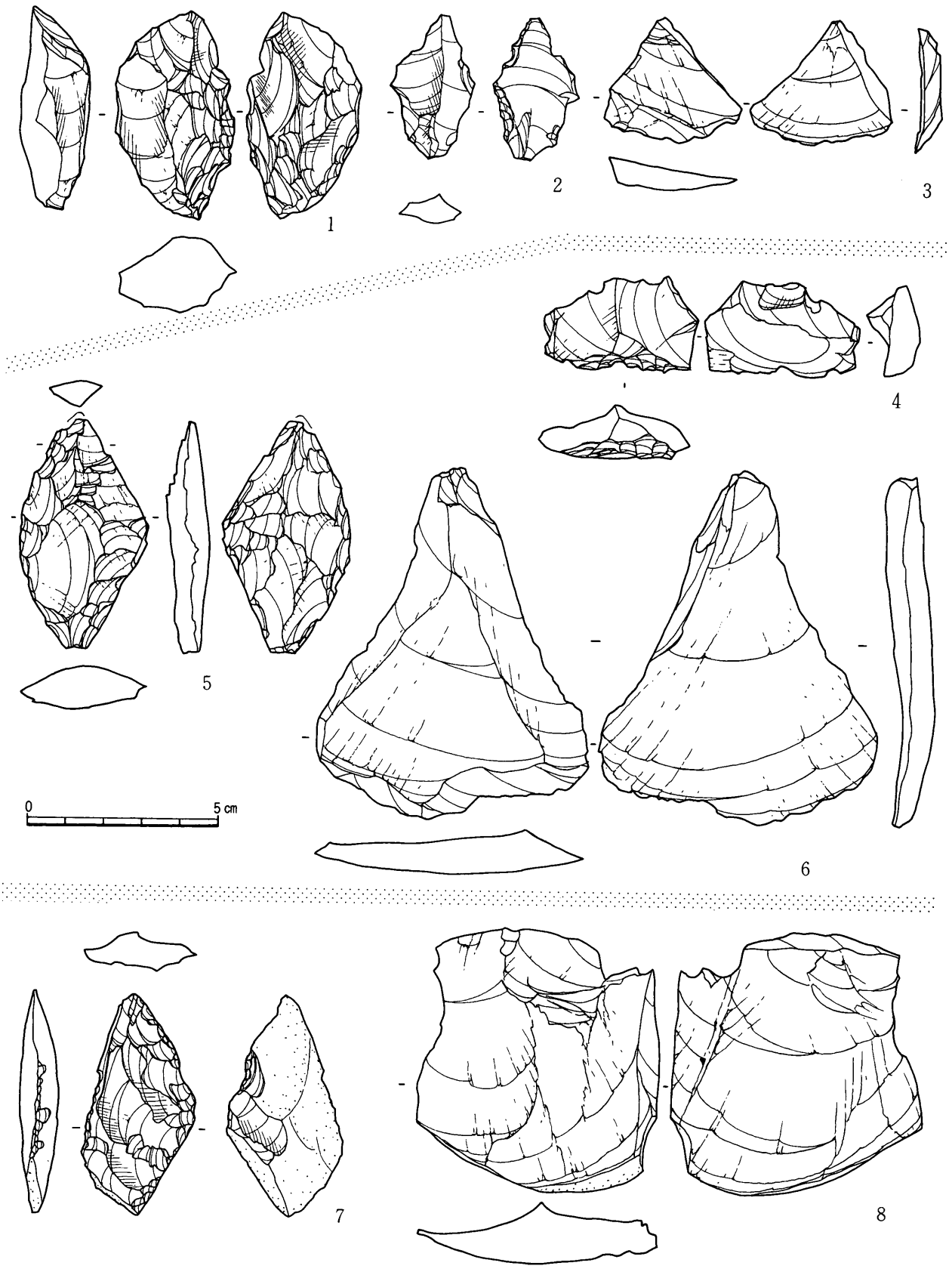
第44図18～23は石核である。５～７㎝前後の黒耀石の亜角礫もしくは円礫を素材としている。打面は自然打面のものが多い。

第44図24は小形の原石である。

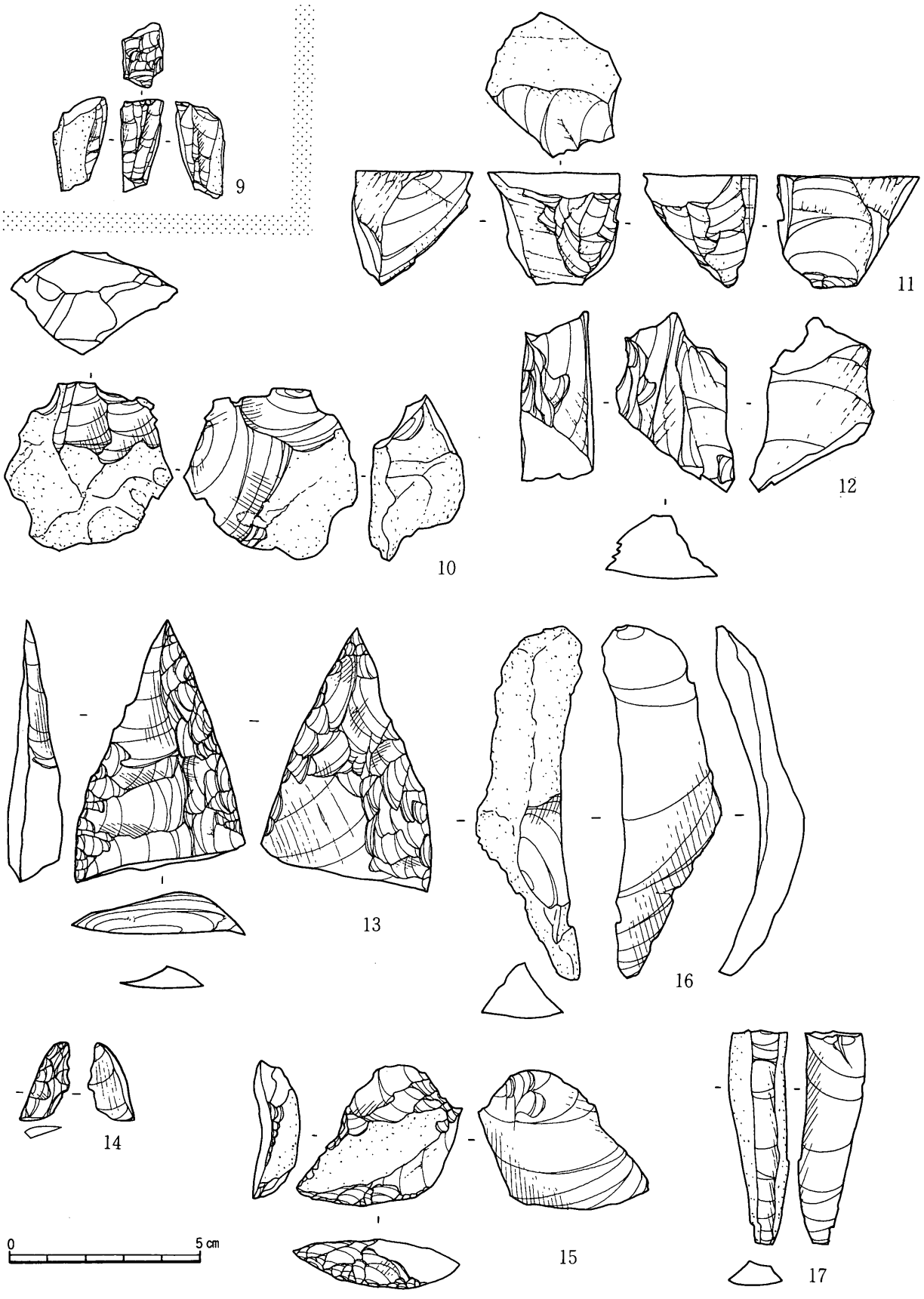
Ⅵ層　第44図25は背面に自然面を残す縦長剝片、26は加工痕を有する剝片である。いずれも黒耀石。

さて、さきには大形遺物が三つのピークをもって存在していることがとらえられた。ここで層位ごとにみた指標遺物を検討してみると、ことにⅣ層までは、細石刃石核と尖頭器との層位的逆転などの現象もみられ、小形遺物にあってはプライマリーな層準を保ちえていないことが予測されよう。

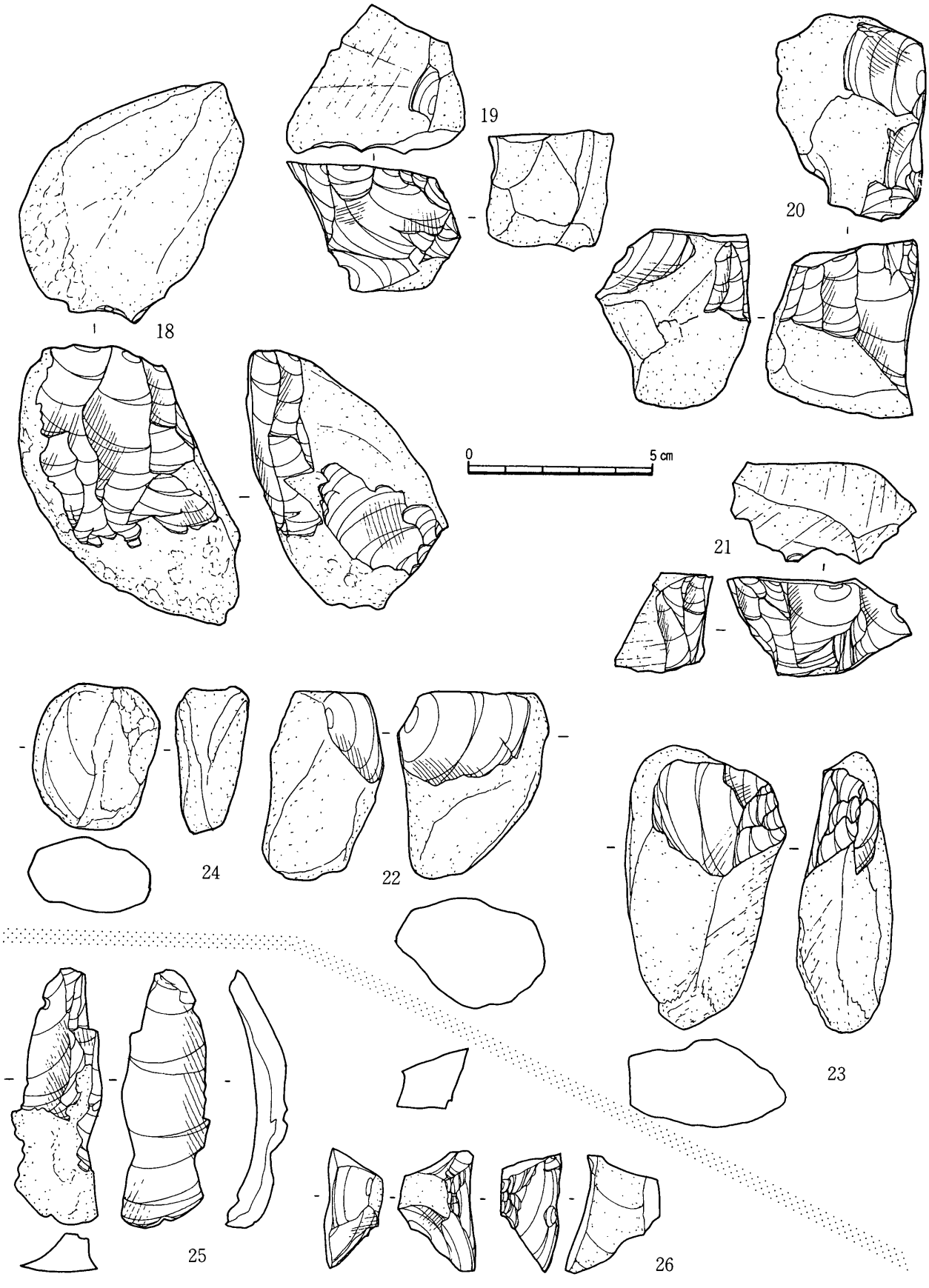
（堤　隆）



第42図　ホA27出土遺物①　　Ⅰ層（1～3）　Ⅱ層（4～6）　Ⅲ層（7・8）

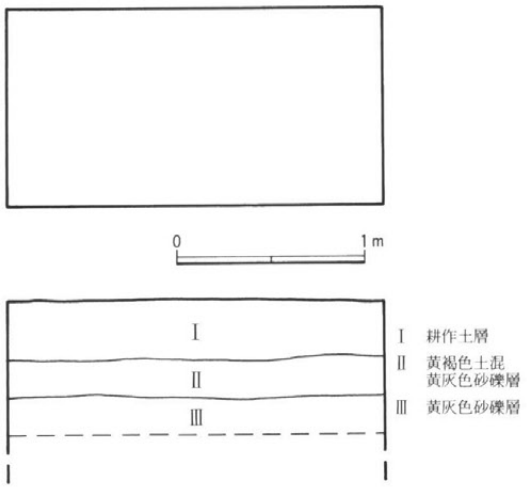


第43図　ホA27出土遺物②　　Ⅳ層（9）　Ⅴ層①（10～17）



第44図　ホA27出土遺物③　　Ⅴ層②（18～24）　Ⅵ層（25・26）

ホ　B　28



第45図　ホB28調査グリッド図

1. 位　置　ホB28グリッドは、本沢右岸のブドウ沢との合流点の段丘に設定された。本グリッドでは、2×1mの範囲の調査を実施した。

2. 層　序　その層序は、I層が耕作土層、II層が黄褐色土を含む黄灰色砂礫層、III層が黄灰色砂礫層である。

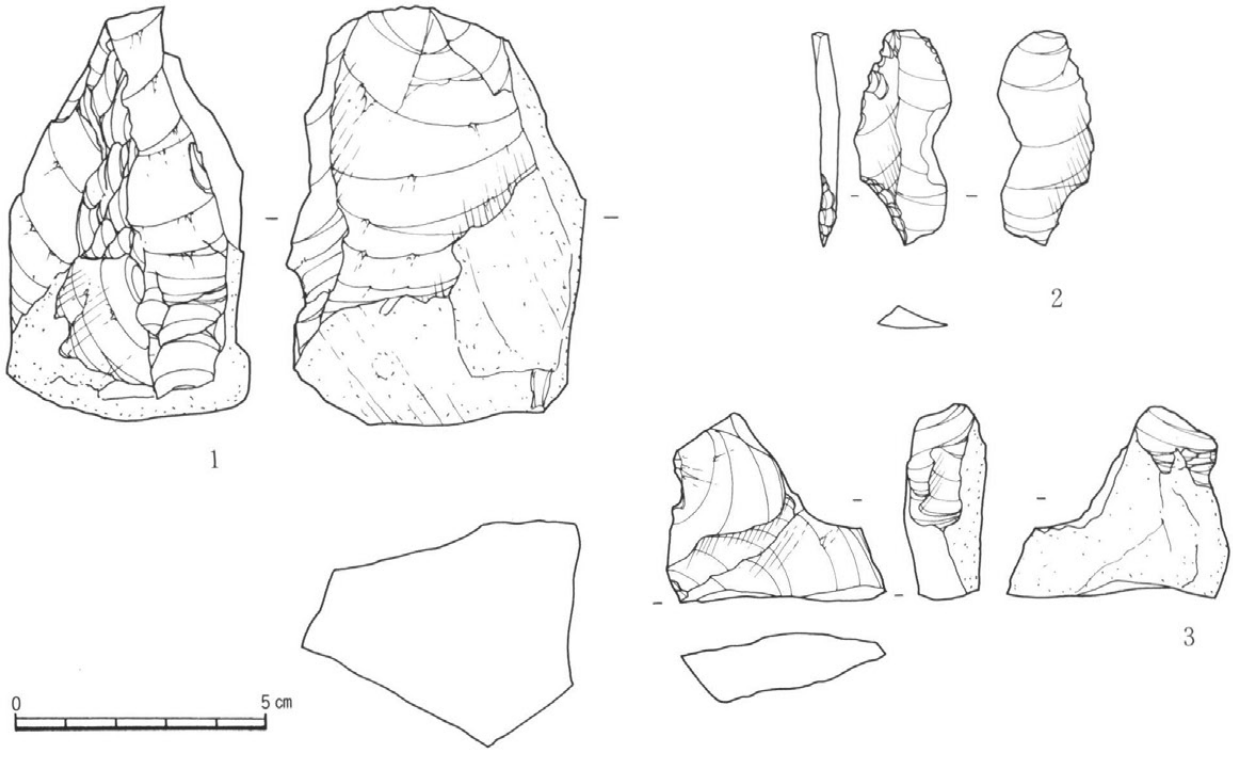
3. 遺　物

遺物はI・II層まで出土している。

出土石器は、26点ある。

I層　第47図1は黒耀石の石核である。2は黒耀石のナイフ形石

第46図　ホB28試掘坑



第47図　ホB28出土遺物（1～3）

第4表　ホB28　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
I	1														4	1	19			25
II																1				1
計	1														4	2	19			26

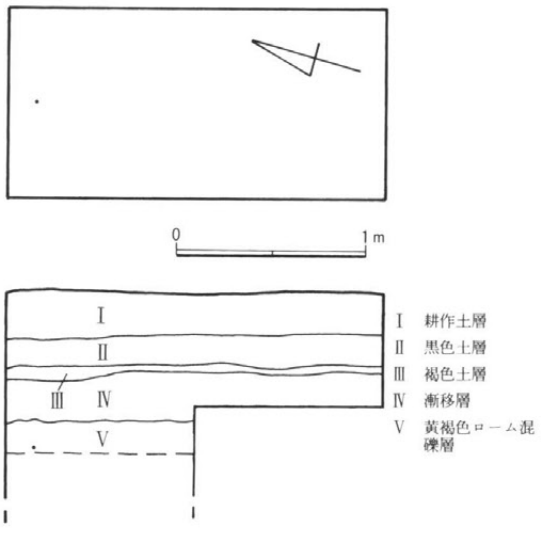
器である。

Ⅱ層　3は黒耀石の石核である。　（堤　隆）

ホ　B　29

1.　位　置　ホB29グリッドは、本沢右岸の B_1 段丘上に設定された。本グリッドでは、2×1mの範囲の調査を実施した。

2.　層　序　その層序は、Ⅰ層が耕作土層、Ⅱ層が黒色土層、Ⅲ層が褐色土層、Ⅳ層が漸移層、Ⅴ層が黄褐色ローム混じりの礫層である。



第48図　ホB29調査グリッド図

3.　遺　物　Ⅰ～Ⅴ層まで出土している。

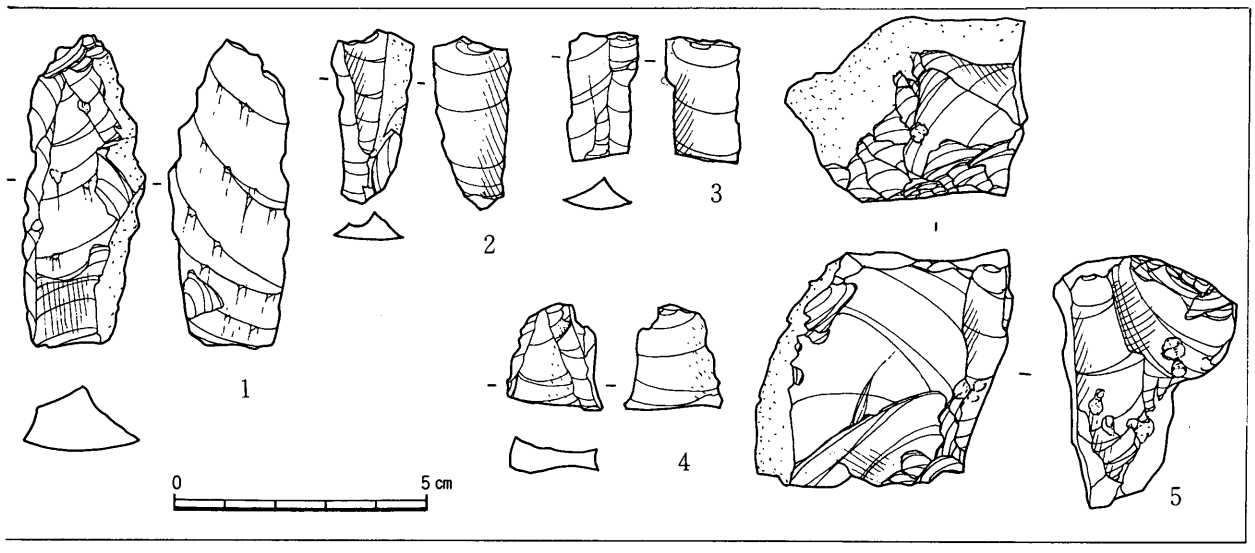
出土石器は、134点ある。

Ⅱ層　第50図1～3は黒耀石の剝片、4は頁岩の剝片で、いずれも折損している。5は黒耀石の石核である。　（堤　隆）

第49図　ホB29完掘状況

第５表　ホB29　出土遺物層位別一覧表

器種 ・ 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I															19	4	103			126
II												1			5	1				7
III～V															1					1
計												1			25	5	103			134



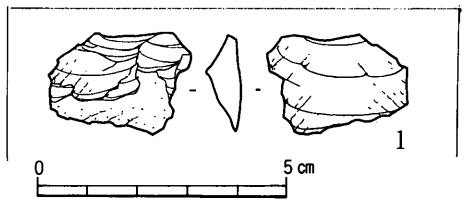
第50図　ホB29出土遺物（１～５）

ホ　B　３０

1.　位　置　ホB30グリッドは、本沢右岸の B_1 段丘上のハウスわきに設定された。本グリッドでは、２×１ｍの範囲の調査を実施した。

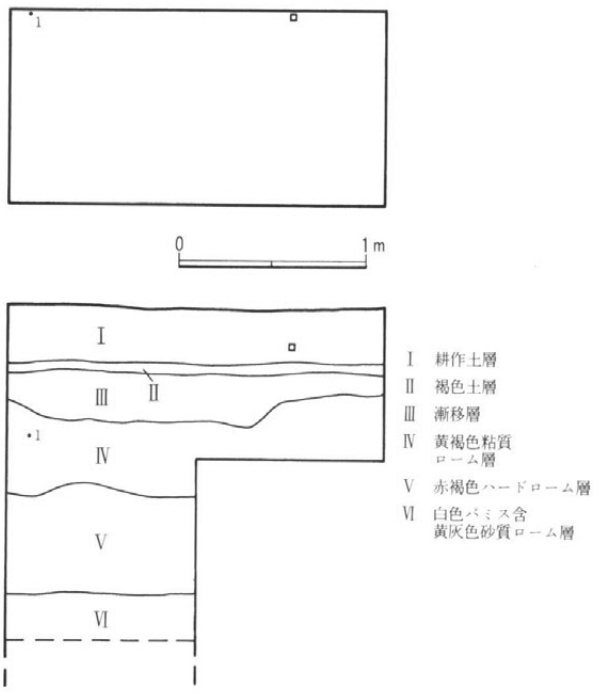
2.　層　序　その層序はⅠ層が耕作土層、Ⅱ層が褐色土層、Ⅲ層が漸移層、Ⅳ層が黄褐色粘質ローム層、Ⅴ層が赤褐色ハードローム層、Ⅵ層は白色パミスを含む黄灰色砂質ローム層である。

3.　遺　物　出土石器は、19点ある。

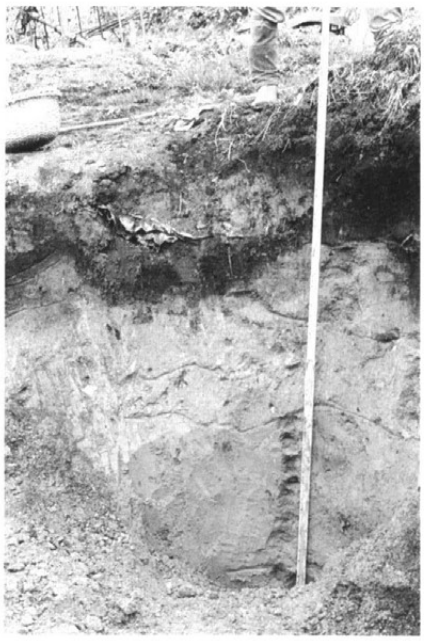


第51図　ホB30出土遺物

第51図１はⅣ層出土のガラス質安山岩の剥片である。　（堤　隆）



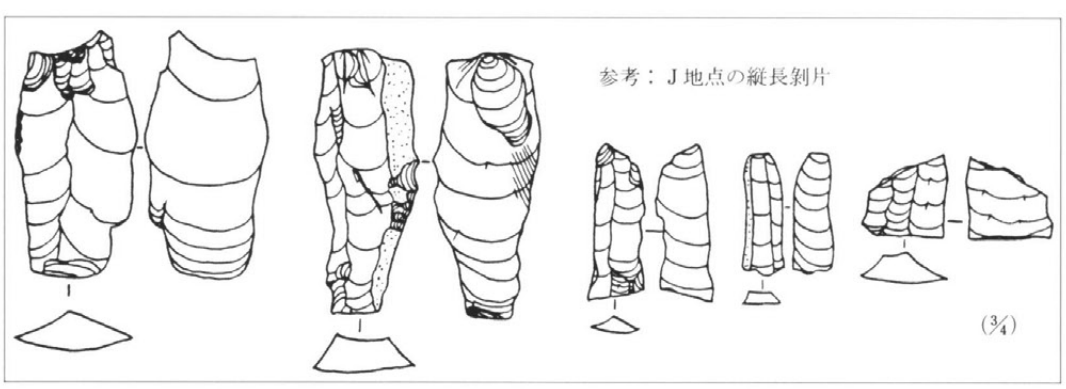
第52図　ホB30遺物分布図



第53図　ホB30地層断面

第6表　ホB30　出土遺物層位別一覧表

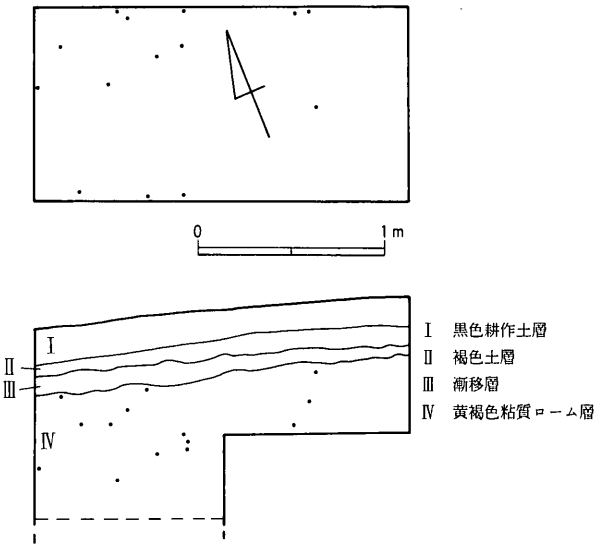
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I															16		2			18
IV															1					1
計															17		2			19



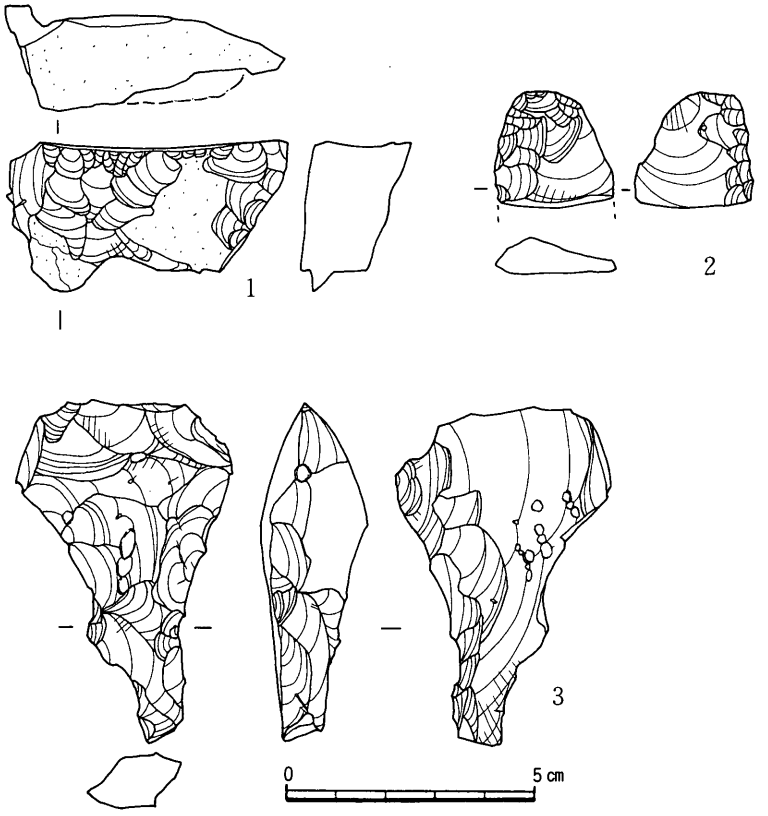
2. ブドウ沢地区

ブ B 09

1. 位　置　ブドウ沢右岸　標高1,280m
2. 層　位　Ⅰ層　黒色耕作土　層厚約15cm
   Ⅱ層　褐色土　層厚約5～10cm
   Ⅲ層　漸移層　層厚約5～10cm
   Ⅳ層　黄褐色粘質ローム　層厚65cm～
3. 遺　物　本試掘坑から総数37点の遺物が出土している。層位別にその内訳をみるとⅠ～Ⅲ層からは槍先形尖頭器1点、石核2点、剝片5点、原石（ズリ石）9点が、Ⅳ層からは剝片14点、原石(ズリ石)6点が出土した。最深遺物はローム層中45cm。　（森山公一）



第54図　ブB09遺物分布図



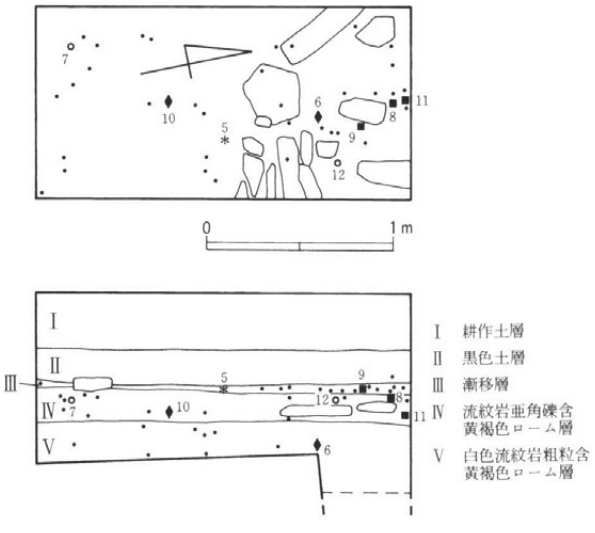
第55図　ブB09出土遺物

第７表　ブB09　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ～Ⅲ		1													20	2	9			32
Ⅳ															14		6			20
計		1													34	2	15			52

第56図　ブB09地層断面

ブ　B　10



第57図　ブB10遺物分布図

1.　位　置　ブドウ沢右岸　標高1,275m

2.　層　位　Ⅰ層　耕作土　層厚約30cm

Ⅱ層　黒色土　層厚約20cm

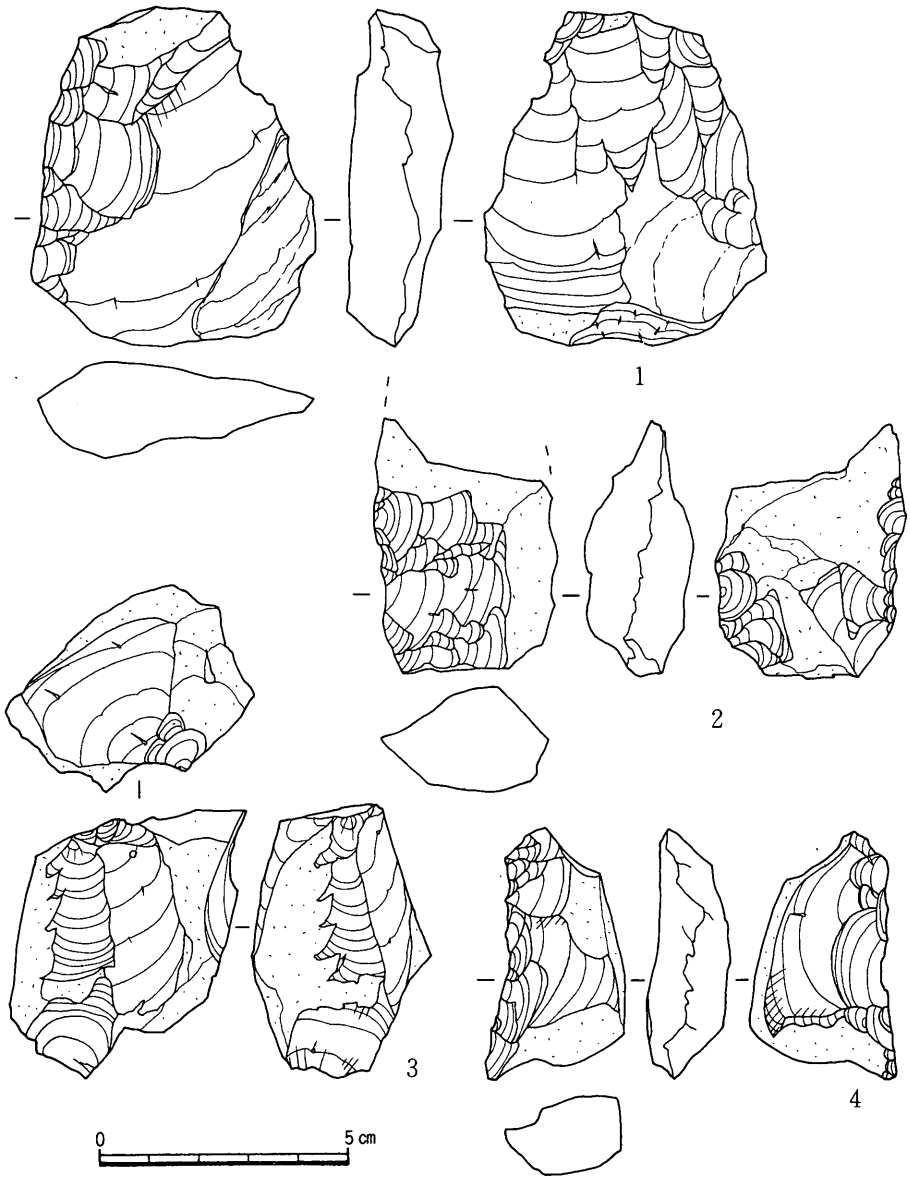
Ⅲ層　漸移層　Ⅱ層によって撹乱を受けているようであまり明確でない。層厚約５cm

Ⅳ層　黄褐色ローム　流紋岩の亜角礫を含む、層厚20cm

Ⅴ層　黄褐色ローム　白色流紋岩粗粒を多量に含む。層厚47cm～

3.　遺　物　Ⅵ層以下の遺物の分布状況は、試掘坑北半部では上部に比較的集中している。一方南半部ではⅣ層からⅤ層にかけて散漫に分布する。最深遺物はローム層中約35cm。

Ⅰ～Ⅲ層中からは楔形石器３点、石核２点、剥片39点、ハンマー１点、原石15点の計60点が出土した。ハンマーは安山岩製で、上下両端に敲打痕が認められる(第59図５)。Ⅳ・Ⅴ層からは槍先形尖頭器未成品２点、掻器１点、小剥離痕のある剥片１点、石核３点、剥片40点、原石２点の計49点



第58図　ブB10出土遺物①　　Ⅱ層（1～4）

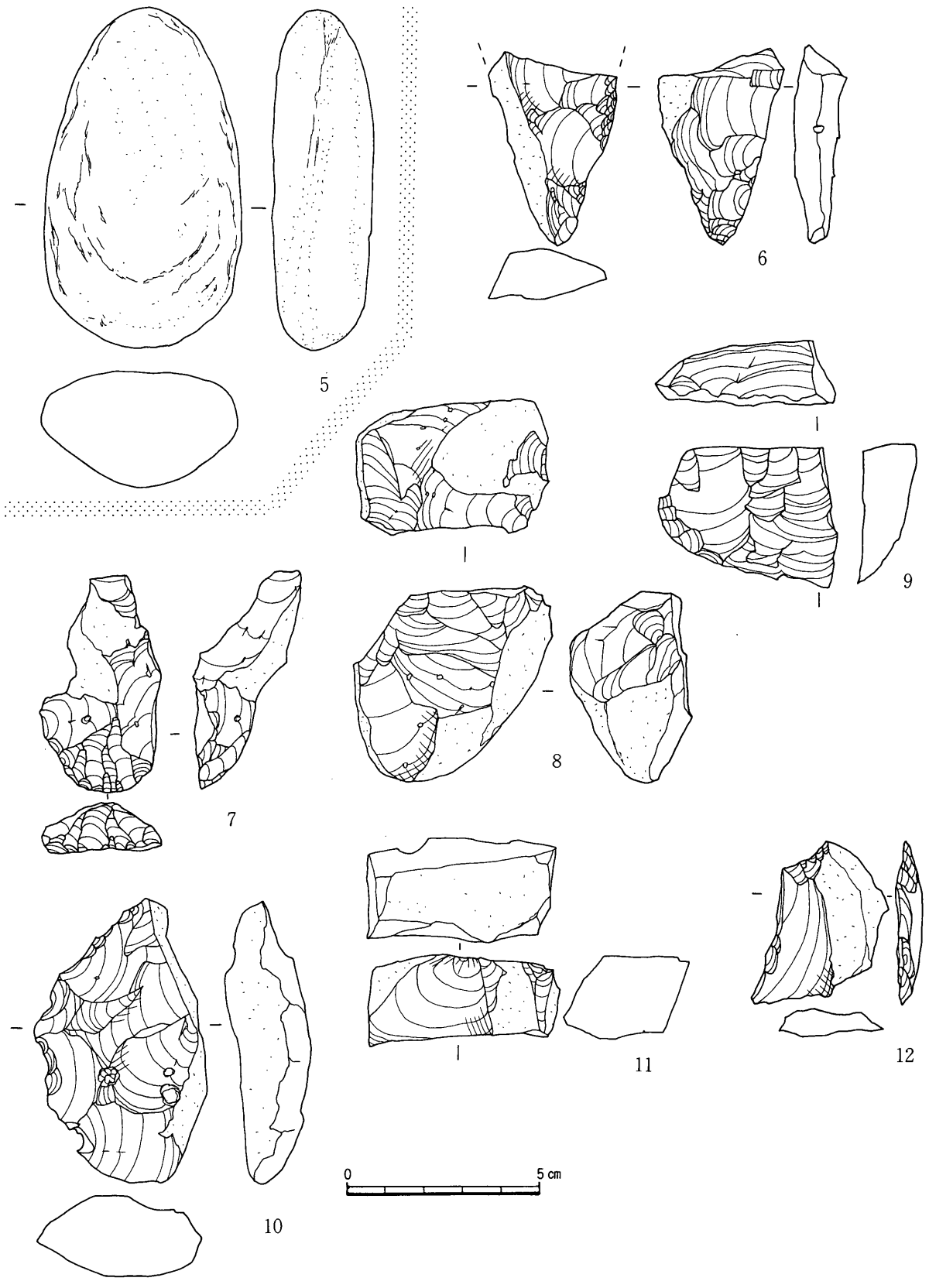
が出土した。いずれも黒耀石製である。

第59図6・10は槍先形尖頭器未成品、7は掻器に分類したが楔形石器の破片とも考えられる。8は石核であるが、自然面のあり方からみてあまり剝片は取られたようではなく、楔形石器の初期段階のものともみられる。

（森山公一）

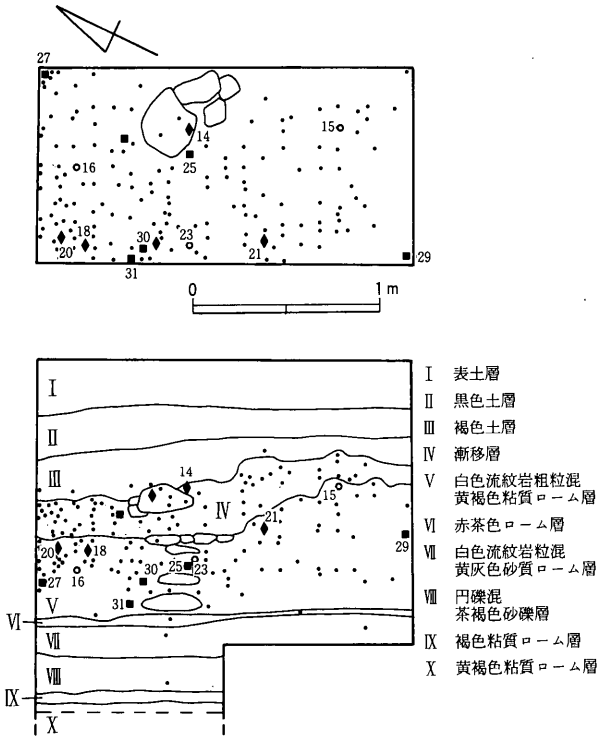
第8表　ブB10　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ～Ⅲ								3	1						39	2	15			60
Ⅳ・Ⅴ		2		1									1		40	3	2			49
計		2		1				3	1				1		79	5	17			109



第59図　ブB10出土遺物②　　Ⅲ層（5）　Ⅳ・Ⅴ層（6～10）

ブ　B　11



第60図　ブB11遺物分布図

1. 位　置　ブドウ沢右岸　標高1,250m
2. 層　位　Ⅰ層　表　土　層厚約30cm
   Ⅱ層　黒色土　層厚約20cm
   Ⅲ層　褐色土　層厚約30cm
   Ⅳ層　漸移層　層厚約15cm
   Ⅴ層　黄褐色粘質ローム　白色流紋岩粗粒を多量に含む。層厚約50cm
   Ⅵ層　赤茶色ローム　層厚約5cm
   Ⅶ層　黄灰色砂質ローム　白色流紋岩粒を多量に含む。層厚約10cm
   Ⅷ層　茶褐色砂礫層　円礫を多量に含む。層厚約20cm
   Ⅸ層　褐色粘質ローム　層厚約5cm
   Ⅹ層　黄褐色粘質ローム　層厚5cm～
3. 遺　物　本試掘坑では、Ⅱ層からⅧ層にかけて535点という多量の遺物の出土をみた。特筆すべきは、東壁よりⅣ層最上部において、赤化した安山岩の礫がまとまって出土しており何らかの遺構と考えられる。礫の下部は漸移層の中

第9表　ブB11　出土遺物層位別一覧表

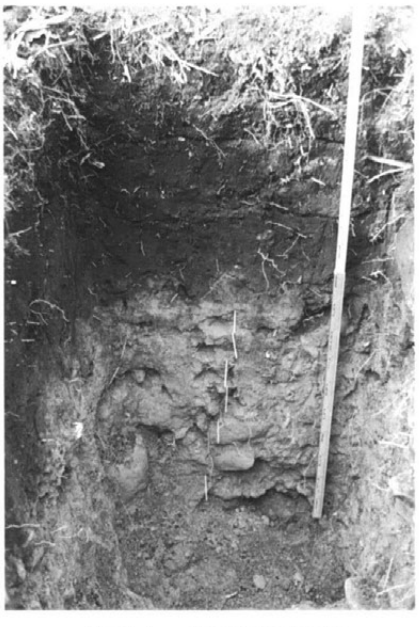
器種／層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II		1		1								4		1	200	3	2			212
III					1			1							31	3	1			37
IV		4						1							148	2	2			157
V		6	1	1									1		89	8	10			116
VI															2	5	1			8
VII															2		1			3
VIII															1		1			2
計		11	1	2	1			2				4	1	1	473	21	18			535

でも比較的しっかりしたロームに食い込むように出土しており、旧石器時代の所産である可能性は非常に高い。また遺物もこのⅣ層が一番多い。最深遺物はローム層中約80cmであった。

535点の出土遺物のうち、Ⅳ層以下から出土した遺物は286点で、その内訳は槍先形尖頭器５点、槍先形尖頭器未成品２点、両面加工体未成品３点、掻器１点、楔形石器１点、小剥離痕のある剥片１点、スポール１点、石核15点、剥片242点、原石15点であった。第64～66図に示した。　　（森山公一）

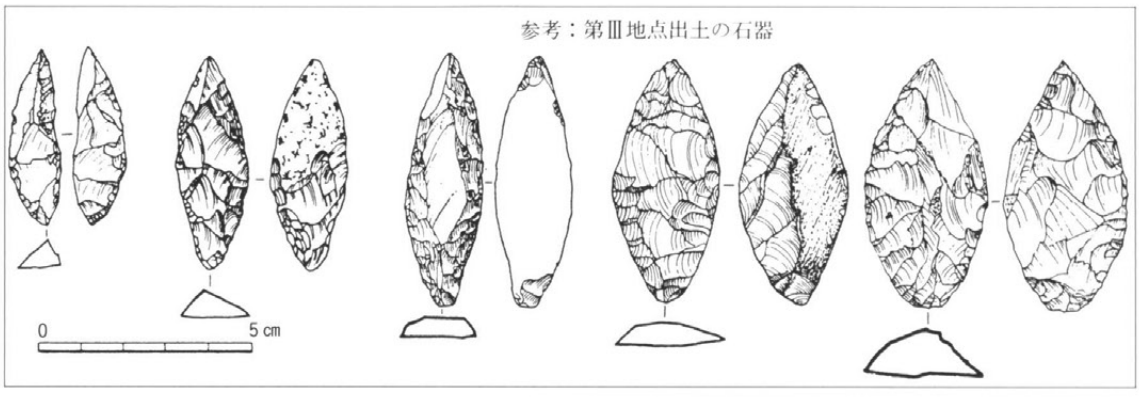
第61図　ブB11調査地点

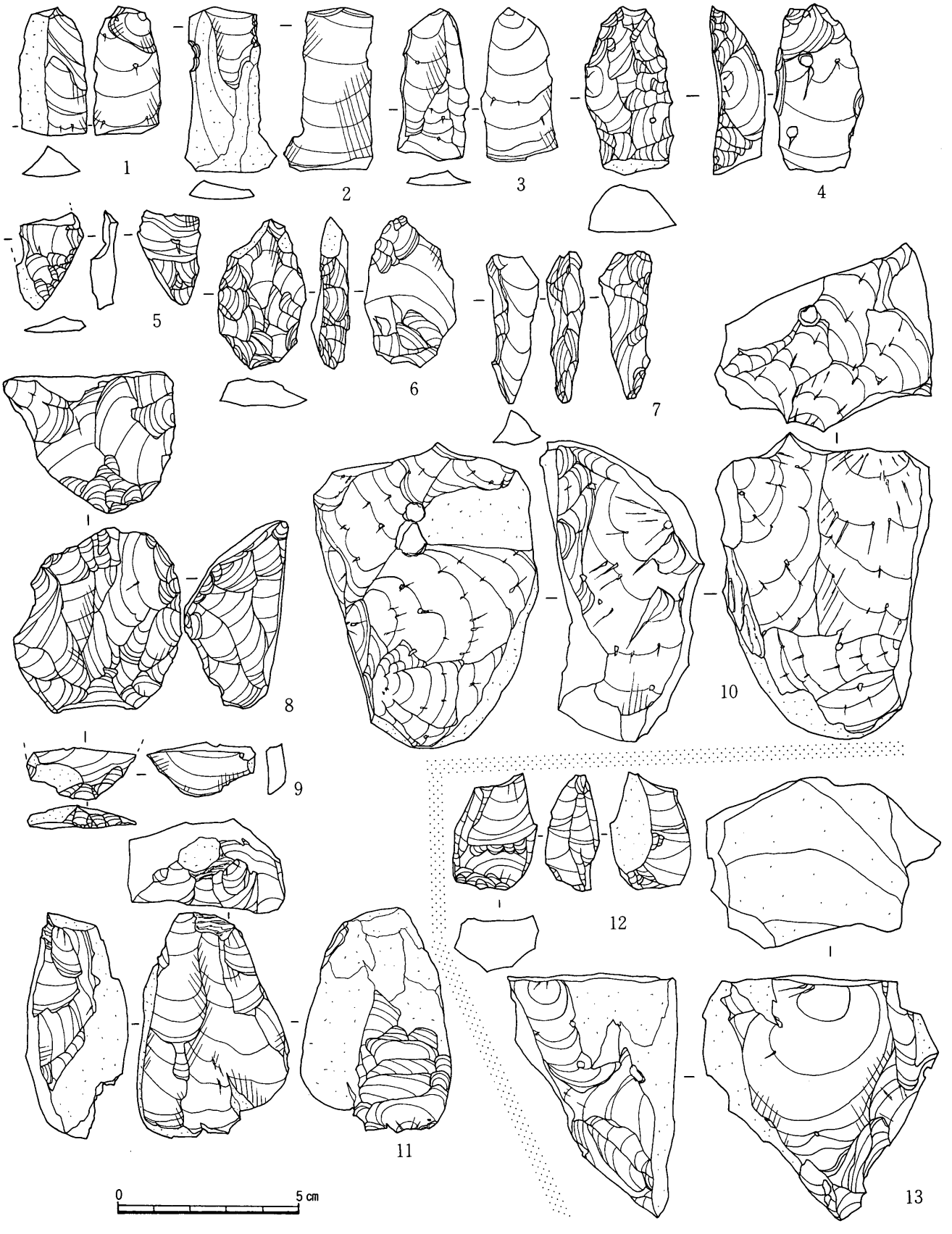
第62図　ブB11調査状況



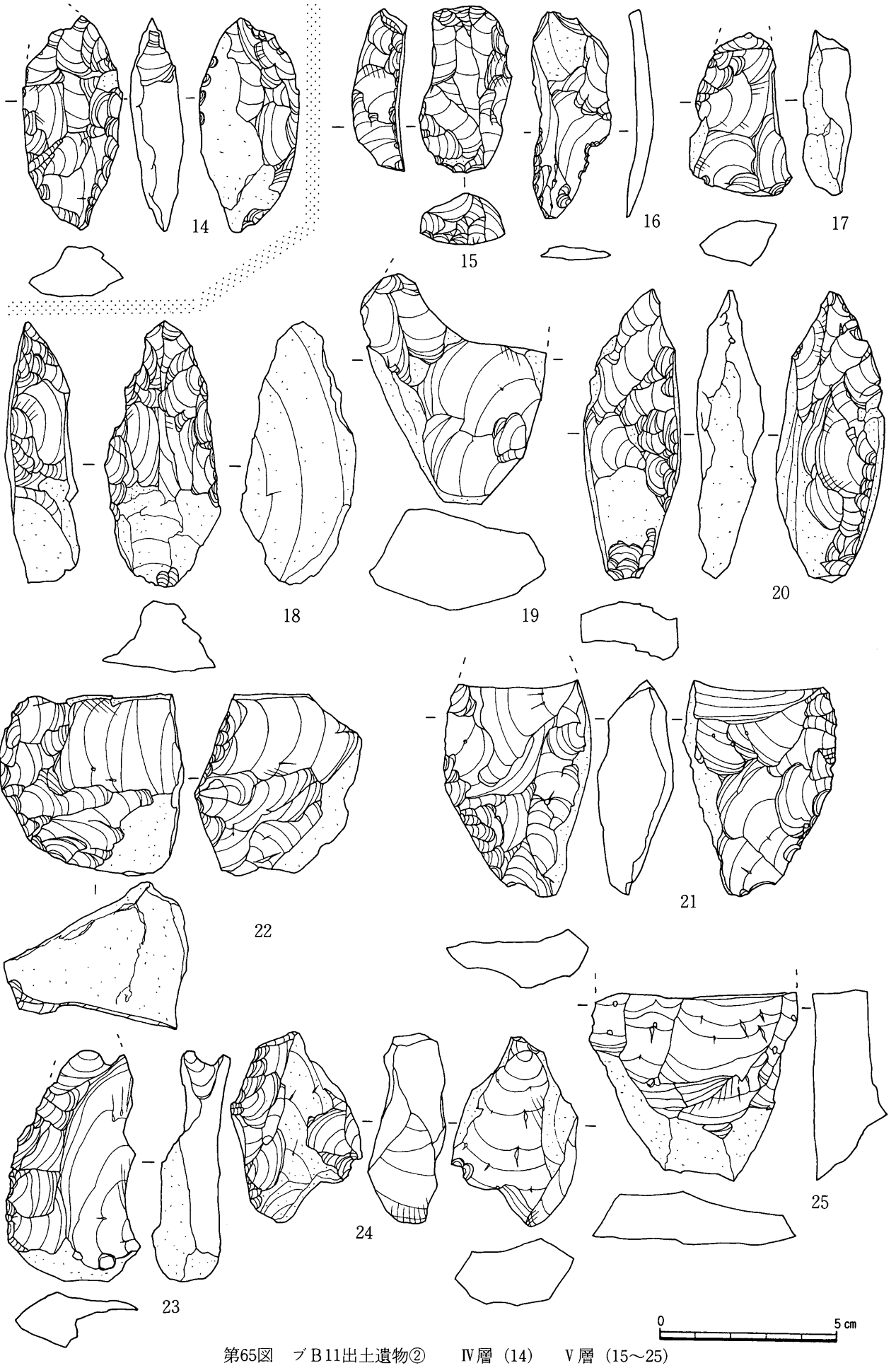
第63図　ブB11完掘状況

参考：第Ⅲ地点出土の石器

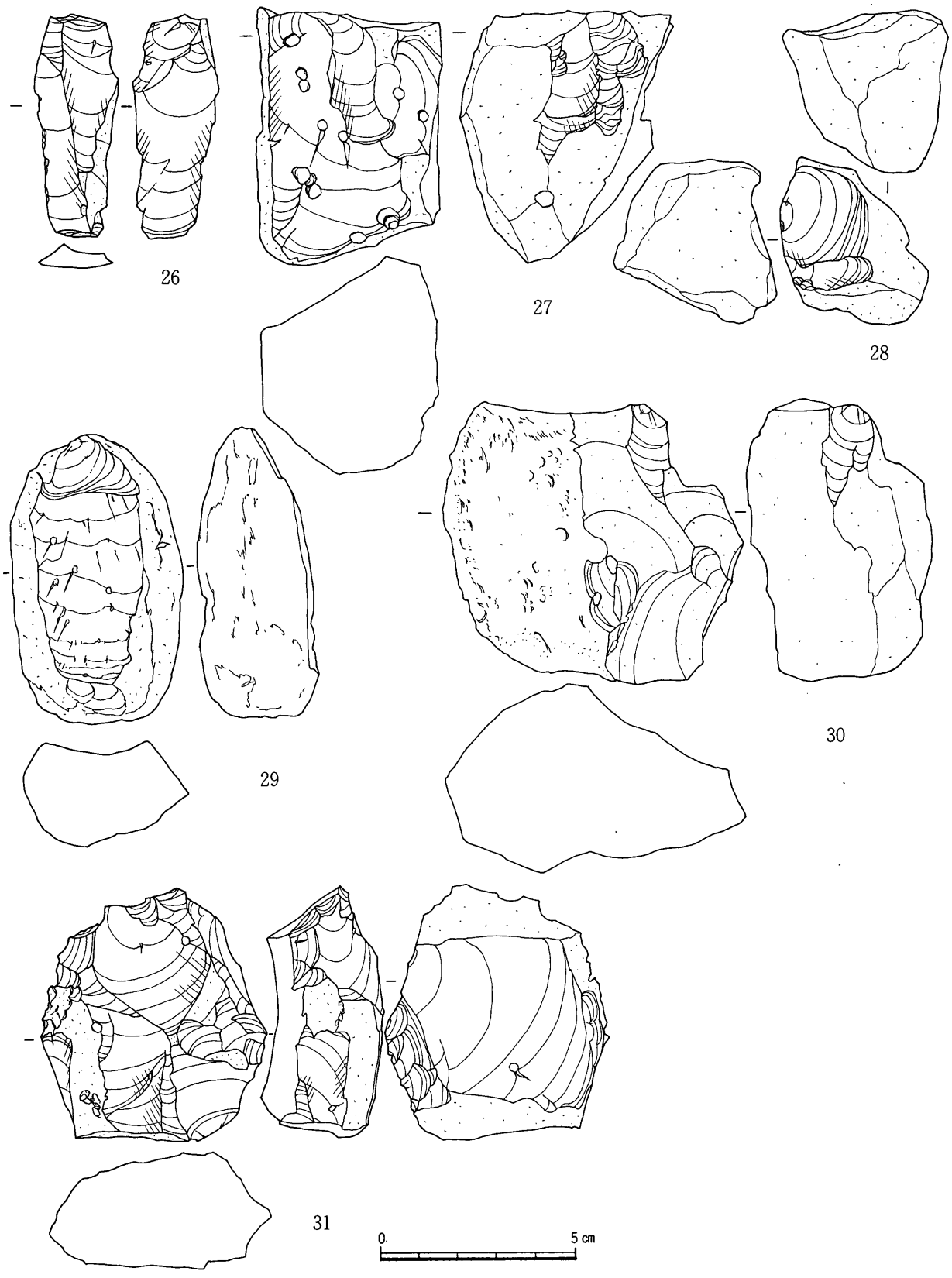




第64図　ブB11出土遺物①　　Ⅱ層（1～11）　Ⅲ層（12・13）



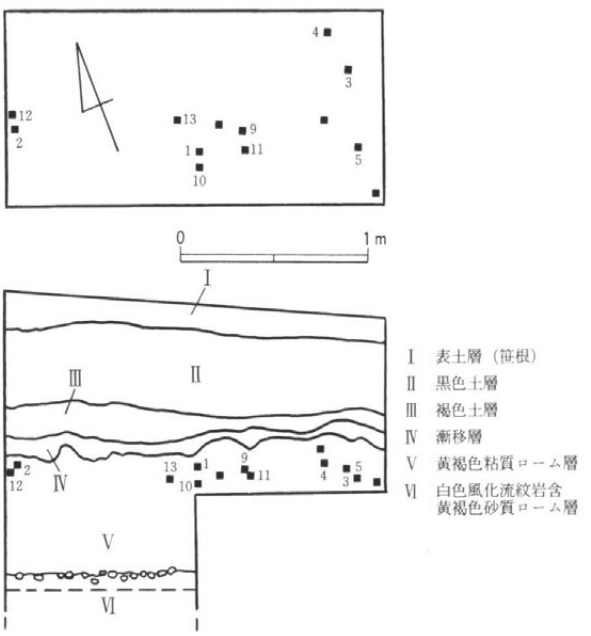
第65図　ブB11出土遺物②　　Ⅳ層（14）　Ⅴ層（15～25）



第66図　ブB11出土遺物③　　V層（26～31）

3. 土屋沢地区

ツ A 02



第67図　ツA02遺物分布図

1. 位　置　ツA02グリッドは、土屋沢左岸の段丘上に設定された。本グリッドでは、標高1,255mの雑木林中に2×1mの範囲の調査を実施した。

2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が笹根の入る表土、Ⅱ層が黒色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が漸移層、Ⅴ層が黄褐色粘質ローム層、Ⅵ層が白色風化流紋岩粒を大量混入する、黄褐色砂質ローム層である。

第68図　ツA02試掘坑

3. 遺　物　遺物はⅤ層でのみ出土している。Ⅰ～Ⅳ層からの遺物はみられず、Ⅴ層中位に並ぶようにして大形の石核が検出された。

出土石器は14点で、13点が石核である。

Ⅴ層　第69・70図1～13は石核である。いずれも7～8cm前後の黒耀石の板状角礫を素材としている。打面は、平坦な自然面をもつものは、そのまま利用し打面としているものが多い（1～5・7・10・12）。単一の剝離面打面をみせるのは、9・13の2点。打面調整が認められるのは6・8・11の3点と少ない。稜形成をし

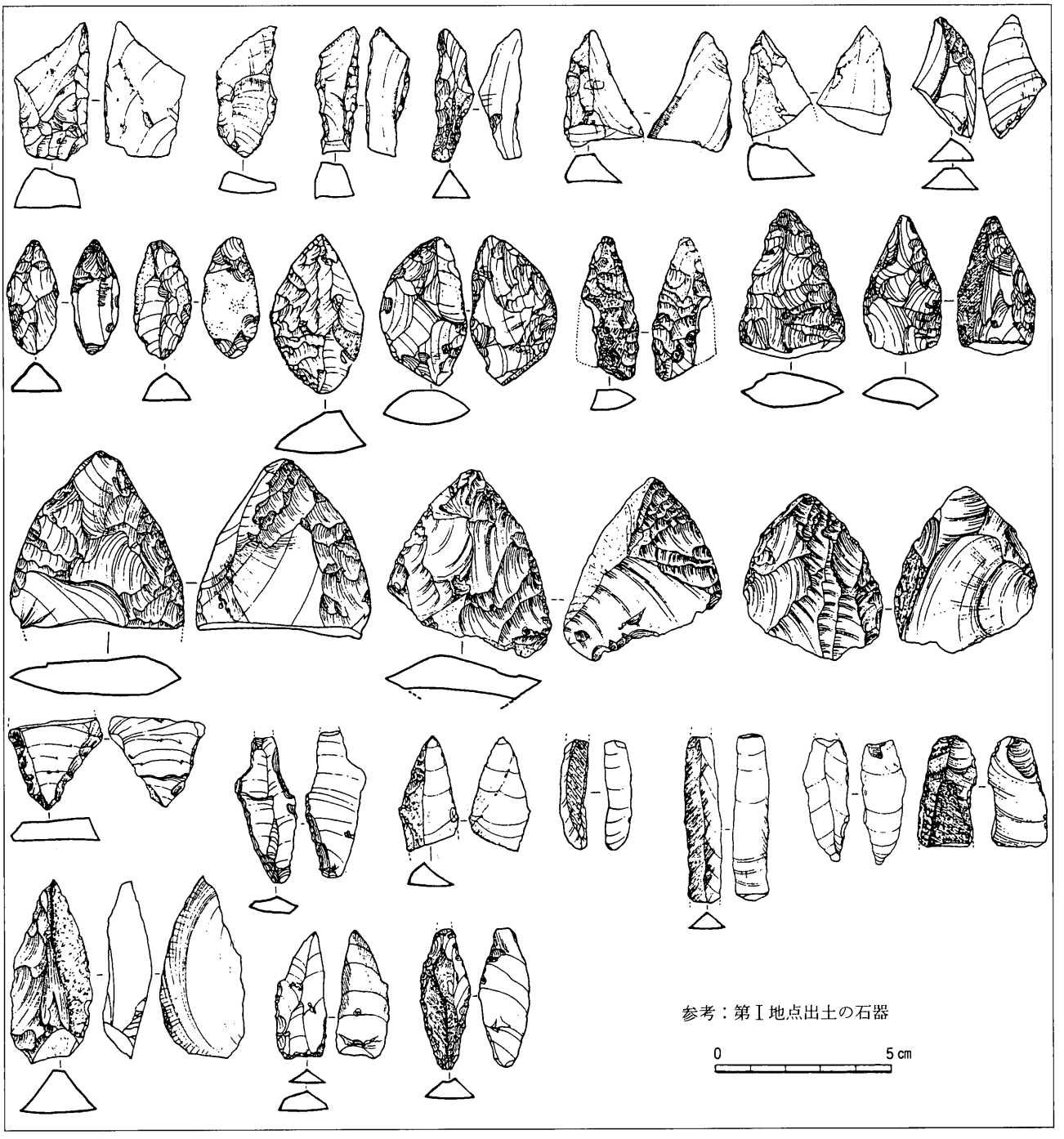
第10表　ツA02　出土遺物層位別一覧表

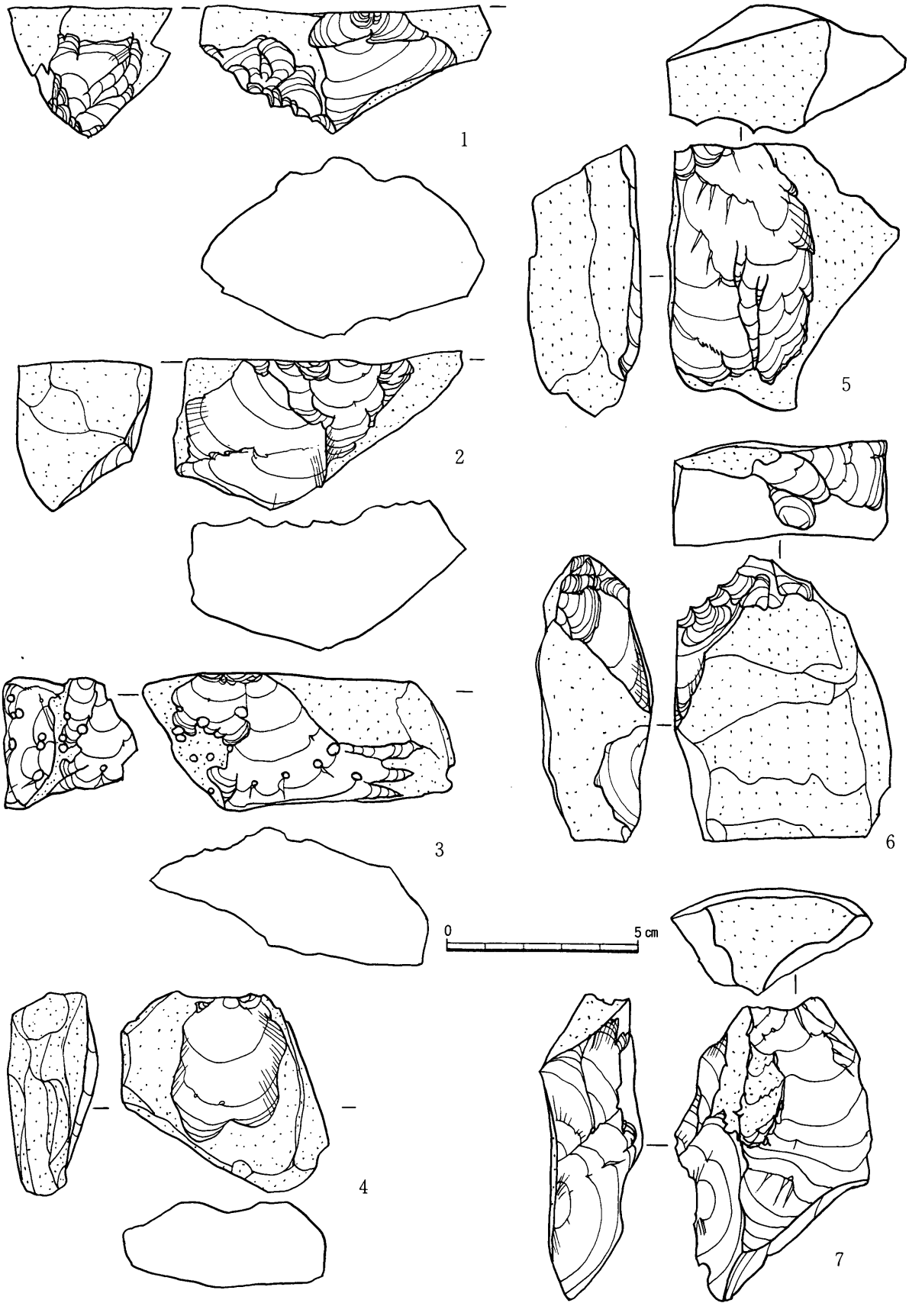
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅴ												1				13				14
計												1				13				14

て石刃剝離を行う石刃石核は認められず、①原石から直接剝片剝離がなされる　②剝片を1～3回剝離した段階で放棄されている　③基本的に単設打面、であるが、作業面転移のものは8・11の2点がある。原石を縦長と横長とに使いわけている。横長のものが多く、素材を縦にして用いているのは、5～7・9の4点である。

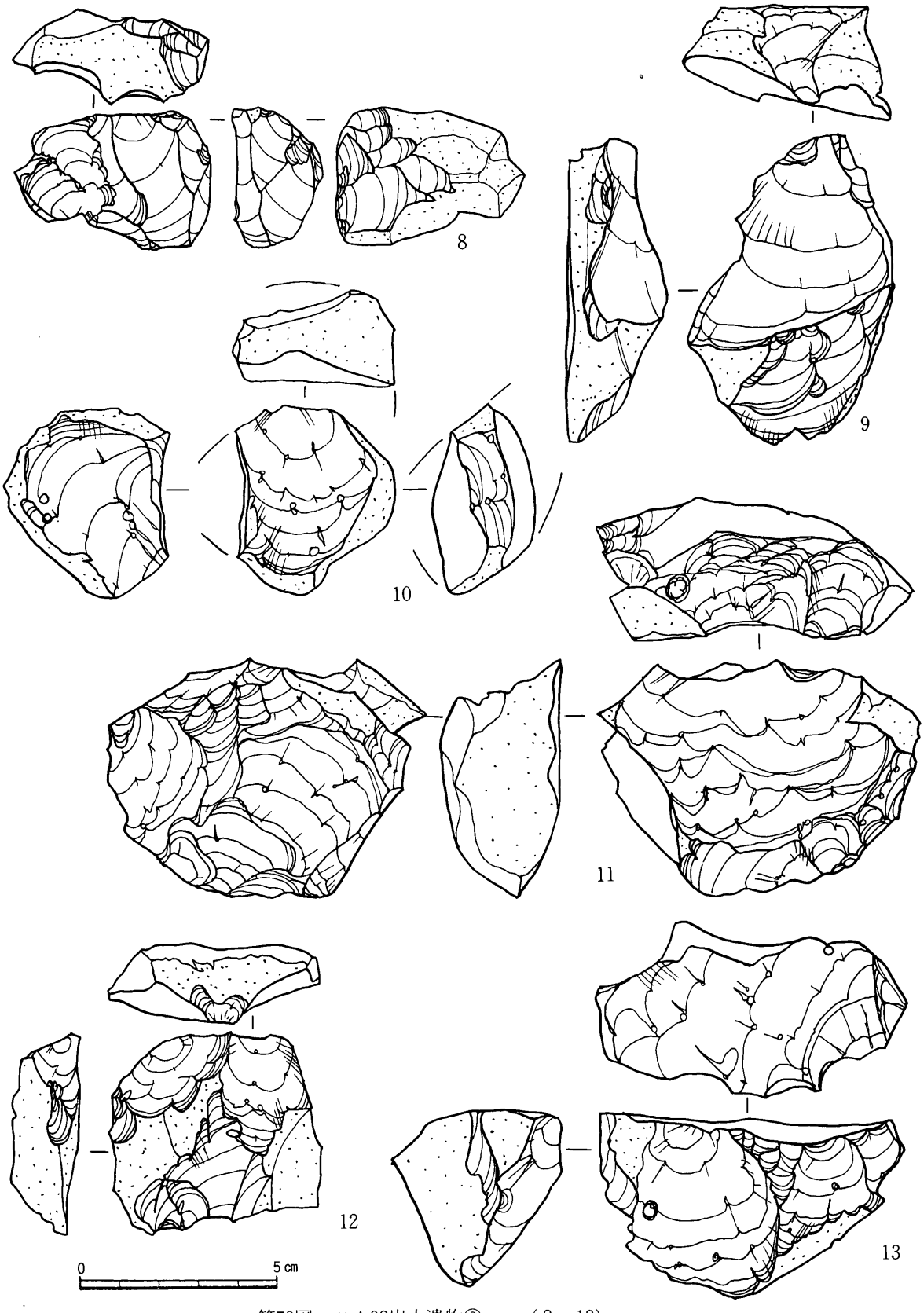
原石の原産地推定は漆黒系の土屋沢が5点、和田峠西のものが3点、それぞれ好んで用いられていることに注意したい。和田山遺跡においては、漆黒系の和田峠西の原石を多用しているが、男女倉谷においては本地点で確認された。

（森山公一）

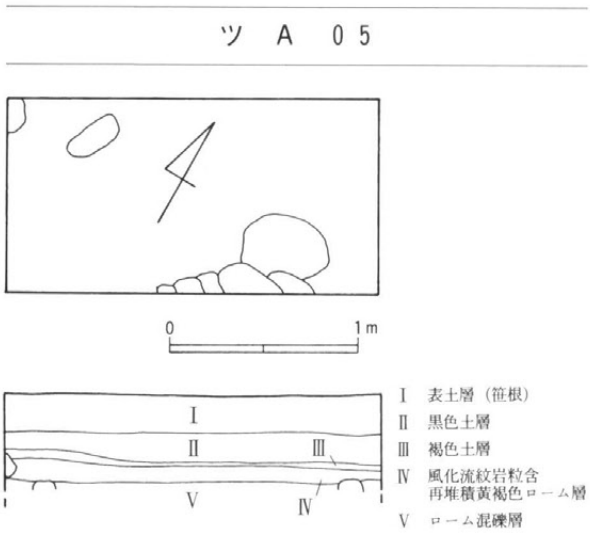




第69図　ツA02出土遺物①　　（1～7）

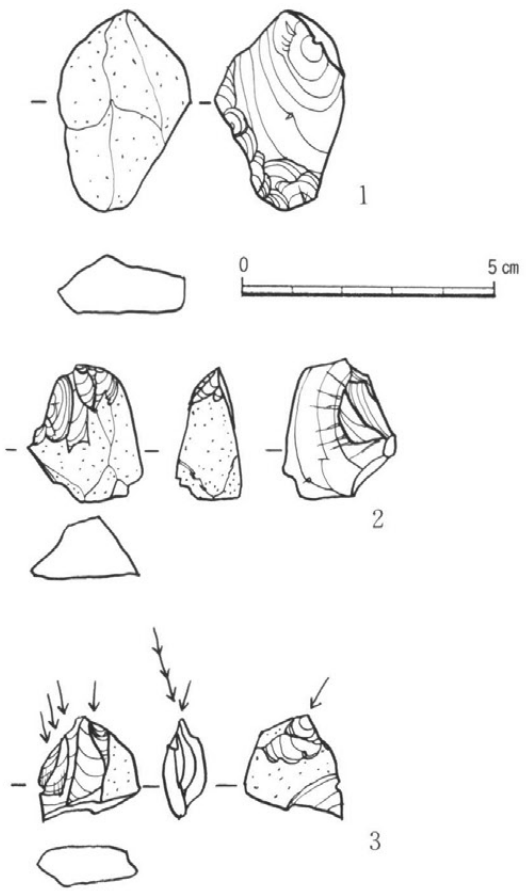


第70図　ツA02出土遺物②　　（8～13）



第71図　ツA05遺物分布図

第72図　ツA05試掘坑



第73図　ツA05出土遺物（1～3）

1. 位　置　ツA05グリッドは、土屋沢右岸の段丘上に設定された。本グリッドでは、標高1,370mの雑木林中に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が笹根の入る表土、Ⅱ層が黒色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が風化流紋岩粒を多量に含む再堆積性の黄褐色ローム層で、Ⅴ層はローム混じりの礫層である。
3. 遺　物　Ⅰ・Ⅱ層で出土している。Ⅳ層以下は再堆積性ロームのため、遺物の出土はみられない。

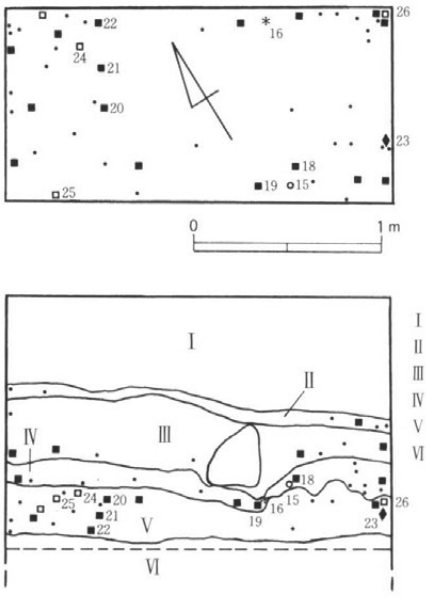
出土石器は、15点である。

Ⅱ層　第73図1は加工ある剝片。2は剝片の一部に刃部を作出した掻器状石器、3は楔形石器でいずれもその風化状態は縄文時代のものである。　（森山公一）

第11表　ツA05　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I															7					7
II				1				1				1			5					8
計				1				1				1			12					15

ツ　B　10



第74図　ツB10遺物分布図

第75図　ツB10試掘坑

1. 位　置　ツB10グリッドは、土屋沢右岸の段丘上（旧K地点）に設定された。本グリッドでは、標高1,240mの畑地に2×1mの範囲の調査を実施した。

2. 層　序　その層序は、I層が耕作土、II層が黒色土、III層が褐色土、IV層が漸移層、V層が黄褐色粘質ローム、VI層が風化した白色流紋岩粒を大量混入する黄褐色砂質ローム層である。

3. 遺　物　I～V層まで出土している。各層とも堆積が厚く、I・II層の黒色系土は数十cm、III層の褐色土は40cmを計る。IV・V層の粘質ロームは40cmほどであるが、旧石器時代の遺物が集中して出土する。VI層の砂質ロームに入ると遺物の出土はみられない。

出土石器は、全点黒耀石で306点である。各層位ごとの内訳は第12表に示してある。

I・II層　第76図2・3は紡錘形の楔形石器である。2については下端部からの剥離が8回行われている。4・5は両面加工体の石器で、先端部

第12表　ツB10　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
I								2				1			114	2	20		1	140
II		2													85	3	10	1		101
III				2											5	5	8			20
IV				1			1					1			10	5	2			20
V		1													10	6	8			25
計		3		3			1	2				2			224	21	48	1	1	306

は製作中に折損している。6は石鏃である。前期と思われる土器片も表採されている。

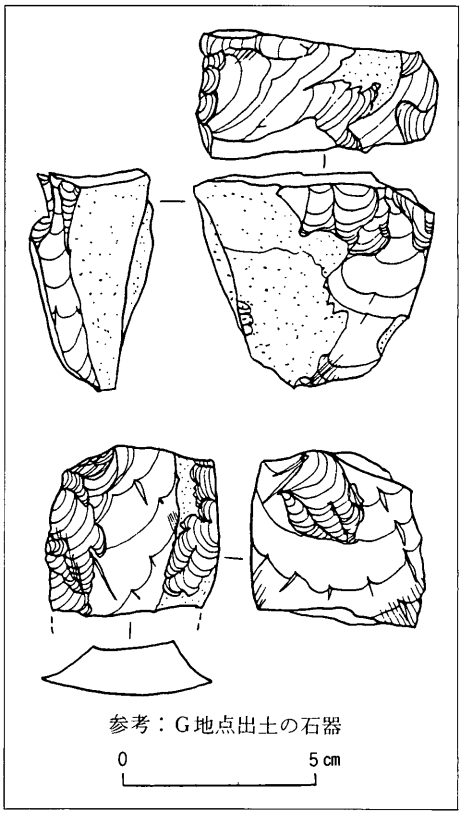
Ⅲ層　第76図7・8は星ヶ塔産の亜角礫の黒耀石を素材に、掻刃部のみ作出している。9・10は亜角礫の平坦な自然面を打面とした石核である。第76・77図11～14は星ヶ塔産の球状礫である。13に小剝離がみられる他は、加工がみられない。

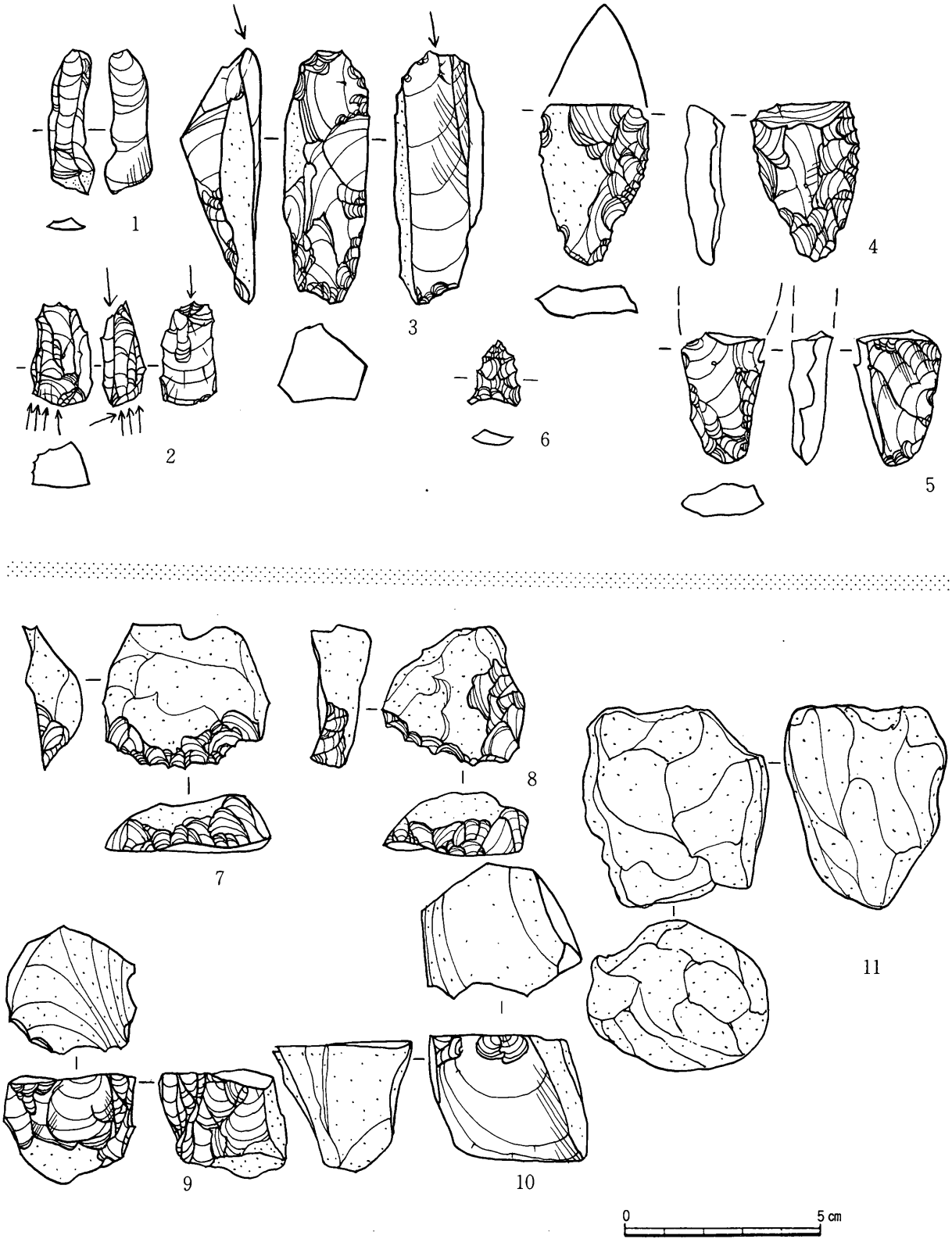
Ⅳ層　第77図15は星ヶ塔の良質な黒耀石を用いた、先刃掻器である。18・19は石核である。共に亜角礫の自然面を打面とし、縦長の剝片を不規則に剝離している。16は星ヶ塔産黒耀石の稜柱形細石刃石核である。9回の細石刃を剝出している。

Ⅴ層　第78図21に和田峠西産を用いている他は全て星ヶ塔産の黒耀石である。

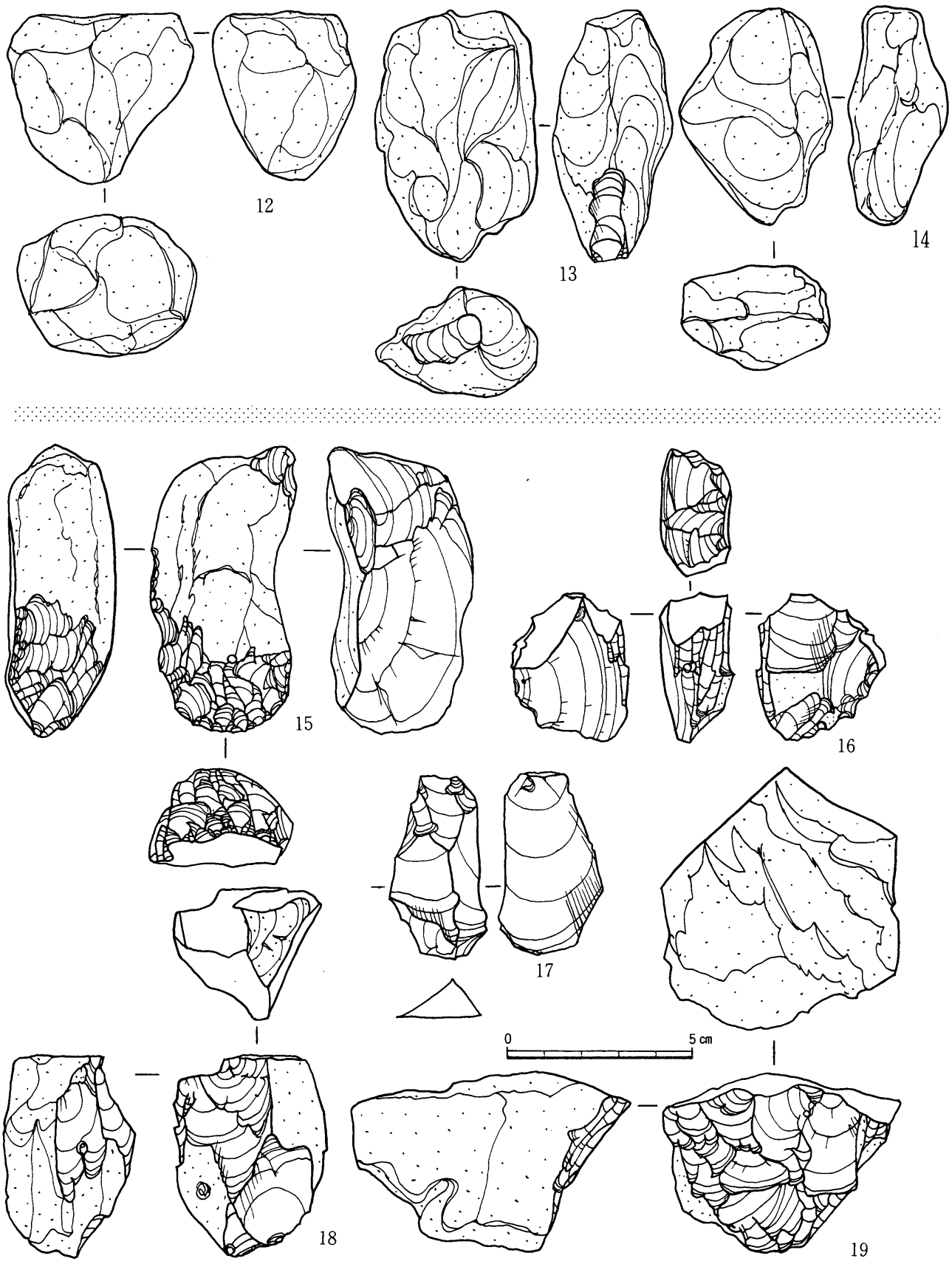
20～22は石核である。7～8㎝前後の黒耀石の亜角礫を素材とし、20・22は打面調整された打面より、縦長剝片の連続剝離が行われている。23は両面加工体で、自然面を多く残し、製作中の折れと思われる。24～26は、星ヶ塔産の球状礫である。

（森山公一）

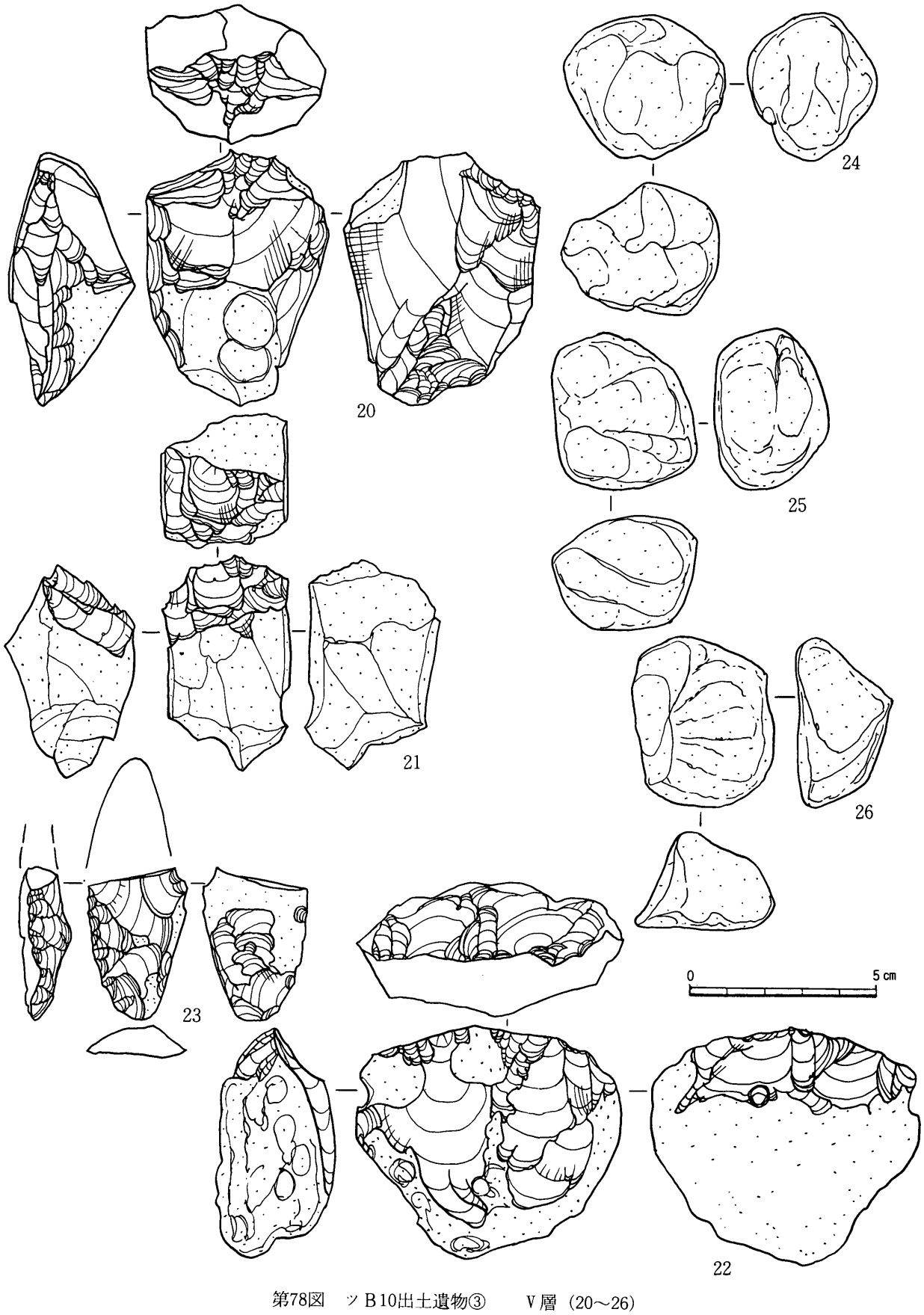




第76図　ツB10出土遺物①　　Ⅰ・Ⅱ層（1～6）　Ⅲ層①（7～11）



第77図　ツB10出土遺物②　　Ⅲ層②（12～14）　Ⅳ層（15～19）



第78図　ツB10出土遺物③　　V層（20～26）

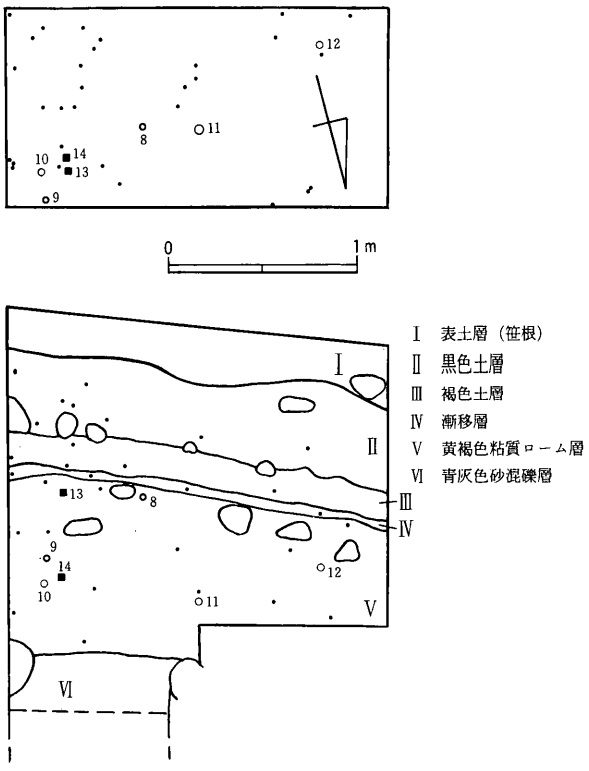
4. 男女倉川地区

オ B 01

1. 位　置　オB01グリッドは、男女倉川右岸に合流する高松沢の左岸段丘上に設定された。本グリッドでは、2×1mの範囲の調査を実施した。なお、本地点は旧B地点の東側に位置し、標高1,150mにある。
2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が笹根の入る表土、Ⅱ層が黒色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が漸移層、Ⅴ層が黄褐色粘質ローム層、Ⅵ層が青灰色砂混じりの礫層である。
3. 遺　物　Ⅰ～Ⅵ層まで出土している。Ⅰ層からⅥ層にかけて遺物の包含が確認されている。剥片・原石の出土はⅠ層からⅢ層にかけて多くみられる。

出土遺物は124点で、出土石器は全点黒耀石である。各層位ごとの内訳は第13表に示してある。

Ⅰ・Ⅱ層　第81図1・2は、大形剥片の一端に掻刃部を作出した掻器である。4は剥片の折れ面に使用痕が認められる。5・6は原石面を背面に残す石核で、風化の状況から縄文時代のものと思われる。



第79図　オB01遺物分布図

第13表　オB01　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ				1											10	1	10			22
Ⅱ				1								1	1		10	1	20			34
Ⅲ															5	1	18			24
Ⅳ															5		12			17
Ⅴ			1	1								3			10	3	8			26
Ⅵ																	1			1
計			1	3								4	1		40	6	69			124

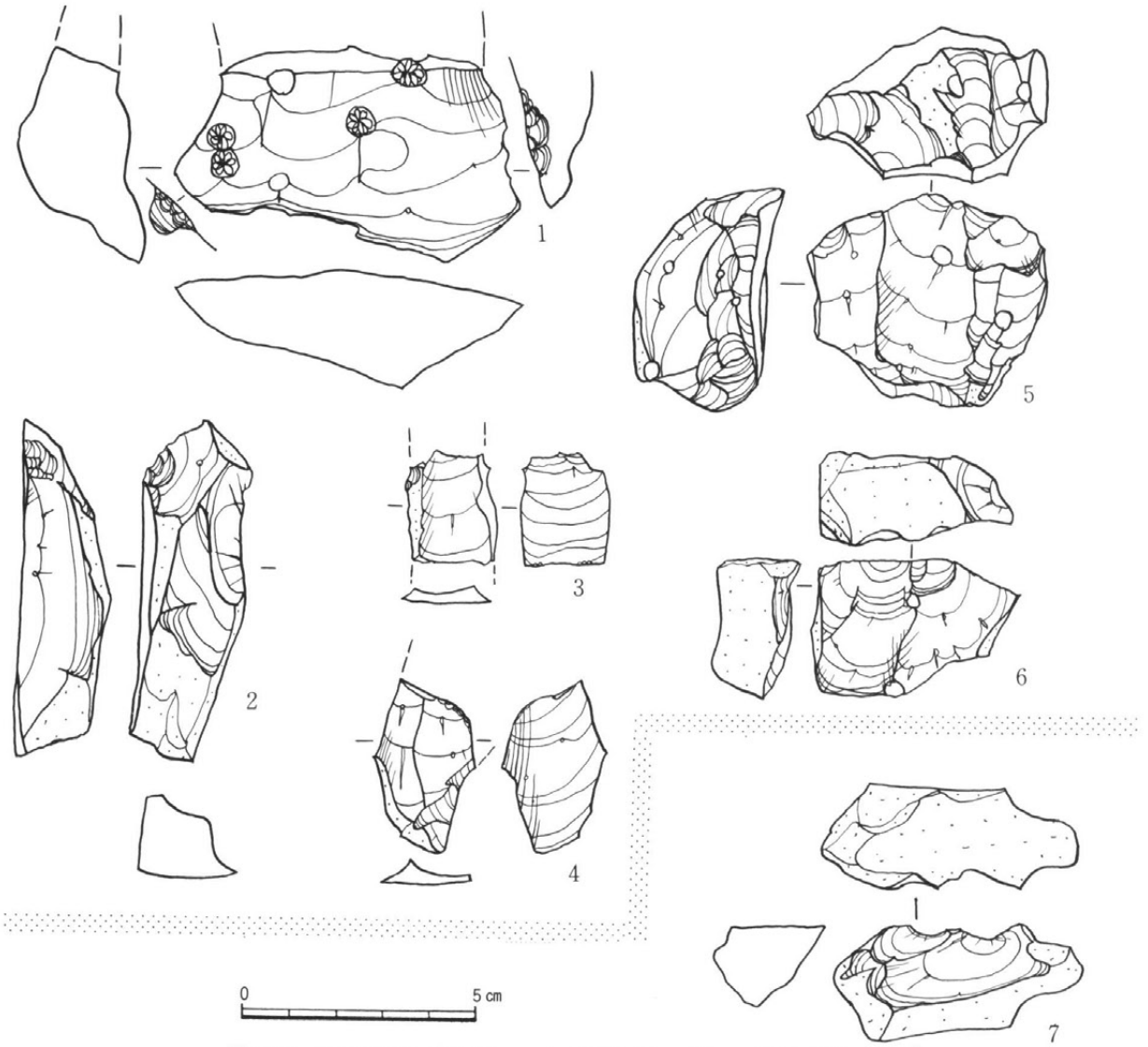
Ⅲ層　第81図７は原石の平坦面を打面として２度の打剝を試みた剝片石核である。

Ⅳ層　Ⅳ層からは剝片と原石のみで石器の出土はみられない。

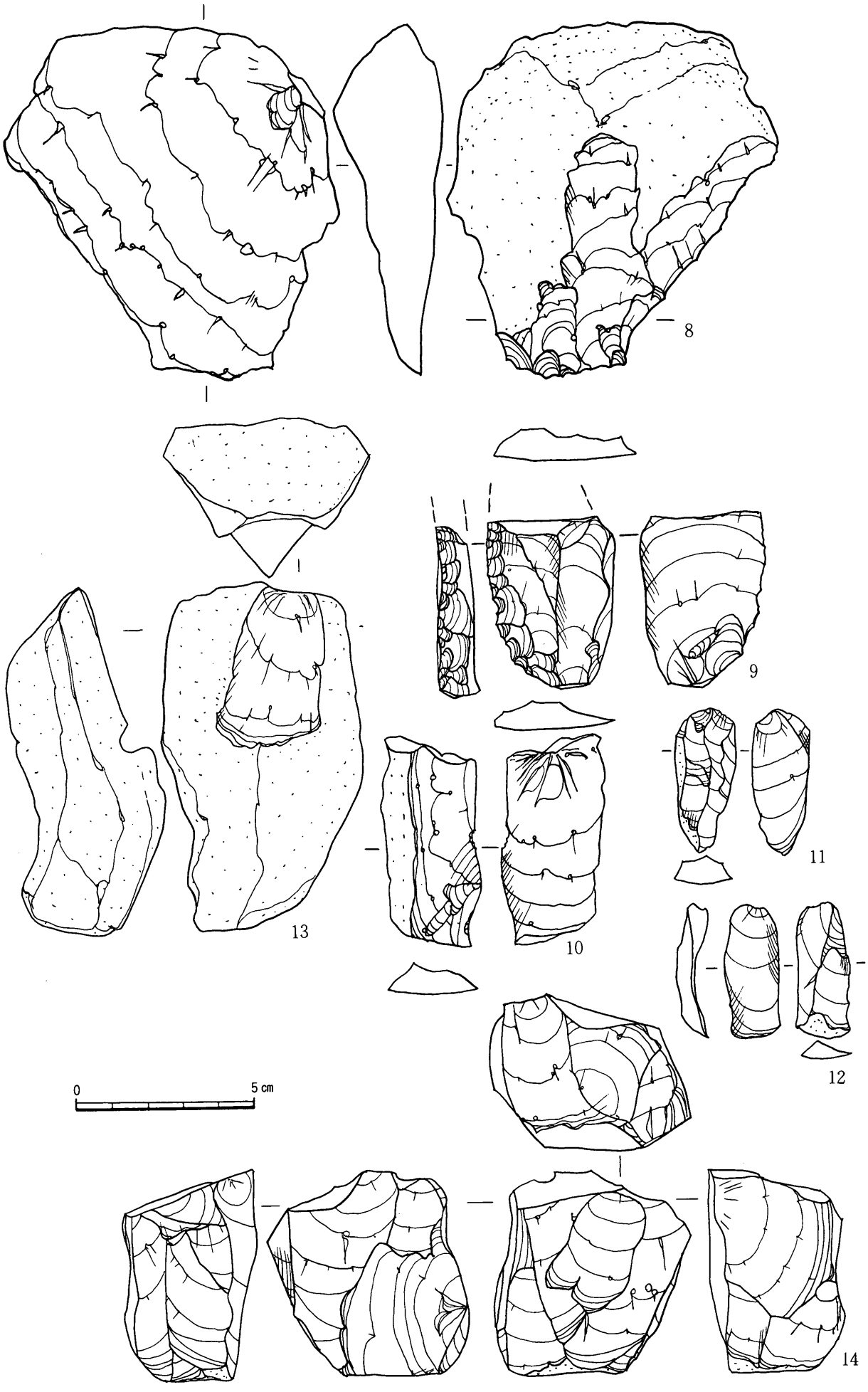
Ⅴ層　第82図８は掻器で、背面に原石面を残す大形剝片の一端に掻刃部を作出している。９は左側縁に調整を加えた削器である。10～12は石刃状剝片でいずれも右側縁に刃こぼれがみられる。13・14は石核である。13は高松沢産と思われる黒耀石の亜角礫を素材としている。平坦な自然面を打面としている。14は打面調整をした石角で、多くの縦長剝片を連続剝離している。このように原石面を残さず剝出した石核は当遺跡群でもその出土量が少ない。

（森山公一）

第80図　オＢ01地層断面

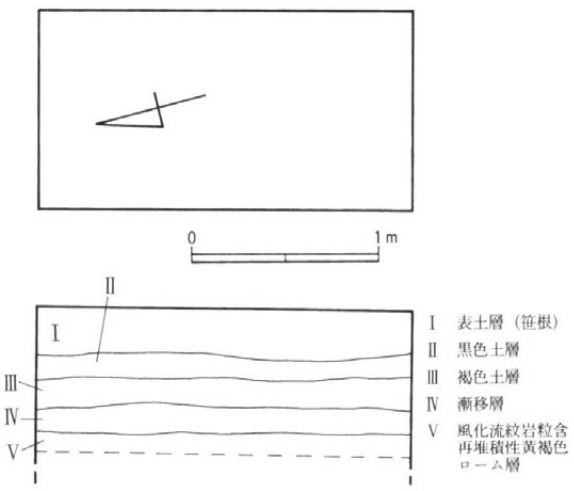


第81図　オＢ01出土遺物①　　Ⅰ・Ⅱ層（１～６）　Ⅲ層（７）



第82図　オB01出土遺物②　　V層（8～14）

オ　B　05



第83図　オB05調査グリッド図

第84図　オB05試掘坑

1. 位　置　オB05グリッドは、男女倉川右岸のB_2段丘上に設定された。本グリッドでは、標高1,205mの雑木林中に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が笹根の入る表土、Ⅱ層が黒色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が漸移層、Ⅴ層が風化流紋岩粒を含む、再堆積性の黄褐色ローム層である。
3. 遺　物　Ⅰ・Ⅱ層まで出土している。ローム層中よりの遺物の出土はみられなかった。

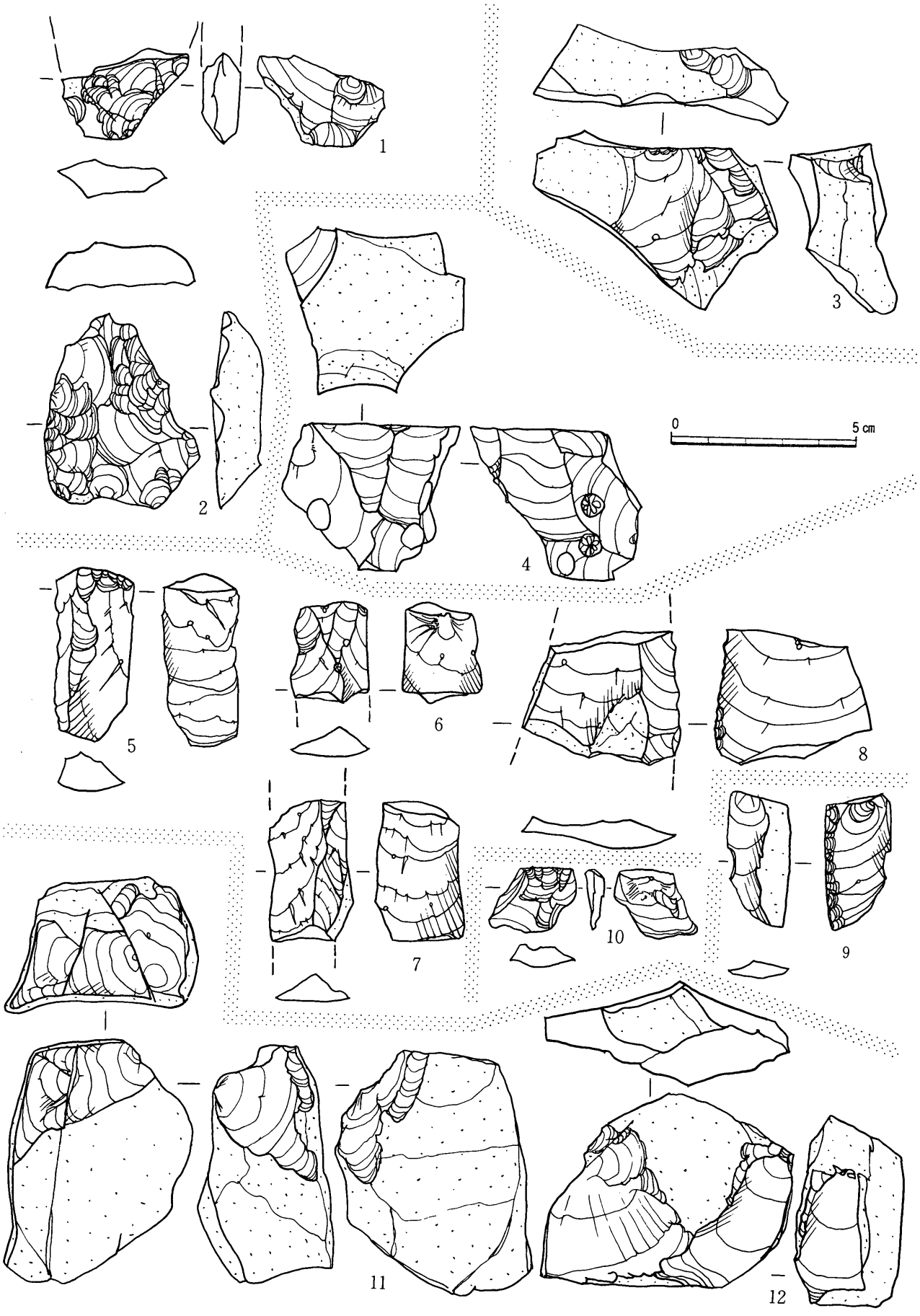
出土石器は、2点である。

Ⅱ層　第85図1は両面加工石器の基部のもので製作中での折れである。2は亜円礫の片面のみ調整加工した剝片石核である。2点とも星ヶ塔産と思われる良質の黒耀石で、その風化状態からみて縄文時代のものと考えられる。

（森山公一）

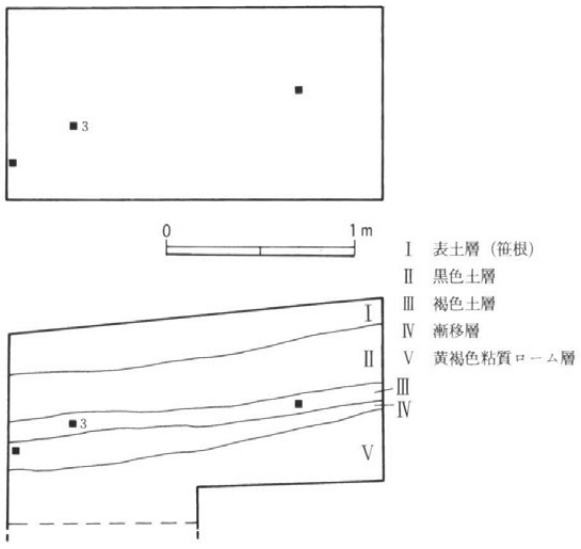
第14表　オB05　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ															2					2
Ⅱ		1													2	1				4
計		1													4	1				6



第85図　各グリッド出土遺物　　オB05（1・2）　オB06（3）　オB08（4）　オB09（5～8）
オB13（9）　　オB14（10）　オB15（11・12）

オ　B　06

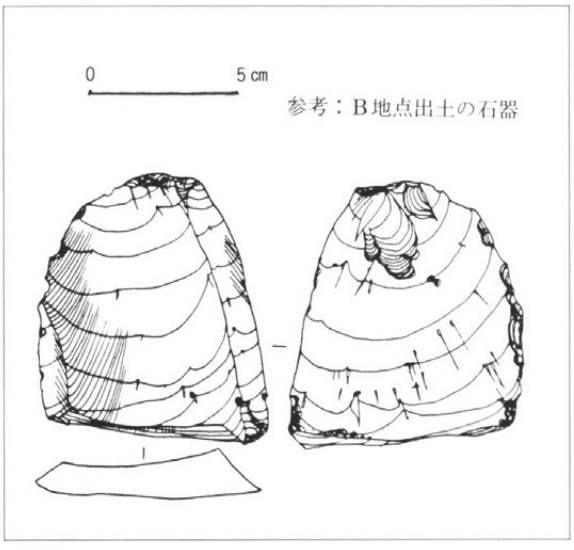


第86図　オB06遺物分布図

1. 位　置　オB06グリッドは、男女倉川右岸のB_2段丘上に設定された。本グリッドでは標高1,205mの雑木林に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、I層が笹根の入る表土、II層が黒色土、III層が褐色土、IV層が漸移層、V層が黄褐色粘質ローム層である。
3. 遺　物　遺物はIII・IV層で出土している。出土石器は3点である。

第87図　オB06試掘坑

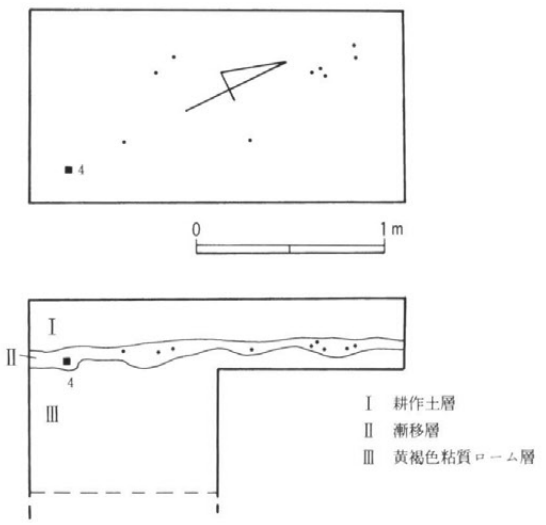
II層　第85図3は良質の角礫を素材とした石核で、他の2点も同様な石核である。剥片・原石・他の石器の出土はみられなかった。　（森山公一）



第15表　オB06　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
III																2				2
IV																1				1
計																3				3

オ B 08

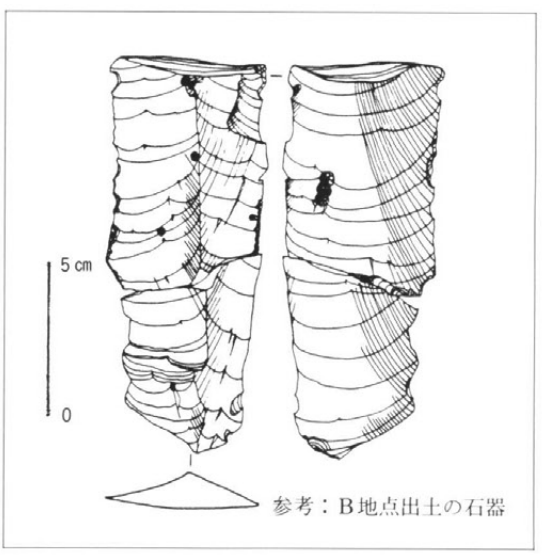


第88図　オB08遺物分布図

第89図　オB08試掘坑

1. 位　置　オB08グリッドは、男女倉川右岸のB$_1$段上の旧I地点の東に設定された。本グリッドでは、標高1,235mの畑地に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、I層が耕作土、II層が漸移層、III層が黄褐色粘質ローム層である。
3. 遺　物　遺物はII層の漸移層より剥片少量と石核が出土している。
   出土石器は、1点である。

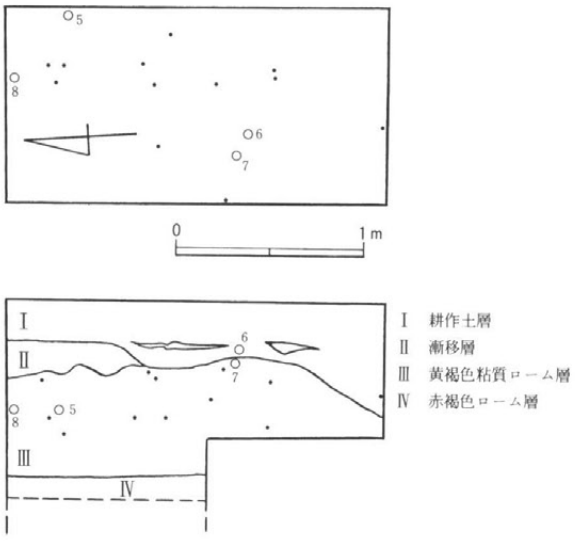
II層　第85図4は良質の角礫を素材とした石核である。平坦な自然面を打面とし、縦長剥片を連続剥離している。　（森山公一）



第16表　オB08　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II															10	1				11
計															10	1				11

オ　B　09



第90図　オB09遺物分布図

第91図　オB09試掘坑

1. 位　置　オB09グリッドは、男女倉川右岸の段丘上に設定された。本グリッドでは標高1,240mの畑地に 2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が耕作土、Ⅱ層が漸移層、Ⅲ層が黄褐色粘質ローム層、Ⅳ層が赤褐色ローム層である。
3. 遺　物　遺物はⅠ～Ⅲ層で出土している。Ⅲ層上部からは、小深沢系の黒耀石で、下部からのものは和田峠西系の漆黒色黒耀石を素材としている。

出土石器は4点でいずれも石刃状剥片である。

Ⅰ層　第85図6は石刃状剥片である。

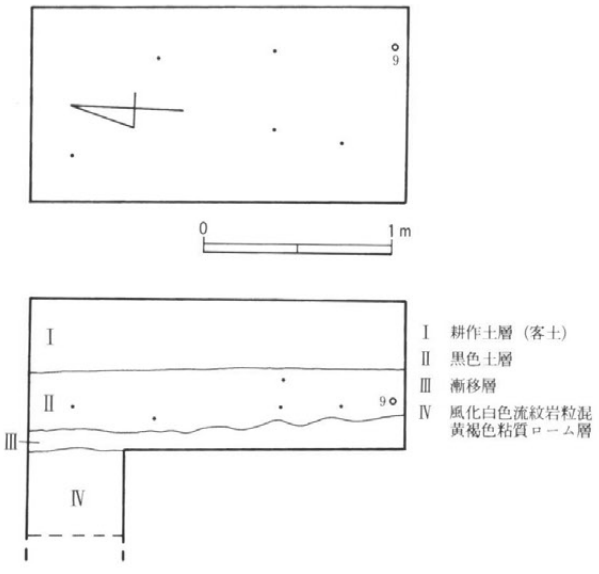
Ⅲ層　第85図5・7・8は石刃状剥片で、3点とも小深沢系の黒耀石を素材としている。これに対して、Ⅲ層下部からの剥片は、和田峠西系の漆黒色黒耀石を多く素材としている。

（森山公一）

第17表　オB09　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ												1			5		2			8
Ⅱ															10					10
Ⅲ												3			13					16
計												4			28		2			34

オ　B　13



第92図　オB13遺物分布図

1. 位　置　オB13グリッドは、男女倉川右岸の段丘上に設定された。本グリッドでは標高1,210mの畑地に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、Ⅰ層が客土した耕作土、Ⅱ層が黒色土、Ⅲ層が漸移層、Ⅳ層が風化した白色流紋岩粒を大量に混入する黄褐色粘質ローム層である。
3. 遺　物　遺物はⅡ層のみで出土している。
   出土石器は1点で他は縄文時代の剝片と原石若干がある。

第93図　オB13調査地点

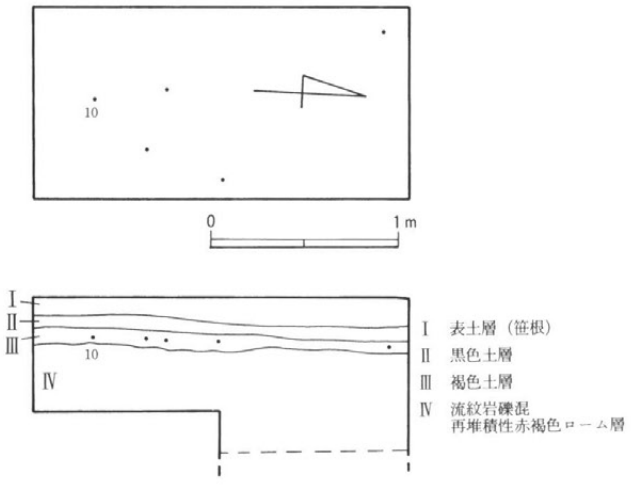
第94図　オB13試掘坑

Ⅱ層　第85図9は縦長剝片の右側縁に掻刃部を作出した縄文時代の削器である。旧石器時代の遺物はみとめられない。（森山公一）

第18表　オB13　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅱ			1										1		5		2			9
計			1										1		5		2			9

オ　A　14

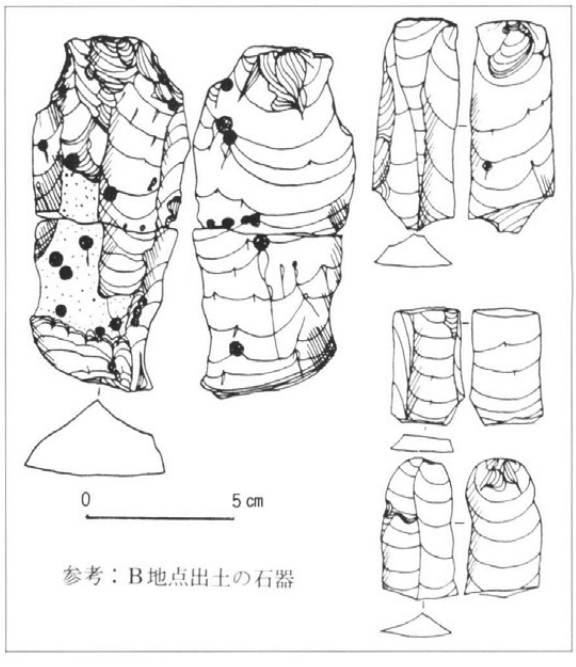


第95図　オA14遺物分布図

1. 位　置　オA14グリッドは、男女倉川左岸のC段丘上に設定された。本グリッドでは標高1,210mのカラマツ林中に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、I層が笹根の入る表土、II層が黒色土、III層が褐色土、IV層が流紋岩礫の大量混入する再堆積性の赤褐色ローム層である。
3. 遺　物　遺物はIII層で出土している。
   出土遺物は、剥片が5点ある。

第96図　オA14試掘坑

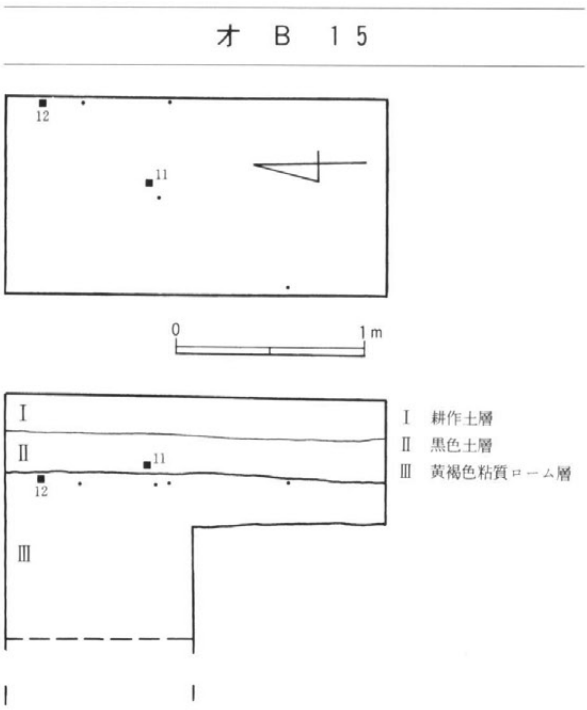
第85図10は良質の黒耀石剥片である。旧石器時代の遺物はみられない。　（森山公一）



参考：B地点出土の石器

第19表　オA14　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
III															5					5
計															5					5



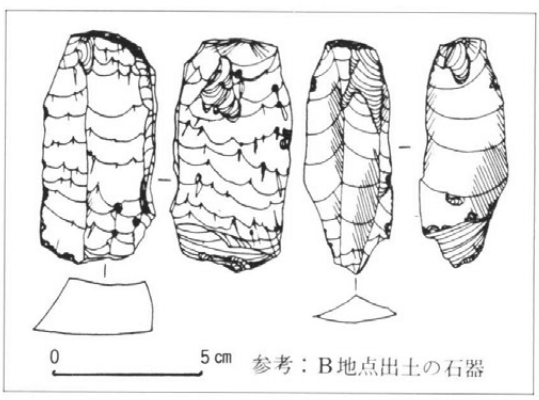
第97図　オB15遺物分布図

第98図　オB15試掘坑

1. 位　置　オB15グリッドは、男女倉川右岸の段丘上に設定された。本グリッドでは標高1,260mの畑地に2×1mの範囲の調査を実施した。
2. 層　序　その層序は、I層が耕作土、II層が黒色土、III層が黄褐色粘質ローム層である。
3. 遺　物　遺物はII・III層で出土している。
   出土石器は、3点ある。

II・III層　第85図11・12は星ヶ塔産の良質な黒耀石を用いた石核である。亜角礫を素材とし、打面は平坦な自然面をそのまま利用している。剥片剥離があまり進行しない段階のものである。

（森山　公一）

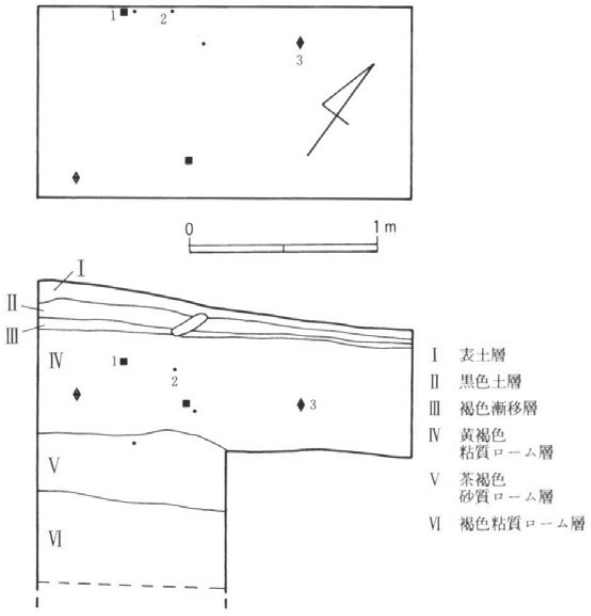


第20表　オB15　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II																1				1
III														1	3	1				5
計														1	3	2				6

5. 和田川地区

ワ A 01



第99図 ワA01遺物分布図

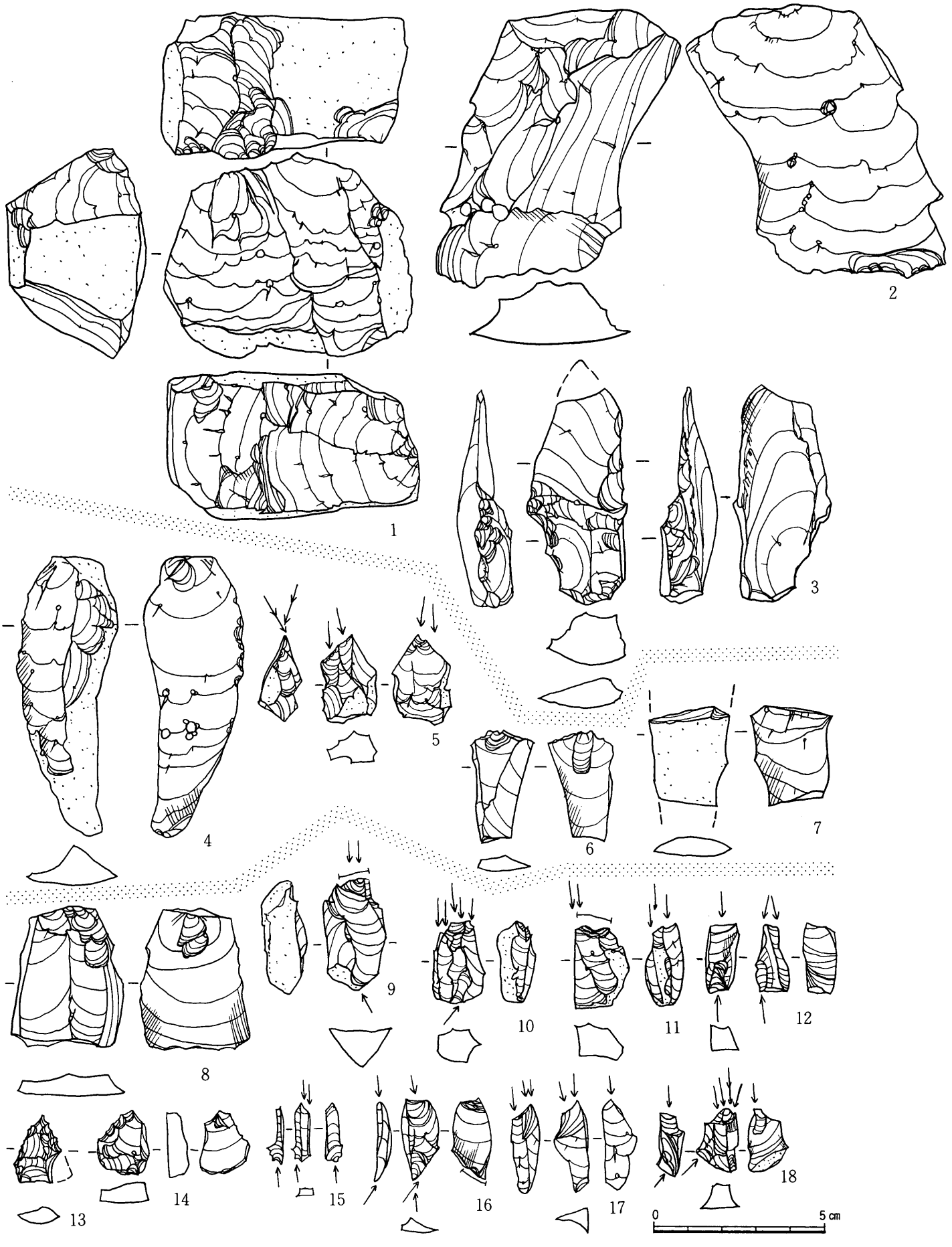
第100図 ワA01調査地点

第101図 ワA01調査状況

第102図 ワA01試掘坑

1. 位 置 和田川地区のグリッド名は和田川の上部から下流に向って番号をつけていて、その左岸域、舌状丘陵上の上部平坦面に設けている。2×1mの範囲で調査を実施した。標高約1,370mである。

2. 層 序 その層序はI層表土、II層黒色土層で、III層は褐色の漸移層である。IV層として把握したのは黄褐色の粘質ローム層で、以下V層茶褐



第103図　各グリッド出土遺物　　ワA01（1～3）　ワA02（4～7）　ワA03（8～18）

色砂質ローム、Ⅵ層褐色粘質ローム層となる。

3. 遺　物　遺物はⅣ層とⅤ層中に出土しており総点数は12点である。すべて黒耀石製で、Ⅳ層には3のナイフ形石器と楔形石器が1点ずつある。いずれも大形で、1の石核や2の剝片もそのあり方をとどめている。

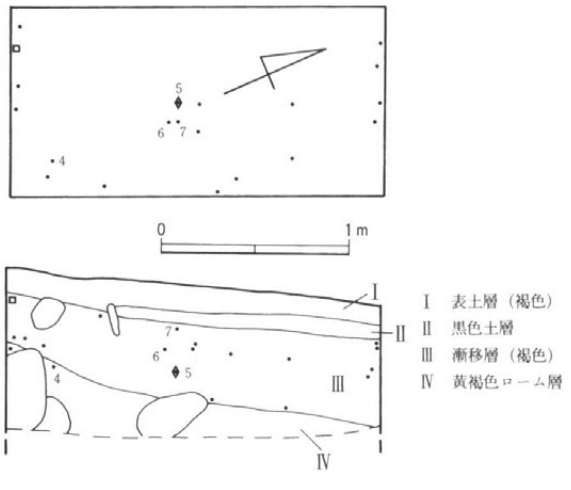
Ⅴ層内には黒耀石の原石類とやや小ぶりの剝片が出土しているのみである。

ＡＴテフラと思われるガラスは検出できなかった。　（森山公一）

第21表　ワA01　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅳ	1							1							2	2				6
Ⅴ															1		5			6
計	1							1							3	2	5			12

ワ　A　02



第104図　ワA02遺物分布図

1. 位　置　試掘坑ワA02は、ワA01よりも下方300mの和田川左岸台地上に設定した。2×1mのグリッドで、河床からは10m程の比高差がある。標高は約1,330mである。

2. 層　序　層序はおよそ4層に分かれ、Ⅰ層が表土、Ⅱ層が黒色土である。Ⅲ層は漸移層で褐色を呈する。Ⅳ層は押し出しと見られる大石を含む黄褐色のローム層で、押し出し安定後の降灰が想定される。

第105図　ワA02試掘坑

3. 遺　物　遺物はⅢ層とⅣ層内より出土し、ほとんどが同性格のものである。第103図4は縦長の剝片であるが一部に転石面をのこすもので黒耀

第22表　ワA02　出土遺物層位別一覧表

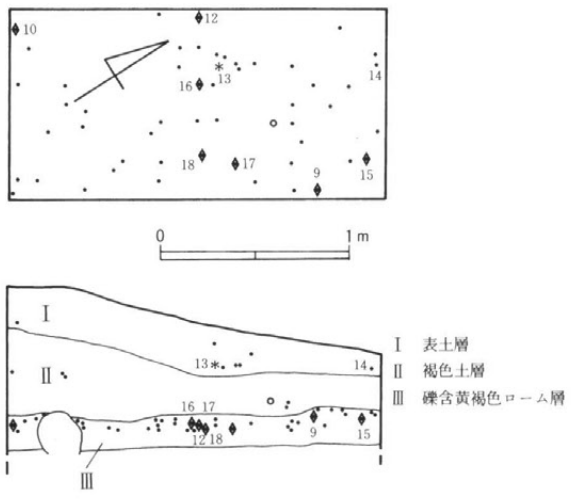
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅲ								1				1			15		3			20
Ⅳ								1				1			1		4			7
計								2				2			16		7			27

石製、Ⅳ層出土。5～7はⅢ層出土の黒耀石製であるが、5は多面体をなす楔形石器である。上部尖端部に刃こぼれ状の小剥離がみられるものである。7は石核の調整剥片のようで、片面は転石面に覆われている。

他に転石面ののこされている剥片が多く、特にⅢ層に集中して検出される。原石も拳大の転石が見られ、和田川の河床から拾得されたまま残存した気配である。　（森山公一）

第106図　ワA02出土状況

ワ　A　03



第107図　ワA03遺物分布図

1.　位　置　ワA03はワA02グリッドより更に和田川の下流域ほぼ250m程のやや広い傾斜地を選定した。和田川左岸域で、2×1mのグリッドである。標高約1,310mである。

2.　層　序　Ⅰ層は表土層で、Ⅱ層は褐色の漸移層となり、Ⅲ層は押し出しとみられる人頭大の礫を含む黄褐色の火山灰質ロームである。

3.　遺　物　遺物の総点数は58点である。

Ⅰ層内からも縄文時代のものと思われる剥片や未成品が得られている。第103図13は黒耀石を素材とした石鏃の未成品で、左脚部が欠けている。又14は掻器状の小形石器であるが、石鏃の未成品

第108図　ワA03調査地点

と見られないこともない黒耀石である。

Ⅱ層に2点、Ⅲ層に7点の楔形石器が検出されているのが特筆される。共に多面体で、概して最大幅1.2cm、長さ2.5cm以下の小形品が多いのが注意される。

この種の石器が確実に新期ローム中から検出できることに留意されるが、必ずしも普遍性を認められたわけではない。その用途、いわば石器とすべきか、そうでないのかの原点にもどってこの種の石製品の再検討を必要としていることは事実であろう。

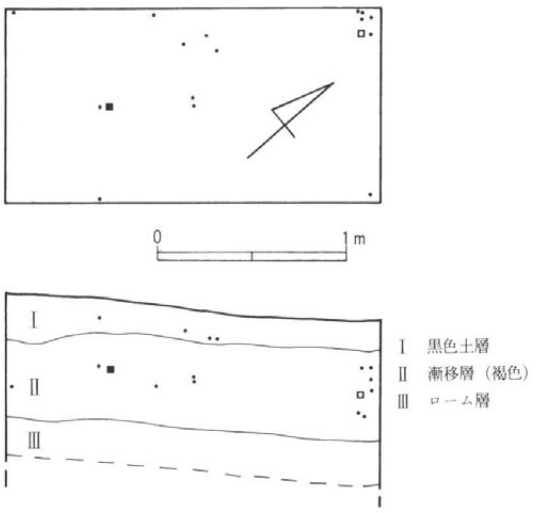
第109図　ワA03試掘坑

しかしこの種の石製品を仮りに楔形石器としておくが、その去就を求めるためにこの地域のあり方も充分にその役割を果たすことになるものと見られる。星糞峠鞍部で集中して採集ができることもつけ加えておきたい。　（森山公一）

第23表　ワA03　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I												1			8			1		10
II													3		6					9
III								7					2		30					39
計								7				1	5		44			1		58

ワ A 04



第110図　ワA04遺物分布図

1. 位　置　和田川左岸域で国道142号線の接待地点上をワA04とし、国道をへだててその下側をワA05グリッドとした。2×1mの範囲である。共に北方からはり出す支尾根のやや広い舌状台地をなしている。ワA04の標高は約1,250mで、ワA05の標高は約1,240mである。

2. 層　序　ワA04は、Ⅰ層黒色土層、Ⅱ層褐色漸移層、Ⅲ層火山灰ローム層でかなり安定した層序である。

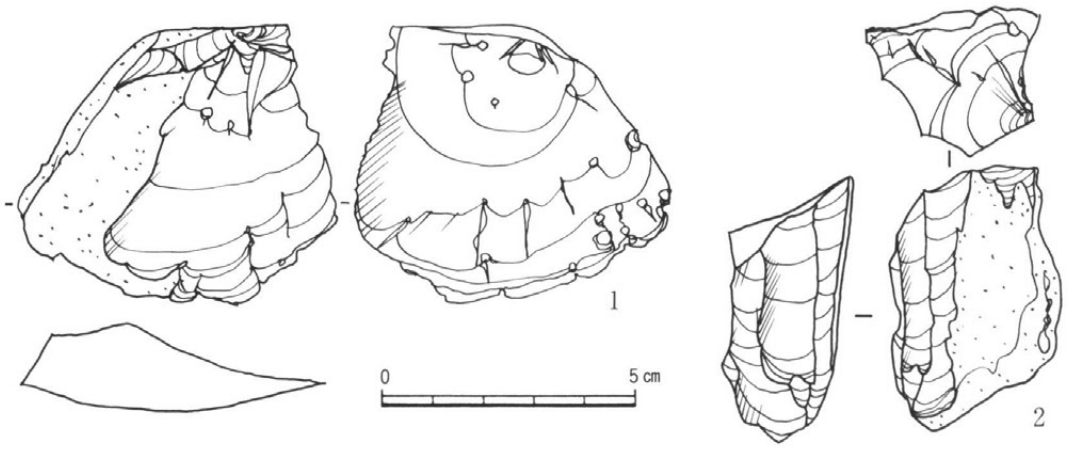
3. 遺　物

第111図　ワA04試掘坑

遺物はⅠ層中から検出されはじめ、Ⅱ層に及んでいる。定形的な石器は出土していないが、Ⅱ層の漸移層中から、第112図2の石核が1点得られている。6面の剝取が見られ一部に転石面をのこしている。打面が最終的に調整されたようで、それぞれの打点を切っている。打面の最終調整は鋭角でほぼ50度である。打面を調整した段階でこの石核は廃棄されたものと言える。Ⅱ層出土の大きめの剝片(1)も転石面をそのままのこしており、2と共通性がある。他の剝片も同様にして自然面をのこすものが多いのも、ワA02などと共通し、転石面や自然面を剝取し、遺棄されていることがわかる。転石面や自然面、節理面の強くのこされてい

第24表　ワA04　出土遺物層位別一覧表

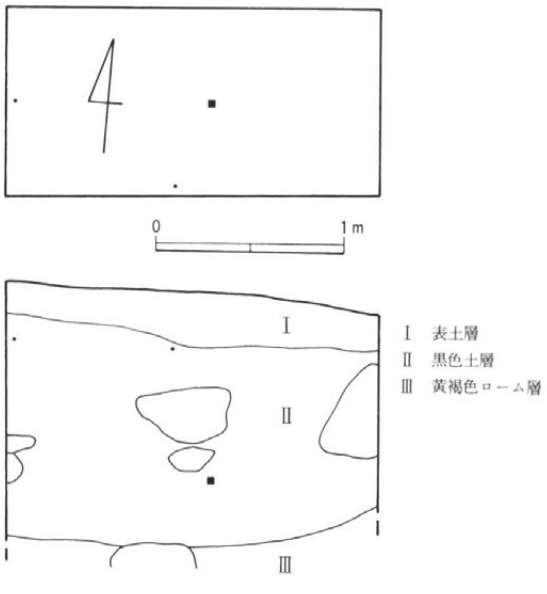
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ															4					4
Ⅱ															11	1	1			13
計															15	1	1			17



第112図　ワA04出土遺物（1・2）

る石核は、本格的に縦長剝片の連続剝取のための前段階にあるものと言えるが、ここではその行為がわかる資料として石核の仲間に加えて理解しておくこととする。　（森山公一）

ワ　A　05



第113図　ワA05遺物分布図

第114図　ワA05試掘坑

1.　位　置　和田川左岸で国道142号線の接待地点上をワA04とし、国道をへだてて、その下側をワA05グリッドとした。2×1mの範囲で調査を行った。共に北方から張り出す支尾根のやや広い舌状台地をなしている。ワA04の標高は約1,250mで、ワA05の標高は約1,240mである。

2.　層　序　層序は、I層表土層、II層黒色土層、

Ⅲ層黄褐色ローム層である。漸移層とみられるものは見受けられない。Ⅱ層内には人頭大の礫や拳大の礫が混じっていてやや荒れている。

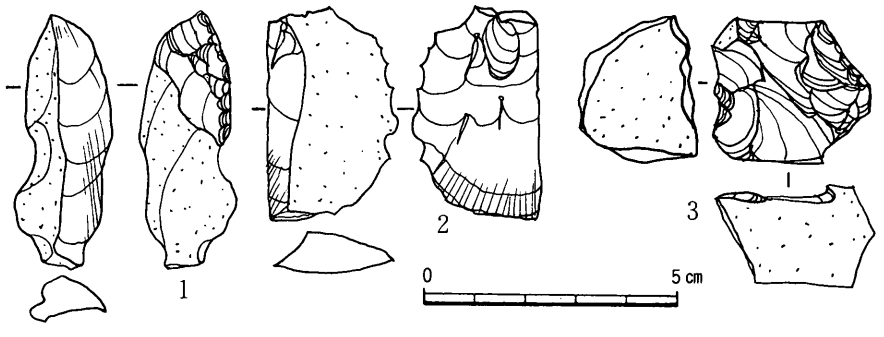
3. 遺　物　人工遺物とみられるものはⅡ層中から検出されている。

石核も剥片もすべて黒耀石であるが、遺物とすることができるものはすべて転石面、又は自然面を持っている。1～3はその好例であって、一面ないし至数面の剥離痕のほかは、すべて転石面か自然面である。

こうしたあり方はこの地域の特徴であって、ここが拾得採集した黒耀石の一次的な加工地点といえる色彩を濃厚に表現している。出土点数は若干少なめであるが、地域の性格を明確に表わしている。それは転石になったものを拾得することから始まり、皮である転石面あるいは自然面を剝ぎ取ることにある。その過程の転石面を持つような生産物は、必要な生産物ではなく遺棄された可能性が高い。

検出される資料は少なくともそのありようを表しているものである。

（森山公一）

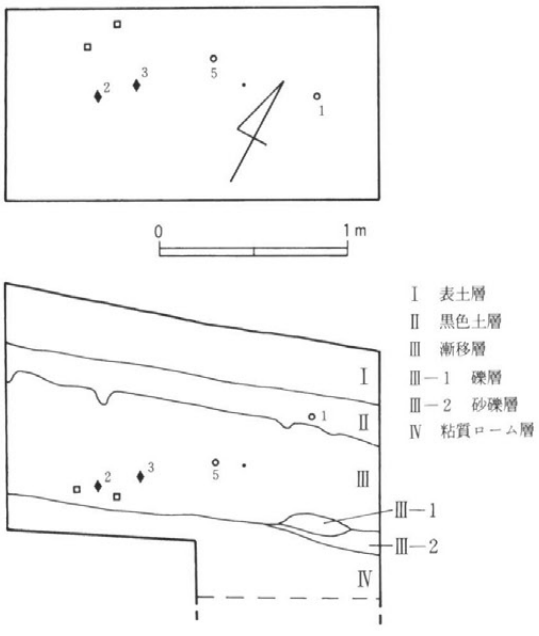


第115図　ワA05出土遺物（1～3）

第25表　ワA05　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅱ												1			1	1				3
計												1			1	1				3

ワA06a・b



第116図　ワA06a遺物分布図

第117図　ワA06a出土状況

1. 位　置　接待地点の北東にまわり込んだ傾斜面を選定して約30m間隔で7A06－a・bの2つのグリッドを、2×1mの範囲で設定した。標高はaグリッドが約1,230mで、bグリッドが約1,235mである。

2. 層　序　Ⅰ層が表土層、Ⅱ層が黒色土層でⅢ層が暗褐色の漸移層である。Ⅳ層以下にローム層が見られ、粘質ローム層となっている。Ⅲ層とⅣ層の間にⅢ－1礫層、Ⅲ－2砂礫層がはさまっている。Ⅳ層堆積後に不整合の時間があったものであろう。

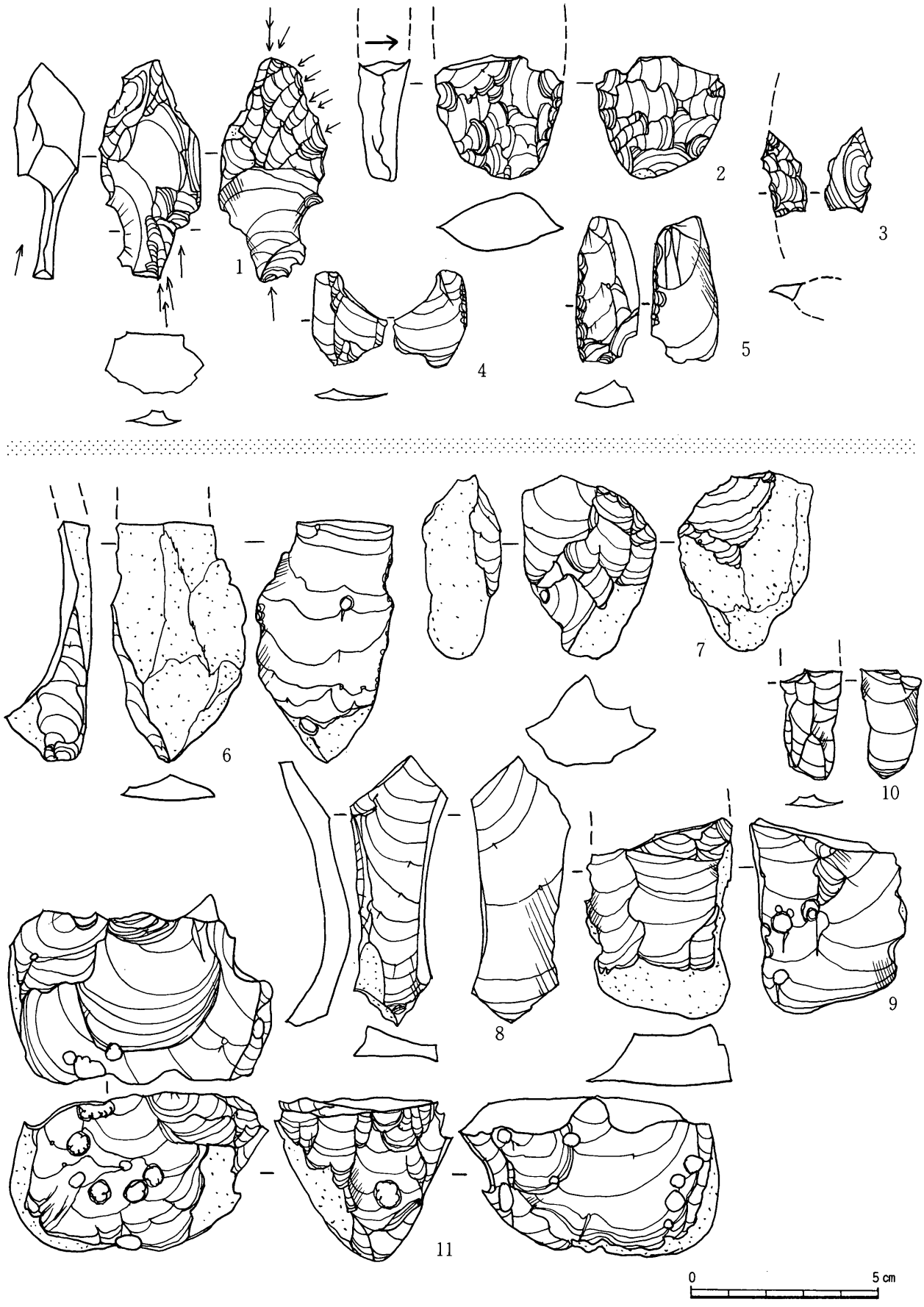
3. 遺　物　aグリッドからは尖頭器を中心としたものが、bグリッドからは石核を中心としたものが得られている。第118図1は掻器状であったが尖頭器の製作途中の破損品で、2・3は尖頭器の基部折れと尖頭器の製作途中のポイントフレークであろう。5の削器もある。石器工房的である。bグリッドは転石面を持った石核と、縦長剥片によって占められている。

素材の黒耀石に異なりがみられ、aが良質、bは気泡があって質は悪い。

（森山公一）

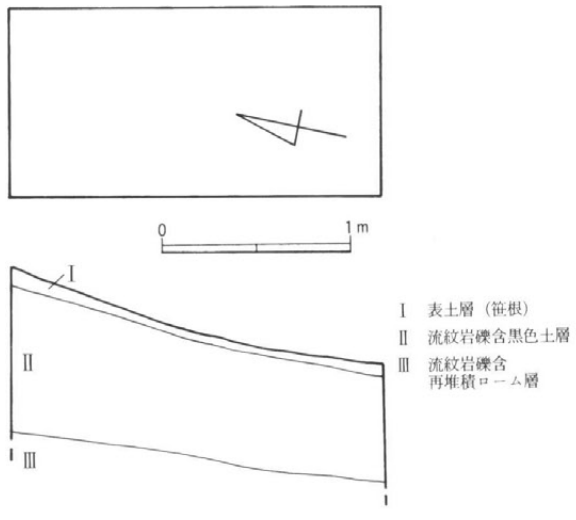
第26表　ワA06a　出土遺物層位別一覧表

器種／層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅱ				1																1
Ⅲ		2	1									1								4
計		2	1	1								1								5



第118図　ワA06a・b出土遺物　　ワA06a（1～5）　ワA06b（6～11）

ワ　A　07

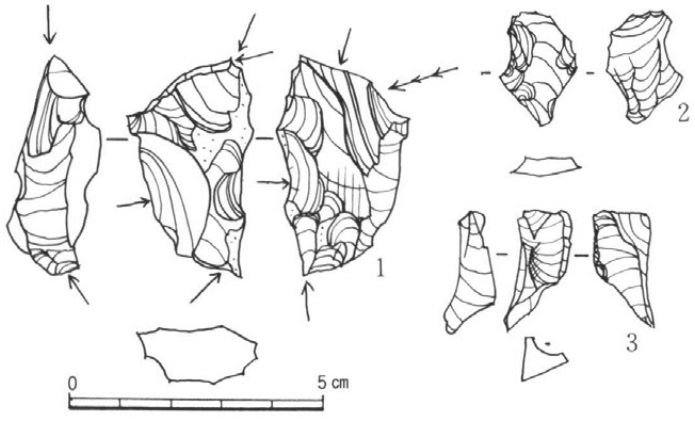


第119図　ワA07調査グリッド図

1.　位　置　和田側を更に400m程下った左岸域の、右岸の広く開けた地点を選定して本グリッドワA07を設定した。この地点も同様にして和田側に向って張り出した舌状の台地端にあたっていて、川床までは10m程である。標高約1,190m。

2.　層　序　表土層をⅠ層とし、Ⅱ層は親指大の流紋岩礫を含む黒色土で、Ⅲ層は同様な礫を含む水成堆積のローム層であった。強く水成堆積を示しており、表層以外遺物は認められなかった。

3.　遺　物　Ⅰ層中から打剝痕のある剝片が見つかっているのみでⅡ・Ⅲ層からは検出されなかった。だがこの地点が再堆積地点とすると、Ⅰ層内出土の資料も所属する時間を限定することはできない。第120図1は黒耀石製の器種を特定しがたい石器であるが、彫器であったかもしれない。又2・3は小形ながら楔形の石器と思われる



第120図　ワA07出土遺物（1～3）

第121図　ワA07調査地点

第122図　ワA07試掘坑

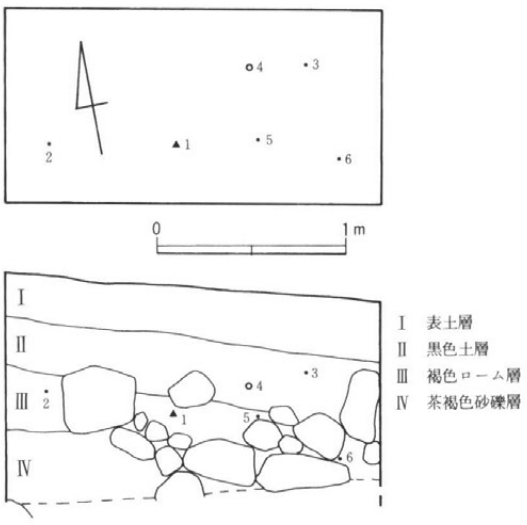
が確かではない。1には一部に転石面をのこしていることが特徴であり、注意しておきたい。

（森山公一）

第27表　ワA07　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I												3			20					23
計												3			20					23

ワ　A　08b



第123図　ワA08b遺物分布図

1.　位　置　観音沢の和田川と男女倉川の落合を「歴史の道」へ若干入った地点にa地点を設定したが、表土3cmと浅く、その下は人為的な撹乱が著しく放棄した。標高1,115mである。したがって、100m程入った観世音群の近くにb地点を設定し調査を行った。2×1mの範囲で標高は1,120m程である。

第124図　ワA08b試掘坑

2.　層　序　I層表土層、II層黒色土層、III層褐色のローム層、IV層は茶褐色の水成砂礫層である。III層は風成のロームで、IV層が形成された時に大形の礫の混入があったものと見られる。IV層はかなりはげしい押し出しとみられる。

3.　遺　物　人工遺物はII層内とIII層内に限定される。総点数は56点で、典型的なナイフ形石器が1点、III層内から検出されている。第126図1がそれである。黒耀石製、刃部を除いて調整は入念に行われている。4は尖頭器の破損品である。かなり大形品とみられるから、製作途上に破損遺棄

されたものであろう。2も不定形な抉入状の掻器であろうか。3は一方のみからの剝離があるが、楔形石器の一種であろう。

他に大形のかなり整った剝片(5)や自然面をのこすもの(6)も検出されている。概して自然面、転石面をのこすものが多い。

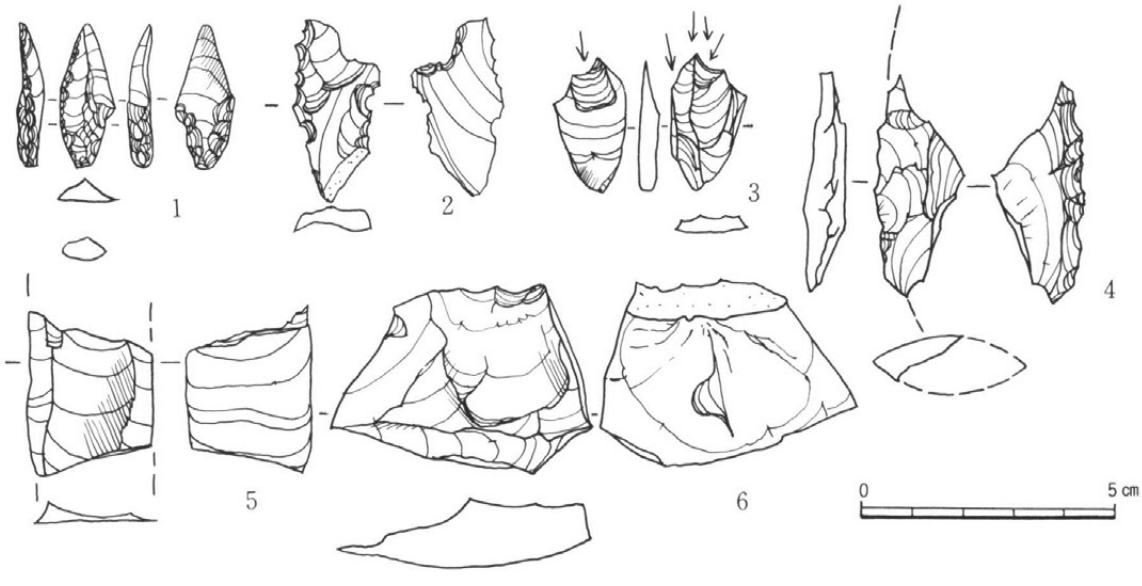
ここに整った資料の多いこと、製作中の破損品も見られること、転石面をのこすものが注意できることは、遺跡の性格を知る上で重要である。

（森山公一）

第125図　ワA08b調査地点

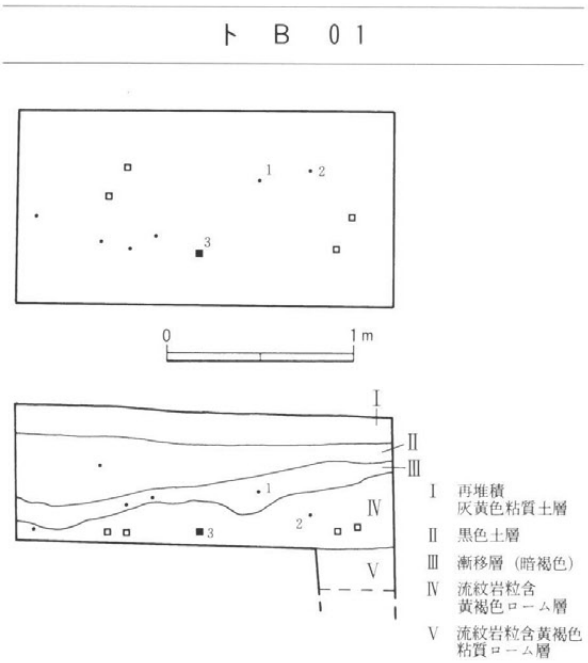
第28表　ワA08b　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
II														1	51					52
III	1											2			1					4
計	1											2		1	52					56



第126図　ワA08b出土遺物（1～6）

6. 和田峠地区



第127図 トB01遺物分布図

1. 位 置 和田峠トンネルシェルターの北側、北東向き傾斜面に位置している。およそ標高は1,530mで、最高点を和田側に下った所を選定して2×1mのグリッドを設定した。

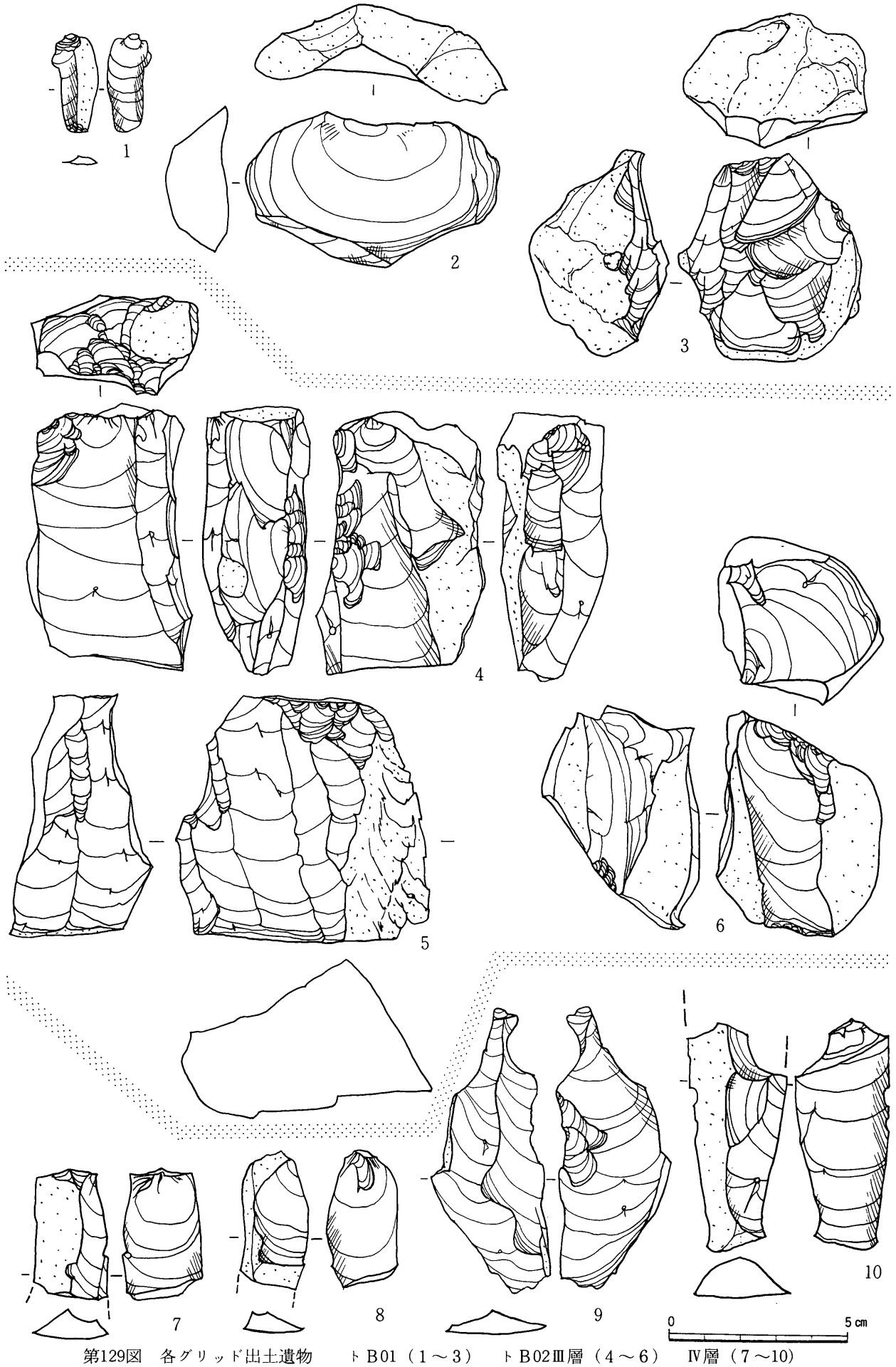
第128図 和田峠シェルター掘割

2. 層 位 I層は同トンネル掘削の際の土砂が覆っていて、II層の黒色土から、オリジナルな層位と把握される。III層は漸移層で、VI層は流紋岩粒を含む風成ローム層、V層は流紋岩粒を含む黄褐色粘質ロームである。

3. 遺 物 主としてVI層から検出される。すべて黒耀石製である。3の石核も河床からの転石を用いていて、数回の打剝を行っている。しかし大きく半分は転石面をのこしていて良好な石核とはならなかったものであろう。他の中小の剝片も転石面、自然面あるいは節理面を大きくのこすものが多いのが注意される。 （大竹憲昭）

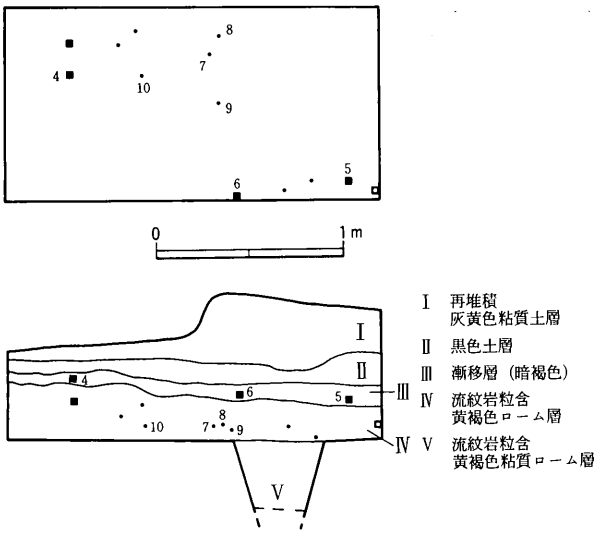
第29表 トB01 出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
II															1					1
III															3					3
IV															2	1	4			7
計															6	1	4			11



第129図　各グリッド出土遺物　　トB01（1～3）　トB02Ⅲ層（4～6）　Ⅳ層（7～10）

ト B 02



第130図　ト B02遺物分布図

1. 位　置　和田峠トンネルシェルターの南側西向き斜面を選定して2×1mを範囲とし、ト B02グリッドを設定した。およそ標高は1,540mである。最も高い位置で、和田峠まではわずかである。

2. 層　位　I層はト B01と同様に、トンネル掘削時の土砂が推積していて、所によっては、1m弱もこの灰黄色粘質土層がみられる。II層から、オリジナルな層位であることも同様である。

II層黒色土層、III層は暗褐色の漸移層、IV層は同様な風成ローム層で流紋岩粒を含むもの、そして、V層が流紋岩を含む粘質のロームである。

3. 遺　物　出土遺物はIII・IV層に集中した。ほとんどが石核と、石核の調整剥片である。

ここではIII層出土のものをI群とし、IV層出土のものをII群として分離し報告しておきたい。

I群（III層出土）　黒耀石製の石核が3点と剥片が3点検出されている。

II群（IV層出土）　黒耀石製の石核が1点と剥片が9点、原石が2点出土している。

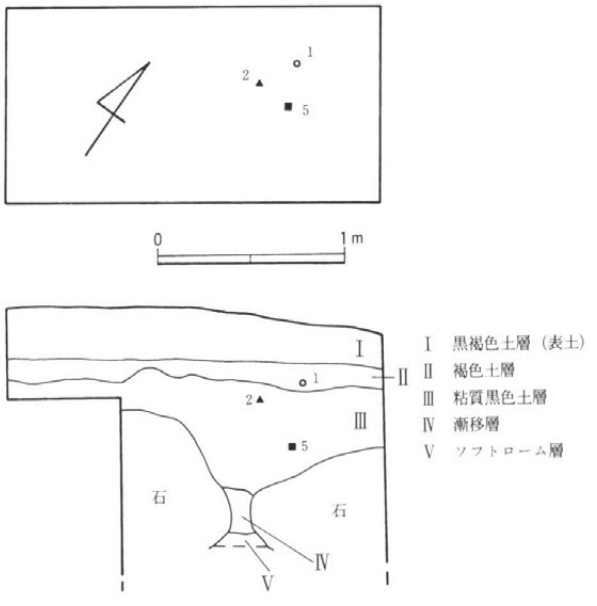
I群は良質な黒耀石を用いており、かなり整った縦長剥片を剥取していることがわかる。剥取痕はほぼ全周にまわり側辺調整も行われている。打面との角度はおおむね直角かそれに近い。打面は調整されたものが多い。転石面のものはなく、節理面をのこすものが多い。その点においては剥片も同様である。

II群はI群の石核とほぼ軌を一にしたものである。剥片は縦長剥片が多く、石核と同一の生産技術の系譜の中にあると言える。しかしこれも同様にして、節理面を一部に残すものが多いのが注意される。9の様に節理面ののこらないものは少ない。荒割り的な調整を感じさせる。（大竹憲昭）

第30表　ト B02　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
III															3	3				6
IV															9	1	2			12
計															12	4	2			18

ト B 03a



第131図 ト B03 a 遺物分布図

1. 位 置 ビーナスライン下の和田川最上流部右岸域に属している。ここにわずかに離れてト B 03 a グリッドと b グリッドを設定した。2 × 1 m の範囲で標高はおよそ1,490mの位置である。

2. 層 序 層序はつぎのようである。

Ⅰ層 黒褐色土層（表土） 30cm

Ⅱ層 褐 色 土 層 10cm

Ⅲ層 粘質黒色土層 60cm

第132図 ト B03調査地点

Ⅳ層 漸移層（黒褐色） 20cm

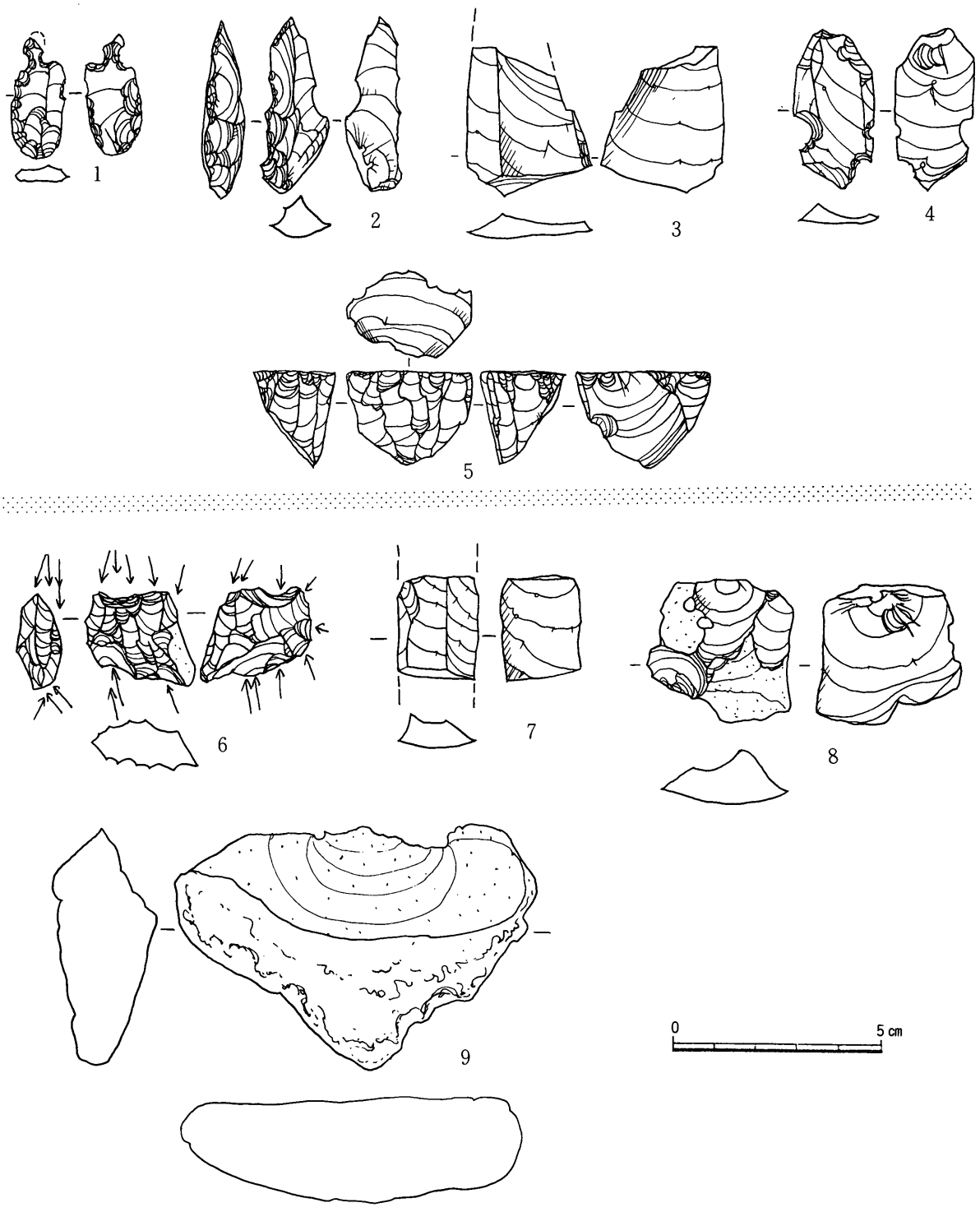
Ⅴ層 ソフトローム層 10cm～

Ⅲ層の下部に大きな山石の推積がみられ、Ⅴ層はその下部と見られる。

3. 遺 物 遺物はほとんどⅢ層の粘質黒土層中から出土したものである。第133図 2 のナイフ形石器 1 点と 5 の細石刃石核が最たるものである。すべて黒耀石製である。細石刃石核はほぼ円錐形を呈し、かなり整った押圧剝離による細石刃の剝離痕がならんでいる。打面は平担で剝離角は約80度である。ナイフ形石器は調整が荒く、二次加工中のものとしてよい。表層から小形の石匙が 1 点出ている。 （大竹憲昭）

第31表 ト B03a 出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
II				1																1
III	1						1					2			58					62
計	1			1								2			58	1				63



第133図　トB03a・b出土遺物　　トB03a（1～5）　トB03b（6～9）

ト B 03 b

1. 位 置 トB03aグリッドと同位置の、若干下ったところに、2×1mのbグリッドを設定した。したがって標高はおよそ1,489mである。

2. 層 序 層序はつぎのようである。

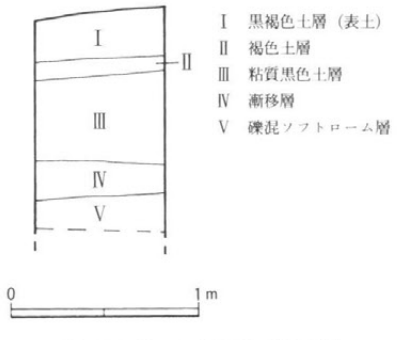
Ⅰ層	黒褐色土層（表土）	25cm
Ⅱ層	褐色土層	10cm
Ⅲ層	粘質黒色土層	40cm
Ⅳ層	漸移層（黒褐色）	20cm
Ⅴ層	礫混ソフトローム層	20cm～

3. 遺 物 遺物はⅢ層の粘質黒土層から検出されている。総点数は23点で黒耀石製である。

第133図6は両極から打剝されている楔形の石器である。剝離面が非常に多く一部周縁にまで及んでいる。この種の石器中やや異例であり、時間的にやや新しいものかもしれない。一部に転石面をのこしている。7は整った石刃状剝片の折れで、8はずんぐりした石核の調整剝片である。転石面を残している。9は安山岩の礫器で風化が著しい。

a・bグリッド共にⅢ層の粘質黒色土層に含まれていたものが多いが、円錐形の細石刃核、ナイフ形石器、楔形石器ともオリジナルな包含層であるかは明らかでない。しかしナイフ形石器の形式も含めて細石刃核のありようは注目される。

（大竹憲昭）



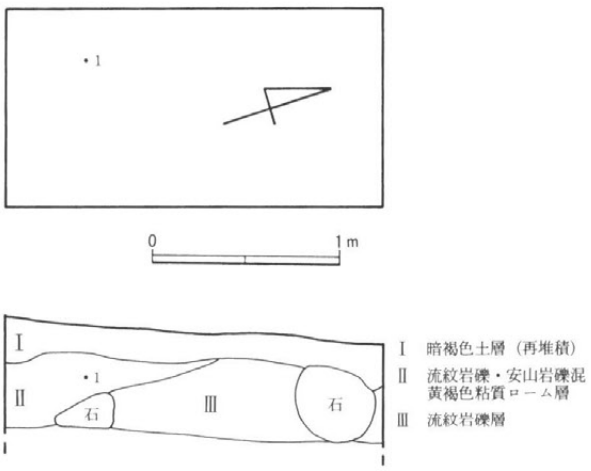
第134図 トB03b断面図

第135図 トB03b試掘坑

第32表 トB03b 出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅱ															1					1
Ⅲ								1							18	1	2			22
計								1							19	1	2			23

ト B 04



第136図　ト B04遺物分布図

1. 位　置　ト B04グリッドは和田川の上流右岸のおよそ1,480m程の緩斜面に位置している。2×1mの範囲を試掘調査した。ト B03地点より約100m離れている。

2. 層　序　層序は次のようである。

Ⅰ層　暗褐色土層（再推積）　20cm

Ⅱ層　黄褐色粘質ローム層（流紋岩・安山岩礫を含む）　40cm

Ⅲ層　流紋岩礫層　40cm～

Ⅲ層内には人頭大以上の流紋岩の礫石を多く含み地山となっている。

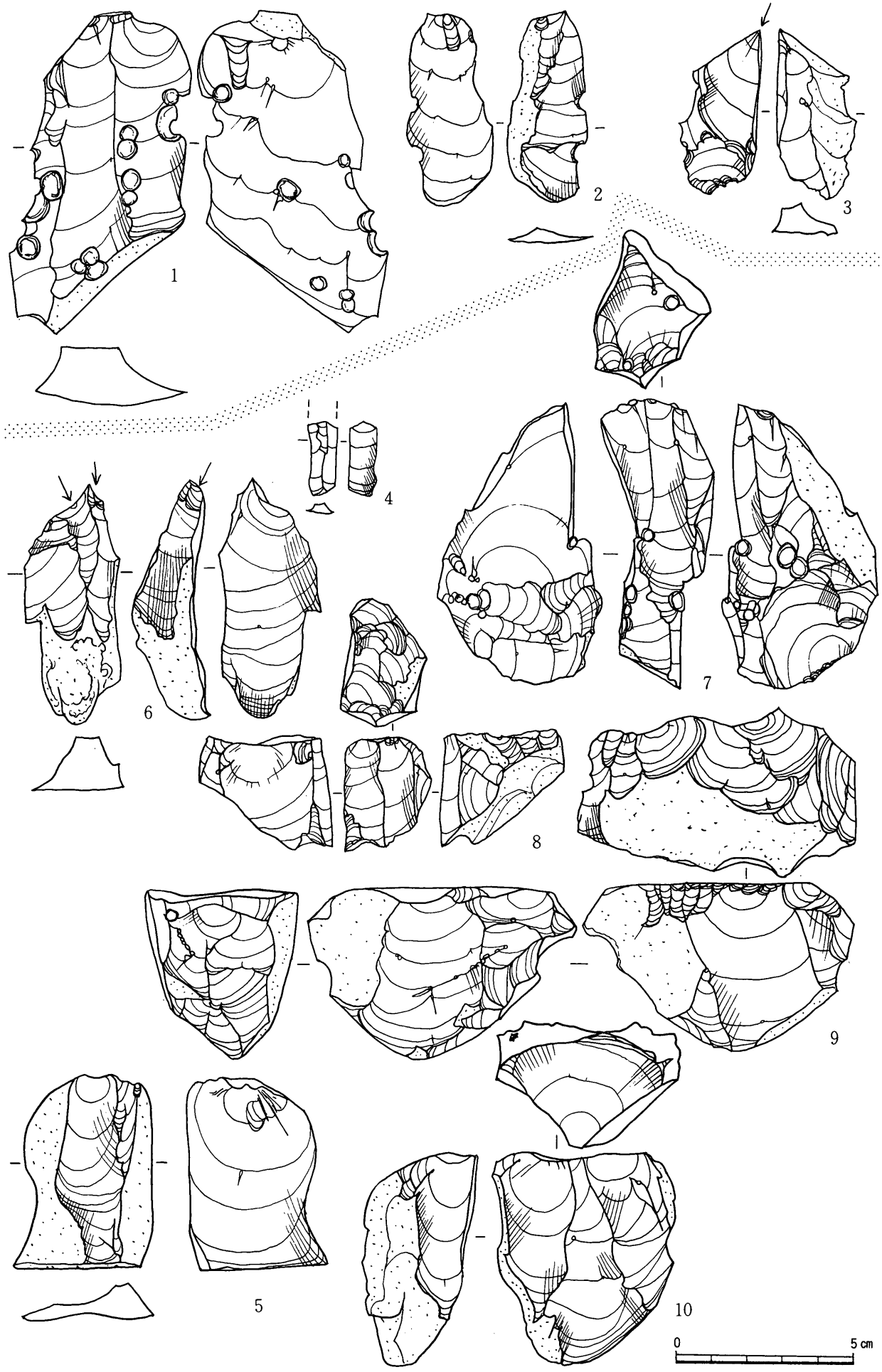
第137図　ト B04調査地点

3. 遺　物　検出されている遺物はすべて黒耀石製である。気泡の入った質の悪い素材のものは大形で、整った形のものは中～小形である。第138図3は両極からの剝離があって注意される。一面あるいは二面に節理面をのこしているのは共通した特徴である。

他に同様な剝片が8点程あるが、その90%には節理面等をのこしていることに注目される。やはり共通した石核の調整の際に生じた剝片とすることができる。　（須藤隆司）

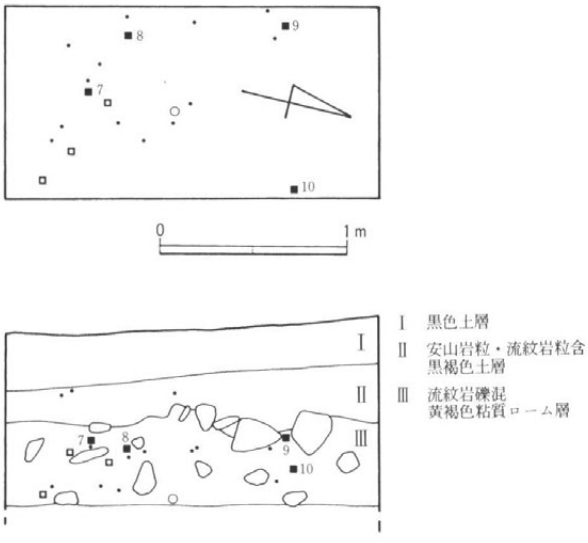
第33表　ト B04　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
II												1			1					2
III												9					19			28
計												10			1		19			30



第138図　各グリッド出土遺物　　トB04（1～3）　トA05（4～10）

トA05



第139図　トA05遺物分布図

第140図　トA05調査地点

1. 位　置　トA04の対岸にトA05グリッドを設定した。標高はおよそ1,487mである。2×1mを範囲として試掘調査を行った。

2. 層　序　層序は次のようである。

Ⅰ層　黒色土層　　30cm

Ⅱ層　黒褐色土層（含安山岩粒・流紋岩粒）30cm

Ⅲ層　黄褐色粘質ローム層（含流紋岩礫）30cm～

Ⅲ層は人頭大・挙大の流紋岩と混在し、その成因が一様でなかった事を示しているが、ロームは風成の推積物である。

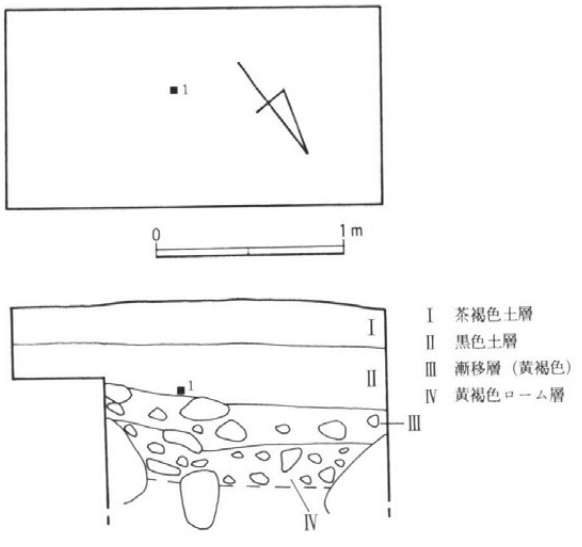
3. 遺　物　遺物は総点数54点の出土をみた。ほとんどがⅡ・Ⅲ層出土のもので一括資料とみられる。石核が6点みられ、剥片類が40点を超えている。又黒耀石の挙大の転石による原石が5点ある。

第138図6は斜角に彫刃部を構成する彫器ともみられる一例である。尖端から斜めに交叉する調整が行われている。転石面が大きくのこされているが良質の黒耀石が使用されている。石核は打面と剥離角がほぼ90度のもの8・9と、鋭角になる80～70度内外のもの7・10の二種があり、共に打面の調整打が行われている。　（須藤隆司）

第34表　トA05　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II												1			28	2	2			33
III															14	4	3			21
計												1			42	6	5			54

ト A 06



第141図　ト A06遺物分布図

1. 位　置　ト A05地点より北下方80m程の位置に本グリッドを２×１mの大きさで設定した。標高は約1,480mである。和田川上流の左岸域ということになる。

2. 層　序　層序はおよそ次のようである。

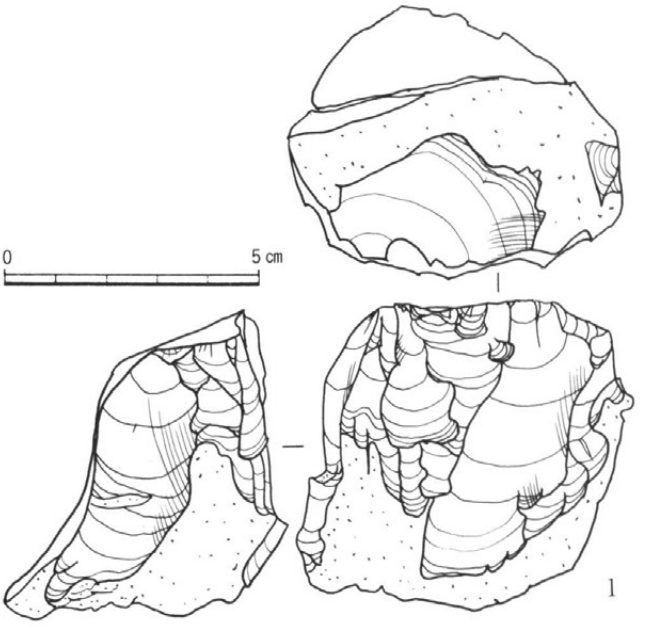
Ⅰ層	茶褐色土層	20cm
Ⅱ層	黒 色 土 層	30cm
Ⅲ層	漸移層（黄褐色）	20cm
Ⅳ層	黄褐色ローム層	30cm～

Ⅲ・Ⅳ層に拳大から人頭大の流紋岩礫を含んでいる。深度が深くなるにしたがって礫が大きくなるのは、Ⅲ・Ⅳ層が関連した層位であることを教えている。

3. 遺　物　黒耀石製の石核が１点検出されている。図示したものがその一例である。拳大の転石を用いている。質はきわめて良質である。打面の一剝取の調整を行ったのち、その調整打面を加撃面として連続的に一方向から加撃し、縦長剝片をとろうとしている。少なくとも９面を数えるが、大きく自然の転石面をのこすところから、まだ本格的な剝離に至っていないものと理解できる。ここから剝離されたと見られる縦長剝片は得られていない。

転石面を大きくのこす石核としてこの地点の性格に深くかかわるものであろう。　（堤　隆）

第142図　ト A06調査地点

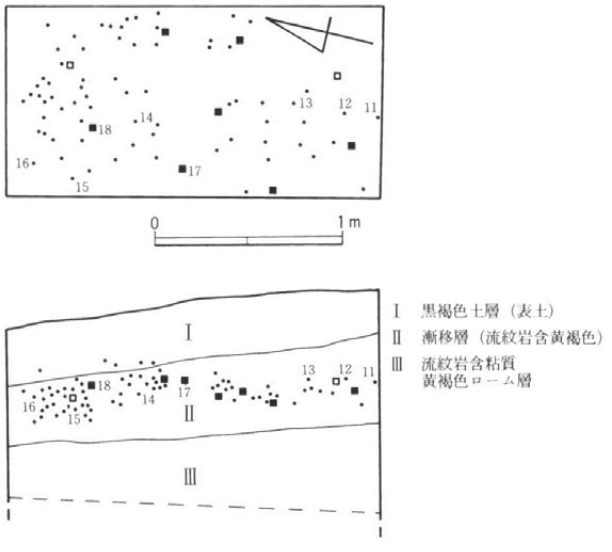


第143図　ト A06出土遺物

第35表　トA06　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II																1				1
計																1				1

トA　07



第144図　トA07遺物分布図

1. 位　置　トA06グリッドの地点より250m程はなれた和田川上流左岸域の斜面を選定して試掘グリッドを設定した。国道のすぐ上部の縁辺である。標高は1,460m程で、範囲は2×1mである。

2. 層　序　層序はおよそ次のようである。

I層	黒褐色土層（表土）	30cm
II層	漸移層(流紋岩含砂礫質黄褐色)	40cm
III層	流紋岩含黄褐色粘質ローム層	20cm

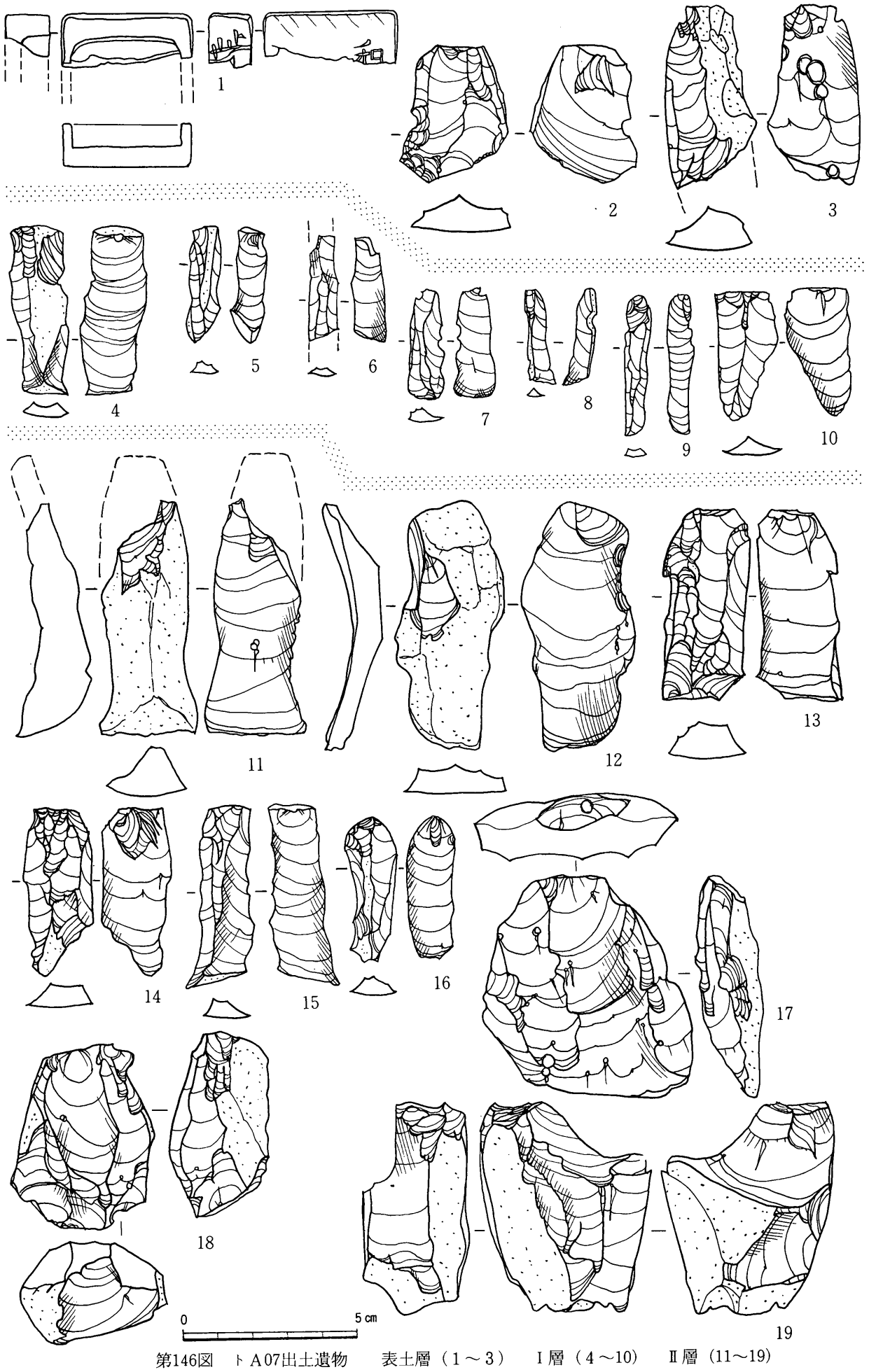
第145図　トA07調査地点

3. 遺　物　遺物のほとんどはII層内の漸移層内にふくまれていた。

表土中に小形携帯用の硯の破片、タッチのある剥片類があった。とりわけ硯片は中山道とあって興味ある資料と言える。側面に「上山」などの刻字があり、裏面には「和」の字の刻字が見えるがその意味や表わすものは明確でない。粘板岩製で「海」側が欠損している。

I層中に小形で良質な転石面や節理面をのこさないかなり整った縦長剥片が集中して出土している。他に皮つきの剥片もかなり多く、約40点程出土している。

遺物はII層中に集中して包含されていた。石核



第146図　トA07出土遺物　　表土層（1～3）　Ⅰ層（4～10）　Ⅱ層（11～19）

7点をはじめとして、縦長剥片群が多い。第46図17～19は石核で、全点に転石面や節理面を残している。打面と剥離面とのなす角度は80～70度で鋭角になるものが多い。すべて調整打面で概して板状の石核が多いのも注意される。

縦長剥片は皮を残さないもの13～16と、皮を残すもの11・12とがあるが、前者と後者との比はおよそ１：４で、75%が皮つきである。石核の調整の際の生産物で、遺棄されたものと見受けられる。典型的な石器としての器種もなく、縦長剥片の生産がこの地域で行われていたことは自明である。

又、生産された縦長剥片は、ほとんどが持ち出されている可能性が強いものと推定される状況である。その中で転石等石核とする途上での生産物としての皮つきの縦長剥片は遺棄されていたものと見られる。（須藤隆司）

第36表　トA07　出土遺物層位別一覧表

器種／層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
I													2		39		2			43
II												3		1	143	7	2			156
計												3	2	1	182	7	4			199

トA　08

1.　位　置　小深沢入口の右岸小扇状地上に選定してこのグリッドを２×１mとして設けた。標高はおよそ1,455mである。小深沢は黒耀石露頭のある沢で、必ずしも良質でないが拳大の転石を沢筋にて拾うことが出来る。沢尻は、和田川に落ち込んでいる。

2.　層　序

Ⅰ層　黒褐色土層（表土）　25cm

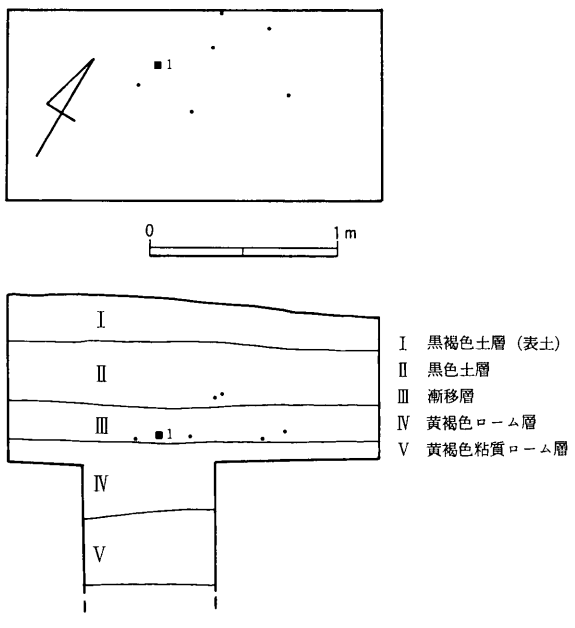
Ⅱ層　黒色土層　30cm

Ⅲ層　漸移層（暗褐色）　20cm

Ⅳ層　黄褐色ローム層　40cm

Ⅴ層　黄褐色粘質ローム層　40cm～

3.　遺　物　遺物は総点数で８点、必ずしも多く



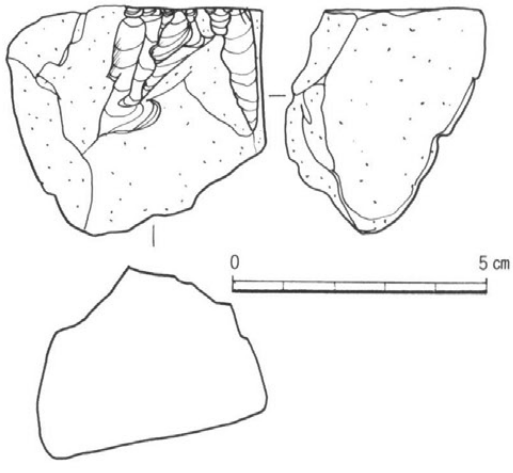
第147図　トA08遺物分布図

ない。石核１点のみで他は剥片である。図示した石核は黒耀石製で、小深沢の転石を用いている。調整打面を作ってのち連続した剥離を行っていることが判明する。こまかい縦長剥片を試行的に打剥したものと思われ、その作業は途中でとどまり、石核は遺棄されたものかと見られる。一部に連続した剥離痕をのこすのみで、大部分は転石面に覆われている。

この所見は剥片類も同様であって、片面と大きく転石面をのこしているものが多いのは、他の試掘坑と共通である。整ったものが少ない。

その点は他の地点試掘坑と共通するものであって、一帯のⅢ層あるいはⅣ層までに含まれている遺物群は、素掘りの調整段階でとどまっている石核とそれまでに生産された剥片が多いことが明らかであるものと言えよう。それ以後の石核あるいはかなり整った縦長剥片は、むしろ特殊な場合のみのこされている可能性が高く、搬出されているものと見ることもできる。

現段階での推測であるが、ほぼ妥当なものとできる状況である。　　（堤　隆）



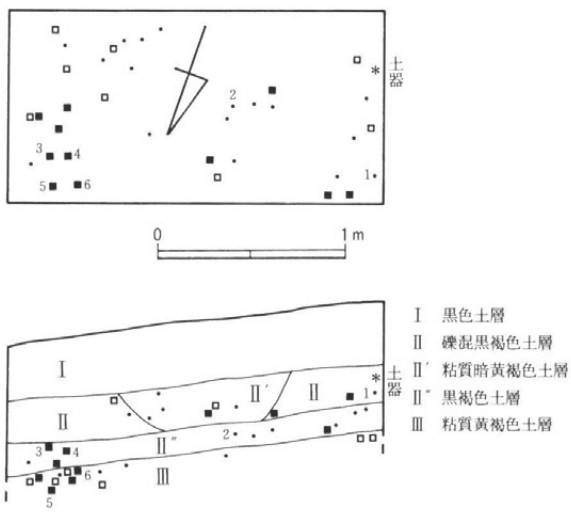
第148図　トA08出土遺物

第149図　トA08調査地点

第37表　トA08　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ・Ⅱ															3		1			4
Ⅲ															3	1				4
計															6	1	1			8

トA 09



第150図　トA09遺物分布図

第151図　トA09調査地点

1. 位　置　トA08グリッドより下方の小深沢右岸で130m程はなれた地点の台地上緩斜面を選定して、トA09グリッド2×1mを設定した。和田川左岸域の、およそ標高1,440mであり、国道が横切るそのすぐ上部である。

2. 層　序　層序は次のようである。

Ⅰ層　黒色土層　30cm

Ⅱ層　礫混黒褐色土層　30cm

Ⅱ′層　粘質暗黄褐色土層

Ⅱ′′層　黒褐色土層

Ⅲ層　粘質黄褐色土層　20cm～

3. 遺　物　遺物はⅡ・Ⅲ層より集中して検出された。特にⅡ′・Ⅱ′′・Ⅲ層上部である。総点数49点はその包含状況からして一括資料と把握される。

Ⅰ層内から諸磯A系の土器片（第166図1）が2片検出されていて注目される。

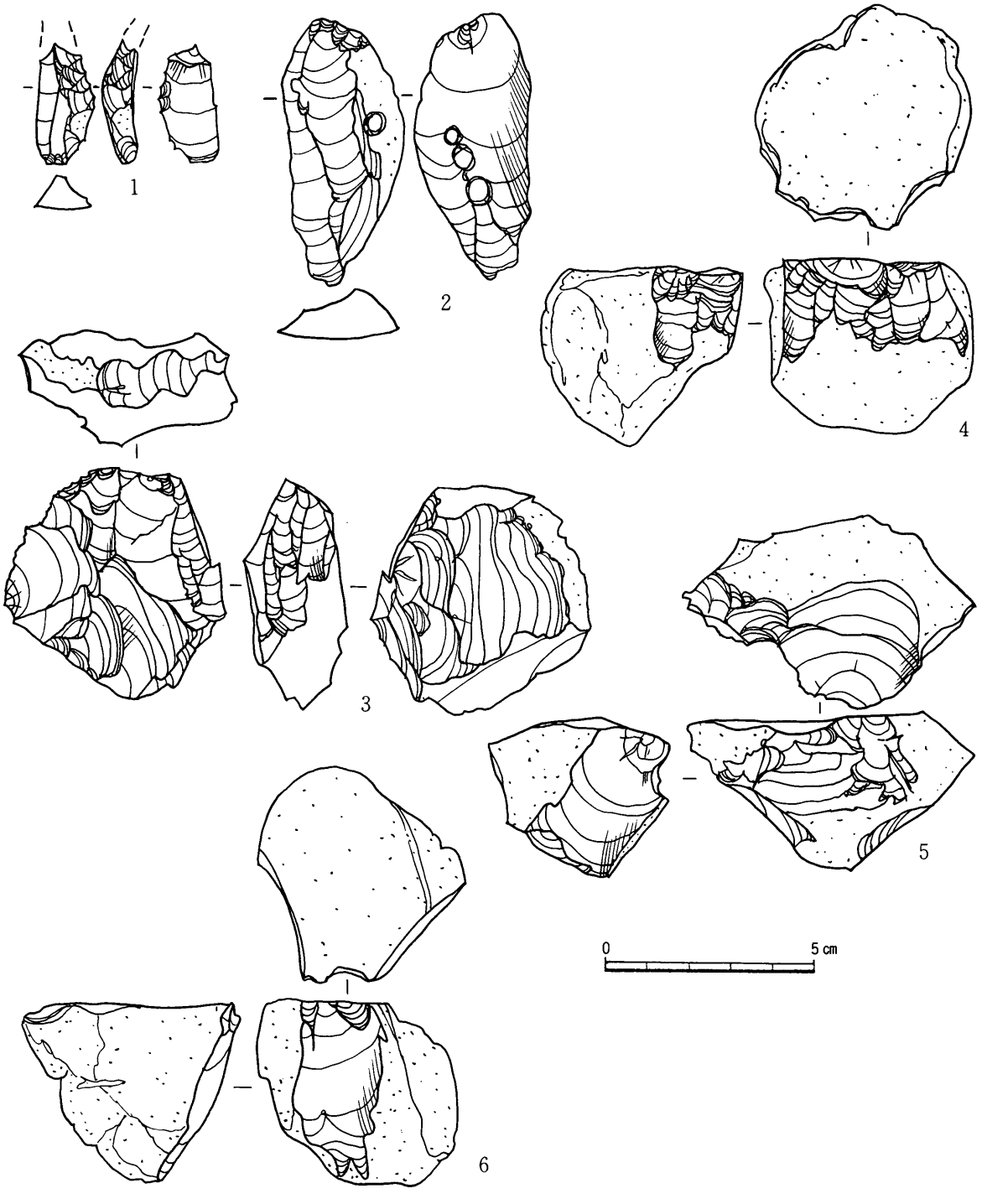
Ⅱ層内からは第152図1～4が主たるもので、Ⅲ層上部からは5・6などの石核を示すことができる。

二次加工のある剝片として1・2、しかし石核を含めてすべての資料に転石面や節理面を持つことは共通である。石核は打面と剝離が90度に近いものと70～80度のものの二種類がある。

（大竹憲昭）

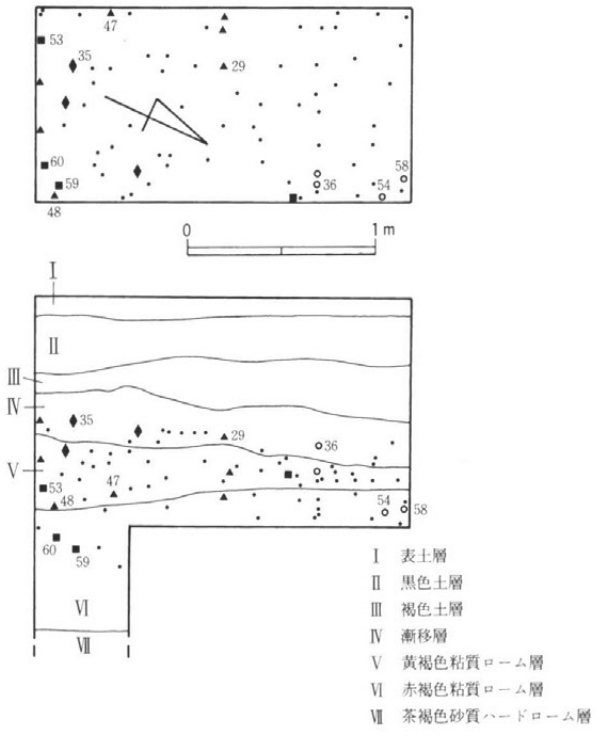
第38表　トA09　出土遺物層位別一覧表

器種／層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅱ												2			9	10	2		2	25
Ⅲ															14	4	6			24
計												2			23	14	8		2	49



第152図　トA09出土遺物（1～6）

ト A 10



第153図　ト A10遺物分布図

1. 位　置　和田峠キャンプ場の一角を選定してグリッドを設定した。ここは和田川左岸域のやや広い緩斜面であって良好なキャンプ場地形となっている。標高は約1,440mである。そばに中山道の一里塚があり、中山道は歴史の道となっていてそのすぐわきを位置している。

2. 層　序　層序は次のようである。

I層	表　土　層	10cm
II層	黒 色 土 層	30cm
III層	褐 色 土 層	10cm
IV層	漸　移　層	25cm
V層	黄褐色粘質ローム層	40cm
VI層	赤褐色粘質ローム層	60cm
VII層	茶褐色砂質ハードローム層	20cm～

3. 遺　物　遺物の量は比較的に多く出土している。特にIV～VI層に及んでおり、一応各層位に応じて報告する。すべて黒耀石製である。

第154図　ト A10調査地点

第155図　ト A10試掘坑

I・II層　総点数399点である。尖頭器の調整途中のものが2点検出されており第156図1がその一例である。一部に節理面を残し調整打が周縁から行われているが、欠損品となっている。他に掻器状の剝片や、小形の縦長剝片の折れたものなどが検出されている。なお転石面や節理面を一部にのこしたものが非常に少なく、全体の10%以下であることも注意しておきたい。

III層　総点数196点である。掻器状の第156図19や一部に小剝離の入れられた17・18などもあるが概して整った縦長剝片が多い。18・20・21・26な

どは節理面を一部にのこすが、全体として節理面ののこるものは23%程で77%は節理面ののこらないものである。しかしほぼ完形のものとみられるものはⅠ～Ⅲ層とも少なくて、折れたものが多い(92%)のも特徴である。黒耀石は良質なものが選択されている。

Ⅳ層　総点数は56点である。ナイフ形石器2点、尖頭器3点、掻器状の石器もあって全体には石器の占める割合は多い層位である。第157図29・30がナイフ形石器である。29はやや整わない縦長剥片を用いていて、背面の剥離が一面、かなり大形の石核の際の横方向の剥離である。あと一面と腹面は逆方向の剥離で一定方向でない。30は一面に節理面をのこしているが打剥の方向は一定している。29のブランティングは基部のみである。30も軌を同じくしているが、打点を欠くように調整を行っている。尖頭器35・36の2点を図示したが、35は基部で先端部の欠損したもの、36は、スポール状で男女倉彫器状にとったものかもしれない。2条の剥離痕が構成されている。33は掻器状である。縦長剥片は転石面・節理面をのこすもの(38)は少なく、石核はほとんど見当らない。

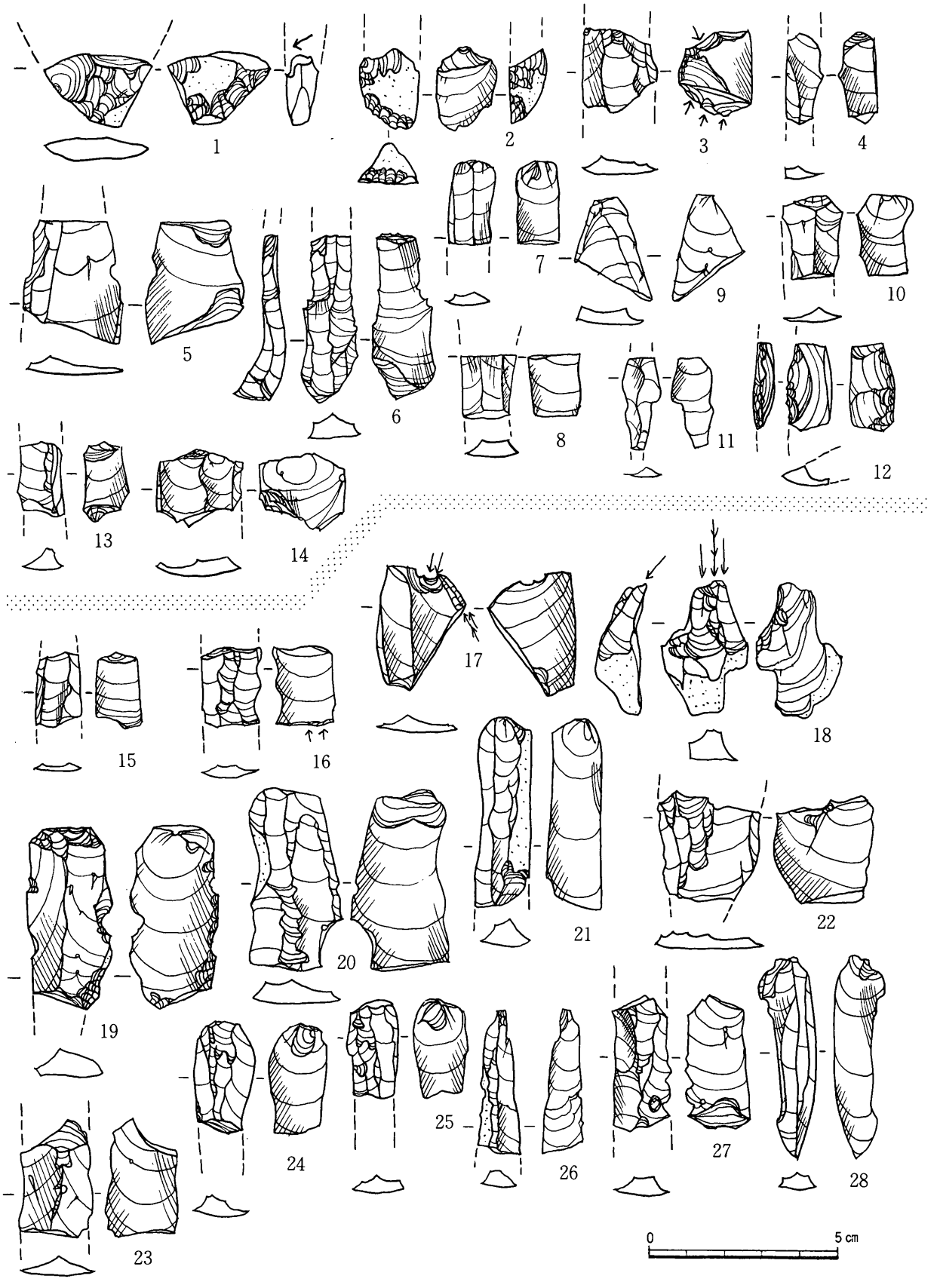
Ⅴ層　ナイフ形石器1に掻器2、石核2の総数35点である。ナイフ形石器は基部のみの半欠品で、巾広いかなり整った縦長剥片を用いて調整をしている（第158図47)。掻器（48）は丸味を帯びた剥片の側辺に掻刃部をつけたり、先端につけたりしたもの（49）である。石核は大形で、調整打面と剥離面とのなす角度は約80度で又、転石面を持っている。剥片群に比べて石核の量が少ない。

Ⅵ層　掻器類2点、石核2点の他は剥片群である。概して小形であって、第158図54・58の掻器も必ずしも整った剥片ではない。石核は転石面をもつ59と全周に剥離の及ぶ60とがあるが、打面とのなす角度は両者とも80度前後である。

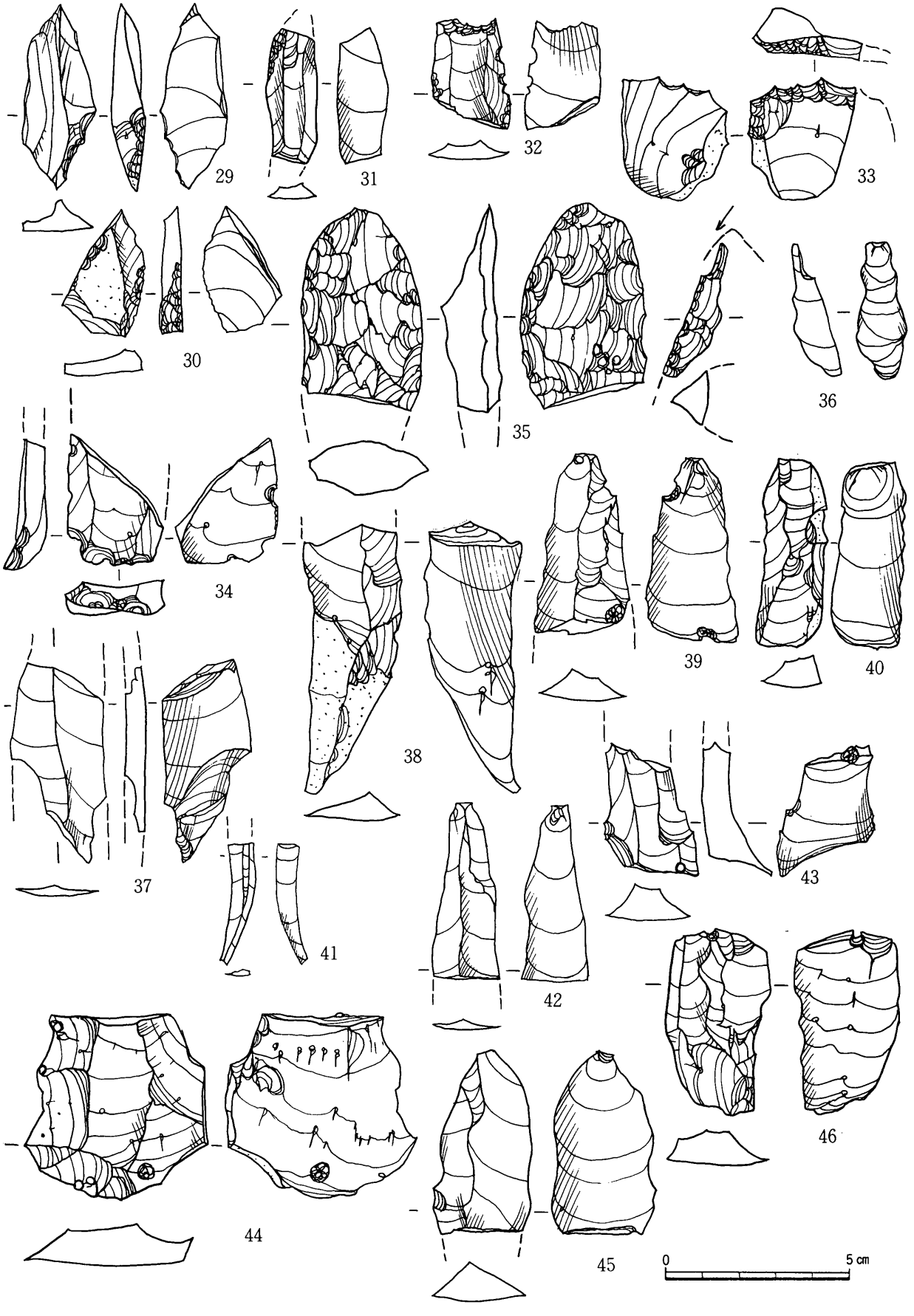
Ⅵ→Ⅴ→Ⅳ→Ⅲ→Ⅱ・Ⅰとの時間的推移は事実であるとしても、小範囲では課題を提起するにとどまる。　（森山公一）

第39表　トA10　出土遺物層位別一覧表

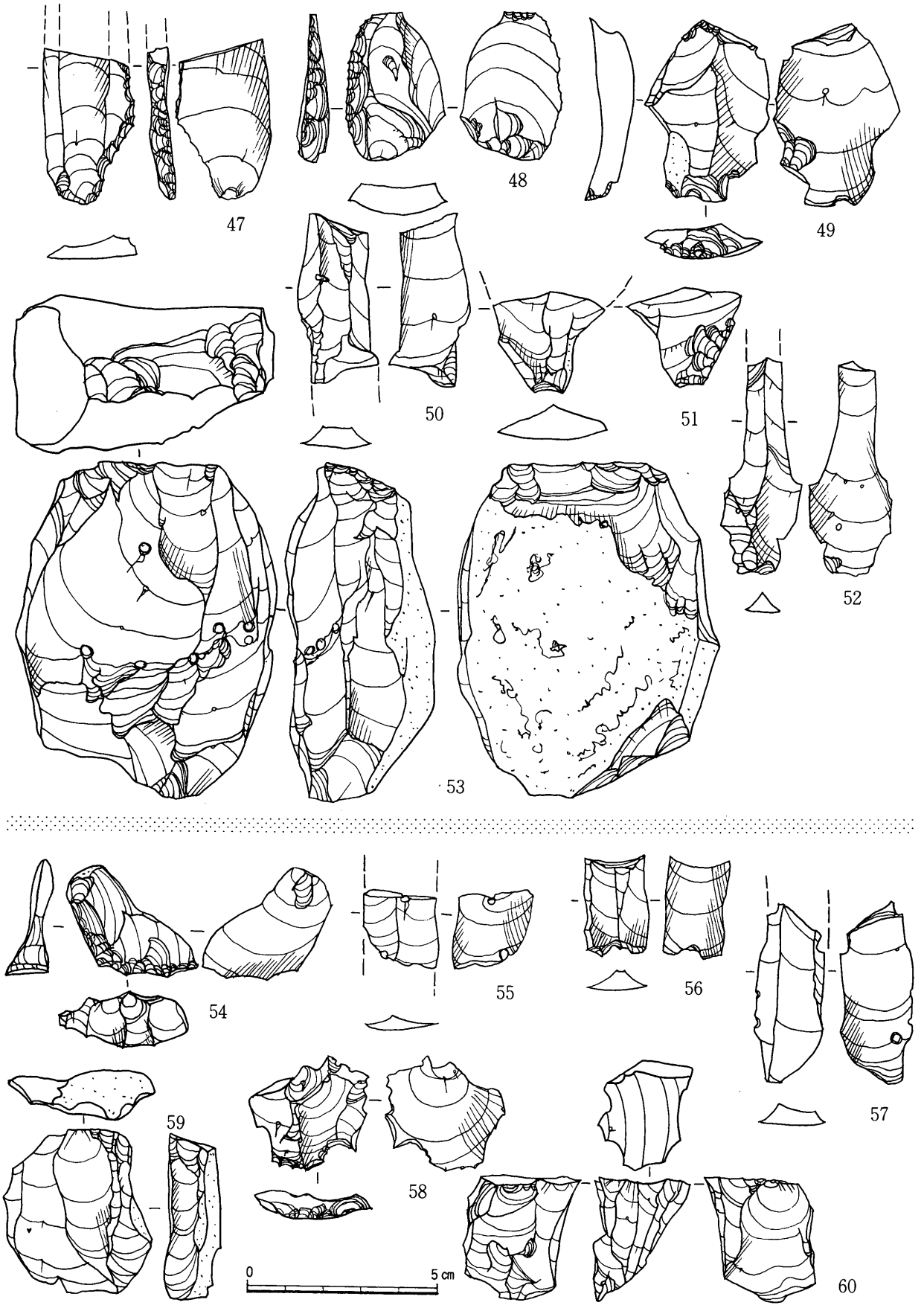
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ・Ⅱ		2										13			359		25			399
Ⅲ				1								13	1	1	180					196
Ⅳ	2	3											1		51	1				58
Ⅴ	1			2											30	2				35
Ⅵ				2								5			17	2				26
計	8	5		3								31	2	1	637	5	25			714



第156図　トA10出土遺物①　　トA10Ⅰ・Ⅱ層（1～14）　Ⅲ層（15～28）



第157図　トA10出土遺物②　　トA10Ⅳ層（29～46）



第158図　トA10出土遺物③　　トA10Ⅴ層（47～53）　Ⅵ層（54～60）

トA 11a・b

1. 位　置　トA10グリッドのキャンプ場地点から中山道の歴史の道を越えてやや下った平担面に2×1mのグリッドを設け調査を行った。中山道の撹乱もあって良好な調査とはならなかったのがトA11aグリッドである。

したがってやや上方にずらしてトA11bグリッドを設定し、2×1mの範囲で調査を行った。標高は1,415mである。

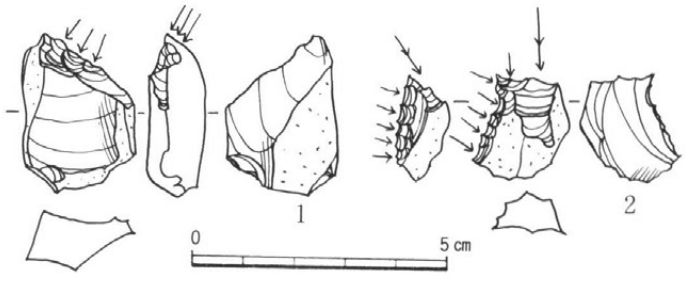
2. 層　序　トA11bグリッドの層序は次のようである。

Ⅰ層	表土層	20cm
Ⅱ層	黒色土層	30cm
Ⅲ層	漸移層	20cm
Ⅳ層	流紋岩・安山岩礫含黄褐色ローム層	45cm
Ⅴ層	礫　層	30cm

3. 遺　物　遺物はⅣ層にのみ集中して出土している。ここで特に注意されるのは石核群や原石群であって、トA10グリッドと合わせ考えることが必要であろう。

第162図2～5は石核である。石核は7点検出されているが、図示出来なかった13×12×8cmの大形の石核もある。13面の縦長剥片を、連続的にとっているが大きく転石面をのこす質の良好でない黒耀石がある。概してここのものは良好とは言いがたく、気泡などの結晶点がある。それはすべてに見られるもので、2のみやや良質の黒耀石を用いている。2は部厚い剥片とするよりは石核の途中破損と見られる。周縁調整もあって不定形である。調整打面の剥取によって、縦長剥片の剥取

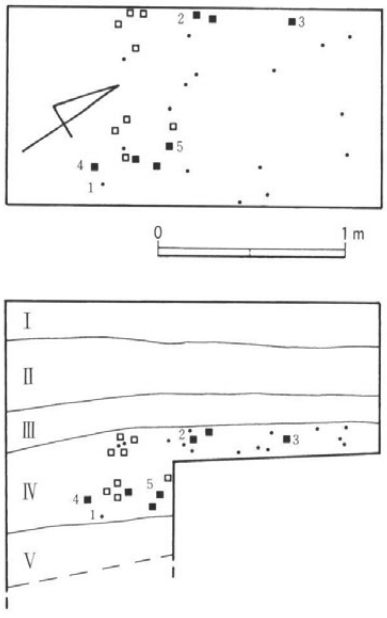
第159-1図　トA11a出土状況



第159-2図　トA11a出土遺物（1・2）

第40表　トA11b　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅳ												2			25	7	18			52
計												2			25	7	18			52



第160図　トA11b遺物分布図

第161図　トA11b試掘坑

角を70～80度に鋭角にする意図が読みとれる。だが、ほとんどが一～数面の剝離で遺棄されたかのようである。かなり粗雑であって、豊富な素材と遺棄される素割の状況が、そこにあるように思われる。ここでは貴重品ではなく、消耗的な目的が圧倒的に多いことがそれを物語っている。そうした資料は遺棄されていったものであろう。

1に見る縦長剝片はその中でも良質な黒耀石を用いている節理面等のこされていない一例である。近接関係にあるトA10グリッドと関連させると、素割の場所と再加工選択の場所とを構造的に持っていた可能性もあり得ることを教える。

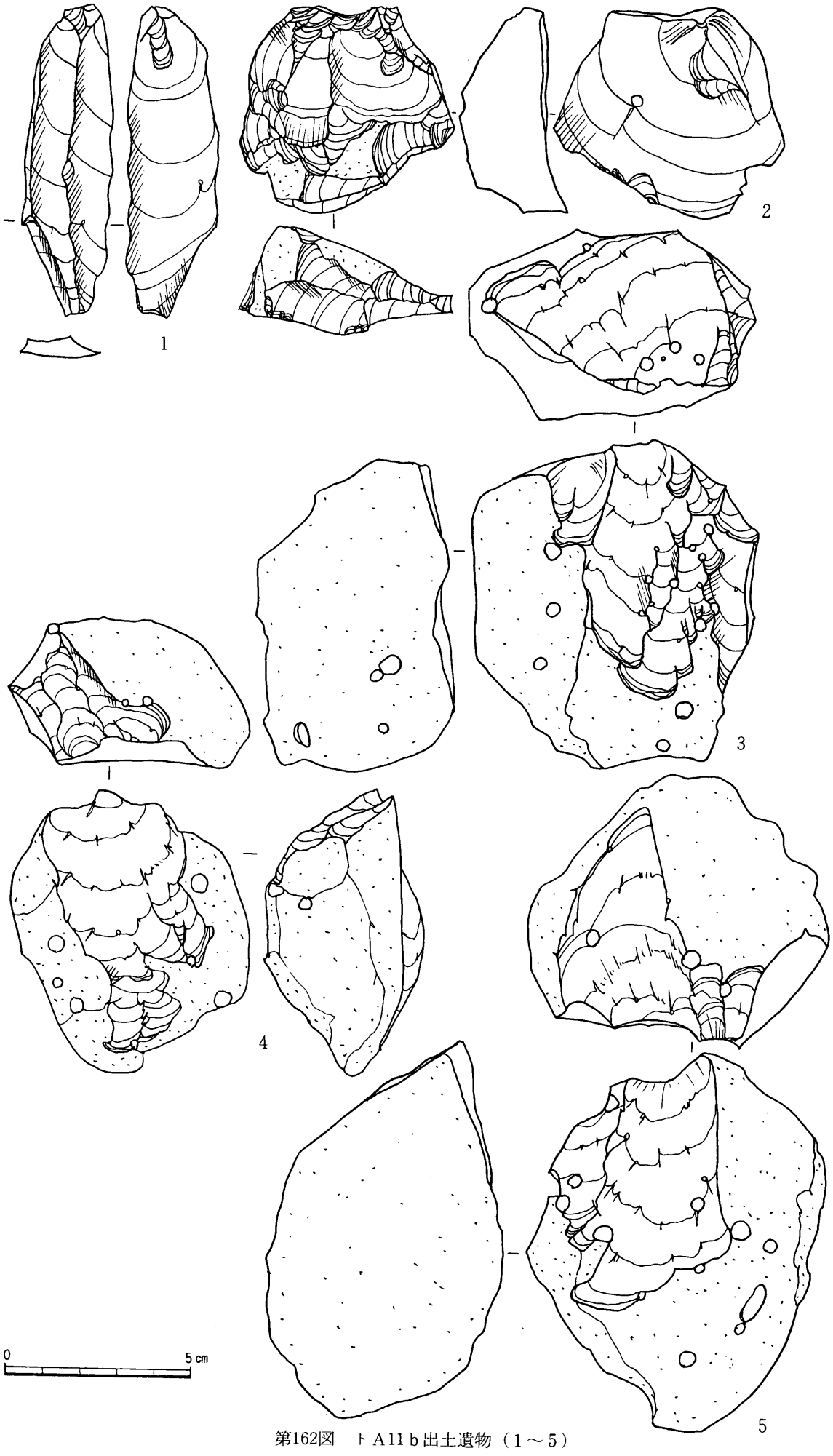
黒耀石の拾得・素割、持ち出しあるいは再加工後持ち出しか、いずれにせよ、ナイフ形石器に尖頭器の伴出する時期の一つの断面が推測されるものと見られる。

トA11aグリッドから検出されている加工痕のある剝片2点についてふれておくこととする。

第159図1は節理面を持つ剝片で、あまり大きくない原石を用い表裏を剝離の後、一つの側縁に掻刃部様の小剝離を入れているものである。にわかに分類はしがたいがタッチのある剝片としておきたい。しかし意図的な生産過程があることは間違いない。2もおそらく節理面のある黒耀石の小礫を用いている。その側縁に掻刃部様の小剝離を入れたもので、刃部直線状でなくやや内弯している。中山道の道造りの際に表面に出たものであろうが、付近にこうした掻器様のユニットが存在する可能性もあると思われる。

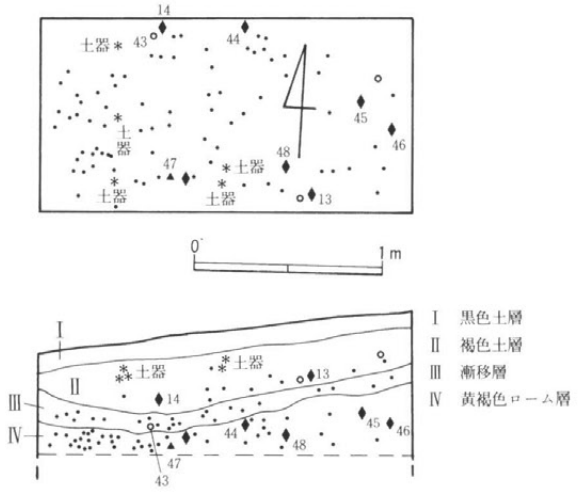
素割的な地点、石器生産とあるいはその生産における構造的な姿がこの中にあるのかもしれない。

（森山公一）



第162図　トA11b出土遺物（1～5）

ト A 12a



第163図 ト A12遺物分布図

1. 位 置 中山道の一里塚地点にグリッドを設定した。ここで大きく和田川は曲流するが、地形は残丘状を呈している。標高約1,410mで、2×1mの範囲を調査したが、おびただしい資料が得られていて注目される。

2. 層 序 層序は次のようである。

Ⅰ層	黒色土層	20cm
Ⅱ層	褐色土層	25cm
Ⅲ層	漸移層	20cm
Ⅳ層	黄褐色ローム層	20cm～

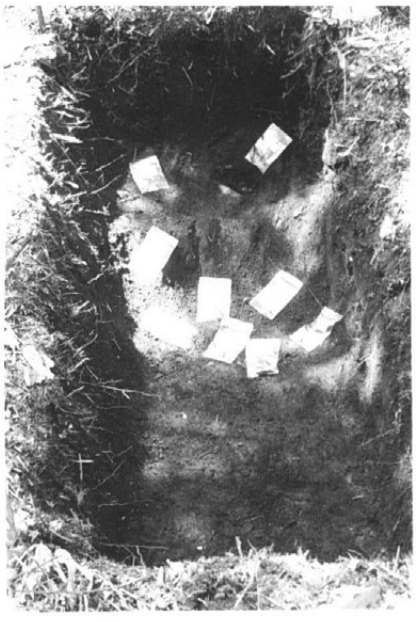
3. 遺 物 総点数はⅠ・Ⅱ層247点、Ⅲ層76点、Ⅳ層131点の計454点である。Ⅰ・Ⅱ層から土器片5点の出土を確認したのでそこから見ておきたい。

Ⅰ層 土器片5点

東海系粕畑式土器 2・3 (縄文早期)
関東系黒浜式土器 4・5 (縄文前期)
中部高地系有尾式土器 6 (縄文前期)

粕畑系の土器片は繊維が入るうすく固い焼成のもので、爪形文様の連点が行われている。又同一個体とみられる鴨嘴状突起と見られるものもある。黒浜系は半截竹管による刺突や沈線文の組み合わされるもの、又有尾系は半截竹管文と縄文の組み合わされるもので共に繊維の入らないものである。こうした縄文土器の出土やその系譜については興味ある資料といえよう。

第164図 ト A12調査地点



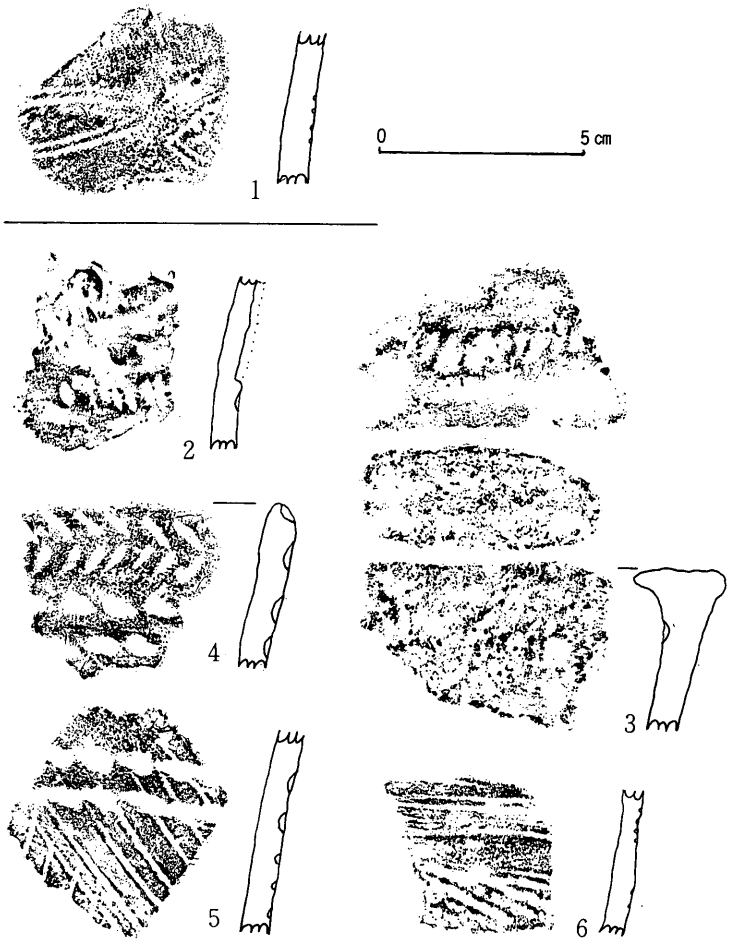
第165図 ト A12出土状況

Ⅰ・Ⅱ層 Ⅰ・Ⅱ層の石器群は総点数247点である。分離することは可能でないので一括してあつかう事とする。石器は尖頭器の破片2点(第167図13・15)と、数の多い楔形石器が特徴的である。ともに黒耀石製である。尖頭器の破片は共に男女倉型の尖頭器の削片とも見られ、その存在を

知ることができる。楔形石器は多面体になるものが多く、上下両極から剝離されたものが集中していることは注意される。剝片群は皮つきのものが63%である。又、石核が検出されていないことも注意に価する。

Ⅲ層　Ⅲ層は漸移層であり、より下部の石器群とかかわるものであるが、一応分離しておきたい。削器1点（第168図40)、楔形石器1点(35)、石核が3点（41～43）で、他は縦長剝片である。石核はいずれも自然面をのこしたもので調整途上で遺棄されたものと見られる。縦長剝片はかなり良質で整ったものが多く、又自然面をのこすものは少なくおよそ15%である。ほぼ中程度のものが多い。

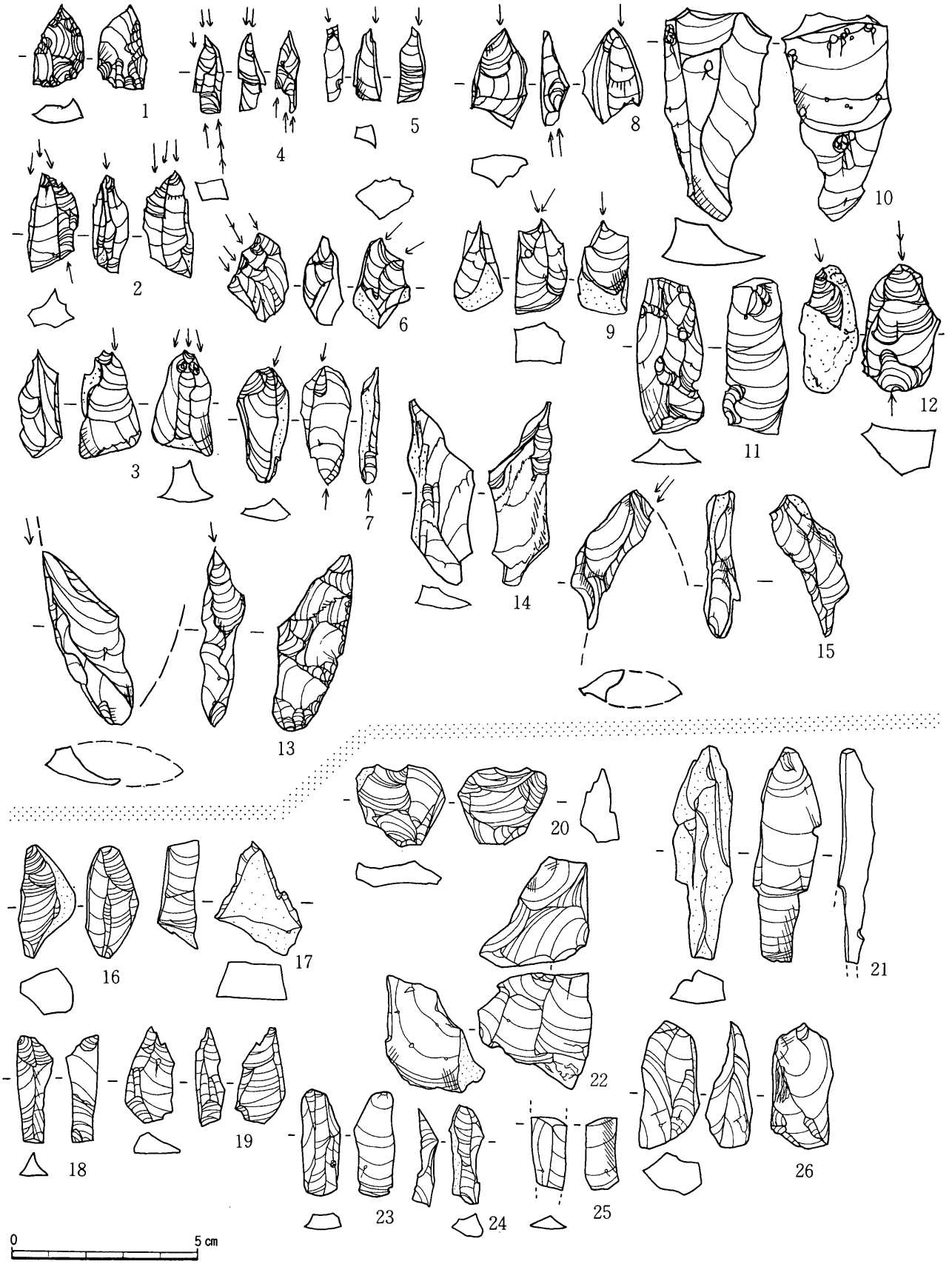
Ⅳ層　ナイフ形石器1点(第169図47)、尖頭器の未成品5点（45・46・48・50・53）がある。転石面のある石核第170図64と、節理面のある石核63・65・66の合わせて4点もある。なお1点のナイフ形石器は黒耀石製ではなく硬質な凝灰岩製であることが注目される。入念な背部加工がされており、基部も丸くなるように整えられている。背部加工は直角に近く、刃部には若干の使用痕とみられる痕跡もある。石材が北回りでもたらされた凝灰岩であることが特に注意される。皮つきの剝片はおよそ78%である。3分の2以上に及んでいることと合わせ考えたい。　（森山公一）



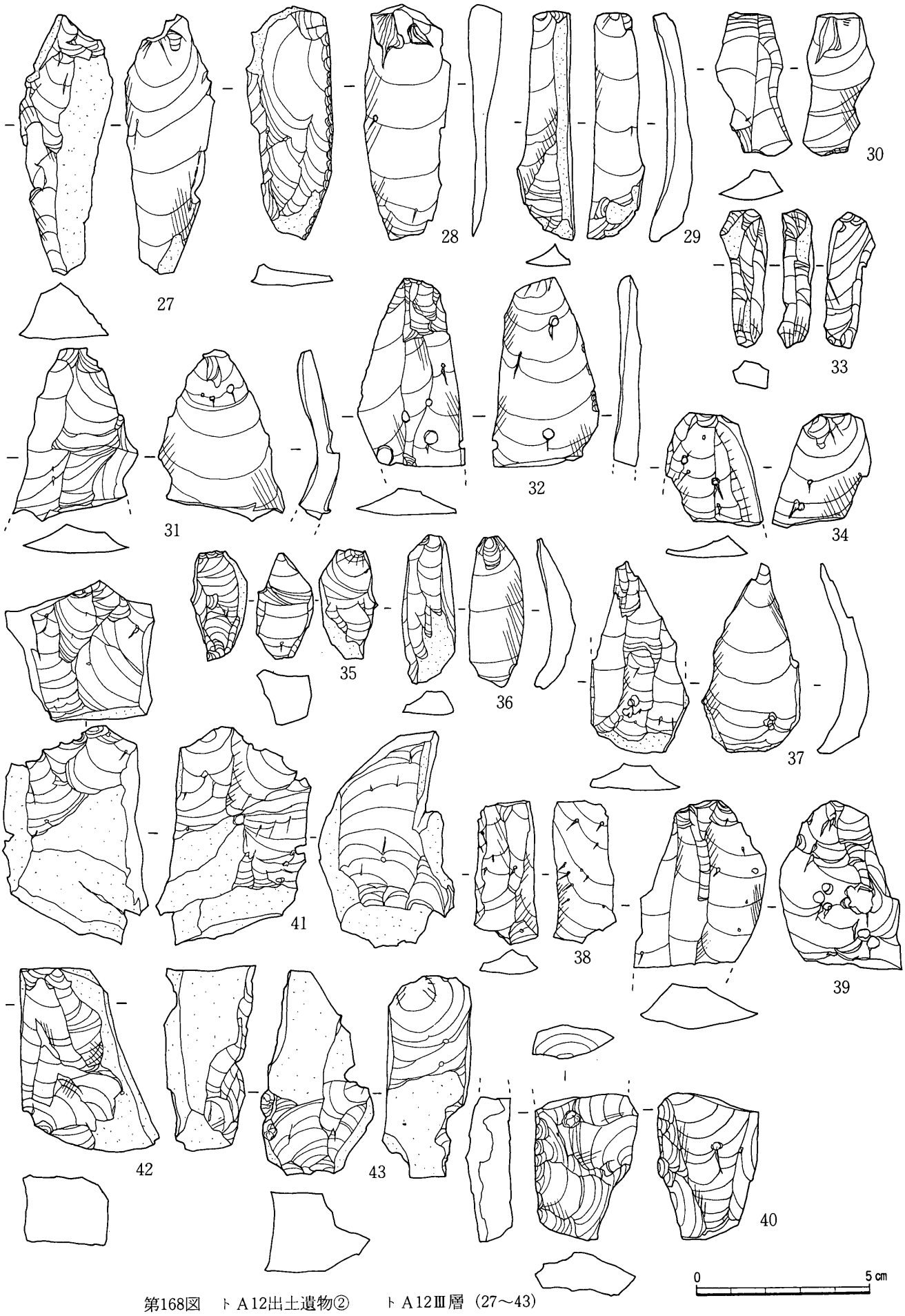
第166図　各グリッド出土土器　トA09（1）　トA12（2～6）

第41表　トA12　出土遺物層位別一覧表

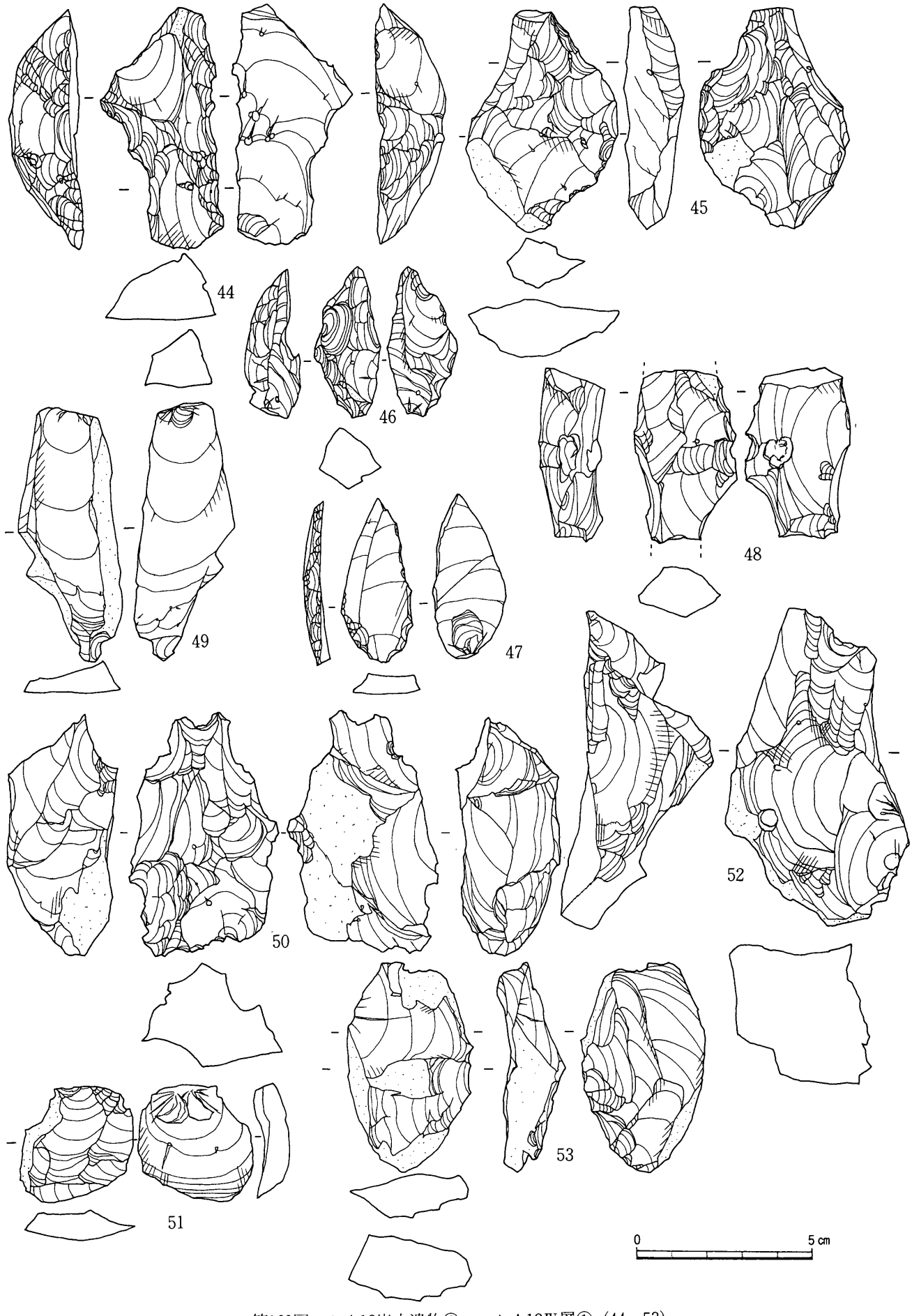
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ・Ⅱ		2						11				3	3	3	217			3	5	247
Ⅲ				1				1				4	3		60	3				72
Ⅳ	1	5										2	4		111	4	1			128
計	1	7		1				12				9	10	3	388	7	1	3	5	447



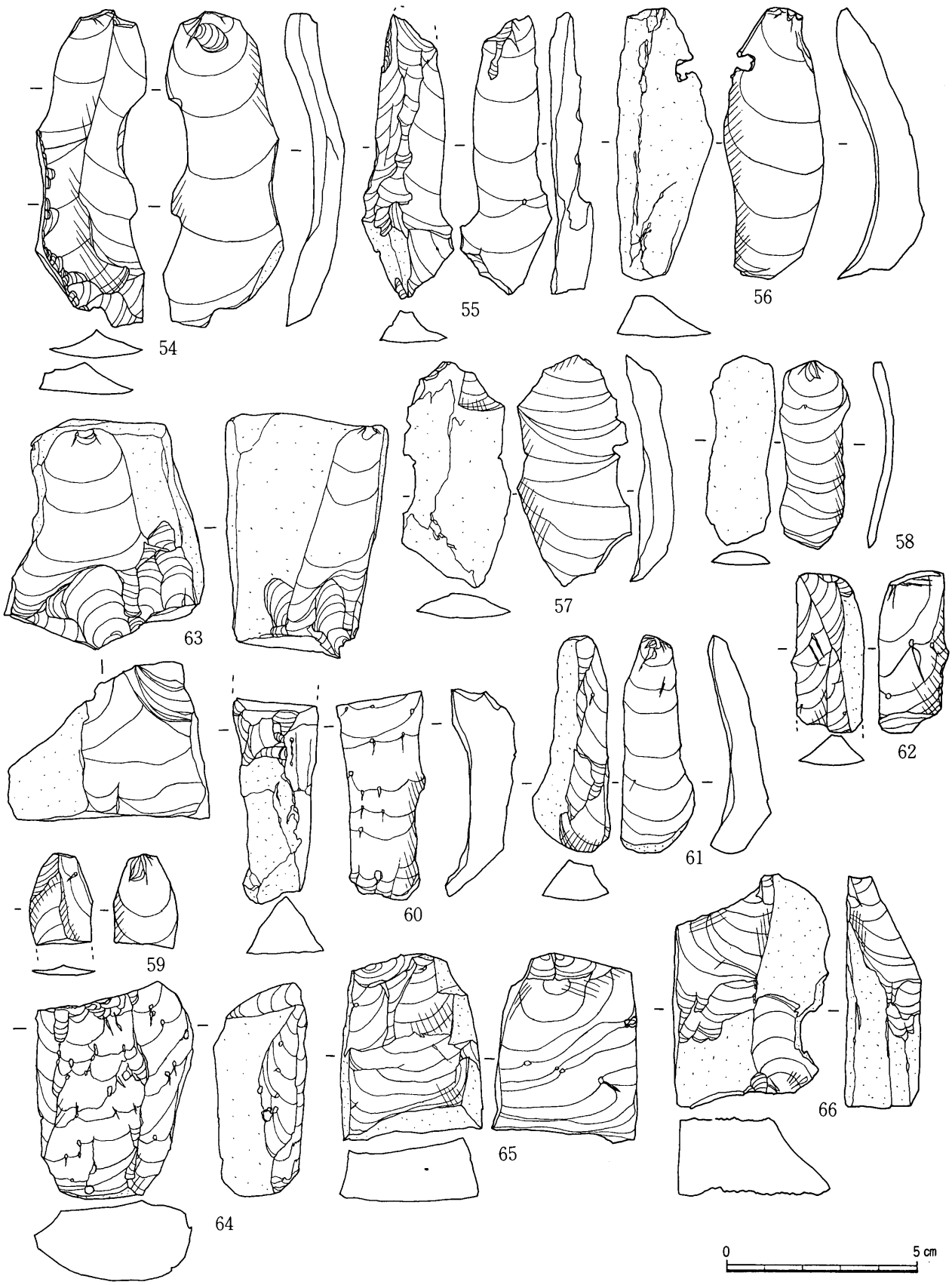
第167図　トA12出土遺物①　　トA12Ⅰ層（1～15）　Ⅱ層（16～26）



第168図　トA12出土遺物②　　トA12Ⅲ層（27～43）

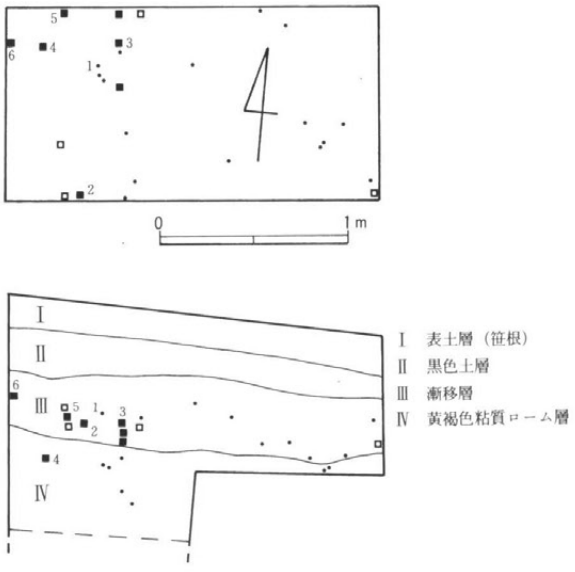


第169図　トA12出土遺物③　　トA12Ⅳ層①（44～53）



第170図　トA12出土遺物④　　トA12Ⅳ層②（54～66）

ト A 13



第171図　トA13遺物分布図

1. 位　置　トA12の一里塚地点より下方へ約100mさがった和田川左岸域、やや広い舌状台地を選定してこの2×1mのグリッドを設定した。標高およそ1,400mである。

2. 層　序　層序は次のようである。

I層	表土層（笹根）	15cm
II層	黒色土層	20cm
III層	漸移層	30cm

第172図　トA13出土状況

IV層　黄褐色粘質ローム層　　50cm～

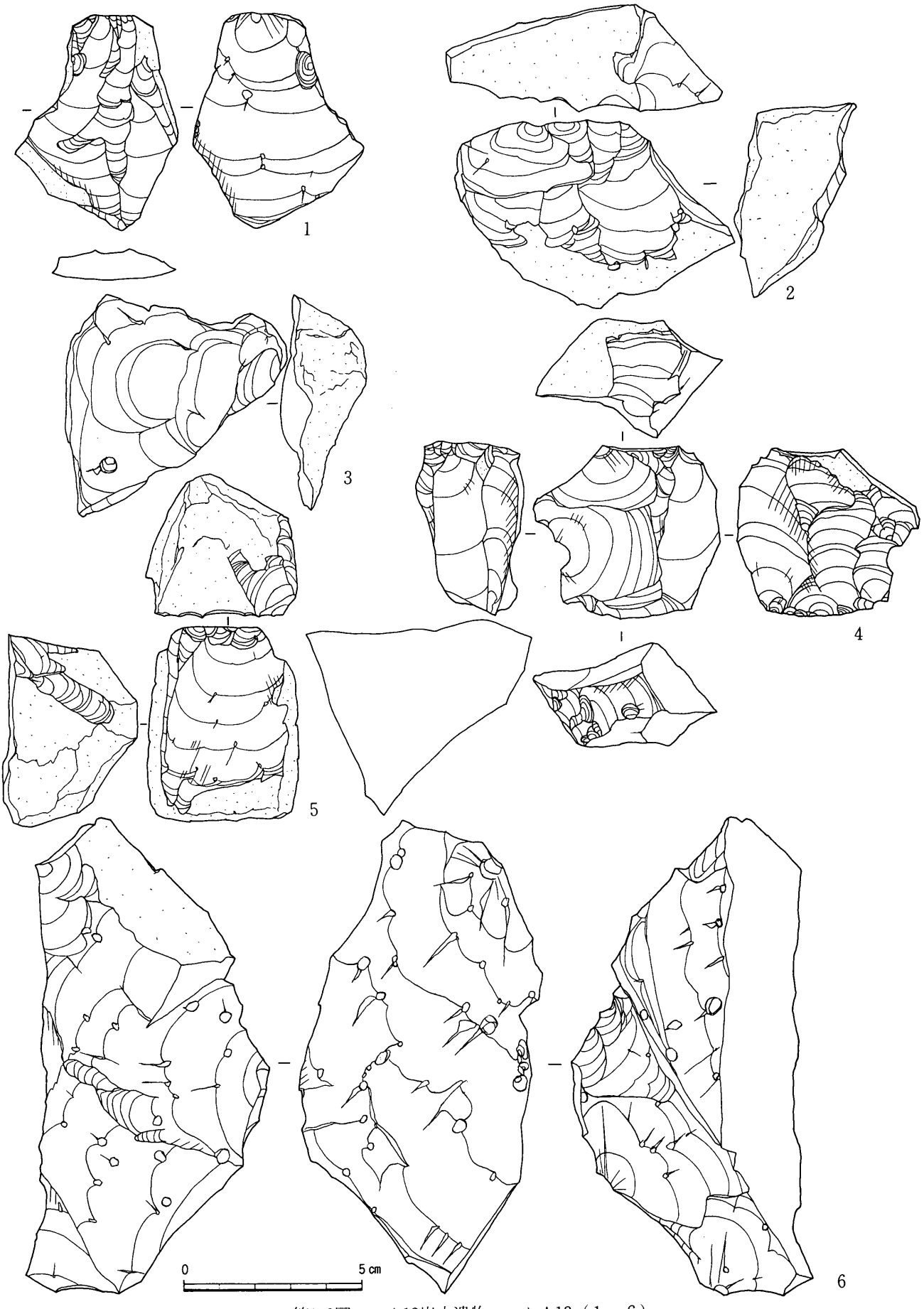
3. 遺　物　遺物は主としてIII層下部からIV層にかけて出土しているが一括資料と認められる。

出土資料は黒耀石製の石核9点（第173図2～6）と縦長剥片18点（1）で、他に原石があるのみである。

4はIV層出土の一例であるが、転石面を一部に残すだけでかなり打剥が著しい。打撃の方向が180度・90度と異なっているが調整打面とのなす角度は直角に近い例である。他の石核はIII層出土であるが、転石面・節理面を大きくのこしており、調整打面と剥離面のなす角度は直角に近いものが多い。原石も転石のものから角礫状のものもあって興味ある課題である。　（森山公一）

第42表　トA13　出土遺物層位別一覧表

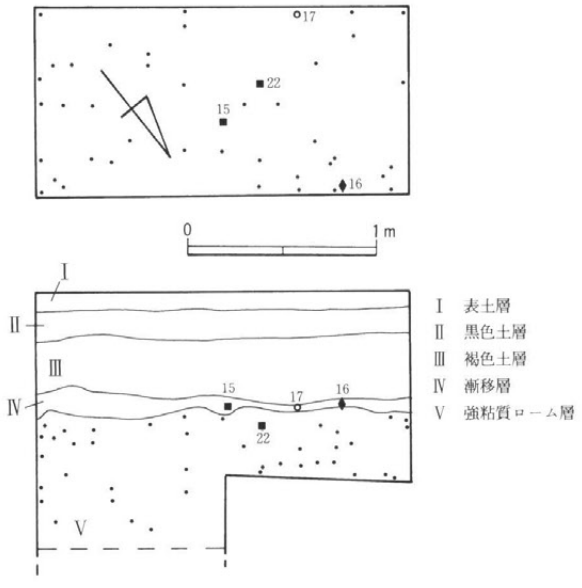
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
III												1			9	7	4			22
IV												1			9	2	4			16
計												2			18	9	8			38



第173図　トA13出土遺物　　トA13（1～6）

7. 熔岩台地地区

ヨ A 01b



第174図 ヨA01b遺物分布図

1. 位 置 通称「モッコリ山」の真南の鞍部、標高約1,410mの位置にヨA01aグリッドを設定したが、無遺物という事でヨA01bグリッドをその20m西に設定した。

2. 層 序 ヨA01bの層序は次のようである。

Ⅰ層	表 土 層	10cm
Ⅱ層	黒 色 土 層	15cm
Ⅲ層	褐 色 土 層	30cm
Ⅳ層	漸 移 層	10cm
Ⅴ層	強粘質ローム層	80cm～

3. 遺 物 Ⅱ層の黒色土層内から縄文時代に属する資料が検出されていて、Ⅲ～Ⅴ層にわたって時代を遡る資料が得られている。

Ⅱ層 第176図12の土器片と、石鏃2点、剝片多数が得られている。土器片は半截竹管による平行沈線文で直線や曲線となるもので、中部高地の晴ヶ峰段階(前期終末)のものと思われる。剝片も比較的アトランダムなものが多い特徴がある。1は黒耀石の転石を打面調整したまま遺棄されたもの、4・8は楔形石器の前段階のものであろうか。11は頁岩製である。石核類も小形・不規則なものが多い。

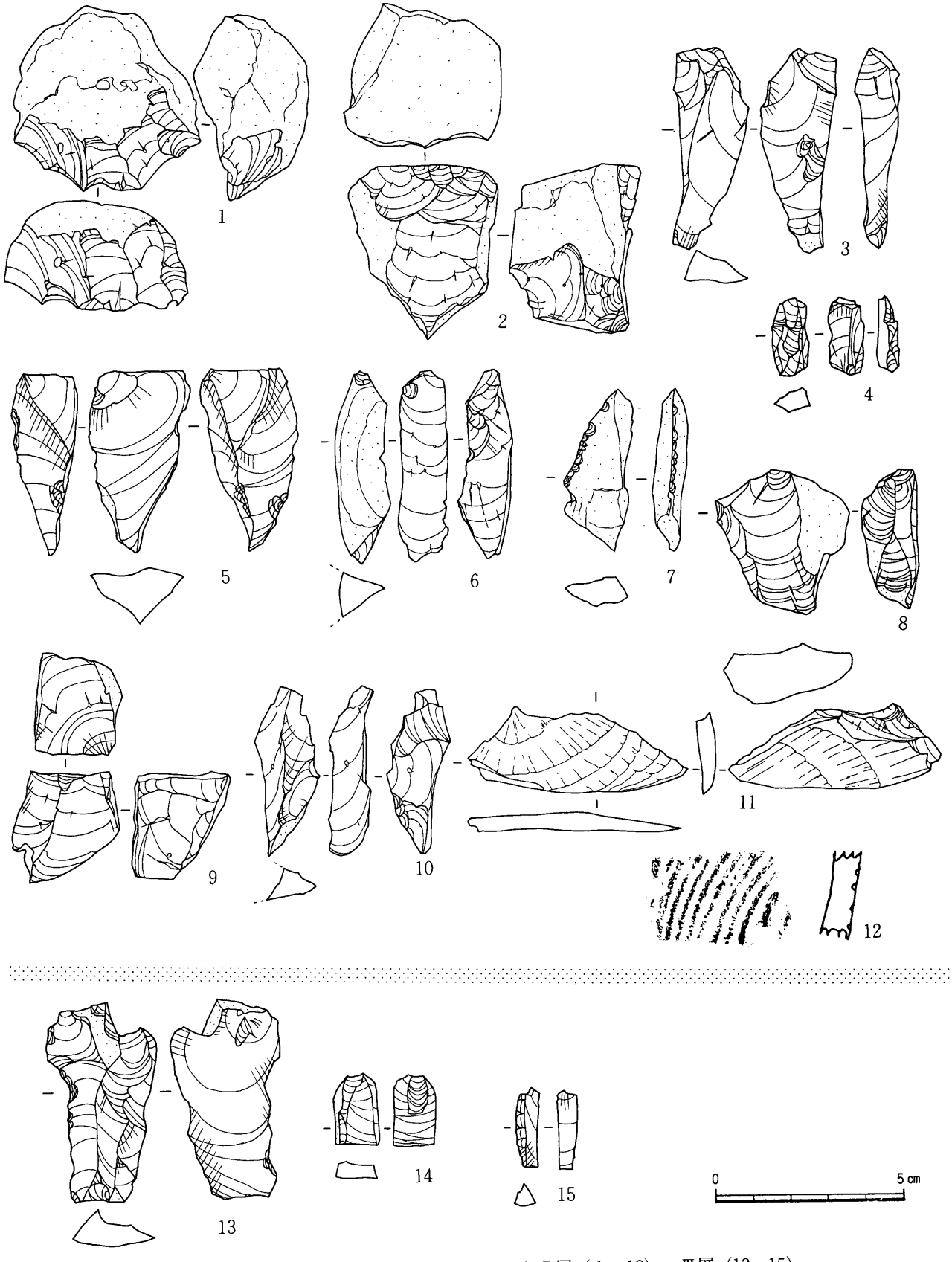
第175図 ヨA01b試掘坑

Ⅲ層 メルクマールになるものがない中で図示したものは、掻器状の剝片(第176図12)、小形の縦長剝片(13)、タッチのある三角状の細剝片(14)である。打点は欠失している。細石刃ではないものと思われる。

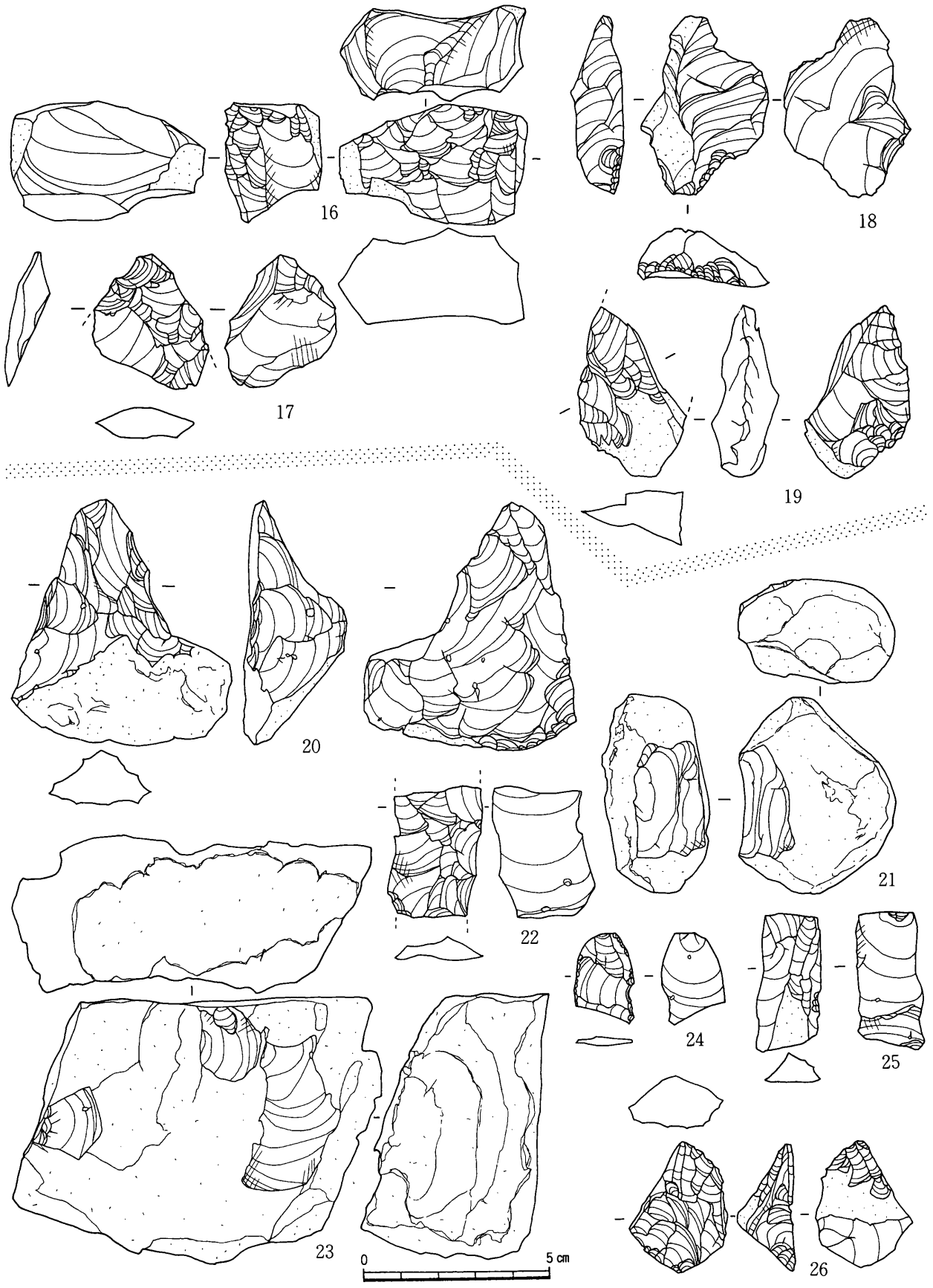
Ⅳ層 尖頭器の未成品で、途中の破損品(18)がある。これは節理面のある小礫を用いているが破損が認められる。第177図17も尖頭器を志向しているものであろうが途上である。剝片類はポイントフレークが転石面・節理面をつけて多い。

Ⅴ層 尖頭器状の20・26、掻器状の24などがある。転石の一部に剝離を入れただけの21・23など石核とは言いがたいものも下層から得られている。やはり自然面をのこす資料が多くこの遺物群の性格をあらわしていると言えよう。

ヨA01地点は素材の異なった石器群もあって、その出入りの動きのあり方を垣間見ることができる。 (森山公一)



第176図　ヨA01b出土遺物①　　ヨA01bⅡ層（1～12）　Ⅲ層（13～15）

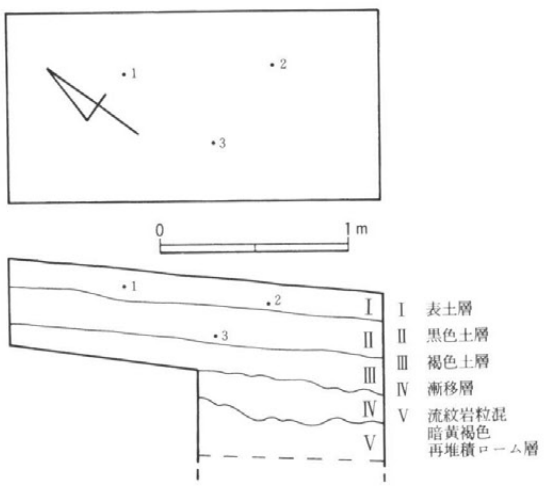


第177図　ヨA01b出土遺物②　　ヨA01bⅣ層（16～19）　Ⅴ層（20～26）

第43表　ヨA01b　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II		1						1				2	2	1	242	6	61	2	1	319
III												1	2		86		5			94
IV		1										1	5		50	1	2			60
V		1		1				1				2	7		34	3				49
計		3		1				2				6	16	1	412	10	68	2	1	523

ヨ　A　03



第178図　ヨA03遺物分布図

第179図　ヨA03試掘坑

1．位　置　熔岩台地湿原をとりまく山稜からの北向きである崖錐状台地を選定し、2×1mで調査を行った。標高およそ1,410mである。

2．層　序　この層序は次のようである。

I層　表土層　15cm

II層　黒色土層　20cm

III層　褐色土層　20cm

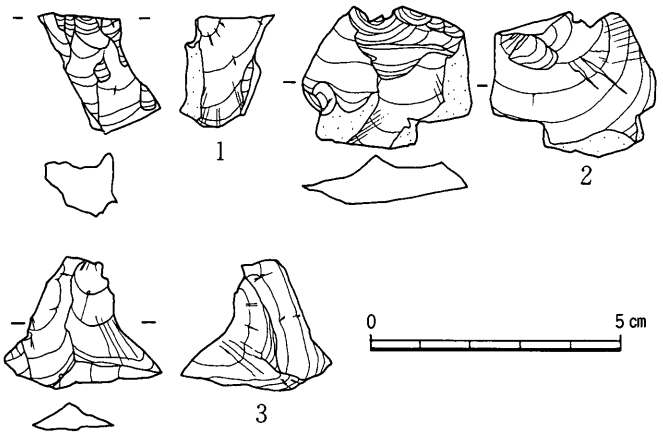
IV層　漸移層　15cm

V層　流紋岩粒混暗黄褐色ローム層　35cm～（再堆積）

崖錐の再堆積と見られ、特にV層が安定しない。しかし湿原と共に、湖沼逓減の法則の土砂運搬元が特にV層を中心に見られることは、この湿

第44表　ヨA03　出土遺物層位別一覧表

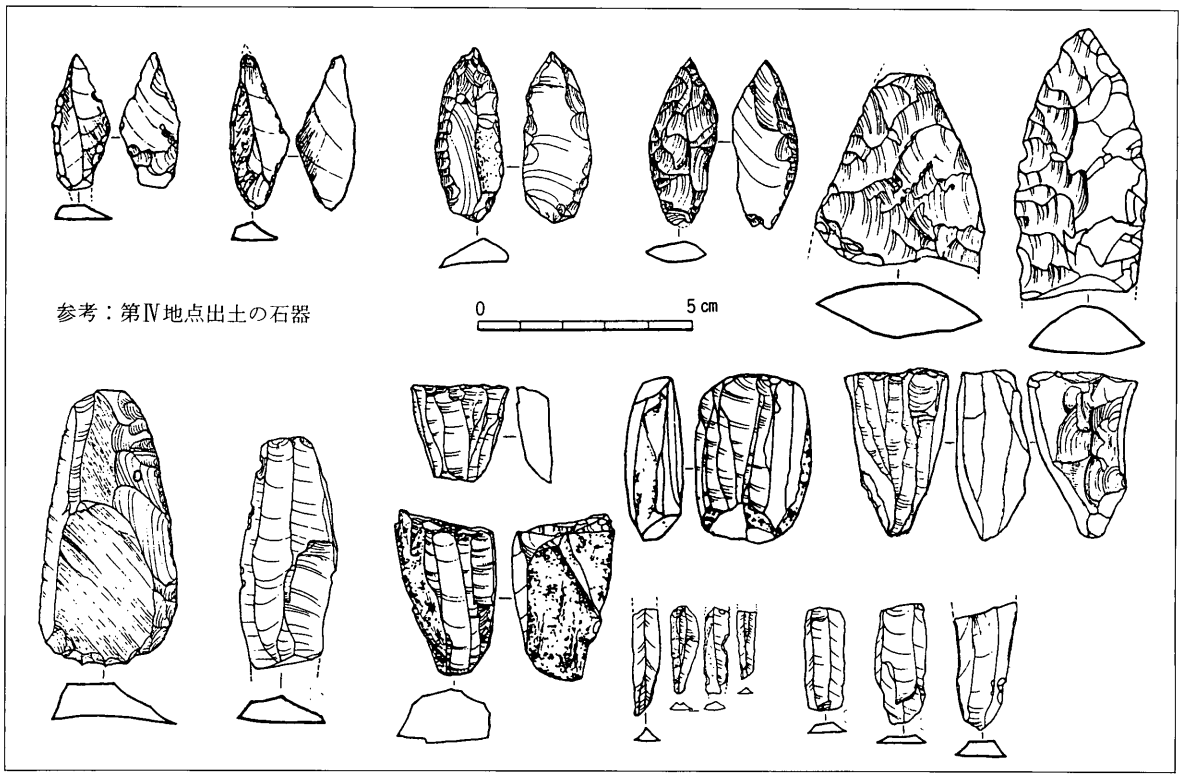
器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ・Ⅱ															4					4
計															4					4



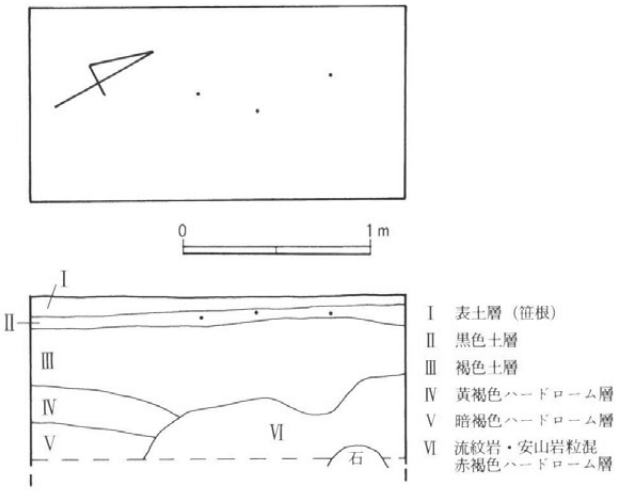
第180図　ヨA03出土遺物（1～3）

原の生成そして終焉に、その堆積以降は土砂の流入はあまり行われていないことも表わしているものといえよう。その後は有機物の消長にかかわるものと言ってもいいのではないだろうか。従って、Ⅳ層以上は安定しているのである。

3. 遺　物　Ⅴ層を含めてそれ以下に石器は包合されていない。遺物はⅠ・Ⅱ層で得られたのみにとどまっている。縄文時代とそれ以降の遺物であろう。総点4点で、3点を図示した。いずれも不定形な剥片で、一部に転石面を残している。縄文時代も同様なことを物語っている。（森山公一）



ヨ A 04 a



第181図　ヨA04a遺物分布図

第182図　ヨA04a試掘坑

1. 位　置　ヨA04地点は3つの試掘坑を入れた。湿原中央と比高差67mの西側にある通称「モッコリ山」の東側張り出しをa地点とし標高1,382m、付け根の鞍部がb地点標高1,380m、南側緩斜面をc地点標高1,375mとして選定設置した。

2. 層　序　ヨA04aの層序は次のようであった。

I層	表土層（笹根）	10cm
II層	黒色土層	10cm
III層	褐色土層	20cm
IV層	黄褐色ハードローム層	15cm
V層	暗褐色ハードローム層	30cm
VI層	流紋岩・安山岩粒混赤褐色ハードローム層	5cm～

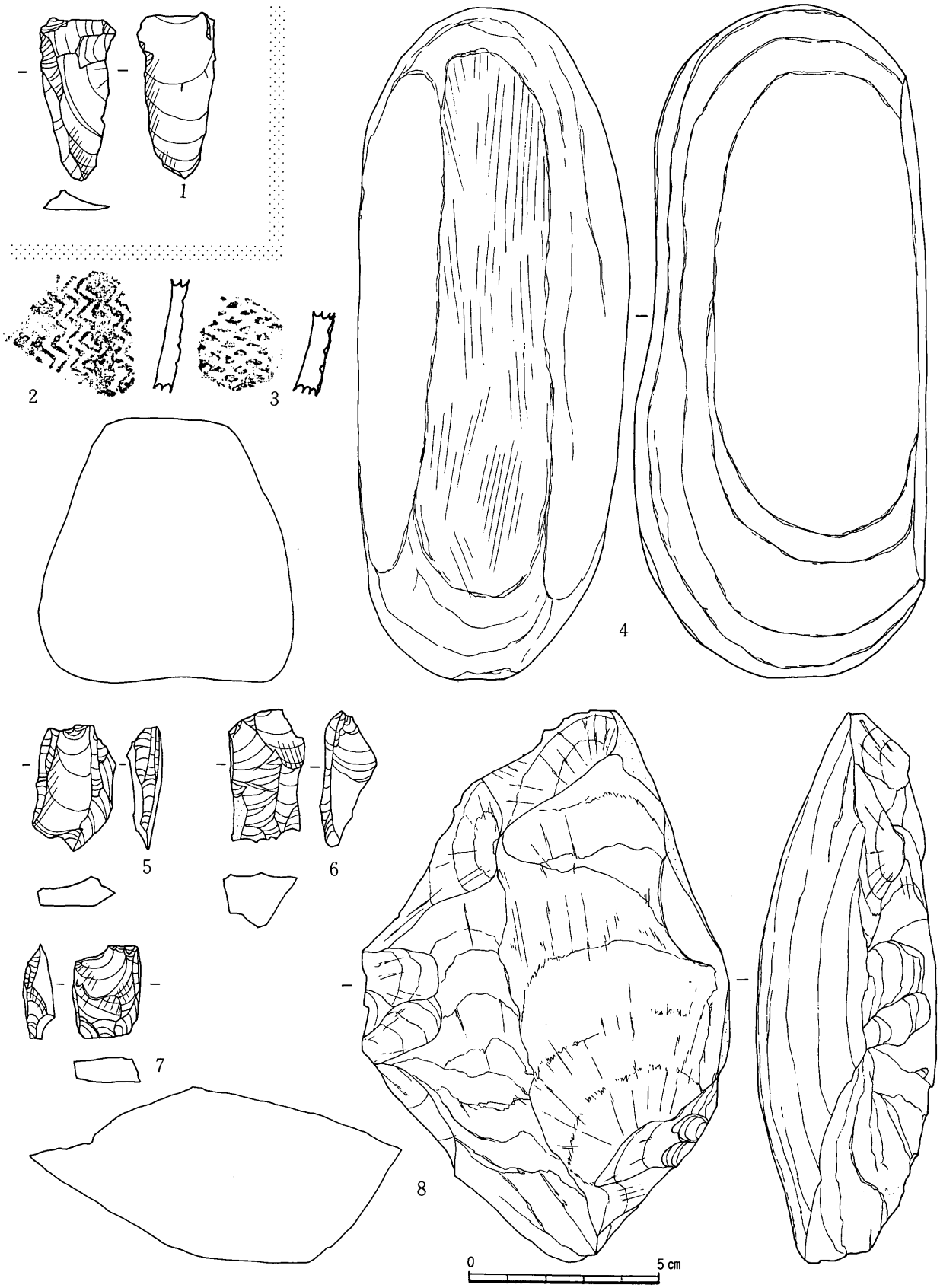
3. 遺　物　遺物はII層より剥片が得られたのみで人工遺物は検出されなかった。一例をあげると、183図1は整わない縦長剥片であり、縄文期に入るものかと考えられる。他に小形の剥片が2点あるのみであった。

丘陵のトップという事もあってか、いきなり硬いローム層にあたり、風成の新しいロームは遺物と共に流亡した可能性もある。地形的には湿原をのぞむ良好な地点である。　（森山公一）

第45表　ヨA04a　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II・III															3					3
計															3					3

1 DH40 0002 940620



第183図　ヨA04出土遺物①　　ヨA04a（1）　ヨA04bⅢ層（2～8）

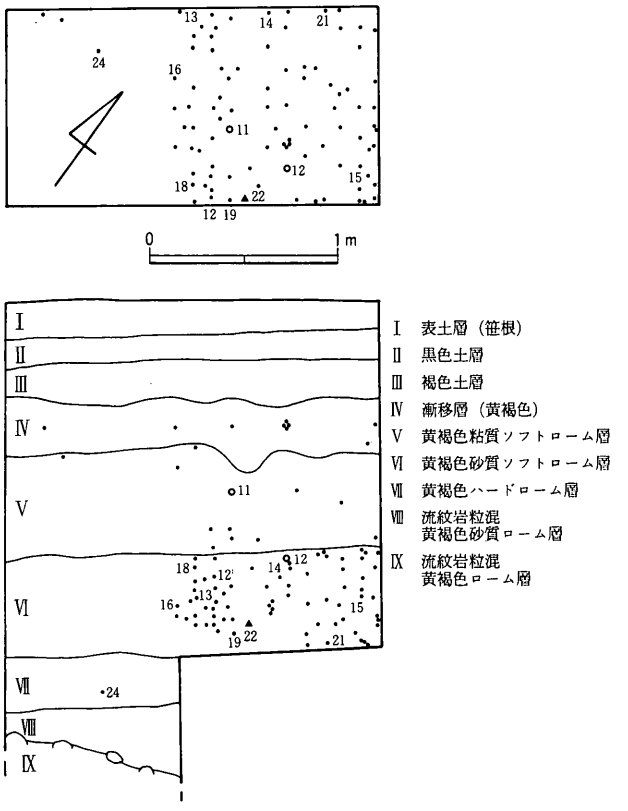
ヨ A 04 b

1. 位 置 ヨA04地点はa～cの3つの試掘坑を入れた。

b地点の鞍部はa地点より2m程さがった位置にあり、その点むしろ流亡と堆積をくりかえしたところと見られる。

2. 層 序 深掘り調査を行ったところでその層序はおよそ次のようである。

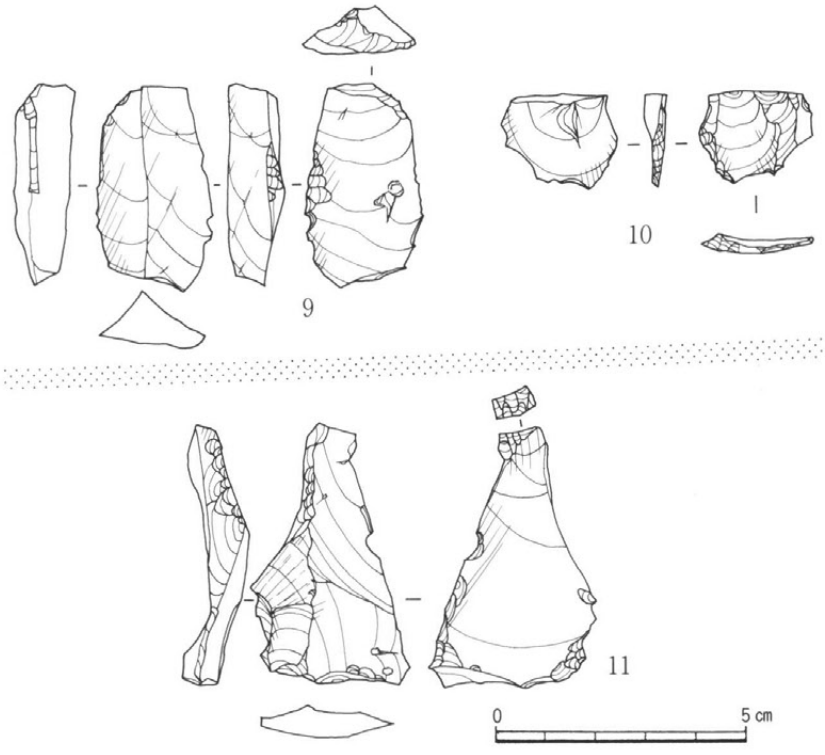
Ⅰ層	表土層（笹根）	20cm
Ⅱ層	黒色土層	10cm
Ⅲ層	褐色土層	20cm
Ⅳ層	漸移層（黄褐色）	30cm
Ⅴ層	黄褐色粘質ソフトローム層	50cm
Ⅵ層	黄褐色砂質ソフトローム層	55cm



第184図 ヨA04b遺物分布図

第46表 ヨA04b 出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅲ								3		1	1				30	1	1		2	39
Ⅳ				1											9					10
Ⅴ				1											11					12
Ⅵ	1												3		53					57
Ⅶ															7					7
計	1			2				3		1	1		3		110	1	1		1	125



第185図　ヨA04出土遺物②　　ヨA04bⅣ層（9・10）　Ⅴ層（11）

第187図　ヨA04b試掘坑の断面取り

第186図　ヨA04b調査地点

第188図　ヨA04b試掘坑の断面

Ⅶ層	黄褐色ハードローム層	35cm
Ⅷ層	流紋岩粒混黄褐色砂質ローム層	25cm
Ⅸ層	流紋岩粒混黄褐色ローム層	10cm～
	計	255cm

3.　遺　物　遺物は各層にわたり検出されていておよそ次のように把握された。

Ⅲ層　一括資料とみられる。押型文土器が2片（第183図2・3）、楔形石器3点（5・6）、特殊磨石1点（4）、礫器1点（8）である。押型文土器片

は2の山形文と、3の楕円文とがある。山形文は縦に垂下するように施文されており若干施文具と施文具の間が離れているが、樋沢期の土器片ほど離れていない。楕円文は横位に施文されている。粒は小さく、わずかに繊維を含んでいる。その点山形文の土器は繊維を含んでおらず黒耀石を細かく砕いて混入しているかに見える。山形文の土器は暗褐色で、楕円文の土器は赤褐色でやはり黒耀石の細粉を若干含んでいる。樋沢期直後の頃のものであろうか。楔形石器が押型文と共伴していることは学史的に指摘されたのは古いことであり、ここでも確められる。特殊磨石はほぼ普遍的に組成してい

第189図　ヨA04b出土状況

第190図　ヨA04b試掘坑の採取土砂

るが、安山岩の川原石を用い、断面台形になるよう研磨された磨石である。礫器は頁岩製で大ぶりな石器で片面に転石面を大きくのこしている。押型文期の組成として貴重な一群である。

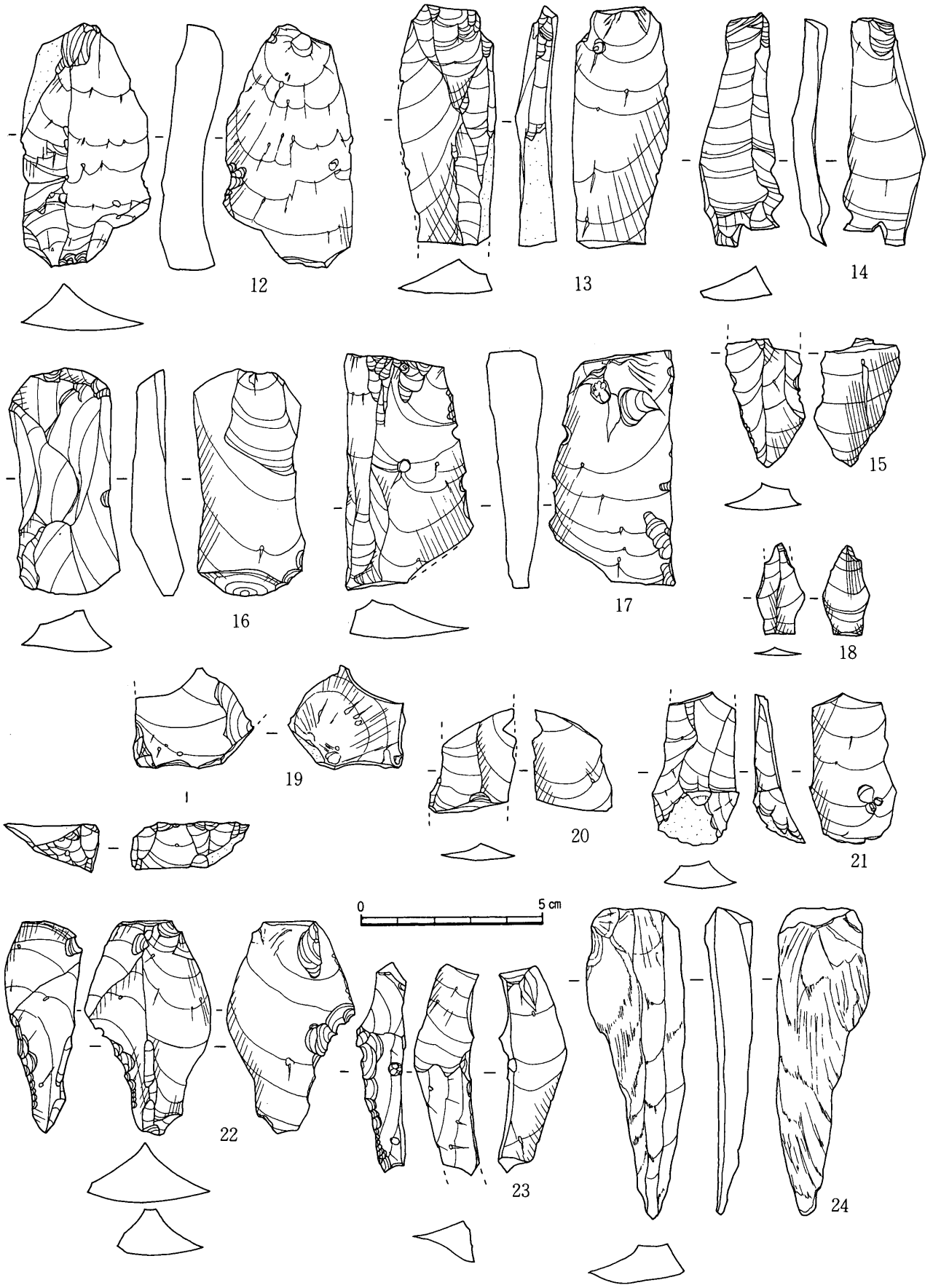
Ⅳ層　掻刃部を作出した小形の剝片（第185図10）、縦長剝片（9）など、剝片と共に検出されている。ここからⅤ層の上半にまでほとんど無遺物状態が続くが、この時期を反映しているものと見てよい。

Ⅴ層　掻刃部を再加工したやや風化の進んだ剝片を用いたものが検出されている。他は比較的整わない加撃方向の定まらない剝片がわずかにある程度である。転石面・節理面ののこる皮つきの剝片は意外に少ない。

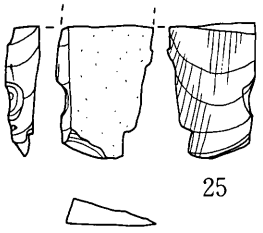
Ⅵ層　ここから集中して遺物が検出された。第191図23はやや断面が三角状であるがブランティングが行われているナイフ形石器の未成品であろう。縦長剝片の生産は一定方向というよりは横方向を混じえたものであって一稜にブランティングがならんでいる。古手の一群に伴うものかとも受取れる。この層位の縦長剝片類は良質な黒耀石を用いたものが多く、石材の吟味が行われている気配があり、いわゆる皮つきの縦長剝片類も少ない。しかし、その剝取の方向は必ずしも一定方向でなく、180度あるいは90度異なるものが多いのは石器の所見と一致する。又、それらの剝片類が使用痕とみられる刃こぼれの観察できるもの（13・15～17・20～22）も多く注意されるところである。

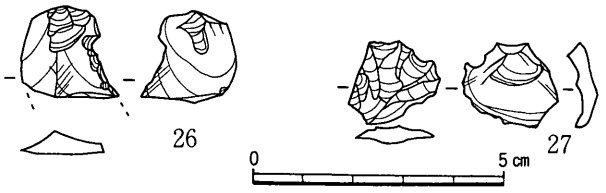
また24の一例は頁岩による縦長剝片であるが、Ⅵ層の特に深い位置から出土しているのも興味あるところである。又、Ⅶ層からは透明度の高い良質な黒耀石製のかなり整った縦長剝片が出土している。それ以下の層位には遺物は認められない。

（森山公一）

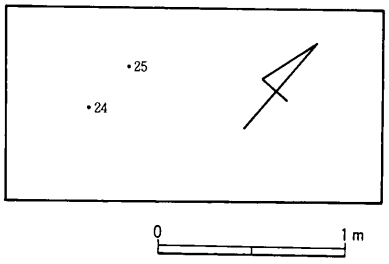


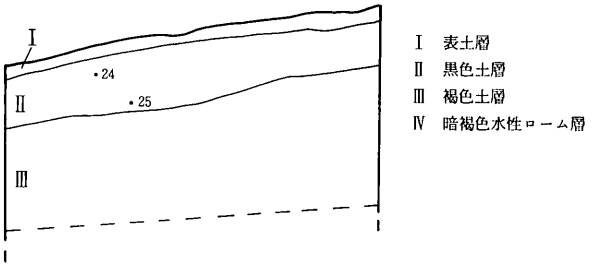
第191図　ヨA04出土遺物③　　ヨA04 b Ⅵ層（12～24）





第192図　ヨA04出土遺物④　　ヨA04bⅦ層（25）
ヨA04c（26・27）





第193図　ヨA04c遺物分布図

ヨ　A　04c

1. 位　置　3つの試掘坑を入れたヨA04地点のうち、湿原をのぞむ南緩斜面1,375m標高地点を選定し2×1mの範囲で調査を行った。

2. 層　序　ヨA04c地点の層序は次のようである。

Ⅰ層	表土層	10cm
Ⅱ層	黒色土層	20cm
Ⅲ層	褐色土層	20cm
Ⅳ層	暗褐色水性ローム層	10cm

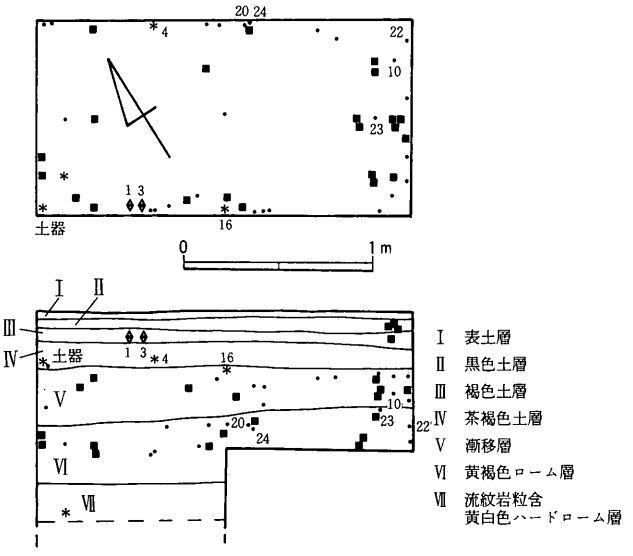
Ⅳ層はかなり水分を含んでいて、湧水となり調査を中止した。

3. 遺　物　黒耀石製剝片が2点検出されたのみである。Ⅱ層内において得られたもので、縄文時代の資料とみられる。第192図26は側縁に小さな剝離がならんでおり掻刃部となっているので掻器の一種であるかともみられる。27は不整形な剝片で、にわかに、剝取した器体を特定することは難しい。　（森山公一）

第47表　ヨA04c　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
II															2					2
計															2					2

ヨ A 05



第194図　ヨA05遺物分布図

1. 位　置　ヨA04地点の湿原をへだてた対岸の西向き緩斜面である。標高約1,380mでここに2×1mのグリッドを設定し調査を行った。

2. 層　序　ヨA05の層位は次のようである。

I層	表土層	5 cm
II層	黒色土層	5 cm
III層	褐色土層	5 cm
IV層	茶褐色土層	20cm
V層	漸移層	30cm
VI層	黄褐色ローム層	30cm
VII層	流紋岩粒含黄白色	
	ハードローム層	20cm～
	計	115cm～

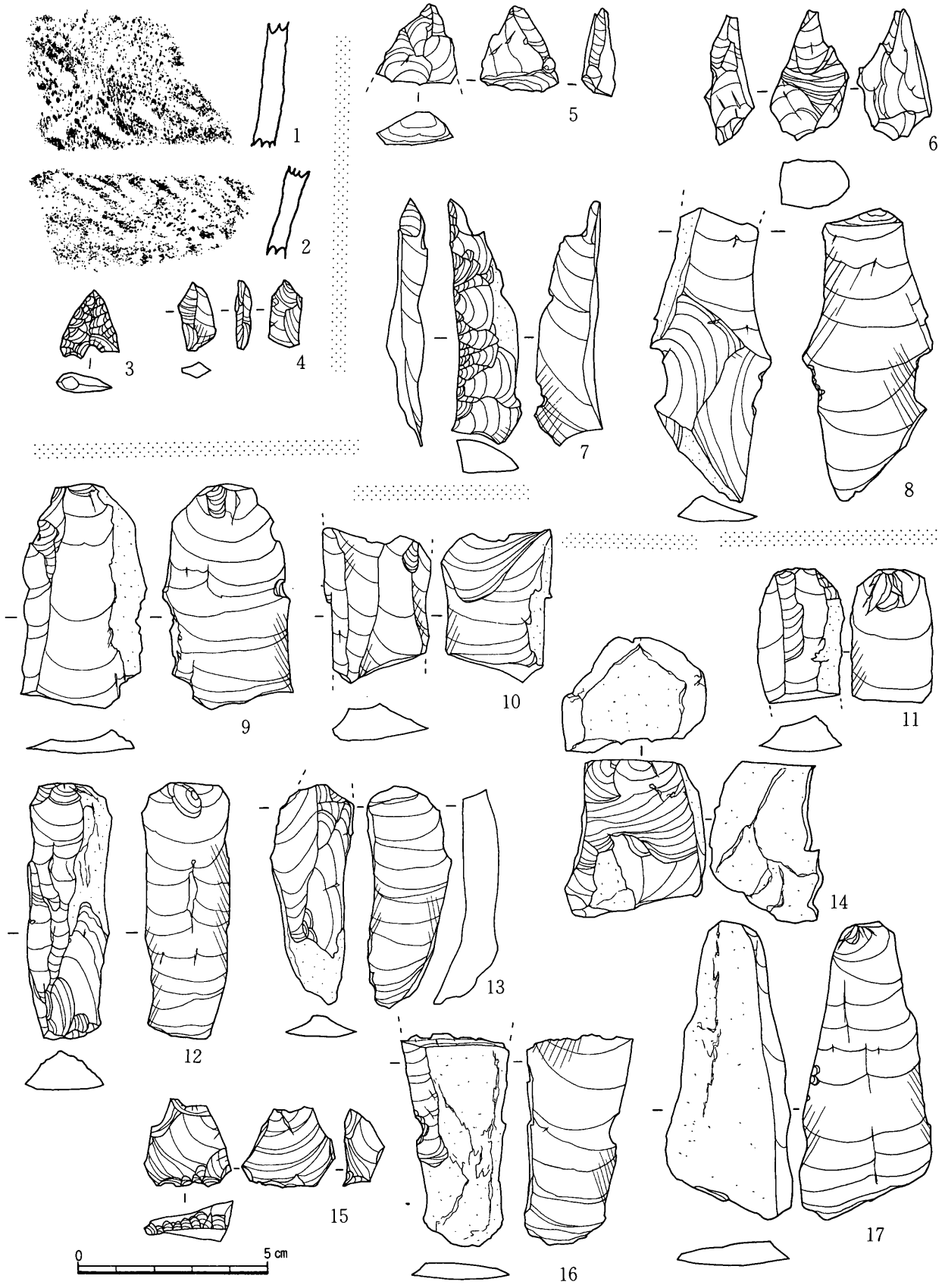
3. 遺　物　遺物の検出状況や器種については次のようである。

II・III層　III層内から縄文土器片が2点、石鏃が1点、楔形石器3点が検出されている。縄文土器片は羽状と斜状の文様（195図1・2）があり、無繊維土器があるので有尾式土器の仲間であると思われる。黒耀石の石鏃、楔形の石器も組成していることがわかる。

IV層　IV層は極めて検出されたものが少ない。しかし第195図7は削片を利用した掻刃部を作出した削器であるかもしれない。8は石核の調縁調

第48表　ヨA05　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II								3							21	3	4			31
III															13	1	3	1	2	20
IV												1			2					3
V				1					1				1		32	8	6			49
VI					1							1			21	10	3			36
VII																	1			1
計				1	1			3	1			2	1		89	22	17	1	2	140



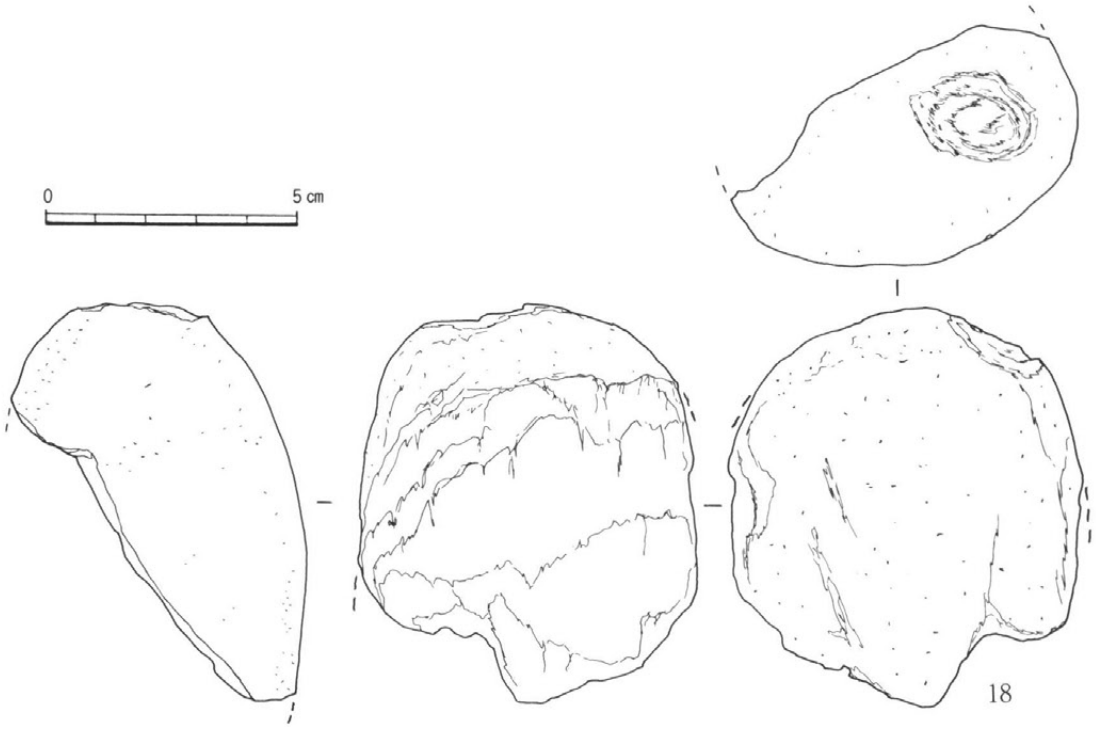
第195図　ヨA05出土遺物①　　ヨA05Ⅲ層（1～4）　Ⅳ層（5～8）　Ⅴ層（9～17）

整打がある縦長の剝片で、若干のこまかい刃こぼれもある。右側縁の方に転石面がのこっている。

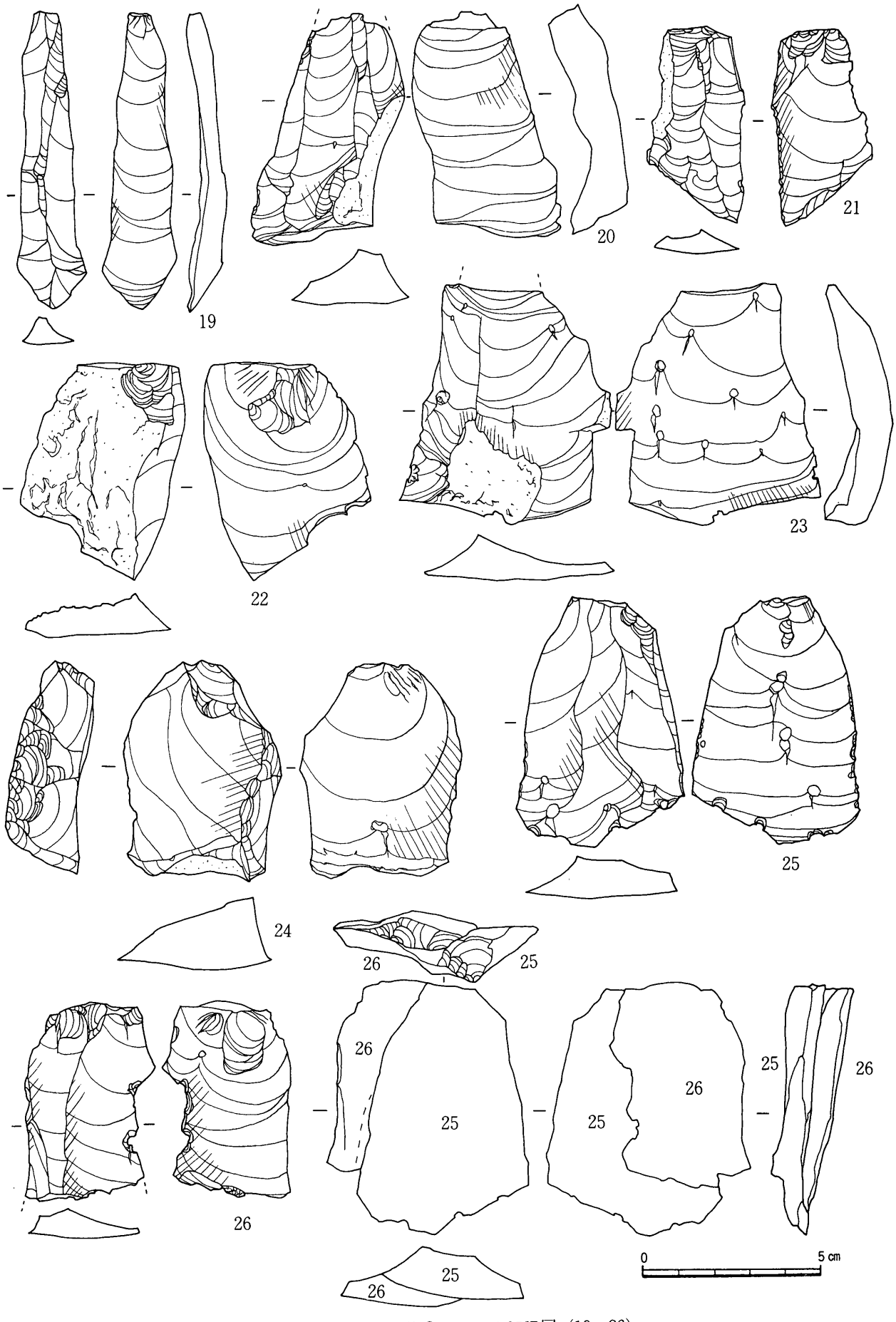
Ⅴ層　剝片を用いた掻器（第195図15）１点と、ハンマーの半欠品（安山岩製・第197図）１点が特徴的である。他に自然面のついた剝片73％と、自然面のないかなり整ったもの27％がある。石核は８点あるがすべてに自然面を残している。打角は90度に近いものである。概して小形のものが多い。

Ⅵ層　幅広な縦長剝片が多く、自然面を持つものは32％と少なく、68％は転石面や節理面をもっていない。全体に黒耀石は良質であるが石核はⅤ層同様にして小形のものが多く残核という感じである。良質のものが多い。第198図25と26は接合関係にある。連続して剝取された事がわかるが、のこされているものが、幅広な剝片であるのも示唆的である。　（森山公一）

第196図　ヨA05出土状況



第197図　ヨA05出土遺物②　　ヨA05Ⅴ層



第198図　ヨA05出土遺物③　　ヨA05Ⅵ層（19～26）

ヨ A 08

1. 位　置　ヨA05地点より南東におよそ100mの岬状張り出し部を選定し本グリッドを設定した。標高は約1,385mである。

2. 層　序　本グリッドの層序は次のようである。

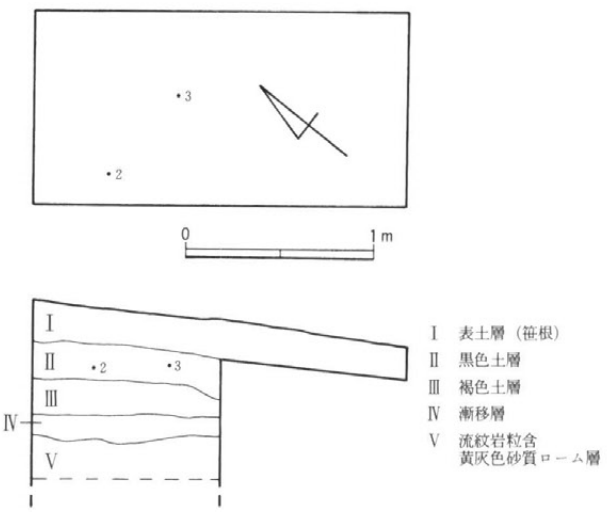
Ⅰ層	表土層	5cm
Ⅱ層	黒色土層	25cm
Ⅲ層	褐色土層	30cm
Ⅳ層	黄褐色粘質ローム層	30cm～

3. 遺　物　Ⅳ層に剝片が2点出土している。図示したのはその一例である。良質な黒耀石を用いており、やや幅広な縦長剝片である。もう一点も同様な遺物で、ここが湿原に最も近接した地点であるだけに興味が持たれる。

遺物が集中して出土していないことはⅣ層が安定した風成ロームにかかわらず、かつては湖底であった可能性も示唆している。貴重な資料を提供していると言えよう。　（森山公一）

第199図　ヨA08試掘坑

ヨ A 09



第200図　ヨA09遺物分布図

1. 位　置　湿原をのぞむ岬状丘陵のテラスを選定して調査を行った。2×1mの範囲で標高は1,395mである。ヨA04地点より真東の湿原対岸200m内外の位置である。

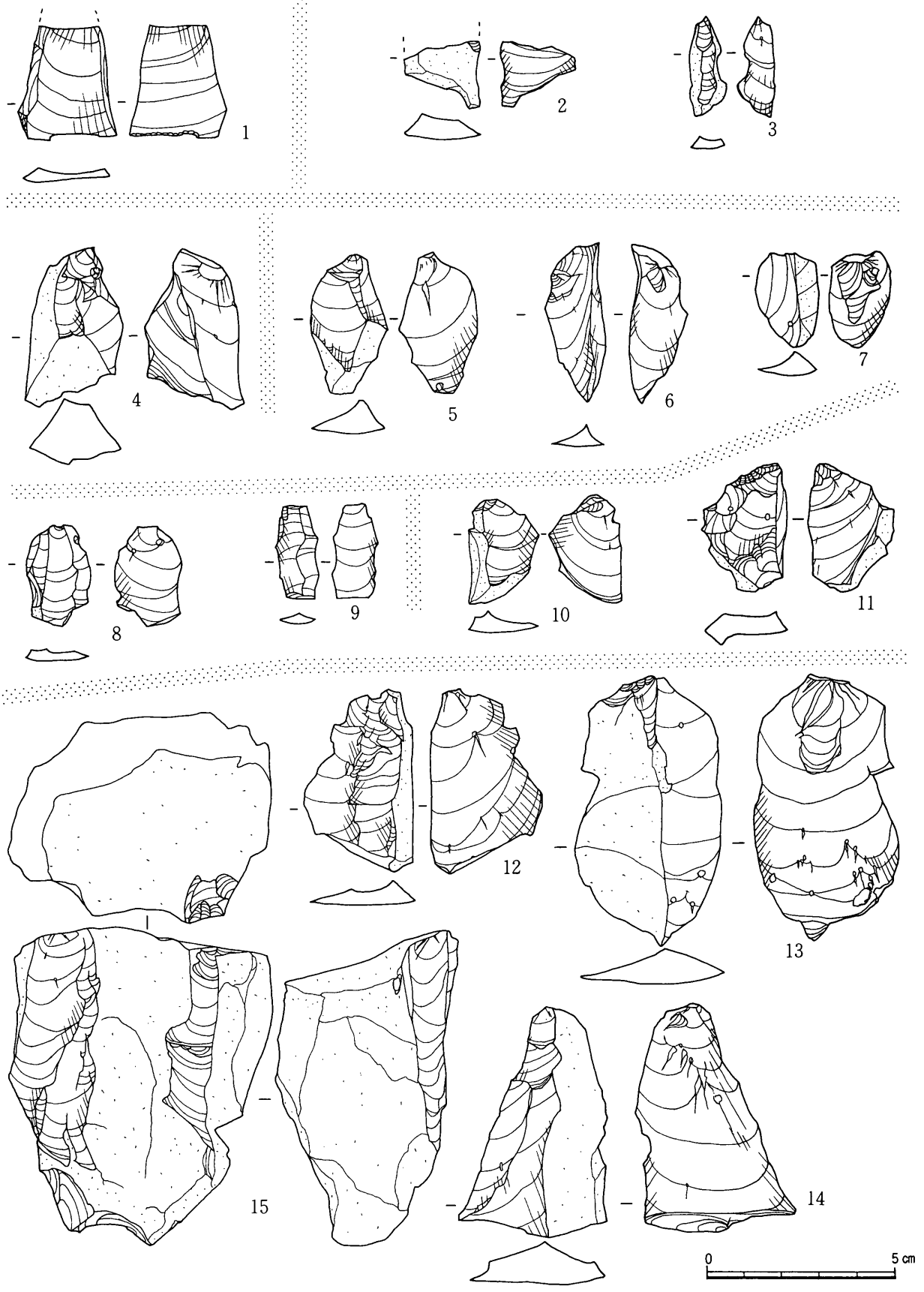
2. 層　序　ヨA09地点の層位は次のようである。

Ⅰ層	表土層	20cm
Ⅱ層	黒色土層	20cm
Ⅲ層	褐色土層	20cm
Ⅳ層	漸移層	15cm
Ⅴ層	流紋岩粒含黄灰色砂質ローム層	25cm～
		計 100cm～

3. 遺　物　黒耀石製の剝片2点とも漸移層上部から検出されたものである。

第201図2は転石面を持つ縦長剝片と見られ、一部に小トリミングがある。石核の調整剝離の際生じたものと見られ、近地点にその場所が存在することを示唆していると推測される資料である。

3も同様であって、転石面を大きく残している



第201図　各グリッド出土土器　ヨA08Ⅳ層（1）　ヨA09（2・3）　ヨA13Ⅰ層（4）　Ⅲ層（5～7）
ヨA15Ⅱ層（8・9）　Ⅲ層（10・11）　ヨA23表採（12～15）

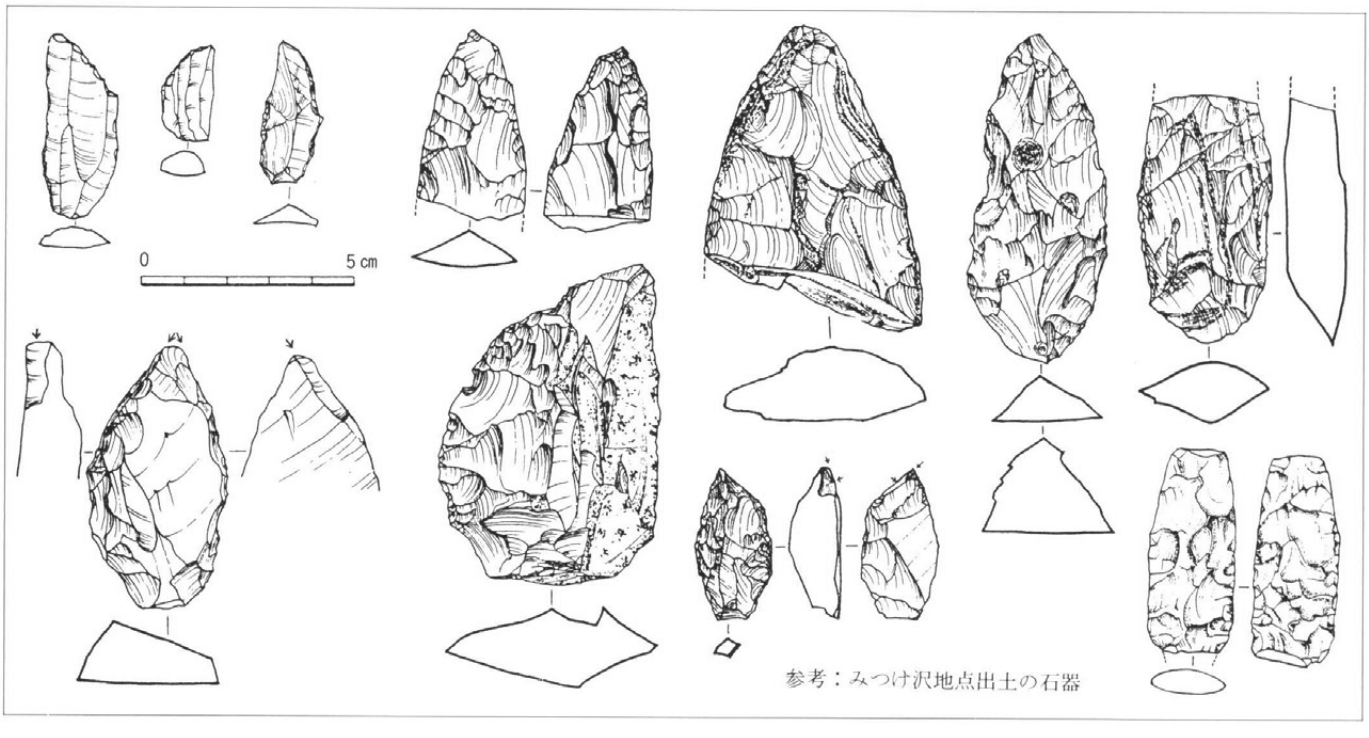
第49表　ヨA09　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II															2					2
計															2					2

小さな縦長剥片、楔形石器の削片であるかもしれないが、ここでは調整打の際の皮つきの剥片としておきたい。

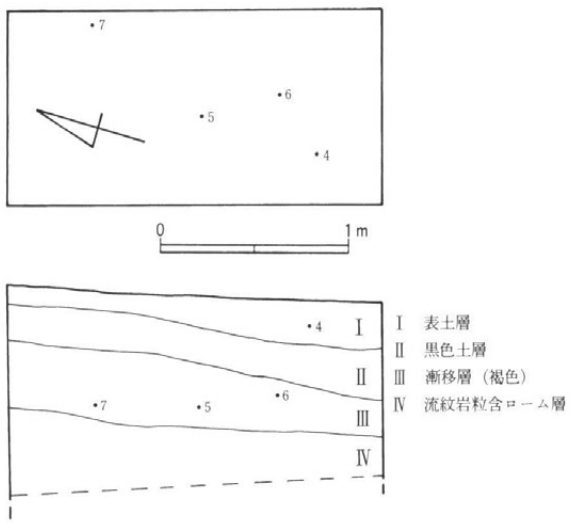
遺物は2点のみがすべてであるが、風化の度合からして縄文時代の所産がある可能性が高い。漸移層出土ということからすると、ヨA04b地点の押型文期との関連が求められるが、確かめることは出来ない。　（森山公一）

第202図　ヨA09試掘坑



参考：みつけ沢地点出土の石器

ヨ A 13



第203図　ヨA13遺物分布図

第204図　ヨA13試掘坑

1. 位　置　湿原の南に展開するテーブル状の熔岩台地を調査した。東から南・西にかけて、丘陵上鞍部を10～14・23地点とした。本地点は鞍部地点で標高約1,535mである。

2. 層　序　層序は次のようであった。

Ⅰ層	表土層	20cm
Ⅱ層	黒色土層	25cm
Ⅲ層	漸移層（褐色）	25cm
Ⅳ層	流紋岩粒含ローム層	40cm～

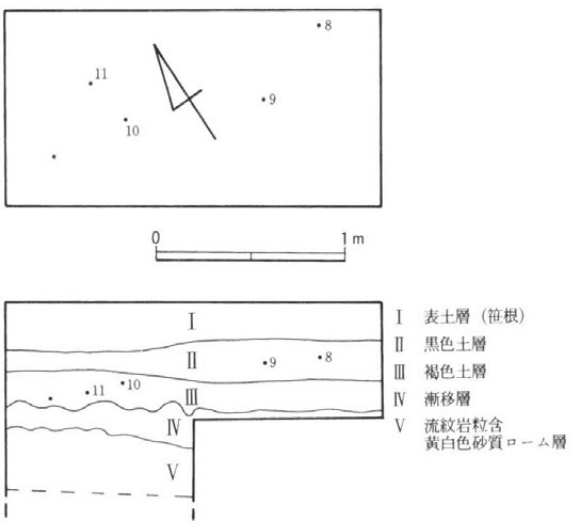
3. 遺　物　検出された遺物は5点のみで、他には得られていない。第201図4のみⅠ層出土資料で、5～7はⅢ層で検出されたものである。4・5は自然面をのこし6・7にはない。6・7は不定形な剝片を用いていて打面を大きくのこしている。

風化の度合いも浅く、縄文期の剝片がある可能性も高いのであるが、ここにふれておくこととする。（森山公一）

第50表　ヨA13　出土遺物層位別一覧表

器種／層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剝片	R剝片	削片	剝片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅰ															1					1
Ⅲ															4					4
計															5					5

ヨ A 15



第205図　ヨA15遺物分布図

第206図　ヨA15試掘坑

1. 位　置　ヨA08地点の位置から東へ200m余り上った熔岩台地の鞍部状乗越部を選定しグリッドを設けた。2×1mの範囲で標高は約1,415mである。

2. 層　序　本グリッドの層序は次のようである。

I層	表土層（笹根）	25cm
II層	黒色土層	15cm
III層	褐色土層	15cm
IV層	漸移層	15cm
V層	黄白色砂質ローム層	30cm～

3. 遺　物　遺物はすべてII・III層から出土していて、他の層位あらは認められない。その風化の度合からすべて縄文時代に属する資料かと判明する黒耀石である。おそらくは11のような楔形の石器も見られるところから、縄文早期も押型文期のものであるかと思われる。

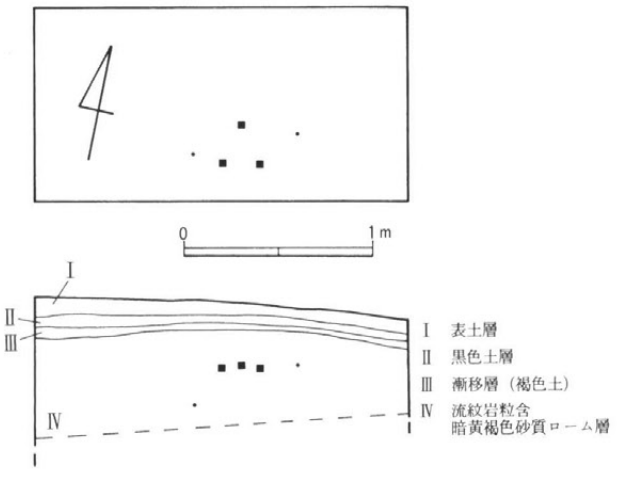
三の又への最短鞍部であるから、ここが縄文期の通路であったかもしれない。皮つきが3点ある。

（森山公一）

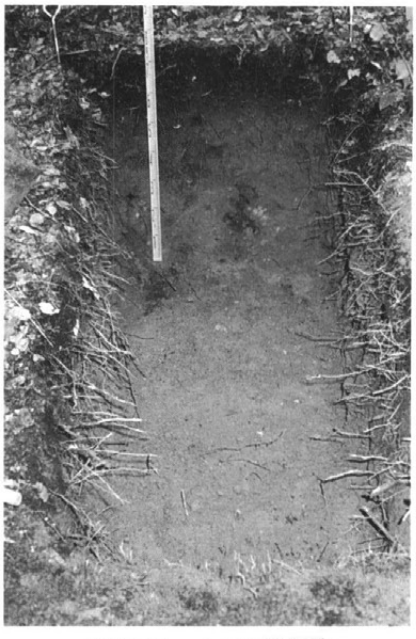
第51表　ヨA15　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
II															2					2
III															3					3
計															5					5

ヨ A 16



第207図　ヨA16遺物分布図



第208図　ヨA16試掘坑

1. 位　置　ヨA16地点からヨA20地点までは熔岩台地の中のいわば東の男女倉川と西の和田川の中央をつらぬく三の又沢湿原を中心としている。ヨA16地点はその沢筋の入口部の段丘状地形に位置している。範囲は2×1mで標高およそ1,280mである。

2. 層　序　層序はおよそ次のようである。

Ⅰ層　黒土層　10cm
Ⅱ層　黒色土層　5cm
Ⅲ層　漸移層（褐色土）　5cm
Ⅳ層　流紋岩粒含暗黄褐色
砂質ローム層　55cm～

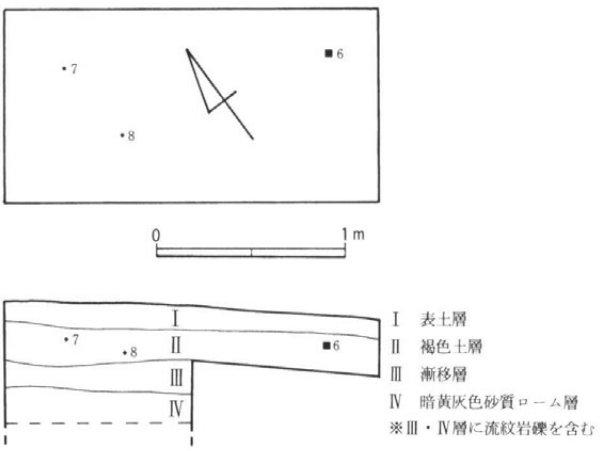
3. 遺　物　Ⅱ・Ⅲ層から小剥片が8点、そしてⅣ層の水つきローム層から剥片等5点が検出されている。黒耀石製の資料のすべてが皮つきで、剥片も石核からの打剥を髣髴とさせるものである。

整った縦長剥片生産の技術的な在り方を感じさせないアトランダムなものが多く、旧石器時代も新しいか、むしろ縄文時代に入ってのこされている気配すらする資料である。　（森山公一）

第52表　ヨA16　出土遺物層位別一覧表

器種 / 層位	ナイフ形石器	尖頭器	削器	掻器	彫器	石錐	細石刃石核	楔形石器	ハンマー	礫器	磨石	M剥片	R剥片	削片	剥片	石核	原石	石鏃	土器	計
Ⅳ															2	3				5
計															2	3				5

ヨ　A　19



第209図　ヨA19遺物分布図

1.　位　置　三の又沢の左岸域の支尾根台地上に位置しているが、2×1mの範囲を調査している。標高はおよそ1,300mである。

2.　層　序　ヨA19グリッドの層序は次のようである。

Ⅰ層	表土層	10cm
Ⅱ層	褐色土層	10cm
Ⅲ層	漸移層	5cm
Ⅳ層	暗黄灰色砂質ローム層	35cm～

ヨA19地点は流亡が著しく、しっかりした層序を構成していない。地表に遺物が散乱するなどの地点もあって、流紋岩の風化土がむき出しになっているところである。

3.　遺　物　第212図9は硅岩製の石鏃である。同地点の表採資料であって、この遺物が、縄文時代に外側の石器を身に帯びた狩人がこの谷に入り込んだことを物語っている。三ノ又は広い湿原であっても、かつて湖沼であったのでなく、傾斜地の湿地だった気配である。狩猟の対象になったと思われる中小動物もその湿地の水を求めてやって来たであろうし、ヒトもしのび込んだに違いない。硬質凝灰岩のナイフ形石器を出土したトA12地点と共に興味ある課題となっている。他に掻刃部をもつもの（7・8）があり、石核（6）が1点ある。しかし旧石器時代の資料とは言いがたく、今後の課題である。　（森山公一）

第210図　ヨA19調査地点

第211図　ヨA19試掘坑

第212図　各グリッド出土遺物　　ヨA16（1～5）　ヨA19（6～9）　ヨA20（10～13）